

# 東京都認知症対策推進会議 若年性認知症支援部会(第1回) 次 第

東京都庁 第一本庁舎 3 3 階 特別会議室 S 2  
平成20年10月16日(木) 午後4時00分から

## 1. 開 会

## 2. 部会長・副部会長の選任

## 3. 議 題

- (1) 若年性認知症支援部会の設置について
- (2) 東京都若年性認知症生活実態調査について(報告)
- (3) 若年性認知症の支援策の検討にあたって
- (4) 今後の検討の進め方について

## 4. 閉 会

### [配付資料]

認知症対策推進事業実施要綱

東京都認知症対策推進会議 若年性認知症支援部会委員名簿

(資料1) 若年性認知症の支援策の検討について

(資料2) 東京都若年性認知症生活実態調査の概要

(資料3) 若年性認知症の支援策の検討にあたって

(参考資料1) 若年性認知症の人が利用できる主な公的サービスや支援制度

(参考資料2) 認知症の医療と質を高める緊急プロジェクト(抜粋)

(別冊) 東京都若年性認知症生活実態調査報告書

# 認知症対策推進事業実施要綱

19 福保高在第107号

平成19年6月14日

## 第1 目的

この事業は、認知症に関する都民への普及啓発を行うとともに、認知症の人とその家族に対する具体的な支援のあり方について検討することにより、認知症になっても地域で安心して暮らせるまちづくりを推進することを目的とする。

## 第2 実施主体

この事業の実施主体は、東京都（以下「都」という。）とする。

なお、第5に規定する事業については、その運営を団体等に委託し、又は団体等に助成して実施することができる。

## 第3 事業内容

この事業の内容は、次に掲げるものとする。

- ア 東京都認知症対策推進会議の設置
- イ 認知症に関する普及啓発

## 第4 東京都認知症対策推進会議の設置

### 1 目的

認知症の人やその家族に対する支援体制の構築に向けた方策について検討するため、東京都認知症対策推進会議（以下「推進会議」という。）を設置する。

### 2 協議事項

推進会議は、認知症支援に関し、次の事項について協議する。

- ア 認知症支援体制の推進に関する事項
- イ 都と区市町村、介護・医療関係者、団体・企業及び都民等の役割分担や連携に関する事項
- ウ 認知症実態調査に関する事項
- エ 都民や関係者に向けた啓発に関する事項
- オ その他必要な事項

### 3 構成

推進会議は、学識経験者、介護・医療関係者、行政関係者、都民等のうちから、福祉保健局長が委嘱する20名以内の委員で構成する。

#### 4 委員の任期

- (1) 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 委員に欠員が生じた場合、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

#### 5 議長及び副議長

- (1) 推進会議に議長を置き、委員の互選によりこれを定める。
- (2) 議長は、推進会議の会務を総括し、推進会議を代表する。
- (3) 副議長は、議長が指名する者をもって充てる。
- (4) 議長に事故があるときは、副議長がその職務を代行する。

#### 6 招集等

- (1) 推進会議は、議長が招集する。
- (2) 議長は、3に定める者のほか、必要と認める者の出席を求めることができる。

#### 7 専門部会

- (1) 推進会議は、必要に応じ、専門部会（以下「部会」という。）を置くことができる。
- (2) 部会は、推進会議が定める事項について調査・検討する。
- (3) 部会は、議長が指名する委員をもって構成し、福祉保健局長が委嘱する。
- (4) 部会に、専門委員を置くことができる。
- (5) 専門委員は、議長が指名する者をもって充て、福祉保健局長が委嘱する。
- (6) 専門委員の任期は、2年とする、ただし、再任を妨げないものとする。  
なお、専門委員に欠員が生じた場合、補欠の専門委員の任期は、前任者の残任期間とする。

#### 8 部会長

- (1) 部会に部会長を置き、委員及び専門委員の互選によりこれを定める。
- (2) 部会長は、専門部会の会務を総括し、専門部会を代表する。
- (3) 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長が指定する者がその職務を代理する。

#### 9 部会の招集等

- (1) 部会は、部会長が招集する。
- (2) 部会長は、必要があると認めるときは、関係者に部会への出席を求め、その意見を聞くことができる。

#### 10 幹事

- (1) 推進会議及び部会（以下「会議」という。）における協議・検討の充実及び効

率化を図るため、委員及び専門委員の他に幹事を設置する。

(2) 幹事は、福祉保健局長が任命する。

(3) 幹事は、会議に出席し、調査・検討に必要な情報を提供するとともに、会議で検討された事項に関する取組及び普及に努めるものとする。

#### 11 会議及び会議に係る資料の取扱い

会議及び会議に係る資料は、公開とする。ただし、議長、副議長又は部会長の発議により、出席委員及び出席専門委員の過半数で議決したときは、会議又は会議に係る資料を非公開とすることができる。

#### 12 委員等への謝礼の支払い

(1) 3、7(3)及び(5)に掲げる委員並びに専門委員の会議への出席に対して謝礼を支払うこととする。

なお、謝礼の支払は、その月分を一括して翌月に支払うこととする。

(2) 6(2)及び9(2)に掲げる者の会議への出席に対しては、委員及び専門委員に準じて謝礼を支払うこととする。

なお、謝礼の支払は、その都度支払うこととする。

#### 13 事務局

会議の円滑な運営を図るため、福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課に事務局を置き、会議の庶務は事務局において処理する。

#### 14 その他

この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関して必要な事項は、議長が別に定める。

### 第5 認知症に関する普及啓発

#### 1 目的及び内容

広く都民の認知症に対する理解を図り、普及啓発を促進することを目的として、シンポジウム等を開催する。

附 則 (平成19年6月14日19福保高在第107号)

1 この要綱は、平成19年6月14日から適用する。

2 認知症理解普及促進事業実施要綱(平成18年6月12日付18福保高在第161号)は廃止する。

「東京都認知症対策推進会議(若年性認知症支援部会)」委員名簿

区分	氏名	所属・役職名
学識経験者	小野寺 敦志	認知症介護研究・研修東京センター研究企画主幹
	斎藤 正彦	医療法人社団翠会 和光病院院長
	田谷 勝夫	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター主任研究員
医療関係者	浅川 雅晴	社団法人東京都医師会産業保健委員会委員 (医療法人社団浅川クリニック院長)
介護事業者	末延 法子	特定非営利活動法人東京都介護支援専門員研究協議会理事 (株式会社コスモスライフ シーエルポート世田谷管理者)
	林田 俊弘	東京都地域密着型サービス事業者連絡協議会副代表 (特定非営利活動法人ミニケアホームきみさんち理事長)
家族代表	干場 功	若年認知症家族会・彩星の会代表
行政関係者	高橋 一成	国立市福祉部介護保険課長
	山澤 雅明	豊島区保健福祉部中央保健福祉センター所長

各区分において50音順

「東京都認知症対策推進会議(若年性認知症支援部会)」幹事名簿

氏名	所属
中村 雄	福祉保健局障害者施策推進部精神保健・医療課長
坂本 博文	福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課長

## 若年性認知症の支援策の検討について

## 若年性認知症とは

- ① 65歳未満で発症する認知症  
 ② 高齢発症の認知症と比較し、有病率が低い。
- ◆ 若年性認知症の人の人数：人口10万人あたり24.5～33.5人※1
  - ◆ 認知症高齢者の人数推計：65歳以上人口10万人あたり6,700人※2
- ※1 平成19年度厚生労働科学研究における茨城県と群馬県の悉皆調査による推計値（発病時及び調査時ともに65歳未満であった者を集計）  
 ※2 高齢者介護研究会「2015年の高齢者介護」より、平成17年についての推計値（平成14年度「要介護（要支援）認定者における認知症高齢者の数」からの推計）  
 ※3 住民基本台帳による東京都の世帯と人口（平成20年1月現在、東京都総務局）

## 【参考】東京都における認知症の人の推計値

	人口(千人)※3	有病率(※1・※2)	人数	構成比
若年性認知症	約 12,433	0.0245%～0.0335%	約3,050人～ 約4,170人	1.9%～2.5%
高齢発症の認知症	(65歳以上人口) 約 2,411	6.7%	約161,500人	98.1～97.5%

## 本人・家族を取り巻く現状

医療・介護  
等では…

- ・ 診断や要介護認定等に時間がかかり、その間に認知症が進行してしまうことがある。
- ・ ノウハウの蓄積がない等により、適切な診療や介護サービス等を受けることが難しい。

家族は…

- ・ 若年性認知症についての情報が少なく、利用できる制度等について知るのが困難
- ・ 介護期間が長期にわたる場合があり、家族の負担が大きくなる。
- ・ 介護保険サービスには時間の制約があり、在宅で介護している家族は就労が困難

経済的にも…

- ・ 発症や介護により、家計を支える働き手を失ってしまう。
- ・ 養育の必要な子どもや介護を要する親がいると、経済的な負担はさらに大きい。

○そもそも支援制度の対象となっていないために支援が受けられない。  
 （介護保険における、40歳未満の若年認知症の人など）

○対象にはなっているが、今の制度では十分な支援が受けられない。  
 （40歳以上で、要介護認定を受けているが、受入可能なデイサービスが見つからないなど）

## 高齢者とは異なる、若年性認知症に特有の課題に配慮した支援策の検討が必要

## 検討の進め方

東京都認知症対策推進会議

助言・報告

## 若年性認知症支援部会を設置

## 【検討項目】

- 若年性認知症の人・家族が現状では十分な支援が受けられない原因の把握・整理
- 上記原因を踏まえ、必要な支援策の検討（既存の制度の改善、新たな制度の構築）や関係諸団体への提言

## 【検討期間】

平成20年度～21年度

## 【委員構成】

学識経験者・医療関係者・介護事業者・家族会・行政関係者等10名程度

若年性認知症生活実態調査

反映

● スケジュール	20年度						21年度											
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京都認知症対策推進会議				○ 第5回						○ 第6回				○ 第7回				○ 第8回
若年性認知症支援部会	○ 第1回		○ 第2回		○ 第3回		○ 第4回			○ 第5回			○ 第6回		○ 第7回		○ 第8回	

1 調査の概要

(1) 調査の目的

東京都若年性認知症生活実態調査は、若年性認知症（65歳未満で発症した認知症をいう。）本人及びその家族に対して訪問調査を実施し、その生活実態及び認知症高齢者とのニーズの違い等を把握することにより、都における若年性認知症への支援に向けた施策の検討の基礎資料とするものです。

(2) 対象者

平成19年度に実施した「東京都認知症専門医療機関実態調査」を通じて明らかになった若年性認知症の診断・治療を行っている医療機関の協力を得て、本調査への協力について、患者本人又はその家族の同意を得た都内在住の若年性認知症の患者とその家族で、患者本人及びその家族に告知してあるものを対象に、訪問調査を実施しました。

(3) 調査期間

平成20年2月下旬から同年3月まで  
 (年齢は平成20年1月1日現在、その他、特に記載のないものは調査日現在とする。)

(4) 調査方法

調査員による訪問調査

(5) 調査票の構成

調査票は、家族または本人票、家族票、本人票、調査員票の4つにより構成しました。

(6) 回収状況

調査の同意を得た50世帯に訪問調査を実施した結果、47世帯から調査票を回収しました。  
 なお、各調査票の回収状況及び原因疾患は次のとおりです。

(各調査票の回収状況)

家族または本人票 47 標本 (家族回答 46 標本+本人回答 1 標本)  
 家族票 46 標本  
 本人票 35 標本 (本人回答 27 標本+家族代弁 8 標本)  
 調査員票 47 標本

(47人の原因疾患)

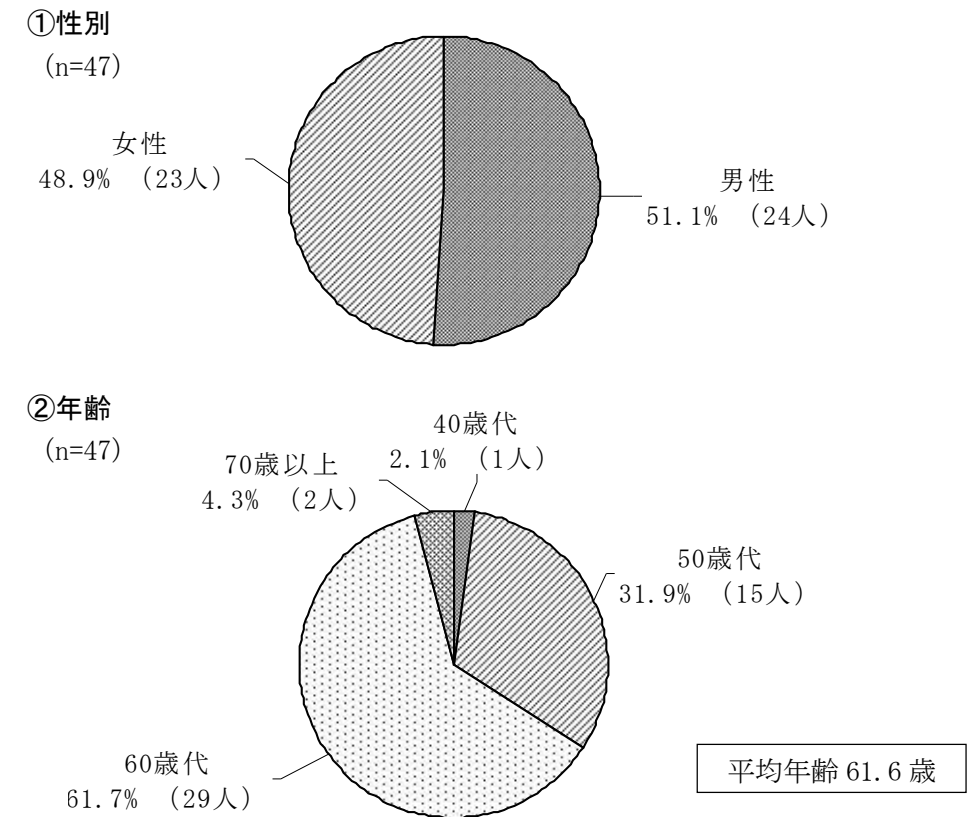
アルツハイマー病 41名、前頭側頭型認知症(ピック病) 6名

2 調査結果の概況

(1) 本人の属性(「家族または本人票」から)

家族(46人)及び本人(1人)に対し、本人の性別及び年齢を尋ねました。

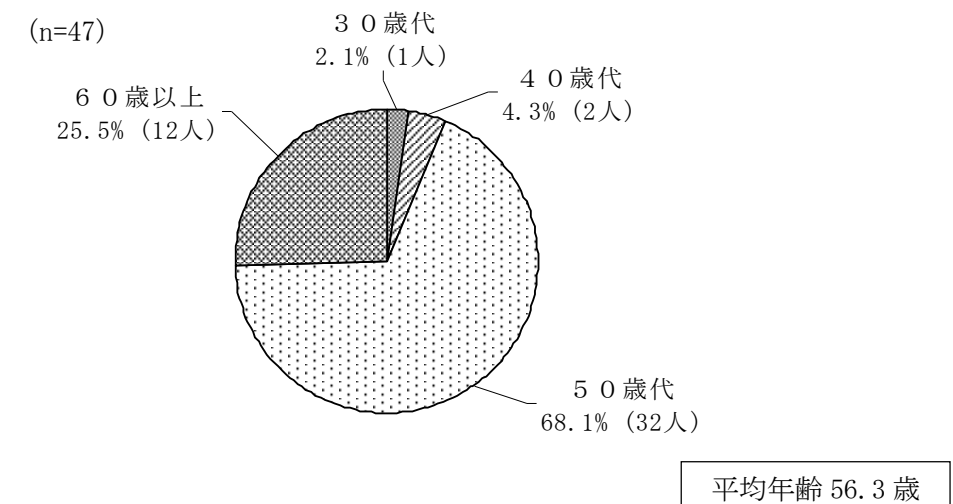
【本人の性別・年齢】



(2) 認知症ではないかと気づいた頃の本人の年齢(「家族または本人票」から)

家族(46人)及び本人(1人)に対し、認知症ではないかと気づいた頃の本人の年齢を尋ねました。

【認知症ではないかと気づいた頃の本人の年齢】

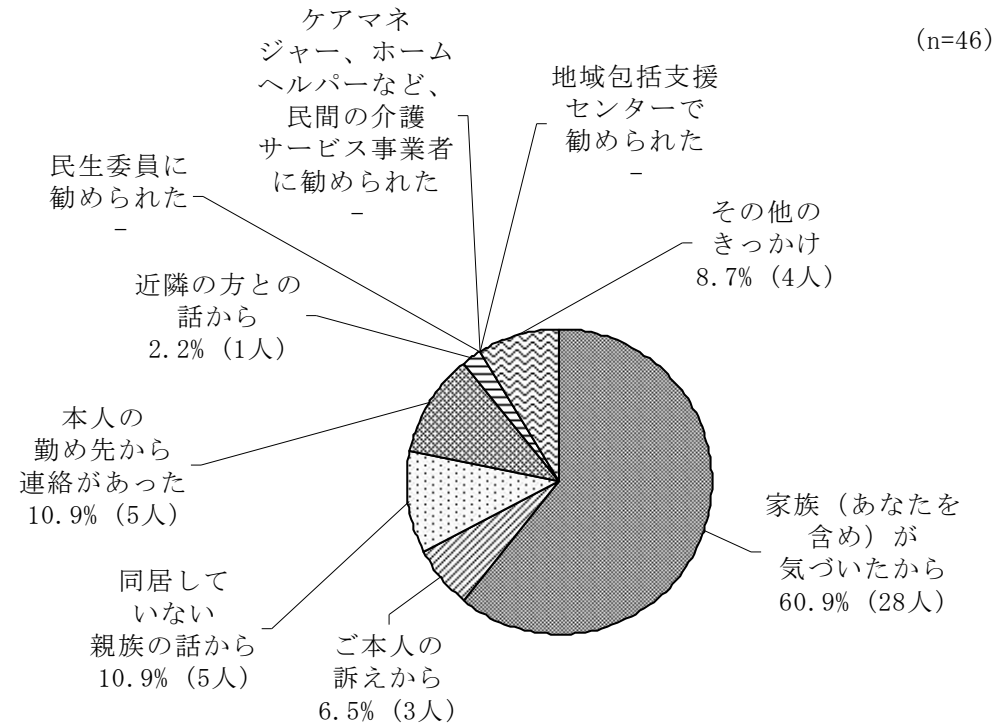




**(3) 最初に相談・受診する直接のきっかけとなったこと（「家族票」から）**

家族（46人）に対し、本人の変化や症状について最初に相談・受診する直接のきっかけになったことについて尋ねました。

【最初に相談・受診する直接のきっかけとなったこと】

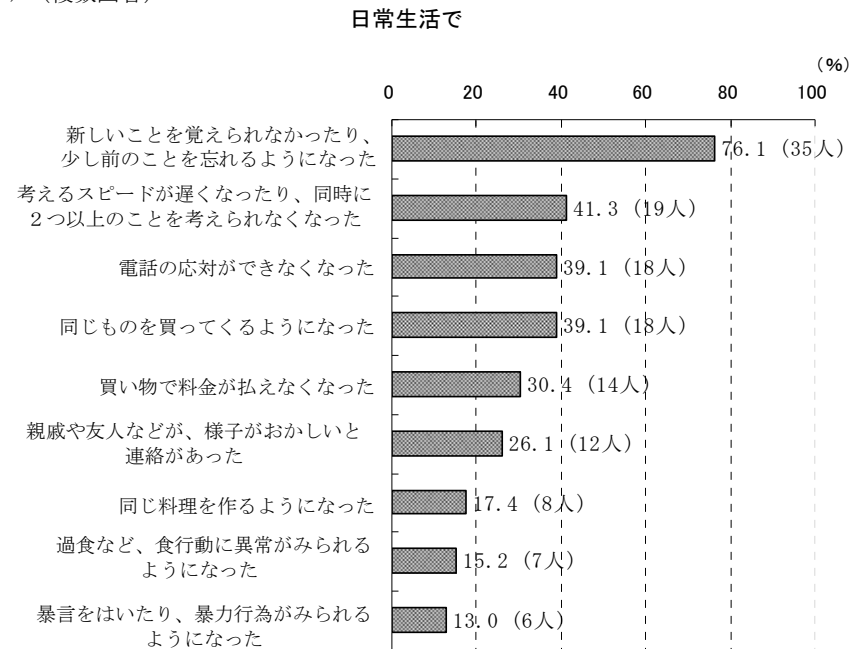


**(4) 最初に気づいた本人の変化や、これまでを振り返って認知症の初期の症状・できごとだったと思うこと（「家族票」から）**

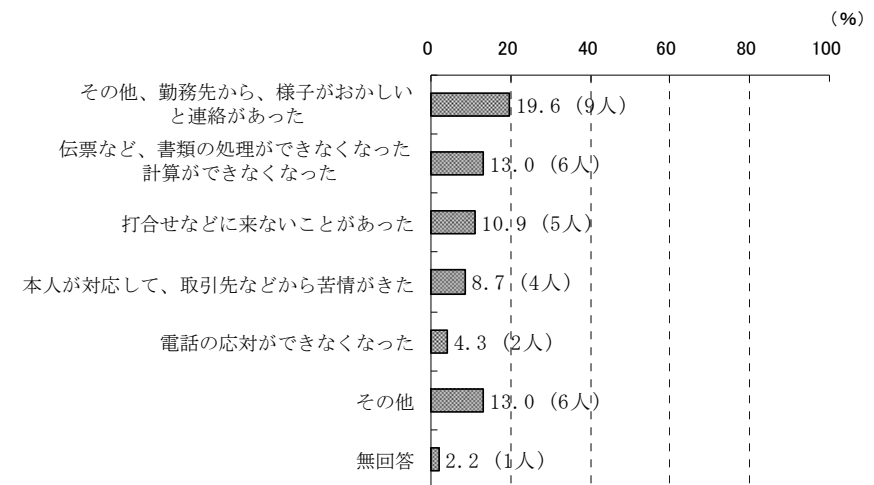
家族（46人）に対し、最初に気づいた本人の変化、認知症の初期の症状・できごとだったと思うことについて尋ねました。

【最初に気づいた本人の変化、認知症の初期の症状・できごと】

(n=46) (複数回答)



勤め先で・その他

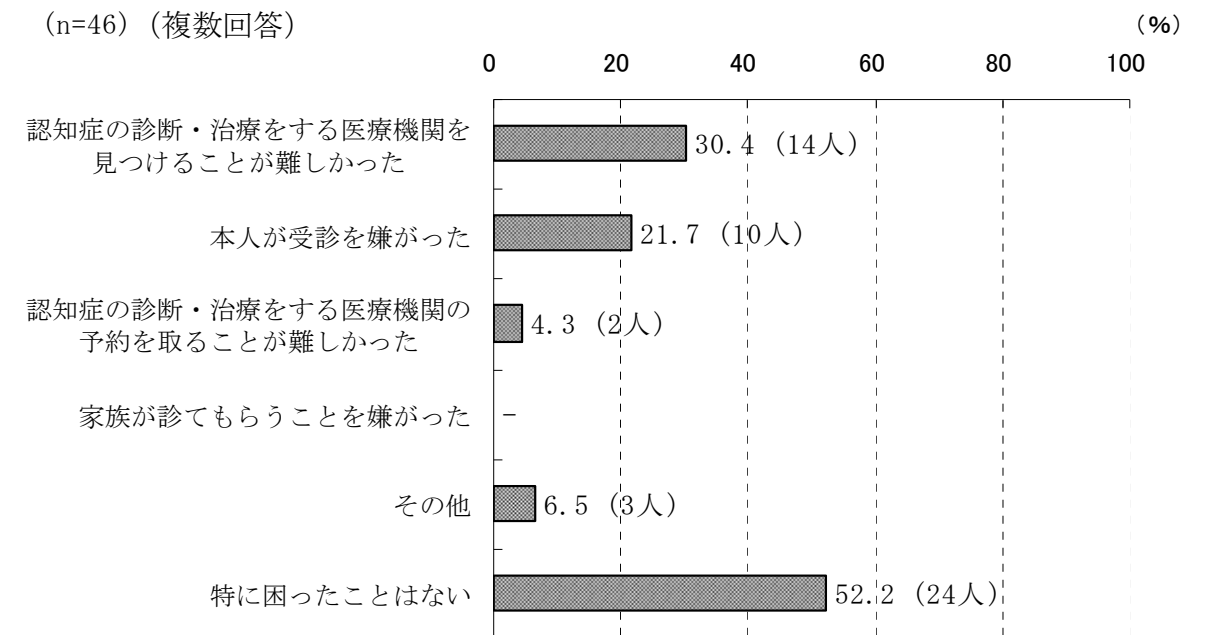


**(5) 認知症の診断や治療をしてもらうまでに、困ったこと（「家族票」から）**

家族（46人）に対し、認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったことがあるかについて尋ねました。

【認知症の診断や治療をしてもらうまでに、困ったこと】

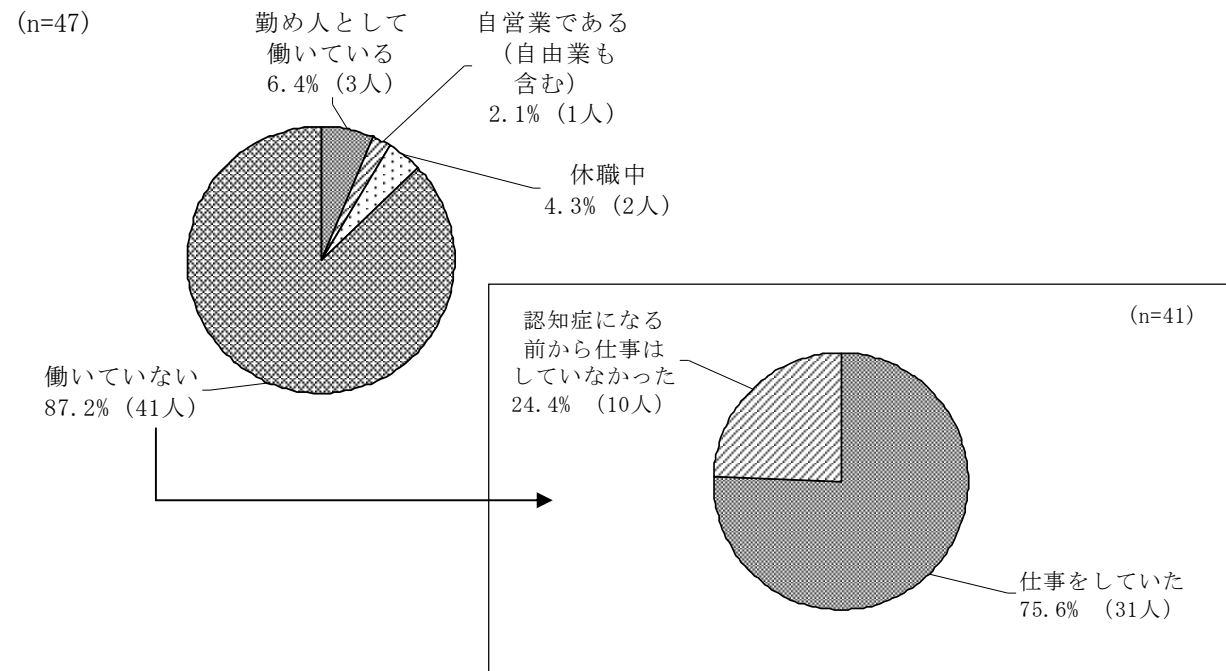
(n=46) (複数回答)



**(6) 本人の仕事の有無（「家族または本人票」から）**

家族（46人）及び本人（1人）に対し、本人の現在の就業状況について尋ねました。そのうち、「働いていない」と回答した人（41人）に対し、本人が認知症になる前の就業状況を探りました。

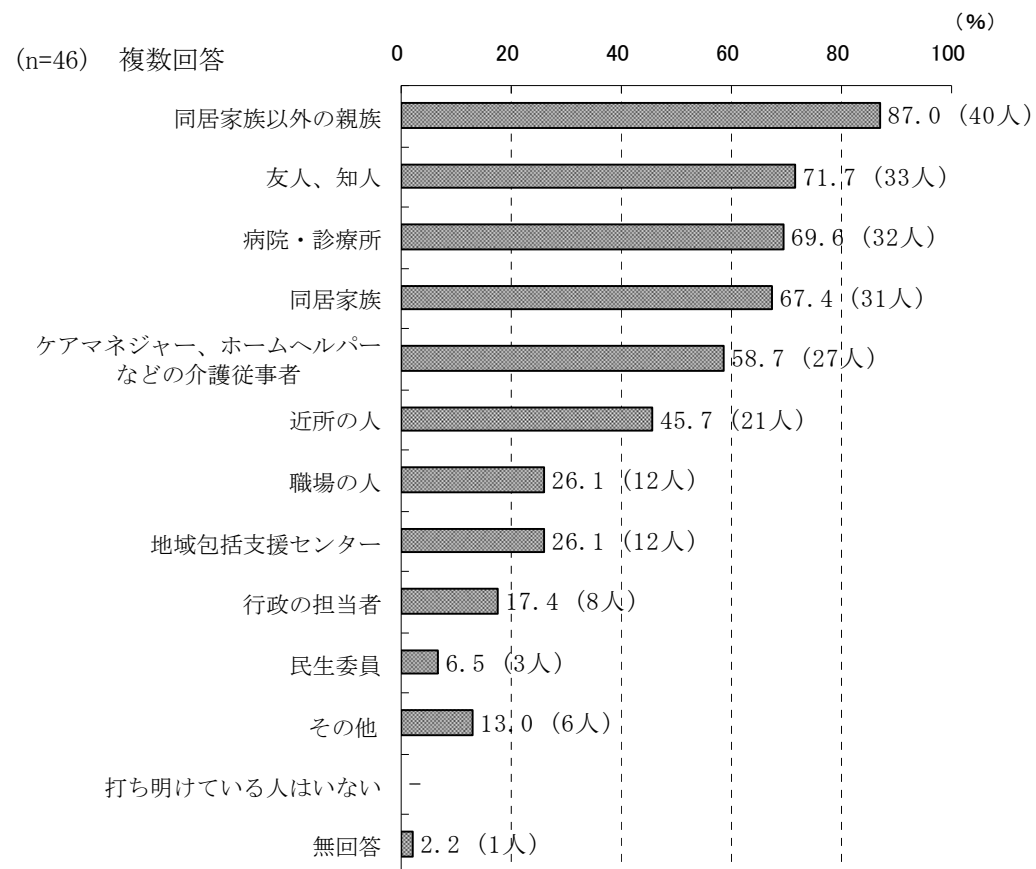
**【認知症になる前の仕事の有無】**



**(7) 家族が、本人が認知症であることを打ち明けている人（「家族票」から）**

家族（46人）に対し、本人が認知症であることを誰に打ち明けているかについて、尋ねました。

**【本人が認知症であることを打ち明けている人】**

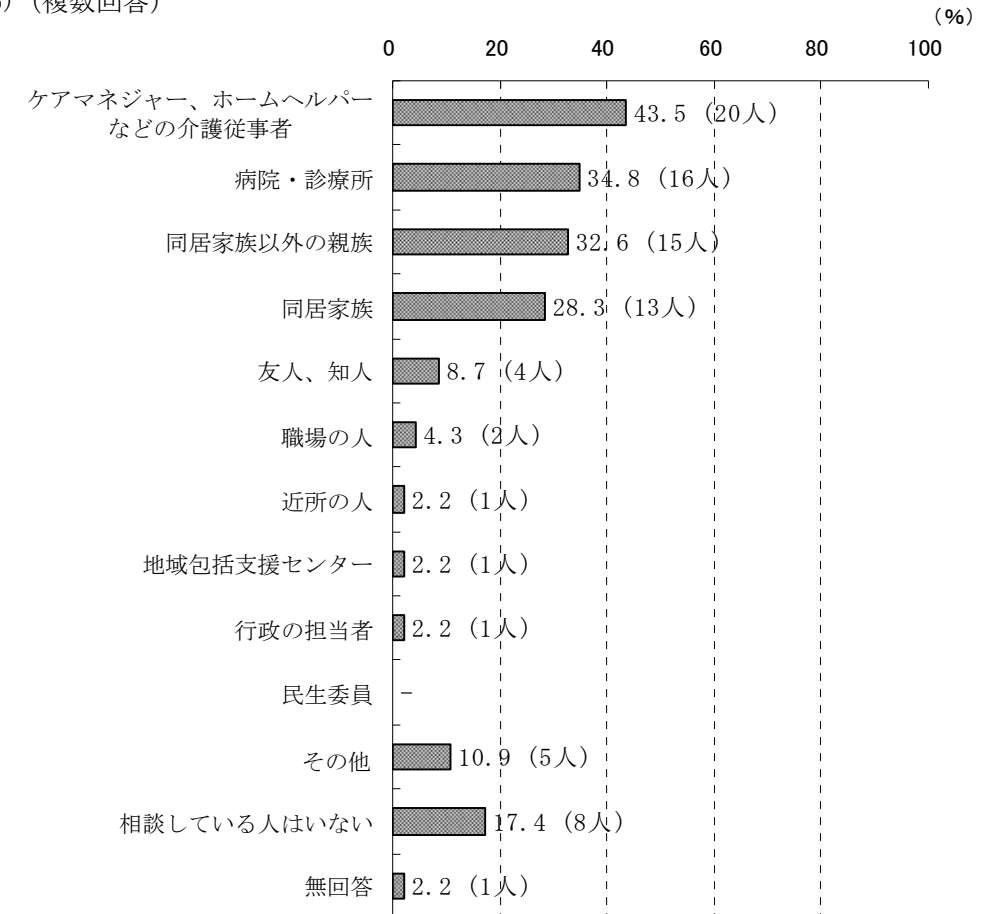


**(8) 毎日の介護のことで、よく相談している人（「家族票」から）**

家族（46人）に対し、毎日の介護のことでよく相談している人について尋ねました。

**【毎日の介護のことで、よく相談している人】**

(n=46) (複数回答)

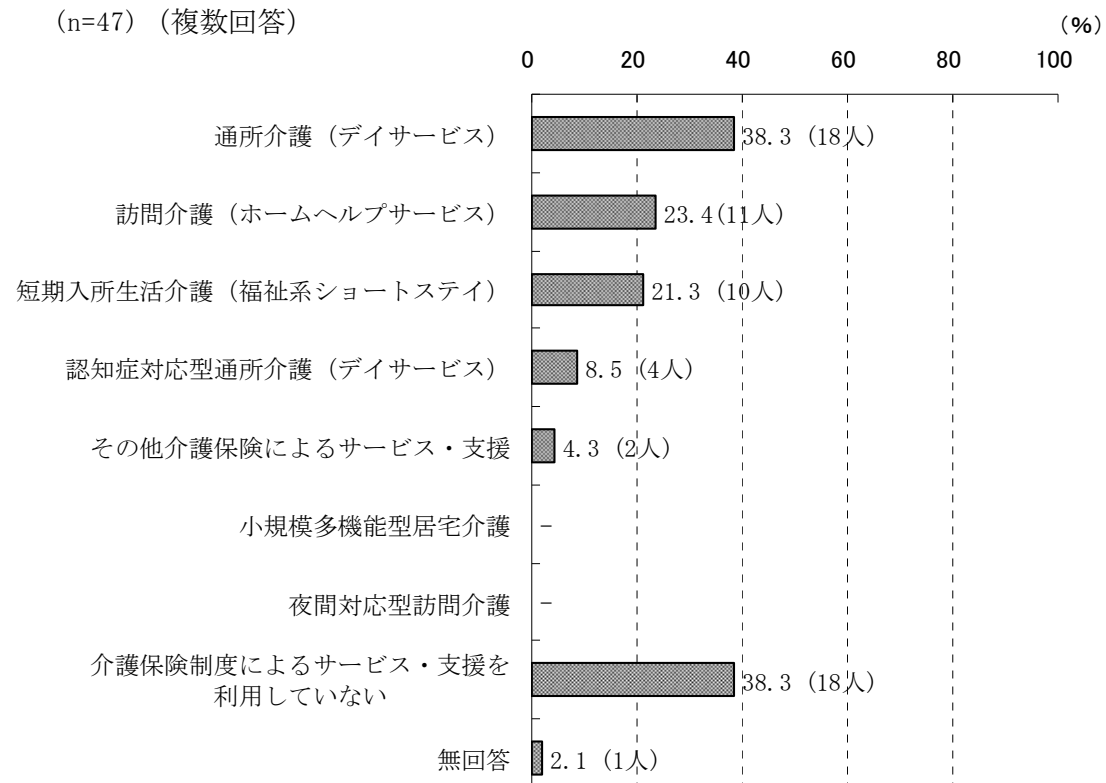


(9) 現在利用している公的サービスや支援制度の利用状況（「家族または本人票」から）

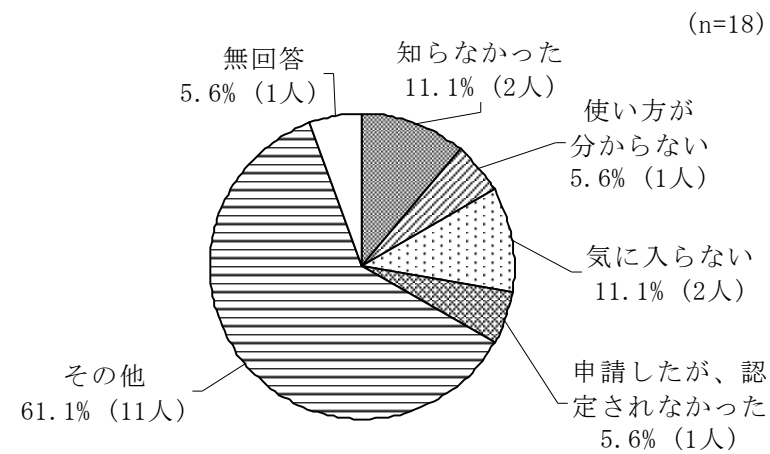
① 介護保険制度によるサービス・支援

家族（46人）及び本人（1人）に対し、介護保険制度によるサービス・支援の利用状況について尋ねました。また、利用していない人（18人）に対し、利用していない理由を尋ねました。

【介護保険制度によるサービス・支援】



<利用していない理由>

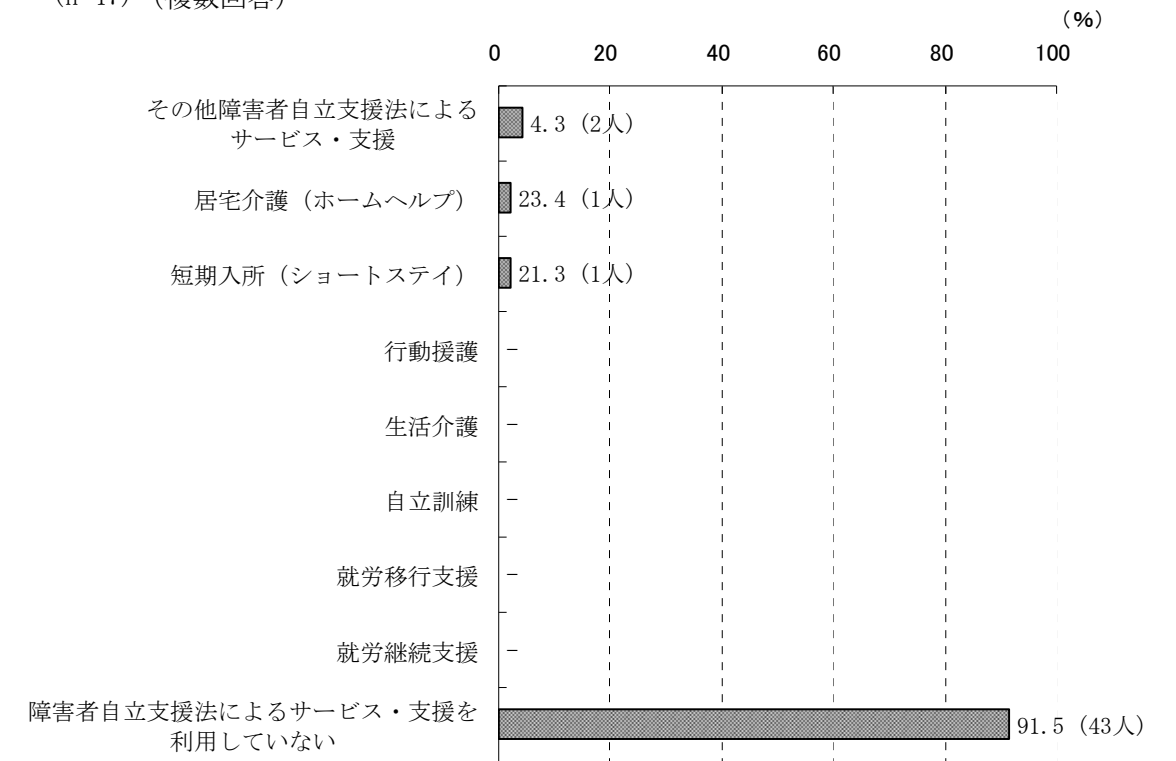


② 障害者自立支援法によるサービス・支援

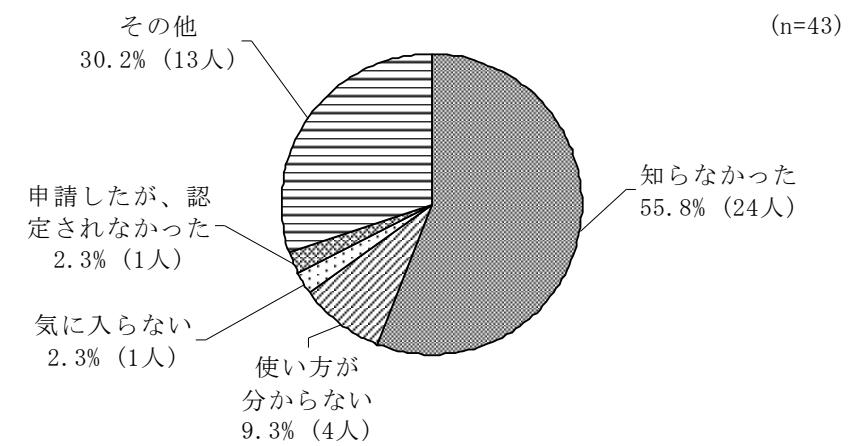
家族（46人）及び本人（1人）に対し、障害者自立支援法によるサービス・支援の利用状況について尋ねました。また、利用していない人（43人）に対し、利用していない理由を尋ねました。

【障害者自立支援法によるサービス・支援】

(n=47) (複数回答)



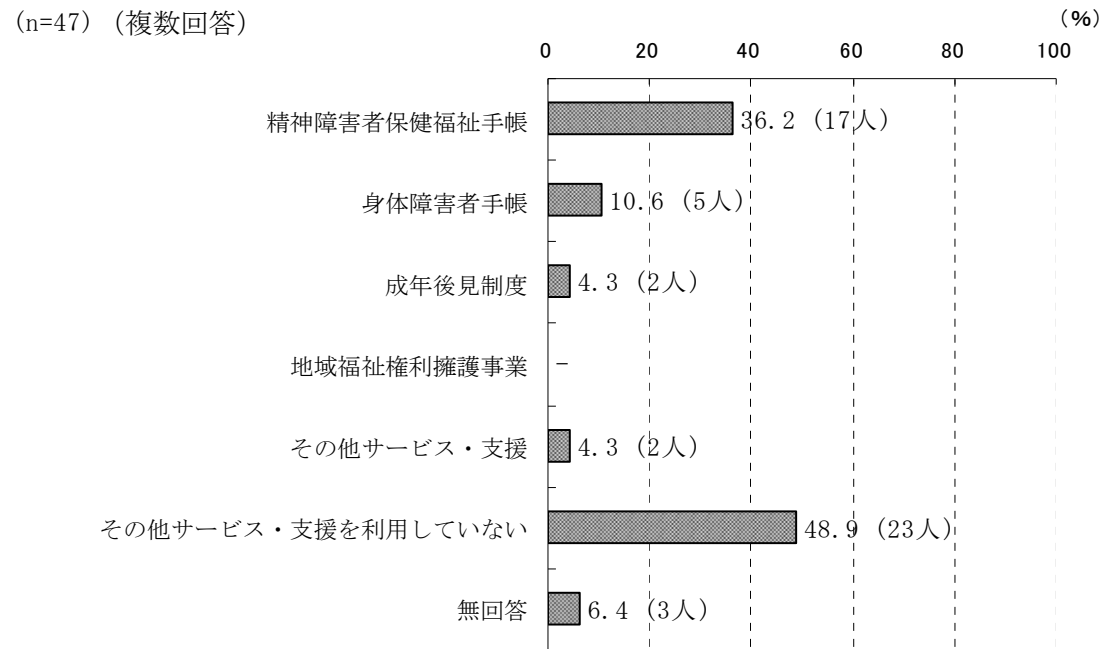
<利用していない理由>



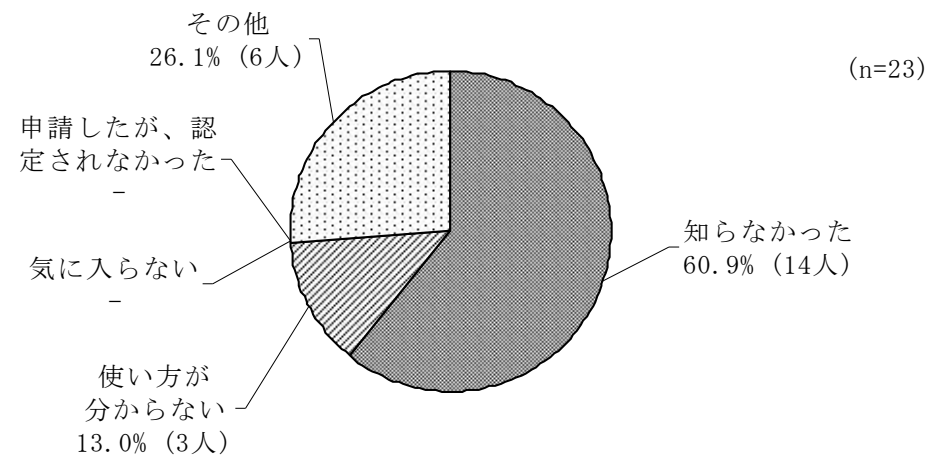
### ③ その他サービス・支援

家族（46人）及び本人（1人）に対し、その他サービス・支援の利用状況について尋ねました。また、利用していない人（23人）に対し、利用していない理由を尋ねました。

【その他サービス・支援】



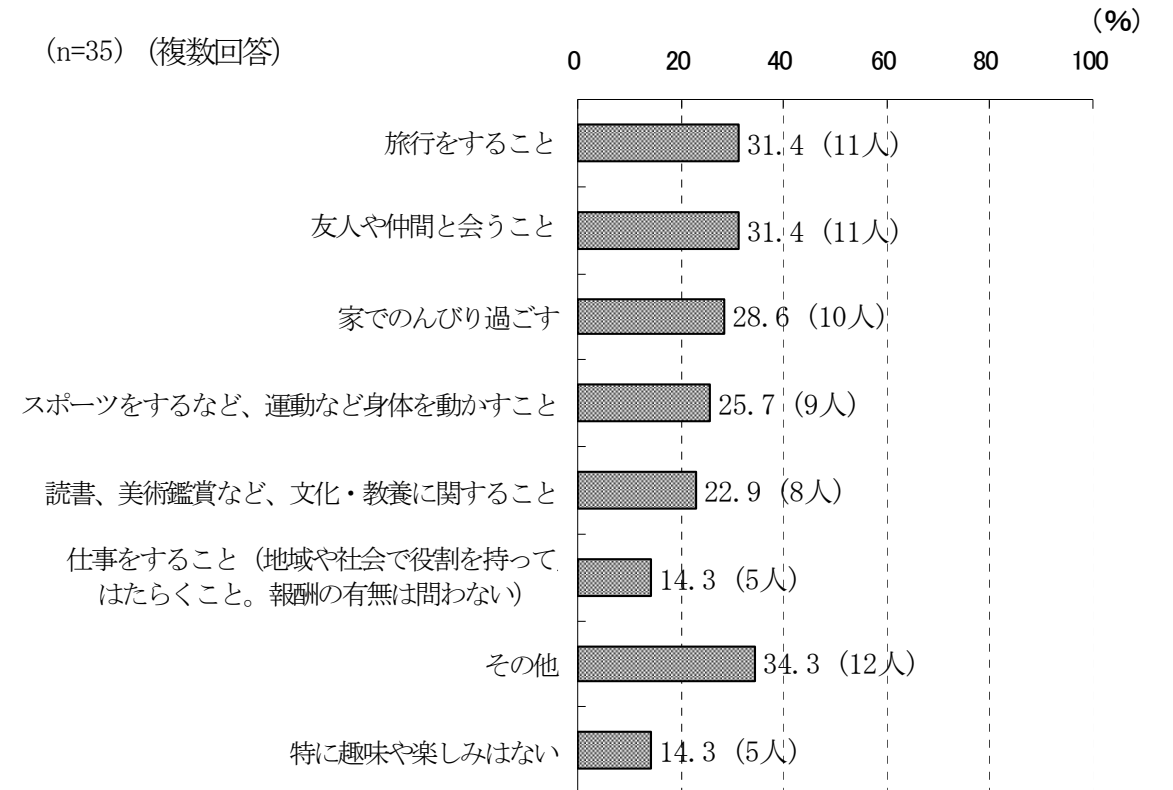
<利用していない理由>



### (10) 今後やりたいこと (現在やっていることを続ける場合も含む) (「本人票」から)

本人（家族代弁の8人を含む35人）に対し、現在やっていることの継続も含め、今後やりたいことについて尋ねました。

【今後やりたいこと】



### 3 その他

この他に、本人の認知症の病状の程度（軽度、中等度、高度）別に、本人の今後の希望する過ごし方（自由回答）、外出目的や付き添いの程度などの生活状況、本人や家族の不安、要望（自由回答）などをまとめています。

若年性認知症の支援策の検討にあたって（事前調査票より）

資料3

委員名	(1) 自己紹介	(2) これまでのご自分の仕事や生活等と若年性認知症との関わり	(3) これまでの関わりの中で、支援策を検討していく上で感じていること	(4) 望ましいと思う将来像（取組みの方向性）
小野寺委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆心理学、特に老年心理・臨床心理が専門。</li> <li>◆最近の取組内容は介護職員の人材育成に関する調査研究や認知症啓発のためのWeb環境を活用した学習講座の作成など。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆以前の勤務先である精神科外来で実施していた、「痴呆性老人デイケア」において、若年認知症の本人や家族のカウンセリングに関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆若年性認知症に限らず、老齢年金や障害者年金等によって、衣食住が不足なく保障される生活の確保が不可欠。</li> <li>◆特に、若年性認知症では、介護以前に生活維持が切実な問題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆第一に生活保障がなされること。その上で、必要な介護支援がなされること。</li> <li>◆そうした制度体系を構築するために、限界のある地方自治体レベルの施策から、国レベルの施策へつなげる方向性が望ましい。</li> </ul>
斎藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆医師・医学博士</li> <li>◆2006年10月より医療法人社団翠会 和光病院 院長（現職）</li> <li>◆日本老年精神医学会、日本司法精神医学会 理事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆精神科医として、多くの患者さんやご家族と関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆個人情報保護等の影響により、有病率等の信頼できるデータが得にくい状況下で、公的な資源を公平・公正に配分していくのはとても難しい。</li> <li>◆自己決定・自己責任といった観念が社会福祉や医療の場でも重視されるようになり、自己決定できない人、自己責任を負えない人、自分で援助を求める声を上げられない人が置き去りにされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆援助を必要とする人にアウトリーチしていく福祉システムの再建。</li> <li>◆公平・公正な制度とその運用。</li> <li>◆福祉・医療システム全体にとって、他の病気や障害と整合性のある制度の確立。</li> </ul>
田谷委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆大学・大学院で心理学を専攻。</li> <li>◆防衛医大リハビリテーション部で臨床心理に10年間従事した後、高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センターの研究員に就任。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆総合センターの研究員として「高次脳機能障害者の就労支援」の研究に取り組む。</li> <li>◆平成20年度からの研究テーマとして「若年性認知症者の就労継続に関する研究」を進行中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ここ数年で、高次脳機能障害の就労支援の方法はかなり進歩してきたように思われる。</li> <li>◆しかし、若年性認知症者への対応は先が見えない印象。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆症状の進行性に対応可能な支援方法の提案。</li> </ul>
浅川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆医学部卒業後、東海大学病院精神科教室、都立病院での勤務を経て、平成6年に医療法人浅川クリニックを開業。</li> <li>◆「心のセラピー」、「若がえりセラピー」、「心がちょっと危なく感じたら」等を執筆。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆企業の経営者からの依頼により業務上のトラブルを起こした社員の診察を行い、若年性アルツハイマーと診断したケースあり。</li> <li>◆このように、心療内科の外来にて若年性認知症と診断できる患者様が最近増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆携帯・PCを用い、指先ひとつで情報を知りうる生活が脳機能を低下させ、若年性認知症を増加させている。</li> <li>◆さらに日常のストレスがもたらす脳疲労の蓄積により、脳の老化が進みやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆若年性認知症が増加していることを一般向けに発表し、会社の同僚や家族がいち早く日常の変化に気づける試みが必要。</li> <li>◆専門医を早期受診し、治療が必要かどうかの判断を受けることが大切。</li> </ul>
末延委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆老人福祉センターや障害者施設での勤務を経て、介護保険制度開始後はケアマネジャーとして勤務。</li> <li>◆現在は居宅介護支援事業所にて、主任ケアマネジャーを務める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆平成20年10月より、若年性認知症の方を担当。</li> <li>◆以前、脳梗塞後の後遺症による若年性認知症の方を担当した経験あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆①就労支援の知識や技術が必要、②高齢者でないと介護保険サービスでは受入れてもらえないことがある、という2点から、 (a) 年代に合わせた支援の研修 (b) ネットワーク構築のあり方の検討 (c) 既存のサービスへの働きかけによる、若年性認知症向けサービスの増加が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆本人が嫌がるケースがあるため、高齢者向けのデイサービス・ショートステイでなく、若年性の人専門の受入れ先の整備。</li> <li>◆経済的、家庭的な問題など、介護以外の問題に対応するための、他職種とケアマネが連携しやすいシステムづくり。</li> <li>◆障害者自立支援法のサービスの活用。</li> </ul>
林田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆現在、複数のグループホームを運営。</li> <li>◆最近では講演のついでにいい温泉を探して入るのが楽しみ。できればバイクで。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆15年前から高齢者福祉関係で仕事しており、その中で幾人かの方と出会った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ご本人、ご家族に対してのカウンセリングの必要性</li> <li>◆ご本人の意思や可能性の追求。そのための研究とモデル事業の重要性</li> <li>◆70代以上の方々へのケアでは通用しないことがあること。</li> <li>◆経済的な支援のアウトラインや仕組みづくりを考えること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆症状への対策ではなく、生活支援の対策を探し出せること</li> <li>◆発症時にその方を取り巻く人間関係が維持継続できるような取組み</li> </ul>
干場委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆平成8年12月、妻の発症を機会に、「若年性認知症家族会・彩星の会」（平成13年9月発足）に出会い、家族会活動に参加。</li> <li>◆平成18年1月より同会代表に就任。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆妻の発症時、会社経営に携わっていたが、病名がわからず対応に苦労した。</li> <li>◆病名がわかってからは余りにも早い進行で、仕事をしながらの介護に戸惑いを感じ、今考えると最悪な介護をしていたのではと思う。</li> <li>◆この当時の思いが現在の活動のパワーになっているのではと感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆本人・家族に対する安定した支援のあり方。 ⇒相談窓口への臨床心理士の必要性 ⇒高度障害認定の基準 ⇒自立支援医療費 ◆介護認定の基本設定。 ⇒介護認定の基準</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆早期診断とそれに伴うケア体制の確立。（就労支援への支援） ⇒かかりつけ医、認知症コーディネーター、電話相談要員を養成しながら、医療機関、行政機関、サービス事業所、ケアマネジャー、相談窓口が連携。</li> <li>◆施設入所困難な状況でも地域で安心して生活できる環境の整備。 ⇒認知症サポーター養成と同時に地域施設での実習体制を確保。</li> </ul>
高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆平成17年4月から、国立市福祉部介護保険課保険係長に就任。</li> <li>◆平成20年4月から、同市福祉部介護保険課長に就任。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆介護保険課では、保険料・給付関係の事務に携わっている。</li> <li>◆このため認知症サポーター養成講座を受講している以外は、認知症及び若年性認知症との関わりはあまりない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆若年性であるがゆえの問題点、たとえば一家の大黒柱である方が発症したときに生ずる経済的な問題であるとか、家族の介護の問題等々についてどのような支援が可能であるか考えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域や職場でのサポート体制の確立が必要である。</li> </ul>
山澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆平成19年4月から、豊島区保健福祉部保健福祉センター所長に就任。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆福祉現場の責任者として、障害者と接してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新たな課題、新たな施策への取り組みが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆周囲の理解の中で自立して生活できる環境。</li> </ul>



◇介護保険サービス◇

- ・ 利用料金の1割負担により、居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービス、介護予防サービス等の提供を受けられる制度。
- ・ 40歳未満は対象外。
- ・ 同様のサービスがある場合、医療保険や障害者福祉サービスに優先して介護保険が適用される。

名称	概要	申請先、利用方法等
居宅サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訪問介護</li> <li>・ 訪問看護</li> <li>・ 通所介護（デイサービス） 等</li> </ul>	区市町村へ申請  要介護認定または要支援認定を受けた後、ケアプランを基に指定事業者と契約
施設サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）</li> <li>・ 介護老人保健施設（老健）</li> <li>・ 介護療養型医療施設（老人性認知症疾患療養病床を含む）※平成24年3月廃止予定</li> </ul>	
地域密着型サービス	住み慣れた地域での生活を支えることを目的とし、小規模で家庭的な環境で提供されるサービス。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症対応型共同生活介護（認知症グループホーム）</li> <li>・ 小規模多機能型居宅介護</li> <li>・ 認知症対応型通所介護（認知症デイサービス）</li> <li>・ 夜間対応型通所介護 等</li> </ul>	
地域密着型介護予防サービス	軽度の認知症の状態において、生活機能の向上に配慮した日常生活上の支援及び適切な認知症のケアの提供を受けられるサービス。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護予防小規模多機能型居宅介護</li> <li>・ 介護予防認知症対応型通所介護</li> <li>・ 介護予防認知症対応型共同生活介護</li> </ul>	

◇障害者福祉・就労支援◇

- ・ 利用料金の1割負担により、障害者自立支援法に基づく「障害福祉サービス」（介護給付・訓練等給付）の利用が可能。
- ・ 同法に基づき自治体の判断で行われる「地域生活支援事業」の利用も可。
- ・ 障害者雇用促進法による職業リハビリテーションも用意されている。

名称	概要	申請先、利用方法等	
介護給付	訪問系サービス	区市町村へ申請 障害程度区分の認定後、支給決定を受け、サービス提供事業者と契約	
	日中活動系サービス		
	居住系サービス		
訓練等給付	就労継続支援	区市町村へ申請 支給決定を受け、サービス提供事業者と契約	
	就労移行支援		
	自立訓練（生活訓練）		
職業リハビリテーション	地域障害者職業センター	ハローワークとの密接な連携の下、障害者に対する専門的な就労支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職業評価</li> <li>・ 職業準備支援</li> <li>・ 職業適応援助者（ジョブコーチ）支援事業 等</li> </ul>	地域障害者職業センターへ相談
	ハローワーク	専門のケースワーカーによる職業相談・職業紹介・職場適応指導の実施。	ハローワーク窓口へ相談
	障害者就業・生活支援センター	一人ひとりの特性に配慮した相談支援・職場定着に向けた支援を行う。都内4ヶ所。	障害者就業・生活支援センターへ相談
地域生活支援事業	自立した日常生活・社会生活を営むために、自治体が地域の実情に合わせた形態で行う事業。 <区市町村による事業> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談支援事業</li> <li>・ 移動支援事業</li> <li>・ 地域活動支援センター 等</li> </ul> <都道府県による事業> 都では、高次脳機能障害及び発達障害に対する	都道府県又は区市町村の障害福祉主管課へ問い合わせ後申請	

### ◇経済的支援◇

名称	概要	申請先、利用方法等
障害基礎年金・障害厚生年金	国民年金・厚生年金に加入している間に初診日があり、法令により定められた障害等級表による障害の状態と認定された場合に支払われる年金。 障害基礎年金・障害厚生年金の併給可。	区市町村の国民健康保険主管課へ申請 社会保険事務所または年金相談センターへ申請
自立支援医療制度（精神通院医療）	継続的に入院によらない精神医療（通院医療）を受ける場合に、公費によって医療費の補助が受けられる制度。 自己負担額は原則として1割。	必要書類を区市町村へ提出して申請
税制優遇措置 （精神障害者保健福祉手帳）	精神障害者保健福祉手帳の取得により、所得税、住民税、相続税、贈与税等の控除を行う税制措置。 手帳の障害等級により優遇の内容が異なる。	手帳取得後、窓口（税務署、区市町村税務課）へ申請

### ◇医療◇

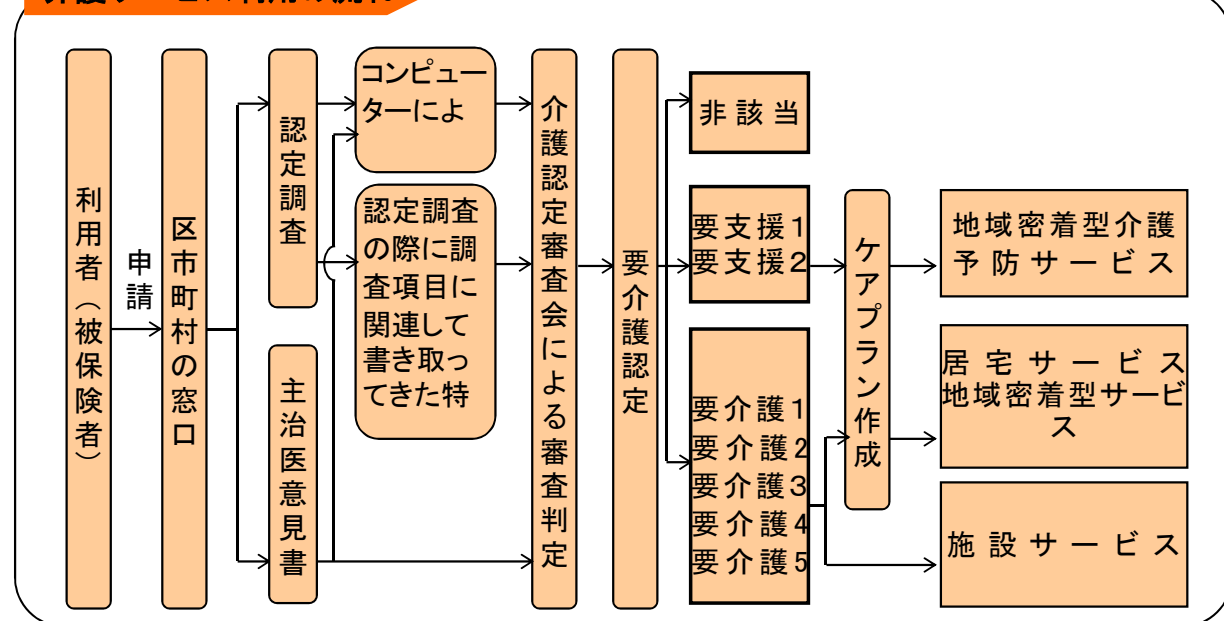
- ・ 診療報酬上、認知症の治療にのみ算定できるものを抜粋。

名称	概要	申請先、利用方法等
重度認知症デイ・ケア	精神症状及び行動異常が著しい場合の、精神症状等の軽快及び生活機能の回復を目的とする医療。	
認知症病棟入院医療	急性期の集中的な治療を要する精神症状・行動異常が特に著しい場合の、認知症病棟への入院及び積極的な医療。	

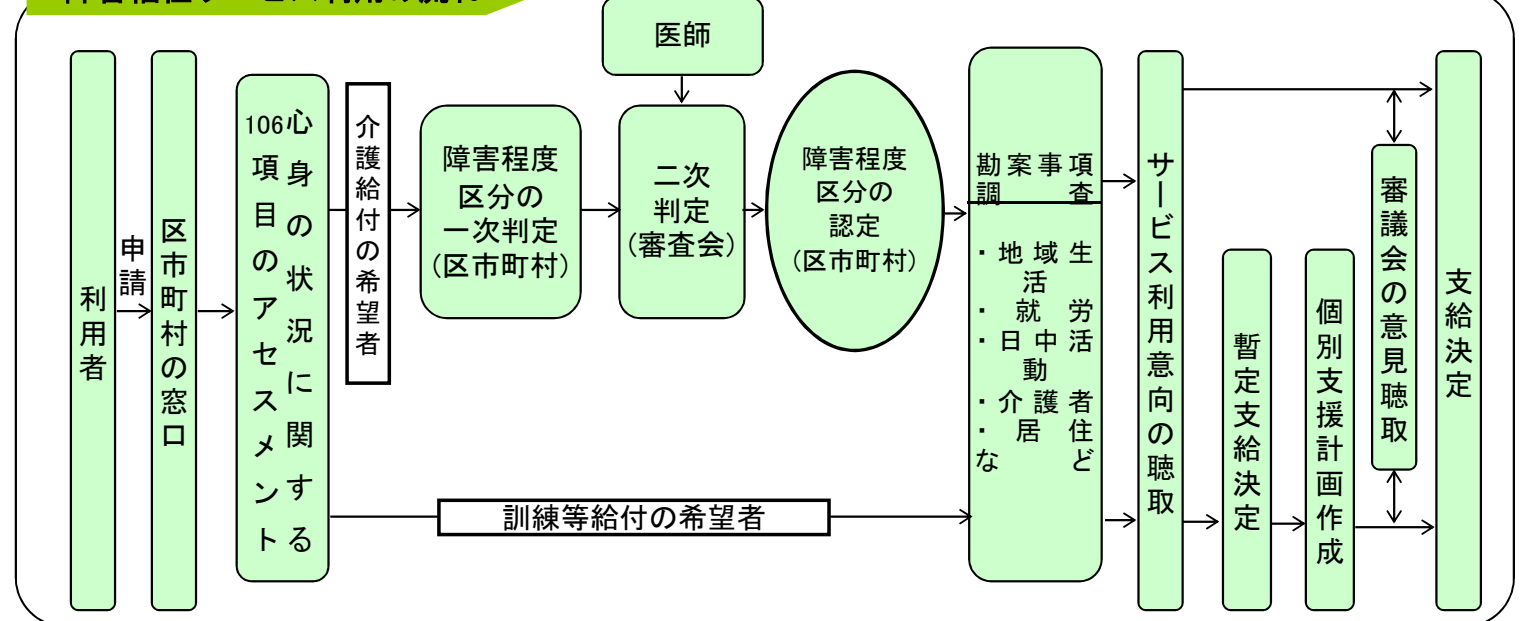
### ◇その他◇

名称	概要	申請先、利用方法等
成年後見人制度	本人の保護を目的として、本人の行為能力を制限するとともに、後見人（又は保佐人、補助人）が本人のために法律行為を行ったり、本人の法律行為の手助けを行う制度。	家庭裁判所の後見センターや都・区市町村が設置する相談機関にて問い合わせの後、手続きを行う。
日常生活自立支援事業 （地域福祉権利擁護事業）	福祉サービスの利用に際しての援助、日常的な金銭管理、書類の預かりサービスなど。	社会福祉協議会へ申請
精神障害者保健福祉手帳	一定の精神障害の状態にあることを証する手帳で、交付を受けることにより、障害の程度に応じて、 （1）税制優遇 （2）生活保護費の障害者加算 （3）障害者雇用率への算定 といった優遇措置がある。 その他にも、都道府県や区市町村においても優遇措置を用意している場合がある。 （東京都の場合は、都営交通のパスの発行、都営住宅入居にあたっての優遇抽選制度等）	区市町村への申請

### 介護サービス利用の流れ



### 障害福祉サービス利用の流れ



## プロジェクト概要

設置趣旨	厚生労働省内において横断的な検討を進め、研究開発の促進から医療・介護現場での連携に至る、包括的・総合的な認知症対策の基本的方針と具体的な対策の策定。
検討方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 専門的見地からの意見を反映させるため、医療・介護等の有識者がプロジェクトチームのメンバーとして参画。</li> <li>➢ 認知症の人の家族や認知症対応型サービスの代表者からのヒアリングを実施。</li> <li>➢ 計4回の会議を開催。</li> </ul>
検討経過	<p>検討期間:平成20年5月1日～同年6月30日まで</p> <p>第1回 議題 ➢ プロジェクトの目的、内容、スケジュールについて</p> <p>第2回 議題 ➢ 関係団体からのヒアリング ➢ 介護対策 ➢ 若年性認知症者の自立支援 ➢ 本人・家族の支援</p> <p>第3回 議題 ➢ 医療対策 ➢ 研究開発</p> <p>第4回 議題 ➢ 「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」論点の取りまとめ</p>

## 報告書要旨(認知症対策の基本方針)

### 必要とされる施策

- ①実態の把握 ②研究開発の加速 ③早期診断の推進と適切な医療の提供  
④適切なケアの普及及び本人・家族支援 ⑤若年性認知症対策の推進(※)

※若年性認知症対策において、就労対策を含めた包括的な自立支援施策の推進が必要

- ➡ ①上記5つの各分野ごとに、短期的に取るべき施策を決定  
②上記5つの各分野ごとに、中長期的に検討及び実施していく施策を決定し、措置を講じていく。(短期的対策については、21年度概算要求に盛り込む。)

## 報告書要旨(具体的な対策の策定)

### 今後の認知症対策の具体的な内容(若年性認知症対策のみ抜粋)

#### ●現状、課題

- 若年性認知症に対する認識不足や、活用可能な雇用・福祉施策があまり知られていないことなどから、診断を受ける前に症状が進んでしまったり、本人と家族が経済的な面も含めて困窮してしまうケースが存在。
- このため、理解促進や医療・介護の充実、支援制度の利用に際してのバックアップ等を行うことで、一人ひとりの状態に応じた支援を図る体制を構築することが喫緊の課題。

#### ●今後の方向性

- 若年性認知症の特性や実態を速やかに明らかにする。
- 以下の諸施策を総合的に実施

#### ●短期的対策

##### ア 若年性認知症に係るコールセンターの設置

誰もが気軽に相談でき、早期に認知症疾患医療センター、認知症連携担当者を配置した地域包括支援センター、就労支援機関へ結びつけられるよう、若年性認知症に係るコールセンターを国が全国1カ所に設置する。

##### イ 診断後からのオーダーメイド支援体制の形成

認知症連携担当者が中心となり、若年性認知症と確定診断された人を対象に、一人ひとりの状態やその変化に応じて以下の①～④等の支援施策が活用できるよう支援する。

- ①雇用継続が可能な人について、本人・企業に対するジョブコーチ支援や、障害者手帳取得による障害者法定雇用率への算定等の雇用継続に向けた施策の周知
- ②雇用継続が困難な人について、若年性認知症対応型のデイサービスや、障害者福祉施設である就労継続支援B型事業所や地域活動支援センターの利用など、日中活動の場の確保
- ③自宅での生活が困難な人については、認知症グループホームや障害者グループホーム・ケアホームの利用など、住まいの確保
- ④家族会の紹介等、身近な相談先の確保

##### ウ 若年性認知症就労支援ネットワークの構築

都道府県に設けられており、医療・福祉・雇用・就労の関係者からなる「障害者就労支援ネットワーク」に、認知症連携担当者が調整役として参画し、「若年性認知症就労支援ネットワーク」を構築する。ネットワークにおいては、雇用継続・就労支援に係るノウハウを蓄積するとともに、ネットワークの構成員や加盟企業に対して若年性認知症の理解を深めるための研修を行う。

##### エ 若年性認知症ケアの研究・普及

モデル事業の実施により、若年性認知症の人の身体機能やニーズにあったケアの研究・普及を行う。

##### オ 若年性認知症に関する国民への広報啓発

国が、国民に対して、若年性認知症に関する理解、早期診断の重要性や雇用継続等の支援策・相談窓口について広報啓発する。さらに医師に対して早期診断の重要性、支援施策の周知を推進する。

#### ●中・長期的対策

##### ア 若年性認知症対応の介護サービスの評価

若年性認知症対応型ショートステイ、グループホーム等介護保険サービス全体での若年性認知症受入れのあり方等について検討する。

##### イ 若年性認知症発症者の就労継続に関する研究の実施

障害者職業総合センターにおいて標記研究を実施し、就労継続や就労支援のニーズを明らかにするとともに、障害特性に応じた課題を取りまとめ、雇用継続支援に向けて活用する。



# 東京都若年性認知症生活実態調査

## 報告書

平成 20 年 8 月

東京都福祉保健局

はじめに

若年性認知症とは、65歳未満で発症した認知症をいいます。

認知症の人は、記憶障害や認知障害により不安や混乱に陥りやすいことから、周りの人との関係が損なわれたり、家族が介護に疲れ果ててしまうことも少なくありません。

また、アルツハイマー病などの多くの認知症は、現在のところ治療法が確立していないため、一度発症すると、生涯にわたり付き合うことになる病気です。

しかし、周囲の理解と気遣いがあれば、穏やかに生活していくことも可能であることが分かってきました。

地域でのこのような生活を可能にするためには、医療分野や介護分野だけでなく、住民や生活関連事業者も参加して地域全体で認知症の人や家族を見守り、支援していくことが強く求められています。

そこで、この度、東京都では、若年性認知症の本人及び家族に対する支援体制を検討するため、生活実態や希望などについて直接お尋ねする訪問調査を行いました。

本調査結果については、認知症になっても認知症の人と家族が地域で安心して暮らせるまちづくりを推進するために平成19年度に設置した「東京都認知症対策推進会議」等において活用し、施策の充実を図ってまいります。

最後になりましたが、本調査の実施に当たっては、若年性認知症の御本人及び御家族並びに若年性認知症の診断・治療を行っている都内医療機関に多大なる御協力を頂きました。改めて深く感謝申し上げます。

平成20年8月

東京都福祉保健局

## 東京都若年性認知症生活実態調査報告書 目次

### はじめに

調査の概要	1
-------	---

### 単純集計の結果

1 家族または本人票	4
2 家族票	20
3 本人票	34
4 調査員票	47

クロス集計の結果	48
----------	----

### 認知症における病状の各ステージ（3群）の特徴

1 認知症の病状の各ステージ（3群）に関する基本的な考え方	66
2 認知症の病状の各ステージ（3群）の特徴	67
3 認知症の病状の各ステージ（3群）のまとめ	69

自由回答から	71
--------	----

### 資料編

1 調査票	89
2 単純集計表	102
3 クロス集計表	118
4 クロス集計表（3群）	125

## 調査の概要

### 1 調査の目的

東京都若年性認知症生活実態調査は、若年性認知症本人及びその家族に対して訪問調査を実施し、その生活実態及び認知症高齢者とのニーズの違い等を把握することにより、都における若年性認知症への支援に向けた施策の検討の基礎資料とするものです。

### 2 対象者

平成 19 年度に実施した「東京都認知症専門医療機関実態調査」を通じて明らかになった若年性認知症の診断・治療を行っている医療機関の協力を得て、本調査への協力について、患者本人又はその家族の同意を得た都内在住の若年性認知症（65 歳未満で発症した認知症をいう。）の患者とその家族で、患者本人及びその家族に告知してあるものを対象に、訪問調査を実施しました。

### 3 調査期間

平成 20 年 2 月下旬から 3 月まで

（年齢は平成 20 年 1 月 1 日現在、その他、特に記載のないものは調査日現在とする。）

### 4 調査方法

調査員による訪問調査

### 5 調査票の構成

調査票は、次の 4 つにより構成しました。

- ・ 家族または本人票
  - （「 - 1. 家族が回答者の場合」票）
  - （「 - 2. ご本人が回答者の場合」票）
- ・ 家族票
- ・ 本人票
- ・ 調査員票

6 調査の項目

調査の項目（調査票）			
家族又は本人に聞く項目 （「 -1 家族票」、 又は「 -2 本人票」）	家族に聞く項目 （ . 家族票）	本人に聞く項目 （ . 本人票）	調査員が記入 する項目 （ . 調査員票）
<p>1 本人ご自身について (1)年齢、性別 (2)住まいの状況</p> <p>2 同居者や主な介護者</p> <p>3 認知症に気づいた時期、通院期間等</p> <p>4 地域のサービスや支援制度の利用状況 (1)地域包括支援センター、民生委員、家族会の認知の程度 (2)介護保険の要介護状態区分、利用状況等 (3)障害者自立支援法等の利用状況</p> <p>5 収入や仕事 (1)生計を最も支えている主な収入源 (2)本人の仕事の有無 (3)発症前・後の変化（収入、仕事、毎月の支出額） (4)ローンの有無</p>	<p>1 認知症の本人の地域との関わり (1)本人が認知症であることを誰に打ち明けているか (2)近所との付き合い程度 (3)外出の頻度、主な目的、付き添いの程度</p> <p>2 診断・治療の状況 (1)本人の認知症の行動・心理症状（周辺症状について） (2)診断や治療のための通院状況 (3)相談・受診のきっかけ (4)家族が気づいたときの本人の変化や症状・できごと (5)認知症の症状が出たときの主な相談相手 (6)受診のきっかけ (7)受診までの困ったこと (8)診断・治療にあたって必要なことや要望（自由回答）</p> <p>3 介護する上での不安や課題 (1)介護のことでよく相談する人 (2)介護している中での不安 (3)本人が今の地域で住み続けていく上で困ったこと (4)未成年のお子さんの不安 (5)その他意見や希望（自由回答）</p>	<p>1 楽しみや今後やりたいこと (1)現在の楽しみややりがいを感じていること (2)今後やりたいこと</p> <p>2 本人が不安に感じていること (1)不安に感じていること（家の中、外出時、将来） (2)不安を感じたときの相談相手</p> <p>3 家族や近所の人との関わり (1)認知症であることを誰に打ち明けているか (2)近所との付き合い程度</p> <p>4 利用している公的サービスや支援制度の評価</p> <p>5 現在住んでいる地域について（住み続ける意向の有無、理由）</p> <p>6 今後希望する過ごし方（自由回答）</p>	<p>1 認知症の程度</p>

## 7 回収状況

患者情報の都への提供及び本調査への協力について、患者本人又はその家族の同意を得た都内在住の若年性認知症（65歳未満で発症した認知症をいう。）の患者とその家族で、患者本人及びその家族に告知してあるものを対象に、調査の同意を得た50世帯に訪問調査を実施した結果、47世帯から調査票を回収しました。

- (1) 医療機関から都に対して名簿を提供することに対する同意

59件

- (2) 訪問調査の実施に対する同意（(1)に対する調査同意率84.7%）

50件

- (3) 回収状況（(2)に対する回収率94.0%）

47件

### （各調査票の回収状況）

- ・ 家族または本人票 47 標本（家族回答 46 標本 + 本人回答 1 標本）
- ・ 家族票 46 標本
- ・ 本人票 35 標本（本人回答 27 標本 + 家族代弁 8 標本）
- ・ 調査員票 47 標本

- (4) 本人の属性

性別 男 24 名 女 23 名

原因疾患 アルツハイマー病 41 名 前頭側頭型認知症（ピック病）6 名

（注）本報告書におけるアルツハイマー病及び前頭側頭型認知症（ピック病）は、それぞれ65歳未満に発症したものをいいます。

## 8 報告書の見方（凡例）

- (1) 「 . 家族または本人票」は、 - 1（家族回答票）の方が、 - 2（本人回答票）より、最初に2問だけ設問が多くなっているため、家族回答票の問番号 - 1の問3が、本人回答票の - 2の問1に当たります。したがって、「 . 家族または本人票」の問番号は、問3（問1）のように表示することとします。

- (2) 集計結果（%）は、小数点第2位を四捨五入し第1位までの表記としました。このため、合計が100%に満たないか100%を超える場合があります。

- (3) 総数に、nを使用しています。

- (4) nは、回答者全員が答えるべき設問については有効回答総数となり、条件付き設問（例：問1で1に をした方は……、という設問）についてはその設問に答えるべき該当者の数となっています。

- (5) は、該当数字なしと表記しています。

- (6) 単数回答はSA、複数回答はMAと表記しています。

- (7) 複数回答を可とした質問は、集計結果の合計が100%を超えることがあります。

## 単純集計の結果

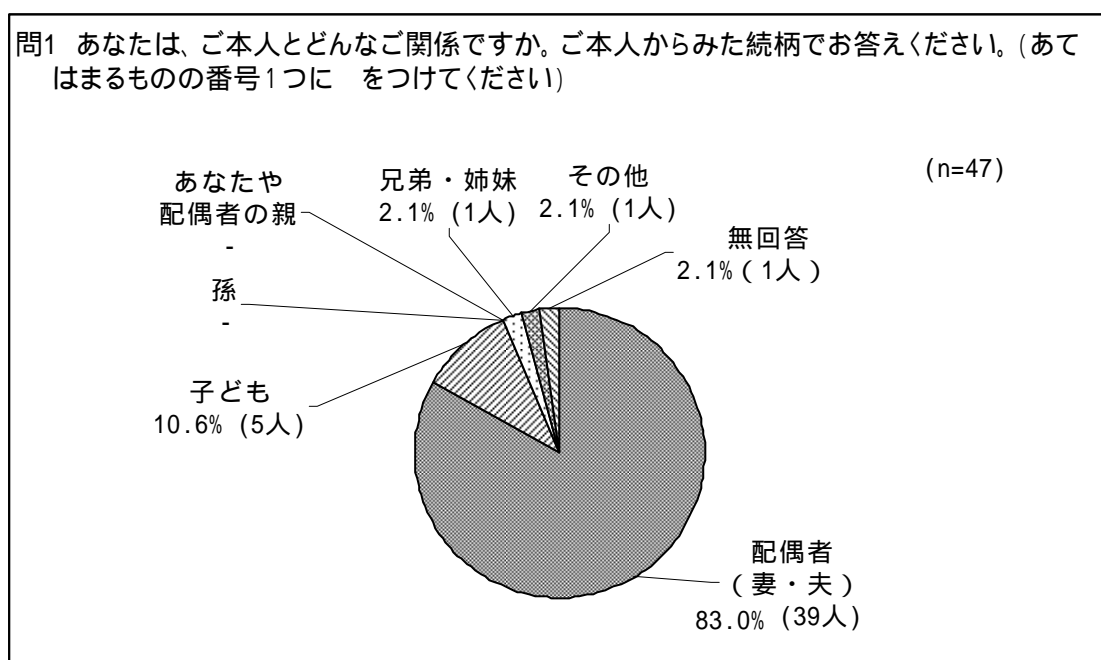
### 1 家族または本人票

家族または本人票は、家族回答が 46 標本、本人回答が 1 標本、合計 47 標本となっています。

#### 回答者の属性について

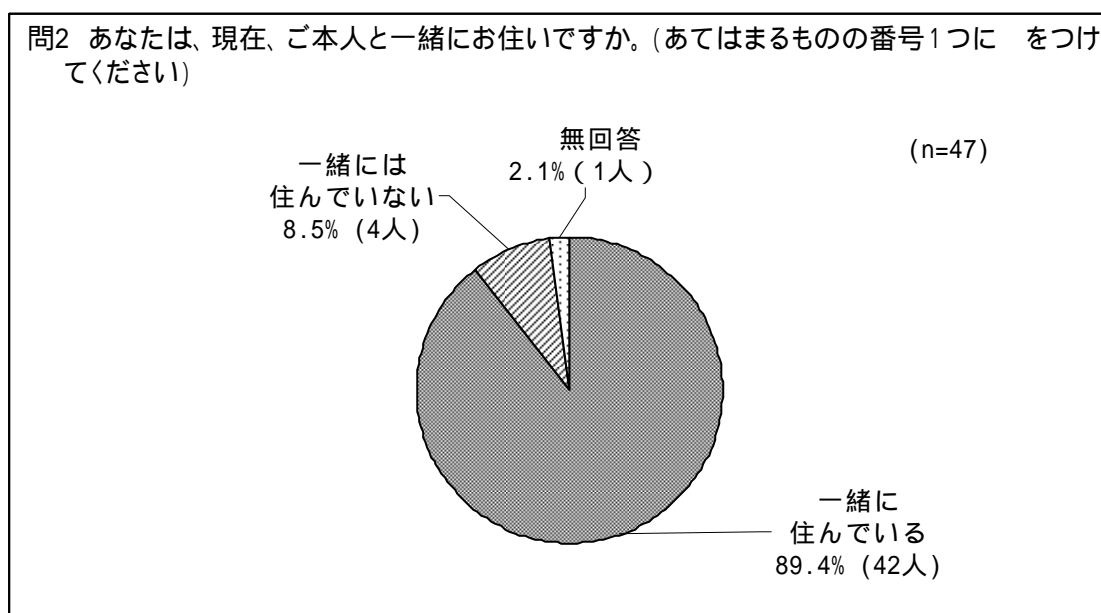
##### (1) 本人からみた回答者の続柄

本調査の家族回答者と本人との関係は、「配偶者（妻・夫）」が 83.0%（39 人）と最も多く、「子ども」は 10.6%（5 人）でした。



##### (2) 回答者の、本人との同居の有無

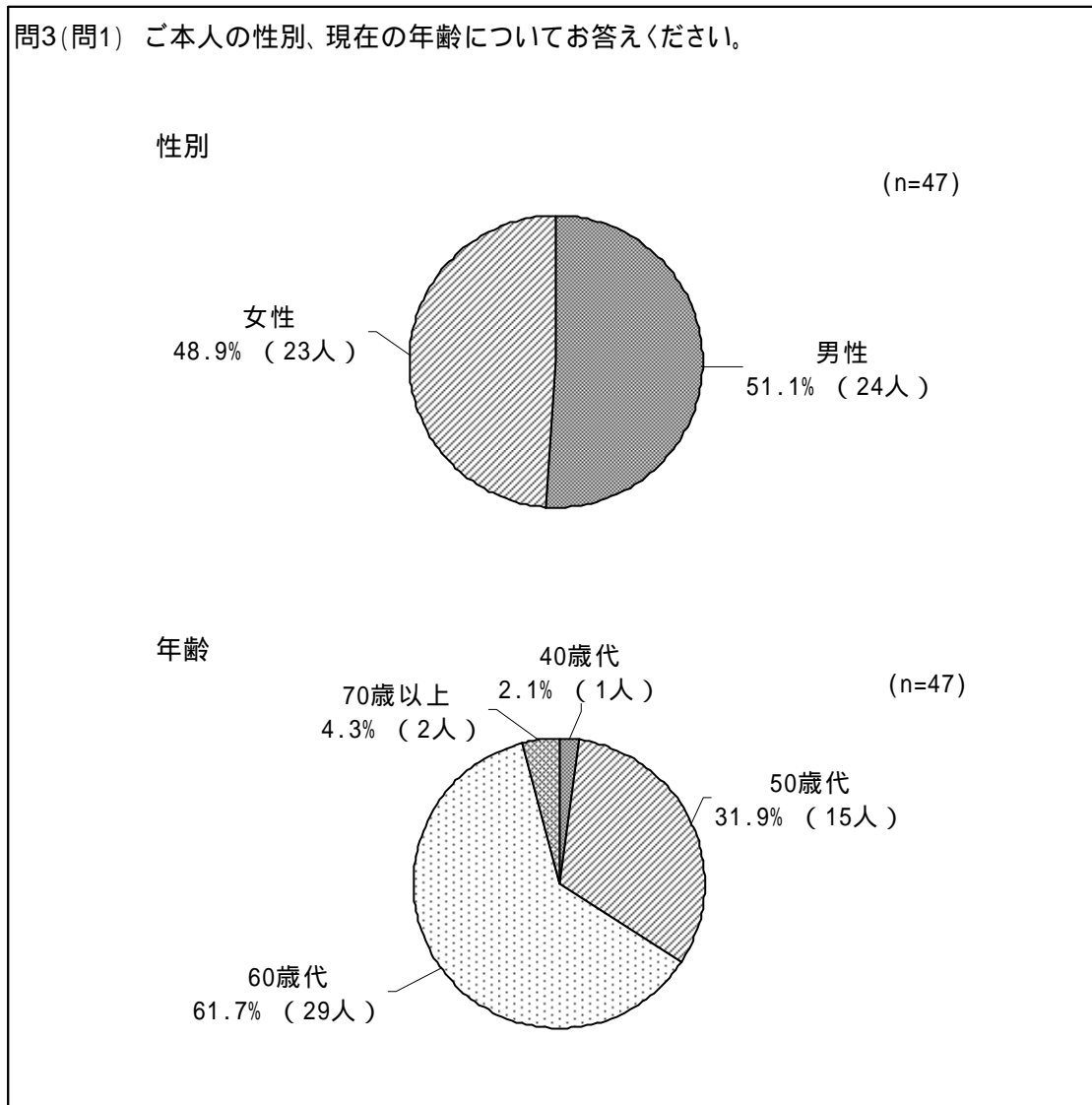
本人と「一緒に住んでいる」と答えた回答者は、89.4%（42 人）でした。



## 本人ご自身について

### (3) 本人の性別と年齢

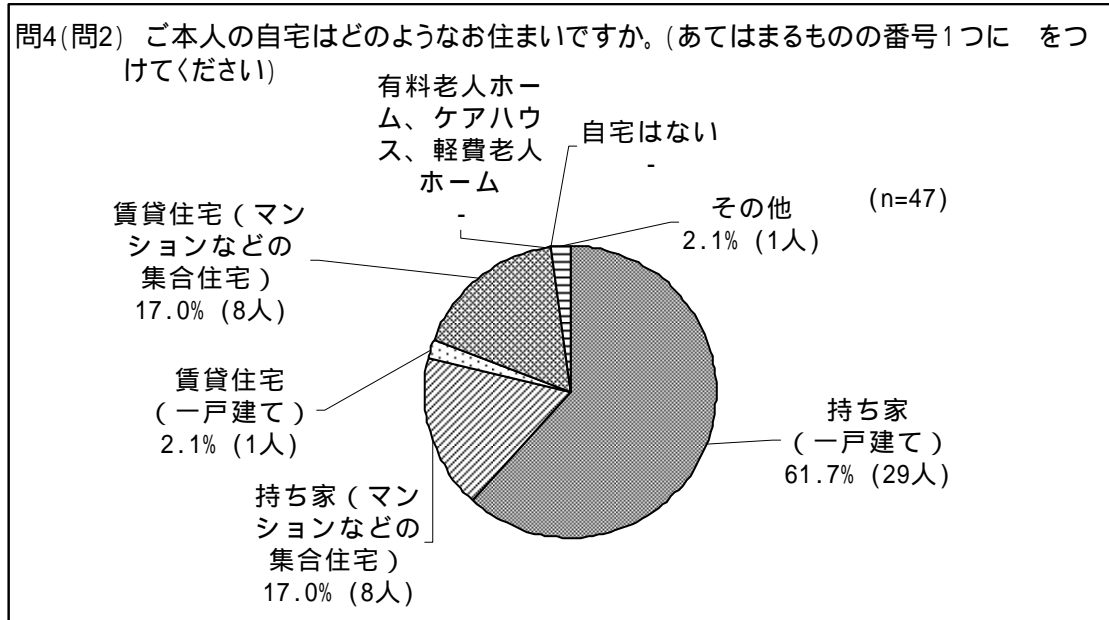
47人の性別を見ると、「男性」が51.1%（24人）、「女性」が48.9%（23人）でした。平成20年1月1日現在の年齢を見ると、「60歳代」が61.7%（29人）と多く、「50歳代」が31.9%（15人）、「70歳以上」が4.3%（2人）、「40歳代」が2.1%（1人）でした。また、平均年齢は61.6歳でした。





#### (4) 居住形態

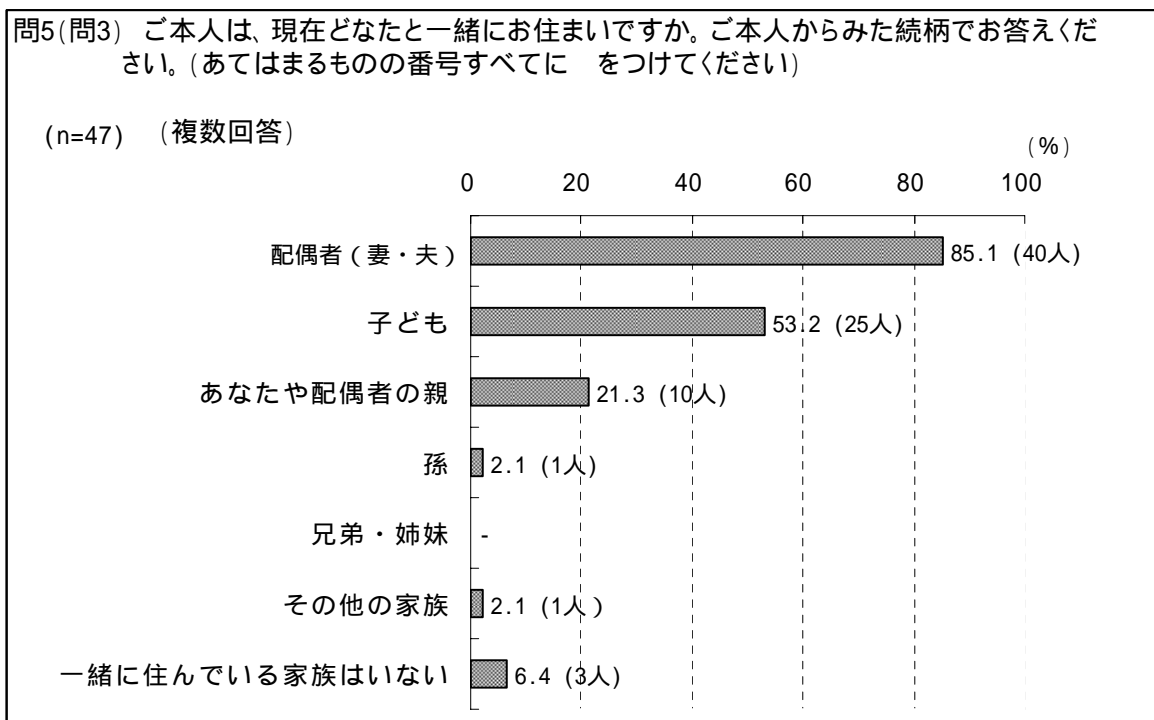
本人の自宅の居住形態は、「持ち家（一戸建て）」が 61.7%（29 人）と最も多く、次いで、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」、「賃貸住宅（マンションなどの集合住宅）」がそれぞれ 17.0%（8 人）でした。



#### 同居者や主な介護者

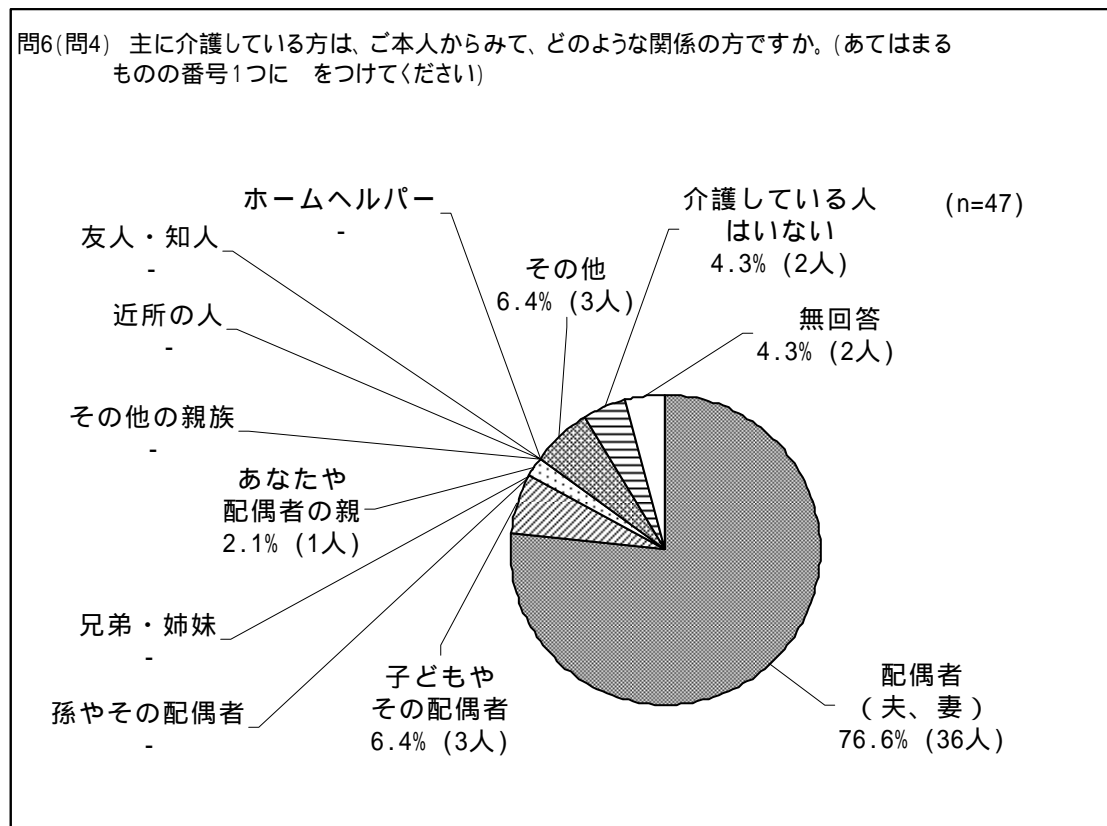
#### (5) 同居者

本人と同居している人は、本人からみて、「配偶者（妻・夫）」が 85.1%（40 人）と多く、「子ども」が 53.2%（25 人）、「本人やその配偶者の親」が 21.3%（10 人）と続いています。「一緒に住んでいる人はいない」は、6.4%（3 人）でした。



## (6) 主に介護している人

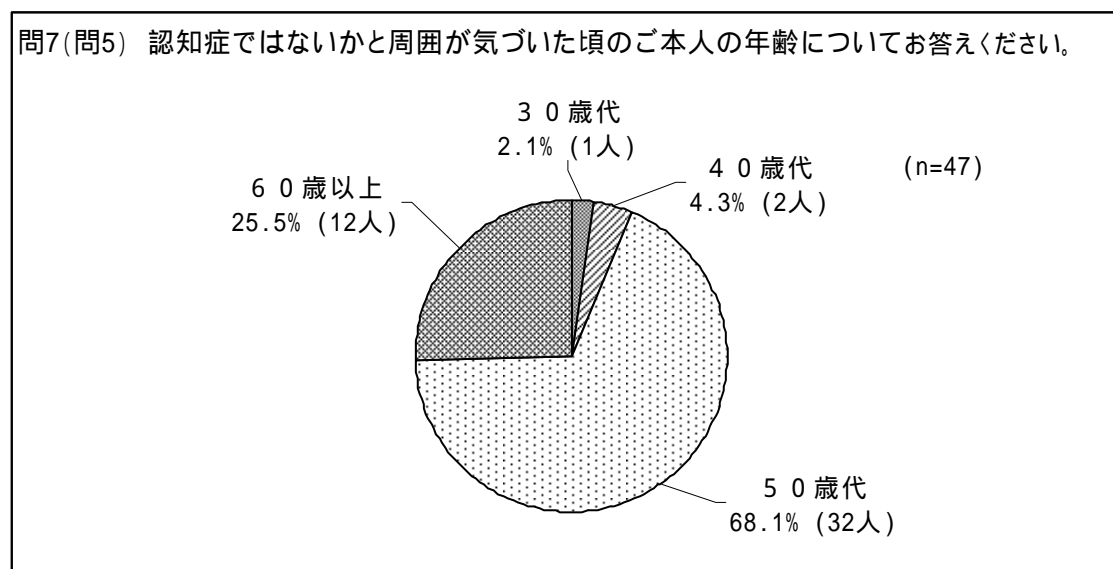
本人を主に介護している人について尋ねてみると、「配偶者(夫・妻)」の割合が最も高く、76.6% (36人) でした。



## 認知症に気づいた時期、通院期間等

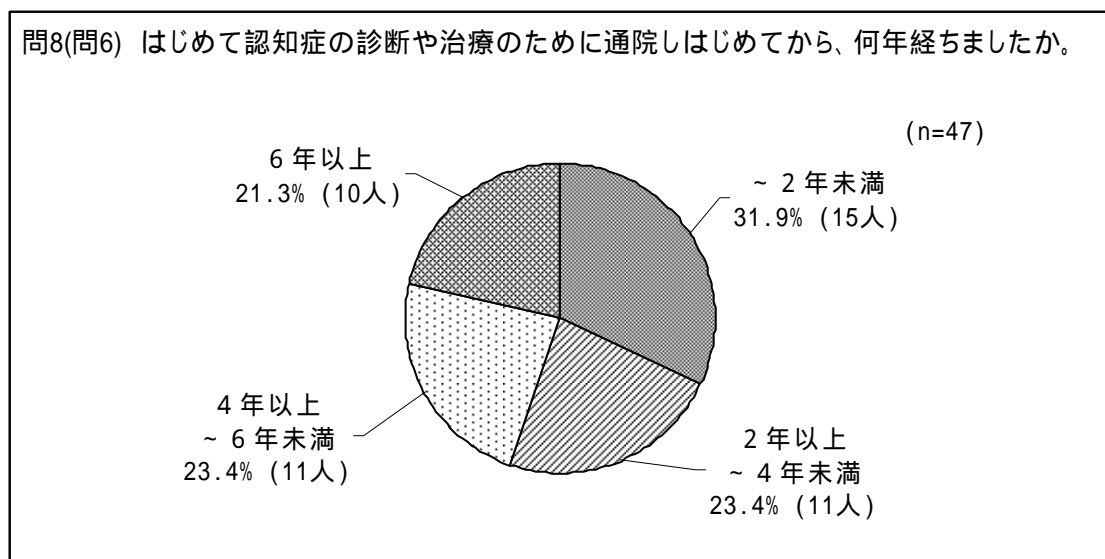
### (7) 認知症ではないかと周囲が気づいた頃の本人の年齢

認知症ではないかと周囲が気づいた頃の本人の年齢は、「50歳代」が68.1% (32人) と最も多く、次いで、「60歳以上」が25.5% (12人) となりました。また、平均年齢は56.3歳でした。



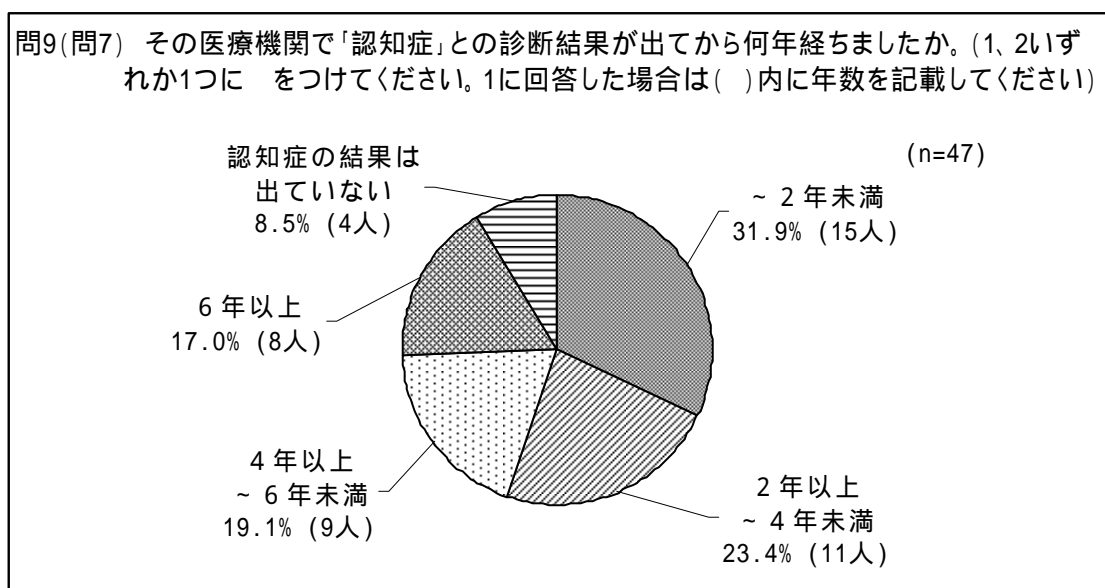
### (8) はじめて認知症の診断や治療のために通院し始めてからの年数

認知症の診断や治療のために、はじめて通院してから経過した年数を尋ねたところ、「～2年未満」が多く31.9%（15人）でした。次いで、「2年以上～4年未満」が23.4%（11人）、「4年以上～6年未満」が23.4%（11人）、「6年以上」が21.3%（10人）で、いずれもほぼ同じ割合になりました。また、平均年数は3.8年でした。



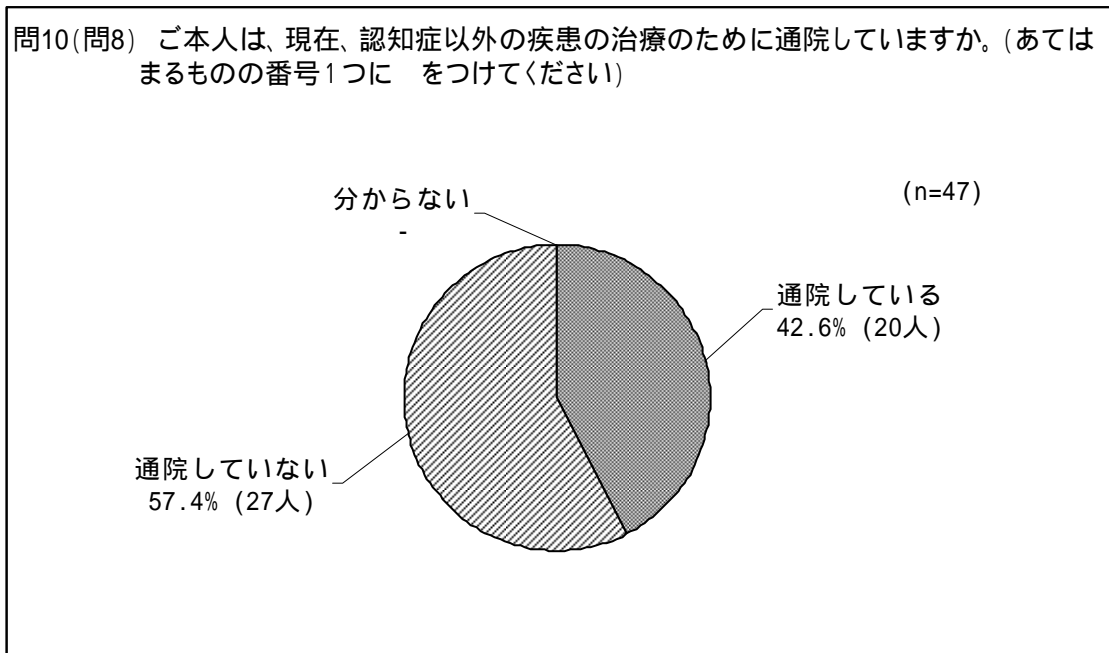
### (9) その医療機関で「認知症」との診断結果が出てからの年数

医療機関で「認知症」と診断結果が出てからの年数は、「～2年未満」が31.9%（15人）と多く、「2年以上～4年未満」が23.4%（11人）、「4年以上～6年未満」が19.1%（9人）、「6年以上」が17.0%（8人）でした。「認知症の結果は出ていない」は8.5%（4人）でした。また、平均年数は3.4年でした。



**(10) 現在、認知症以外の疾患の治療のための通院の有無**

現在、認知症以外の疾患で、治療のために通院しているかどうかを尋ねたところ、「通院していない」が57.4% (27人)、「通院している」が42.6% (20人)でした。



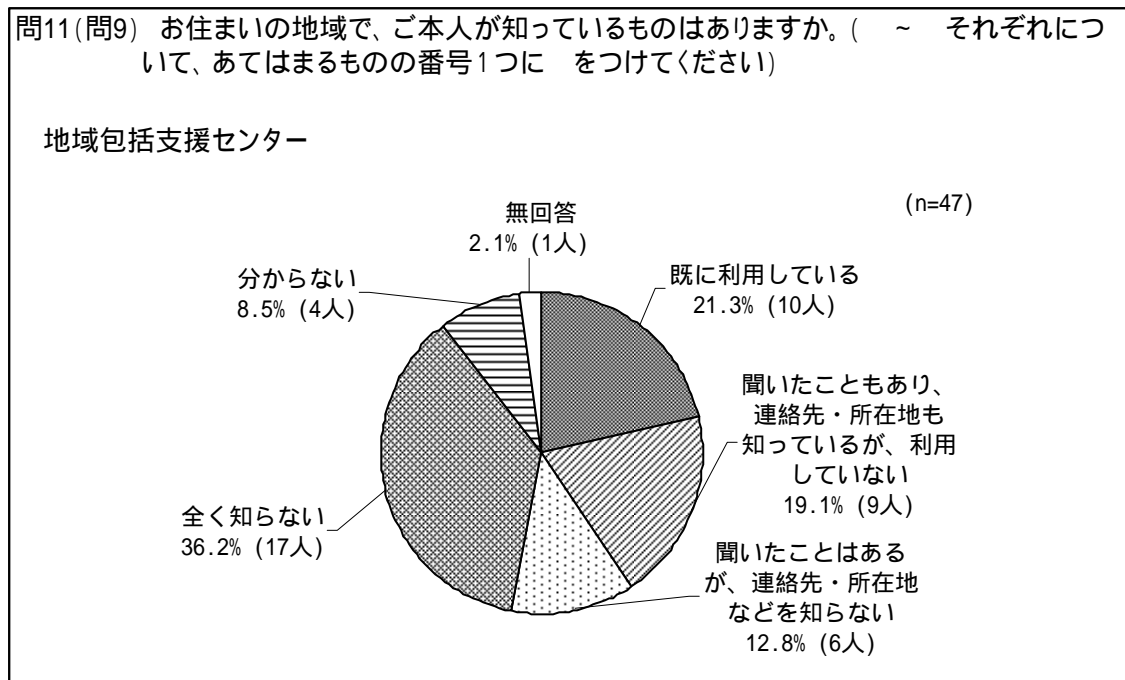
## 地域のサービスや支援制度の利用状況

### (11) 居住地域で本人が知っているもの

本人の居住地域における「地域包括支援センター」、「民生委員」、「家族会」について、本人の認知度を尋ねました。

#### 地域包括支援センター

地域包括支援センターについて、「全く知らない」が36.2%（17人）と多く、「既に利用している」が21.3%（10人）、「聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない」が19.1%（9人）、「聞いたことはあるが、連絡先・所在地などを知らない」が12.8%（6人）でした。



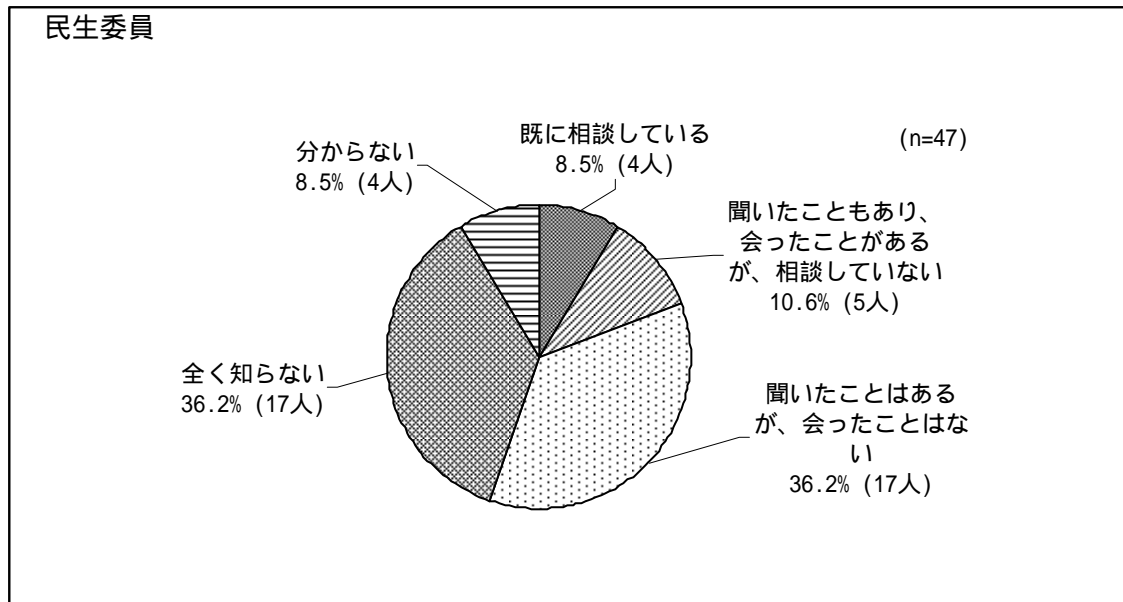
#### 参考

罹病期間別、性別の「地域包括支援センターの認知度」については、

- ・罹病期間×地域包括支援センターの認知度（61ページ）参照
- ・性別×地域包括支援センターの認知度（63ページ）参照

### 民生委員

民生委員については、「聞いたことはあるが、会ったことがない」、「全く知らない」がそれぞれ36.2%(17人)でした。「聞いたこともあり、会ったことがあるが、相談していない」が10.6%(5人)、「既に利用している」が8.5%(4人)でした。



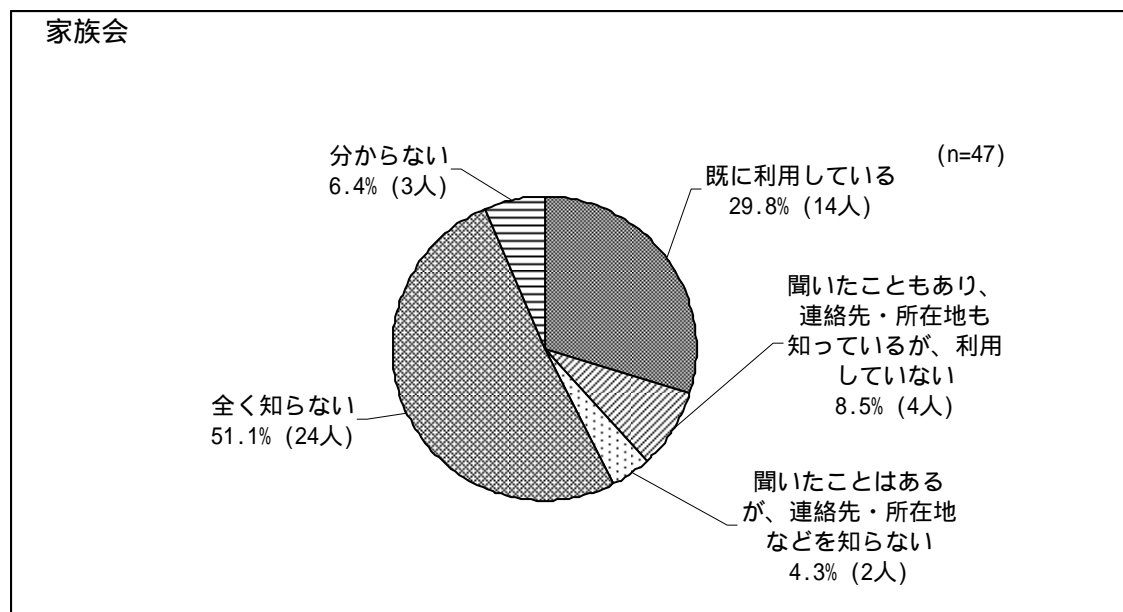
### 参考

罹病期間別、性別の「民生委員の認知度」については、

- ・ 罹病期間 × 民生委員の認知度 (62 ページ) 参照
- ・ 性別 × 民生委員の認知度 (63 ページ) 参照

### 家族会

家族会について、「全く知らない」が51.1%(24人)で過半数を占めました。「既に利用している」は29.8%(14人)、「聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない」は8.5%(4人)でした。



参考

罹病期間別、性別の「家族会の認知度」については、

- ・罹病期間×家族会の認知度（62 ページ）参照
- ・性別×家族会の認知度（64 ページ）参照

家族会の認知度別の「近所の人との付き合いの程度」については、

- ・家族会の認知度×近所の人との付き合いの程度（65 ページ）参照

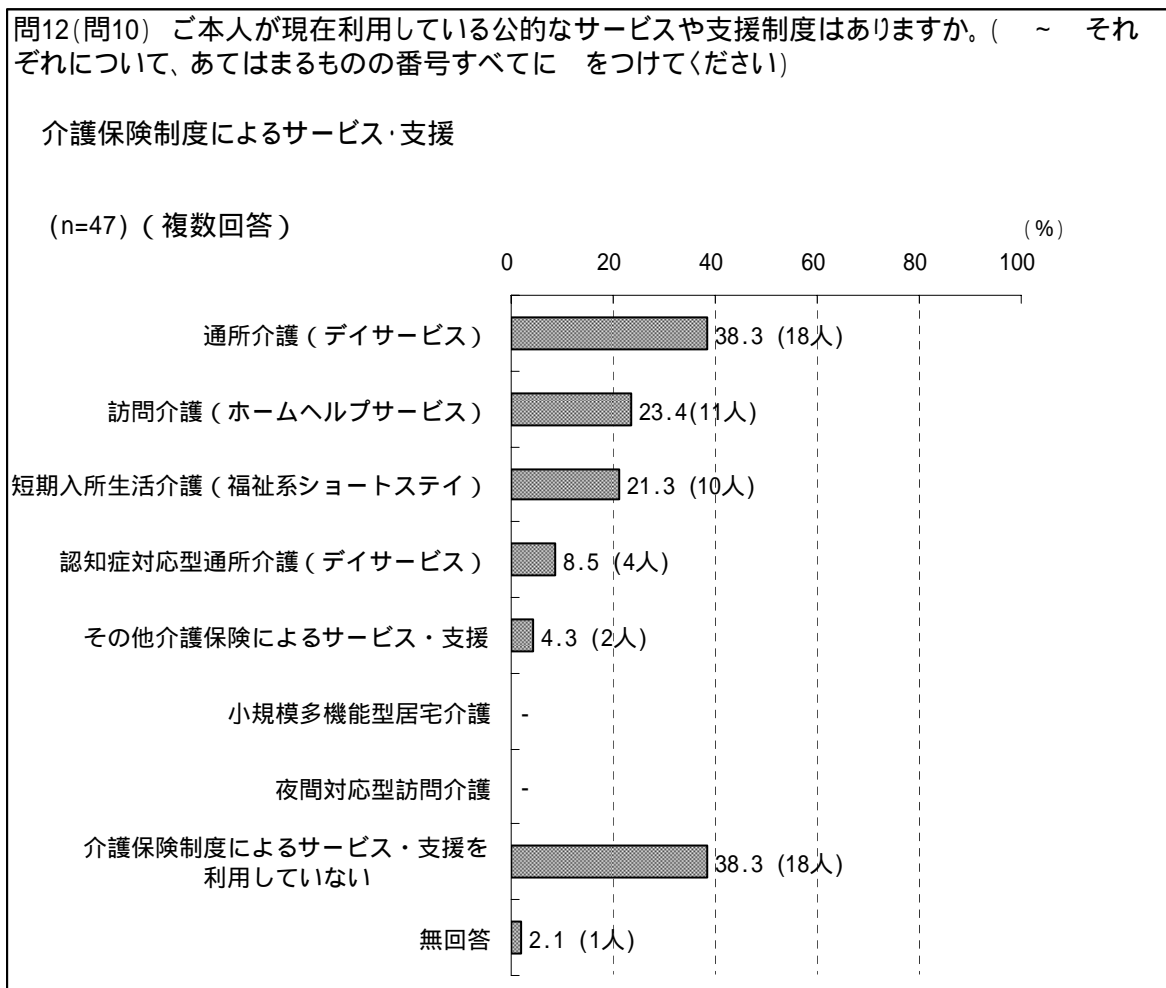
## (12) 現在利用している公的なサービスや支援制度の利用状況

本人が現在利用している公的なサービスや支援制度について尋ねました。

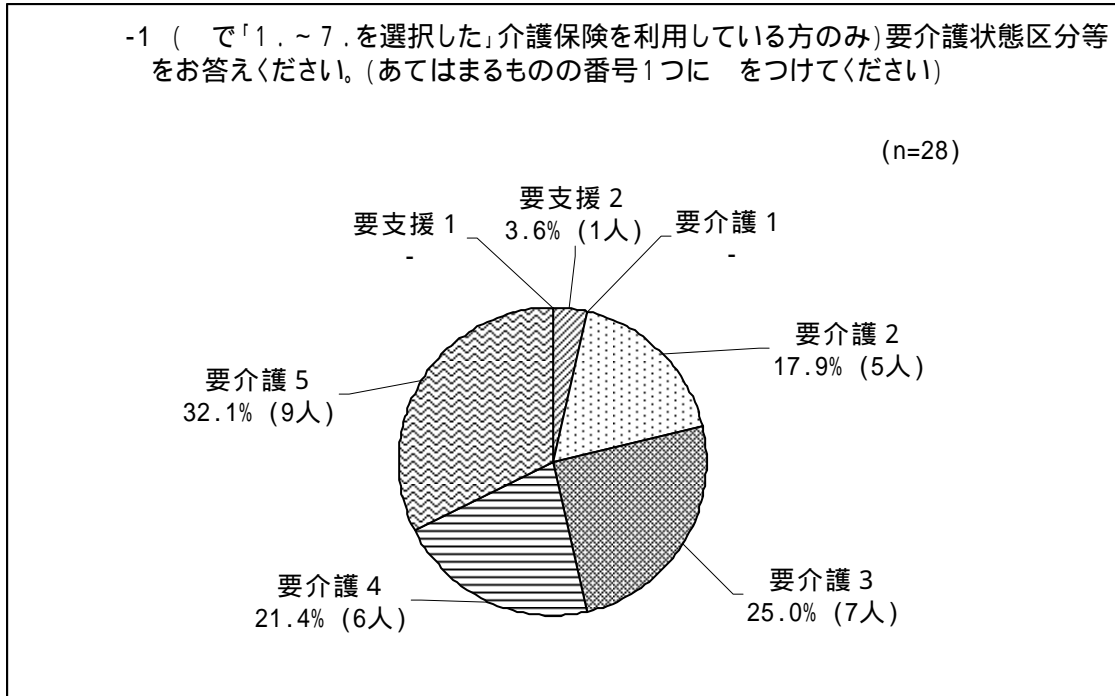
### 介護保険制度によるサービス・支援

介護保険制度によるサービス・支援では、「介護保険制度によるサービス・支援を利用していない」が 38.3%（18 人）と高い割合を占めました。

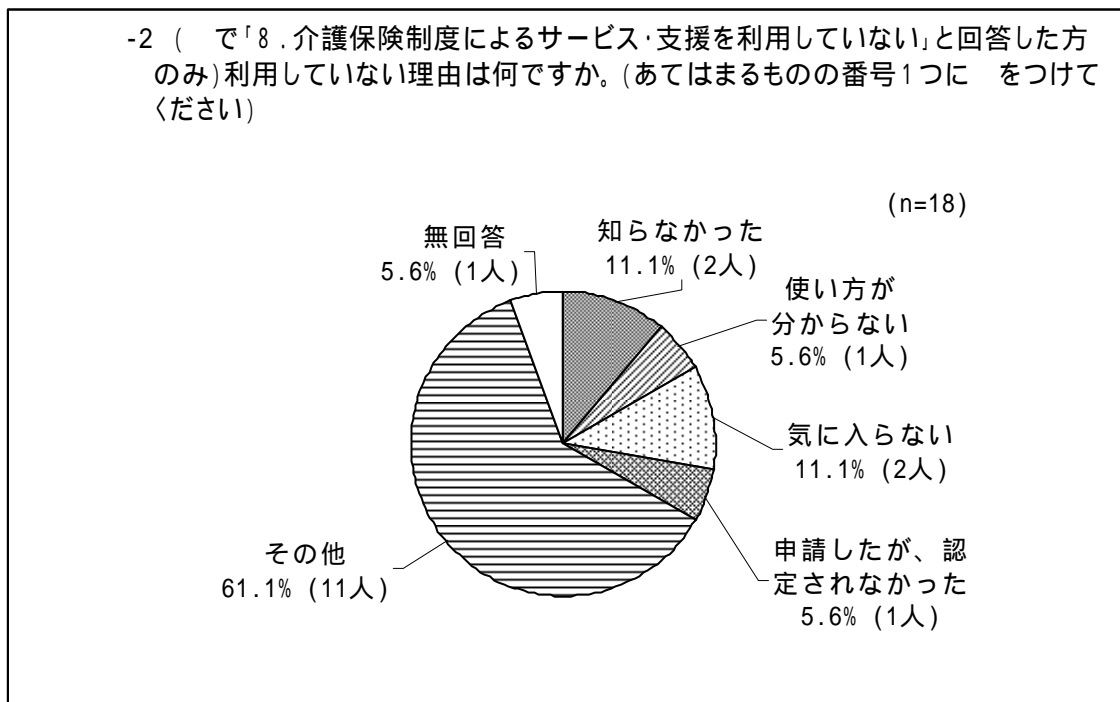
サービス・支援を利用している場合、「通所介護（デイサービス）」が 38.3%（18 人）と最も多く、次いで、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」が 23.4%（11 人）、「短期入所生活介護（福祉系ショートステイ）」が 21.3%（10 人）でした。



介護保険制度による、何らかのサービス・支援を利用しているとの回答者(28人)に対し、要介護状態区分等を尋ねたところ、「要介護5」が32.1%(9人)と多く、次いで、「要介護3」が25.0%(7人)、「要介護4」が21.4%(6人)、「要介護2」が17.9%(5人)でした。



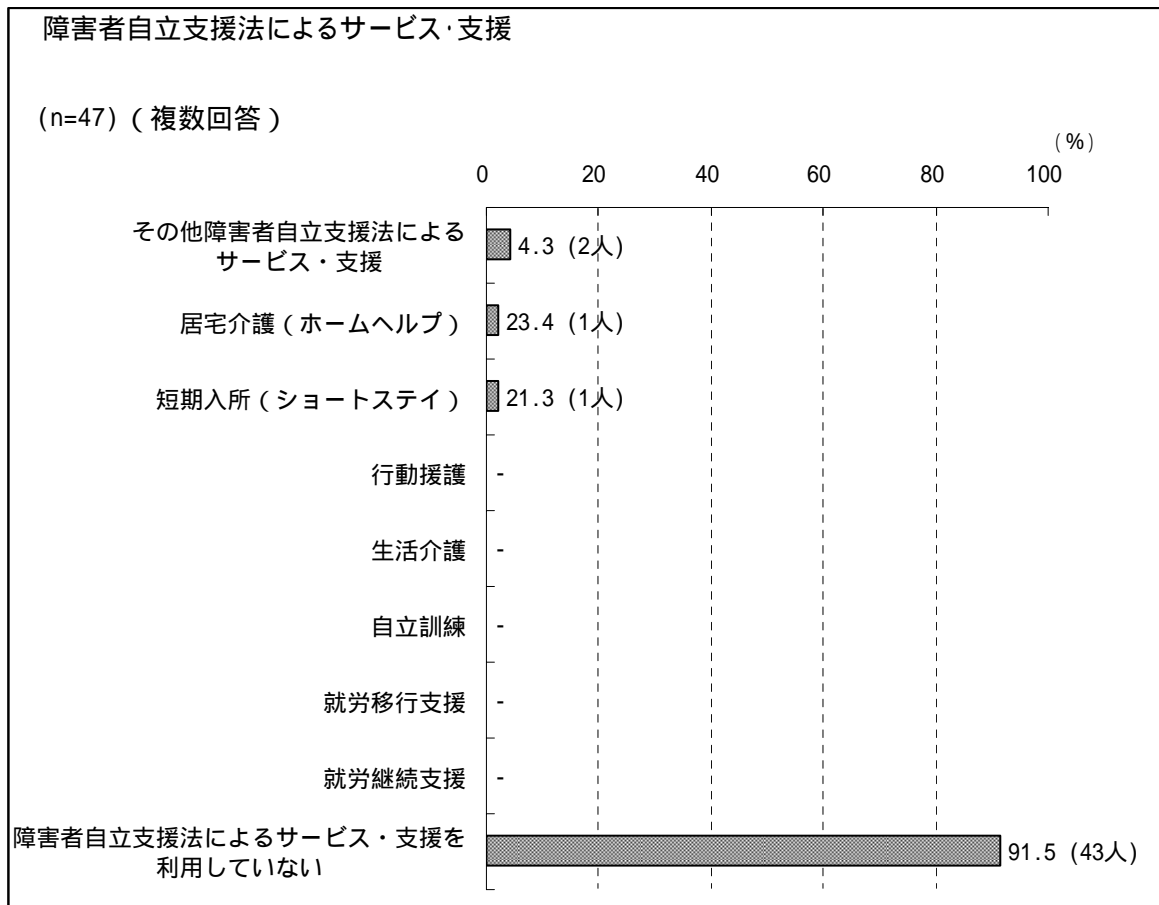
介護保険制度による支援・サービスを利用していない理由では、「知らなかった」、「気に入らない」がそれぞれ11.1%(2人)と比較的多く見られ、「その他」では、「必要がないから」が多く挙げられました。



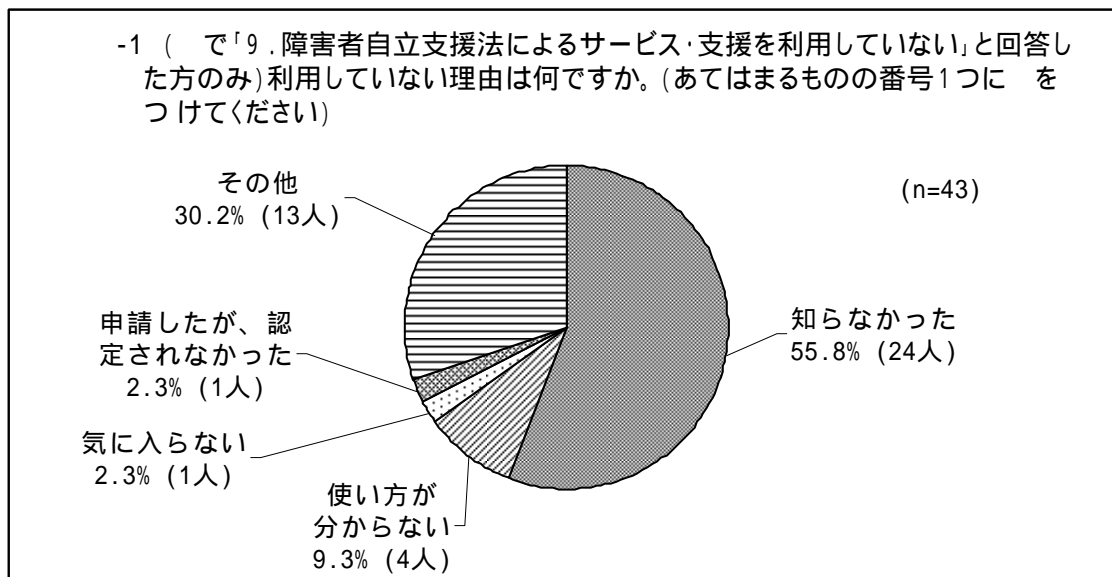


### 障害者自立支援法によるサービス・支援

障害者自立支援法によるサービス・支援では、「障害者自立支援法によるサービス・支援を利用していない」が91.5%（43人）で、最も多い結果となりました。



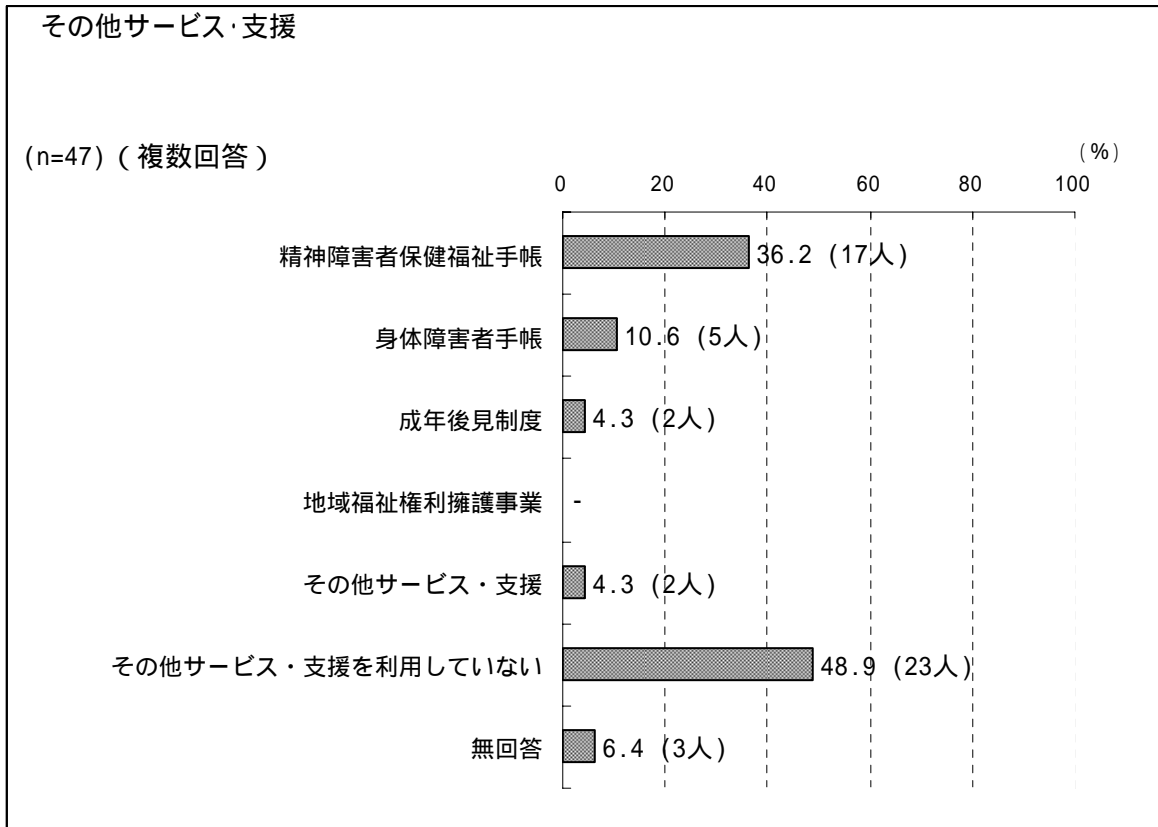
障害者自立支援法によるサービス・支援を利用していない理由としては、「知らなかった」が55.8%（24人）と多く、次いで「使い方がわからない」が9.3%（4人）でした。「その他」では、「介護保険で利用しているから」、「まだ必要がない」が多く挙げられました。



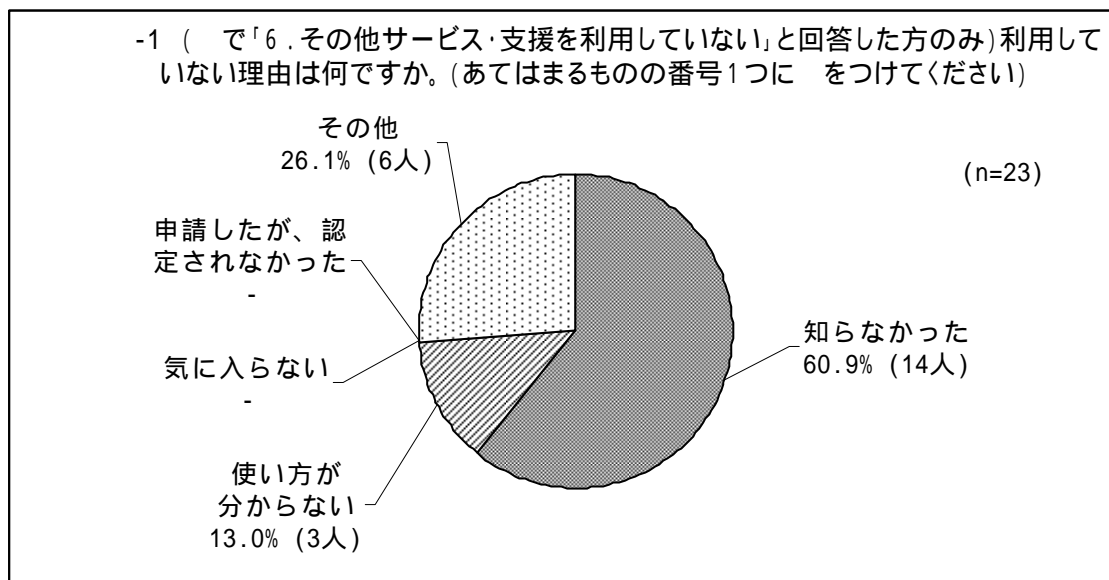
その他サービス・支援

その他サービス・支援をみると、「その他サービス・支援を利用していない」が 48.9% (23人) で最も多く見られました。

その他サービス・支援を利用している場合、「精神障害者保健福祉手帳」の利用者が 36.2% (17人) で最も多く、次いで「身体障害者手帳」が 10.6% (5人) でした。



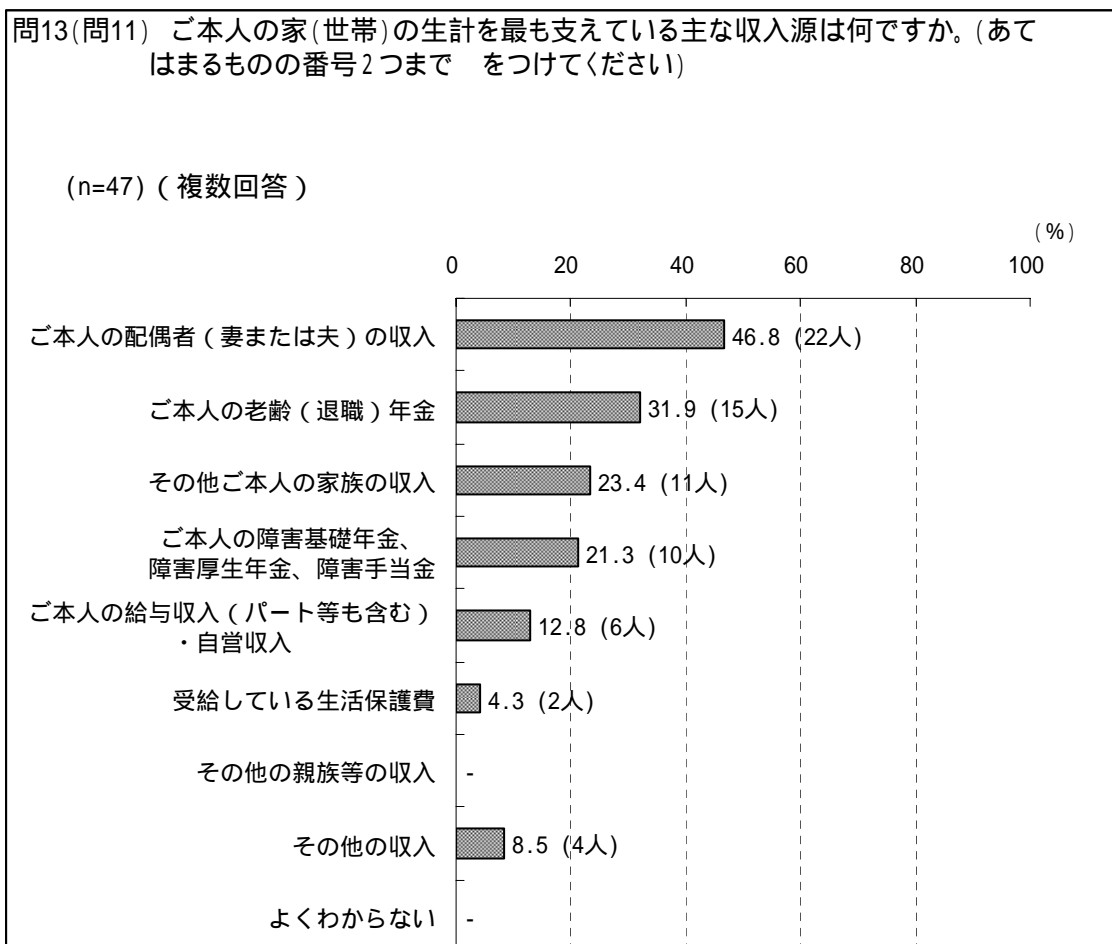
その他サービス・支援を利用していない理由は、「知らなかった」が 60.9% (14人) と過半数に達し、「使い方がわからない」が 13.0% (3人) でした。「その他」では、「まだ必要がない」、「会社との兼ね合い」などの回答がありました。



## 収入や仕事

### (13) 本人の家(世帯)の生計を最も支えている主な収入源

本人の世帯の生計を最も支えている主な収入源は、「ご本人の配偶者(妻または夫)の収入」が多く、46.8% (22人)でした。「ご本人の老齢(退職)年金」が31.9% (15人)、「その他ご本人の家族の収入」が23.4% (11人)、「ご本人の障害基礎年金、障害厚生年金、障害手当金」が21.3% (10人)と続いています。



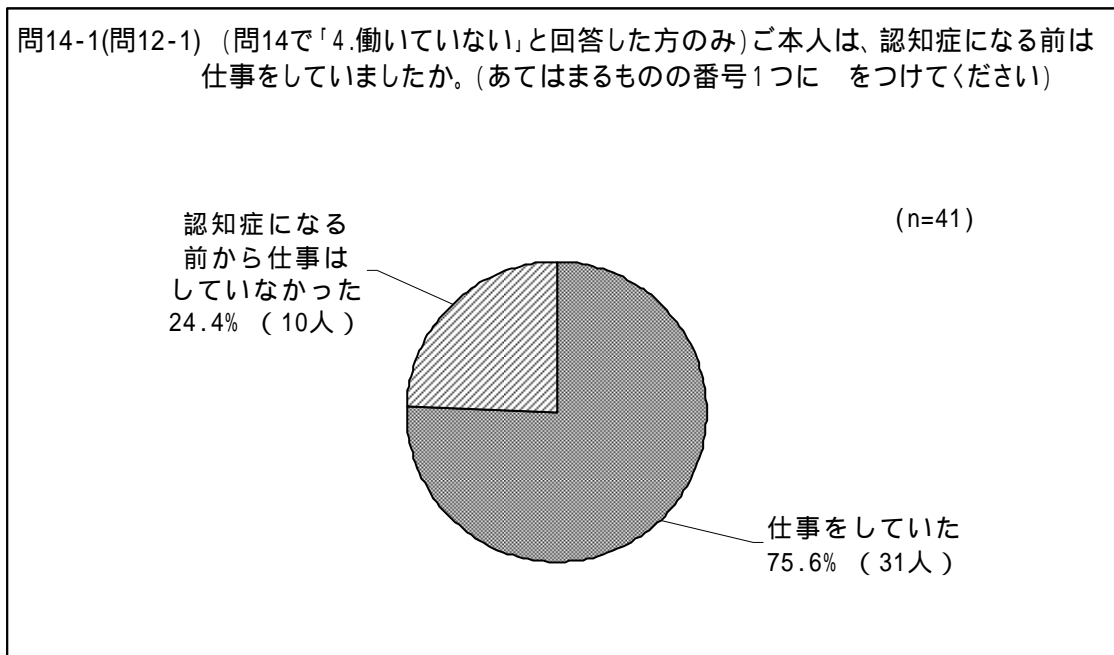
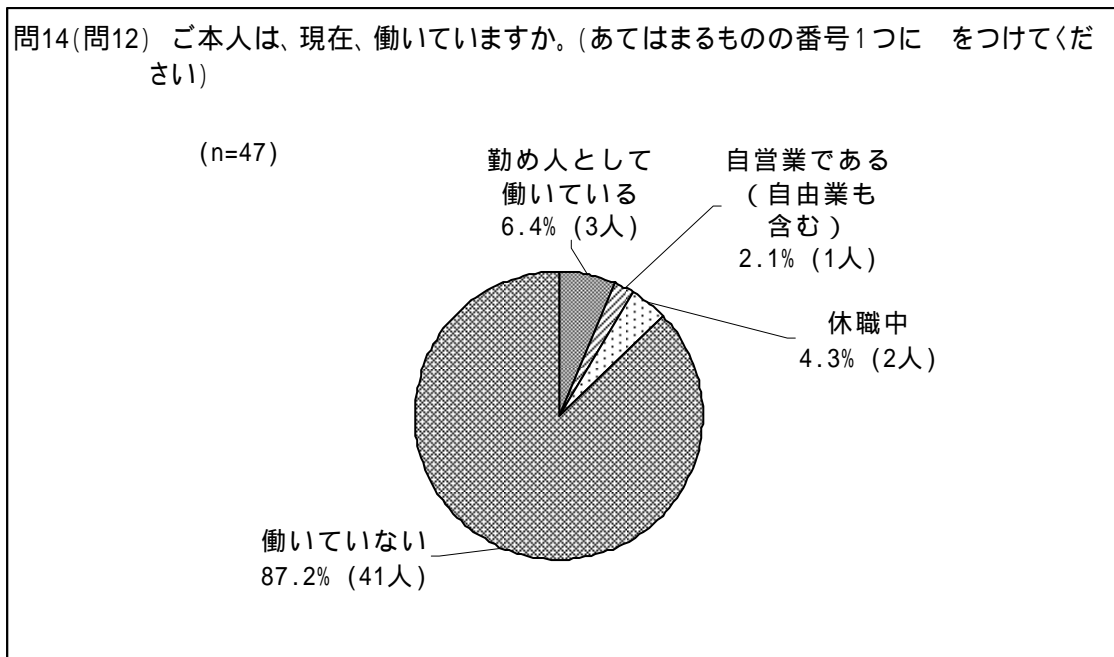
#### 参考

本人の年齢別の「主な収入源」については、

- ・年齢×主な収入源(58ページ)参照
- ・年齢×主な収入源・4分類(59ページ)参照

#### (14) 本人の仕事の有無

本人の現在の就業状況について尋ねたところ、「働いていない」が 87.2% (41 人) でした。そのうち、75.6% (31 人) は、認知症になる前は「仕事をしていた」と回答しています。



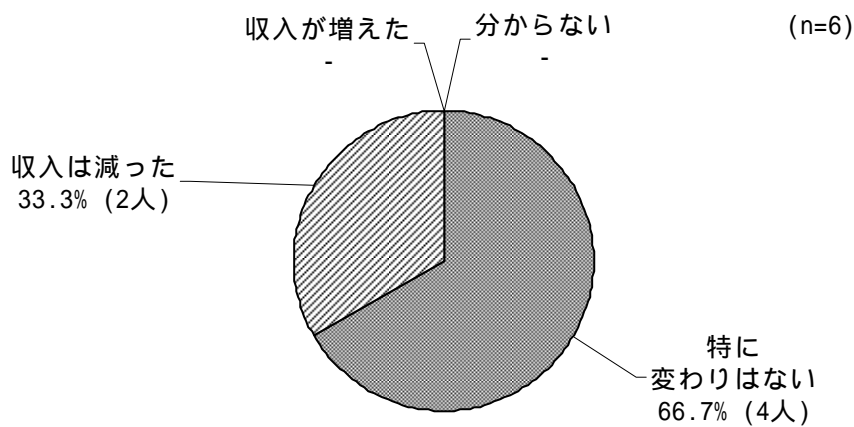
#### 参考

性別の「認知症になる前の仕事の有無」については、  
・性別×認知症になる前の仕事の有無 (53 ページ) 参照

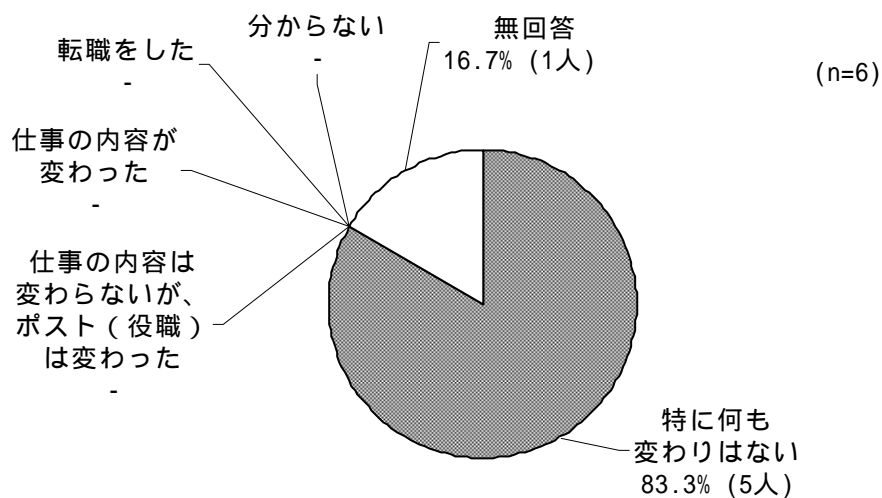
「勤め人として働いている」と回答した3人(6.4%)、「休職中」と回答した2人(4.3%)、「自営業である(自由業も含む)」と回答した1人(2.1%)の計6人のうち、認知症になってからの収入の変化について「特に変わりはない」と回答したのは66.7%(4人)、「収入は減った」と回答したのは33.3%(2人)でした。

認知症になってからの仕事の内容やポストの変化については「特に何も変わりはない」が83.3%(5人)でした。

問14-2(問12-2) (問14で「1.勤め人として働いている」「2.自営業である(自由業も含む)」「3.休職中」と回答した方のみ)ご本人の収入は、認知症になってから、変わりましたか。(あてはまるものの番号1つに をつけてください)

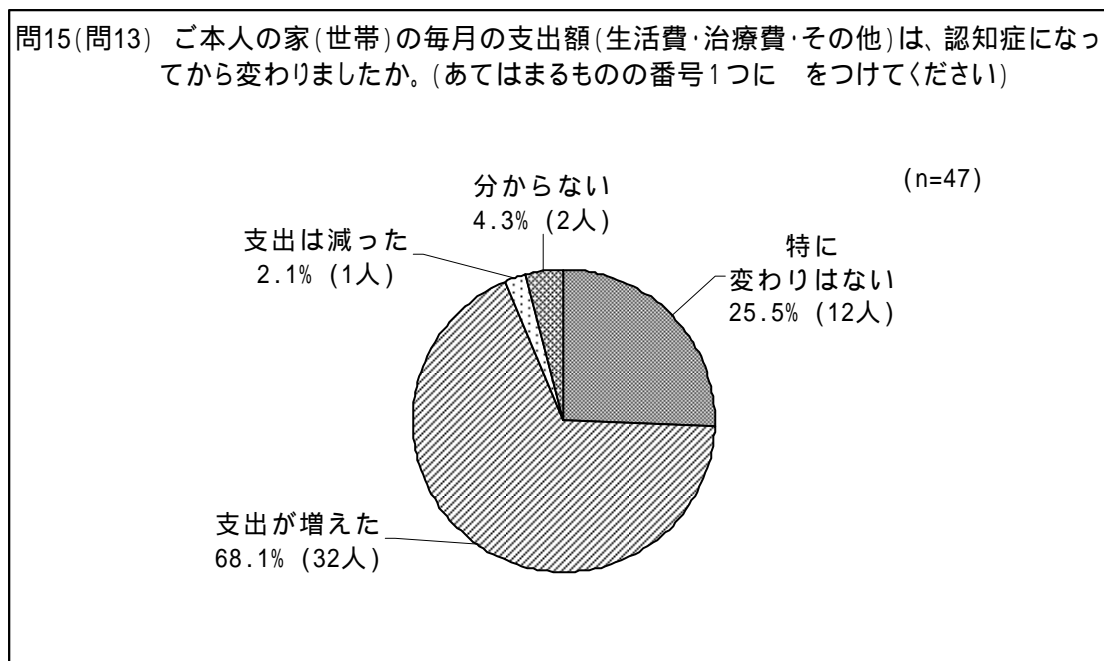


問14-3(問14-3) (問14で「1.勤め人として働いている」「2.自営業である(自由業も含む)」「3.休職中」と回答した方のみ)ご本人の仕事は、認知症になってから変わりましたか。(あてはまるものの番号1つに をつけてください)



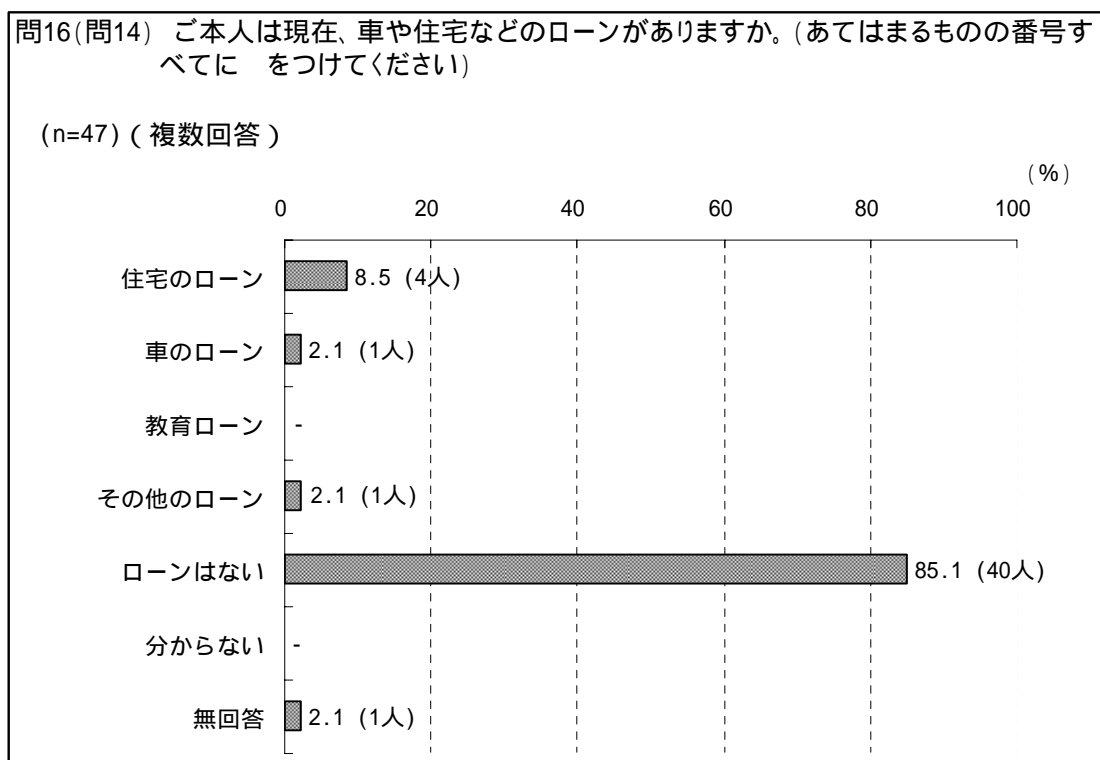
### (15) 認知症になってからの本人の家(世帯)の毎月の支出額(生活費・治療費・その他)の変化

認知症になってから、本人世帯の毎月の支出額がどのように変化したか尋ねたところ、「支出が増えた」が68.1%(32人)で最も多く、次いで「特に変わりはない」が25.5%(12人)でした。



### (16) 現在、本人の車や住宅などのローンの有無

現在の本人のローン状況についてみると、「ローンはない」が85.1%(40人)でした。ローンがある場合は、「住宅のローン」が8.5%(4人)で多く、次いで「車のローン」、「その他のローン」がそれぞれ2.1%(1人)という結果になりました。



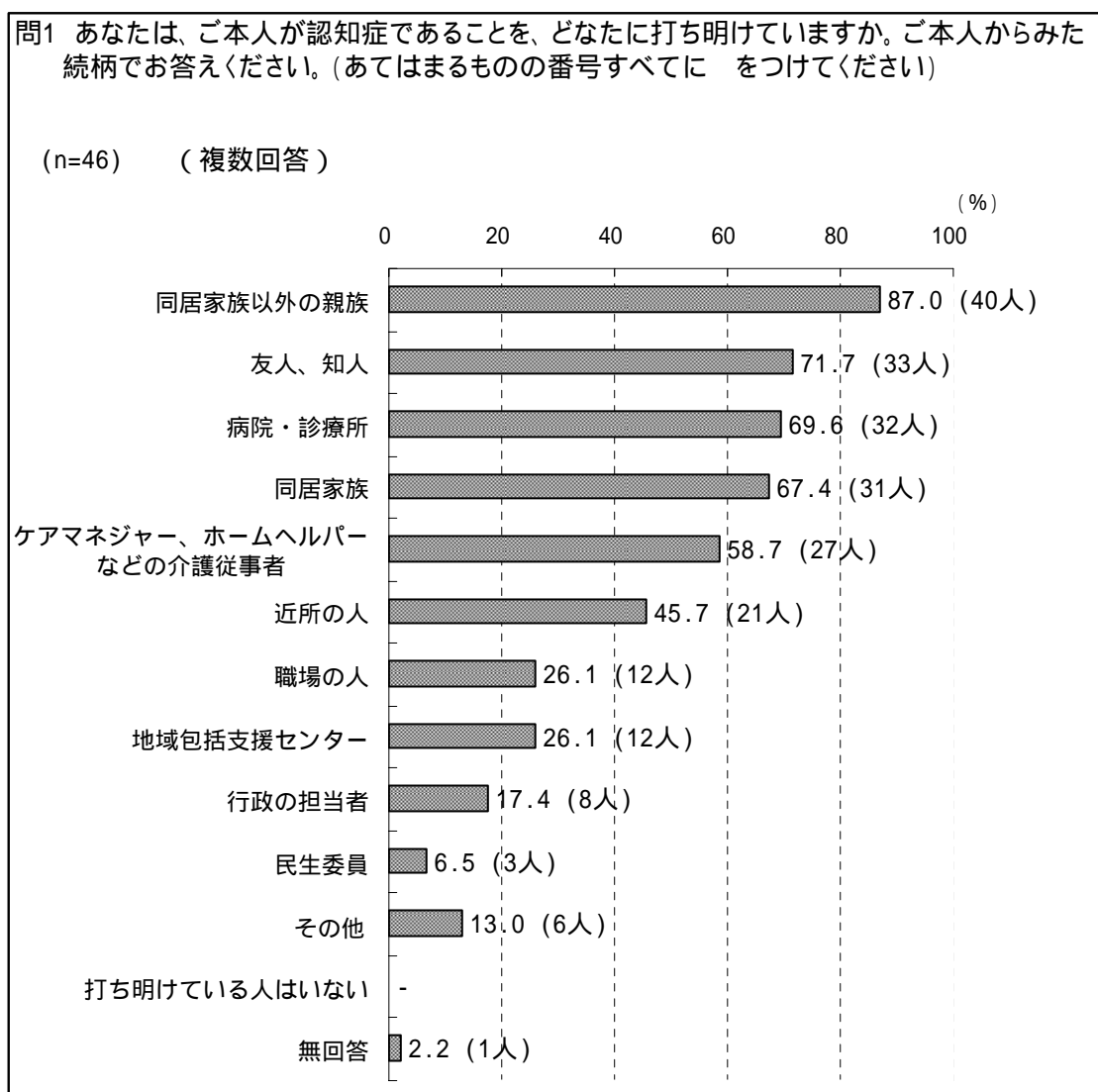
## 2 家族票

家族票は、46 標本となっています。

### 認知症の本人の地域との関わり

#### (1) 家族が、本人が認知症であることを打ち明けている人

家族に対し、本人が認知症であることを誰に打ち明けているかと尋ねたところ、「同居家族以外の親族」が 87.0% (40 人) で最も多く、「友人、知人」が 71.7% (33 人)、「病院・診療所」が 69.6% (32 人)、「同居家族」が 67.4% (31 人)、「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」が 58.7% (27 人) と続いています。



#### 参考

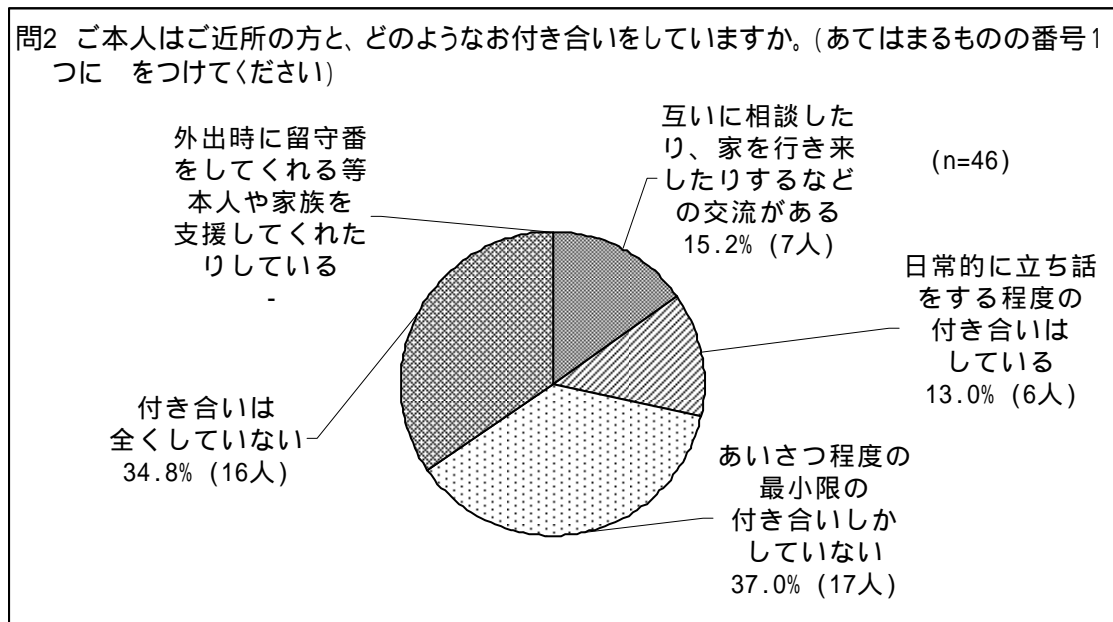
本人が自ら認知症であることを打ち明けている人については、40 ページ参照

家族が本人に認知症の症状が出たと気づいた頃に、主に相談した相手については、28 ページ参照

家族が毎日の介護のことで、よく相談している人については、30 ページ参照

## (2) 本人の近所の人との付き合いの程度

家族に対し、本人と近所の人との付き合いについて尋ねたところ、「あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない」が37.0%(17人)と多く、次いで、「付き合いは全くしていない」が34.8%(16人)、「互いに相談したり、家を行き来したりするなどの交流がある」が15.2%(7人)、「日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている」が13.6%(6人)でした。



### 参考

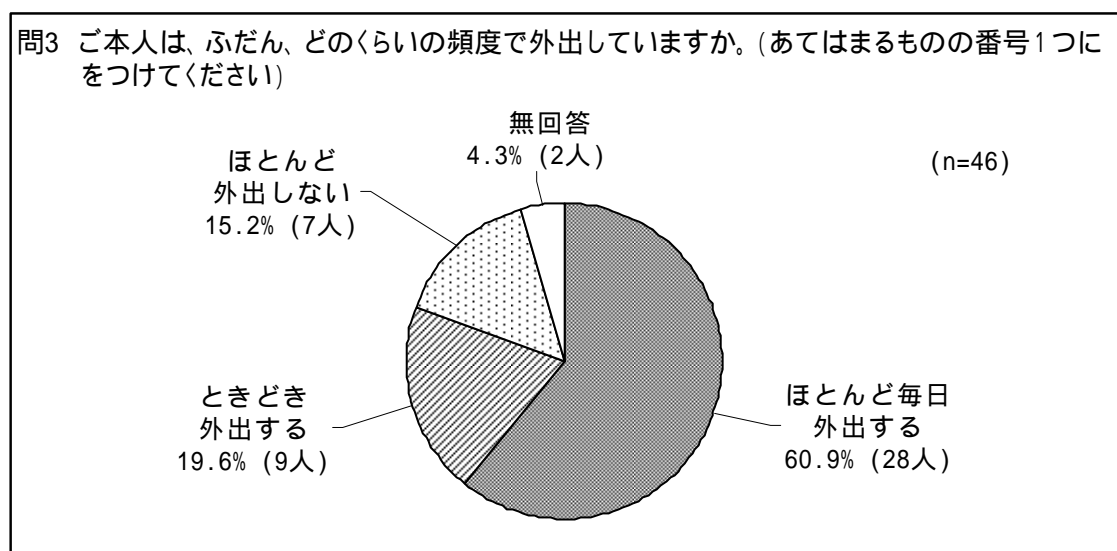
家族会の認知度別の「近所の人との付き合いの程度」については、

・家族会の認知度×近所の人との付き合いの程度(65ページ)参照

本人が回答した、本人の近所の人との付き合いの程度については、41ページ参照

## (3) 本人の外出頻度

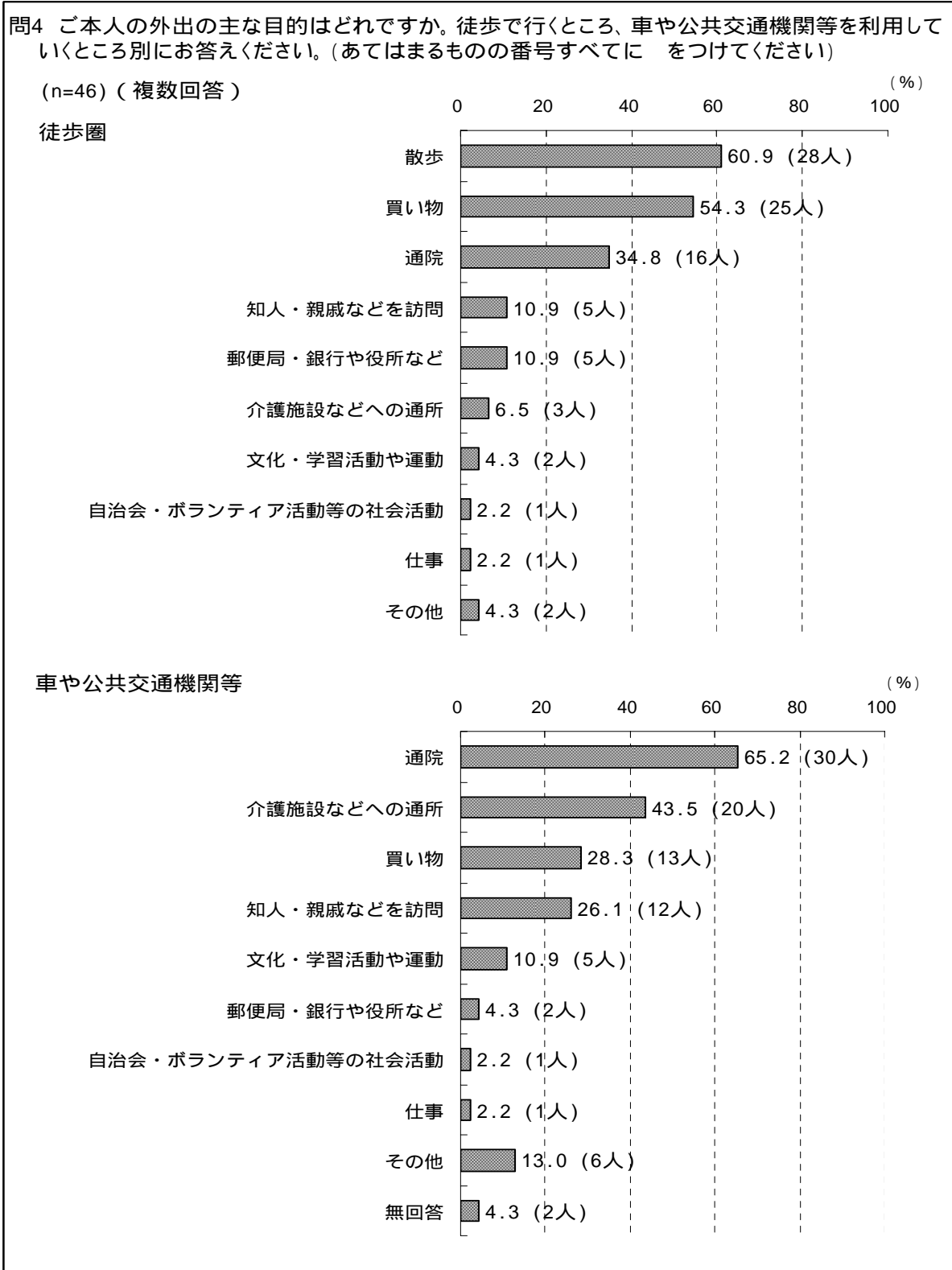
本人の外出頻度は、「ほとんど毎日外出する」が60.9%(28人)で最も多く、次いで、「ときどき外出する」が19.6%(9人)、「ほとんど外出しない」が15.2%(7人)でした。





#### (4) 本人の外出の主な目的

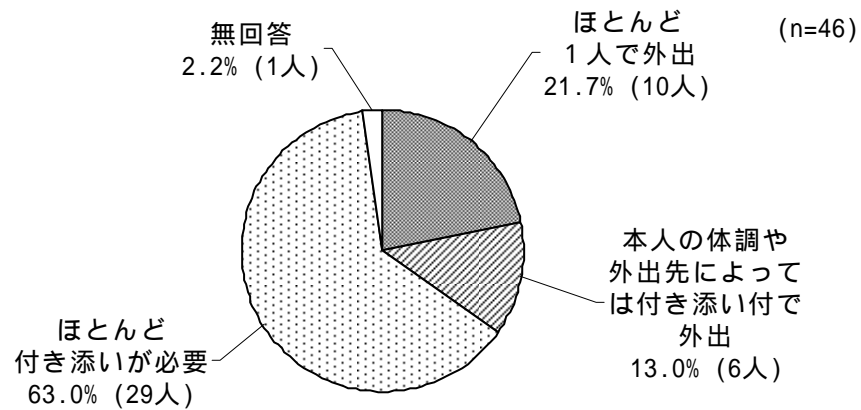
本人が外出する際の主な目的についてみると、徒歩圏内の外出では、「散歩」が60.9%(28人)、「買い物」が54.3%(25人)、「通院」が34.8%(16人)でした。車や公共交通機関等を利用する外出では、「通院」が65.2%(30人)、「介護施設などへの通所」が43.5%(20人)と多く、「その他」では、「自分の行くところ全て」、「カラオケ、映画」、「ゴルフ」、「散髪」などが挙げられました。



### (5) 本人が外出する際の付き添いの程度

本人が外出する際の付き添いの程度について、「ほとんど付き添いが必要」が63.0% (29人)と最も高い割合で見られました。「ほとんど一人で外出」は21.7% (10人)、「本人の体調や外出先によっては付き添い付で外出」は13.0% (6人)でした。

問5 ご本人が外出する際の付き添いの程度はどれですか。(あてはまるものの番号1つをつけてください)

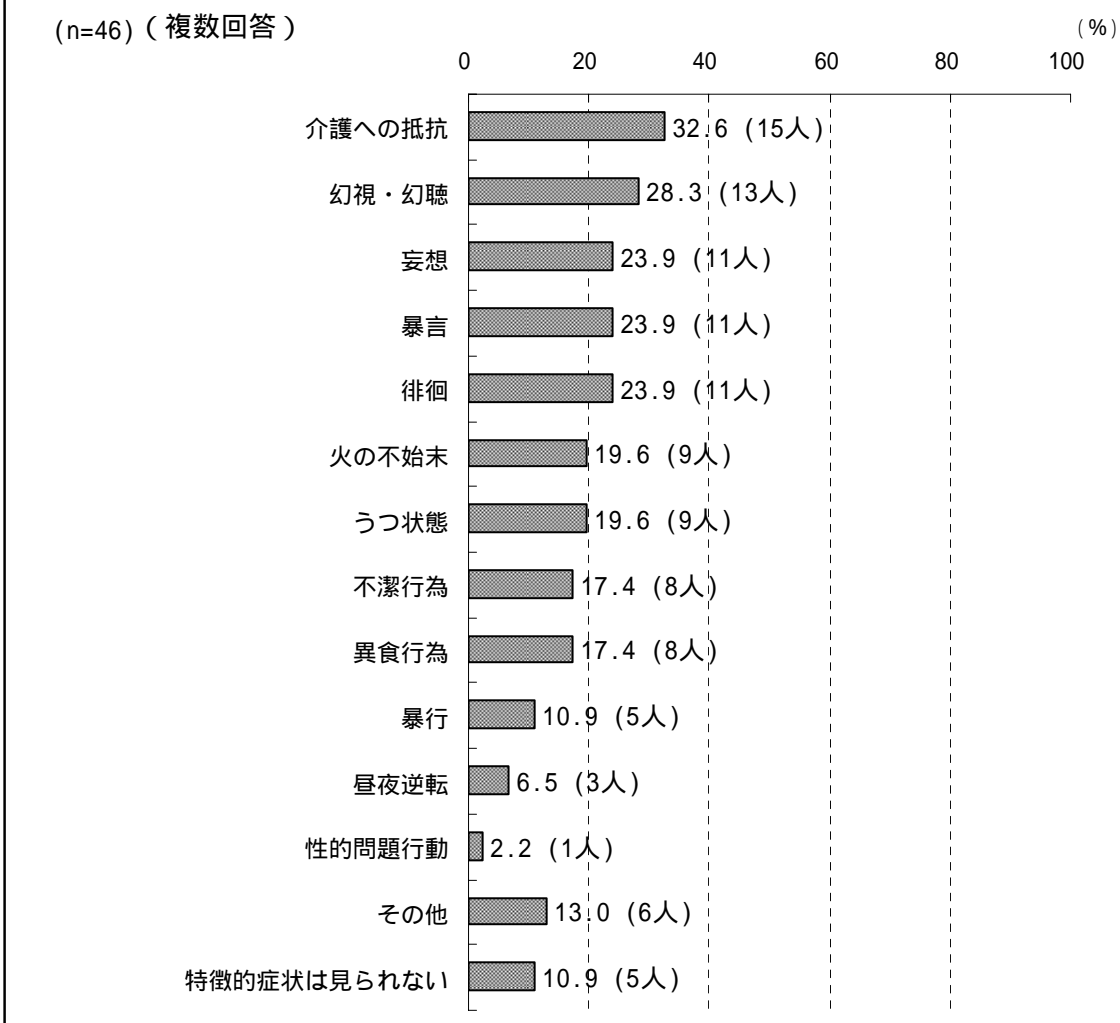


## 診断・治療の状況

### (6) 現在、本人の認知症の行動・心理症状の特徴的症狀で見られること

本人の認知症の行動・心理症状で、現在、特徴として見られることについて尋ねたところ、「介護への抵抗」が32.6% (15人)、「幻視・幻聴」が28.3% (13人)と多く挙げられました。次いで、「妄想」、「暴言」、「徘徊」がそれぞれ23.9% (11人)でした。

問6 現在、ご本人の認知症の行動・心理症状の特徴的症狀のうち、見られるのは次のどれですか。(あてはまるものの番号すべてに をつけてください)



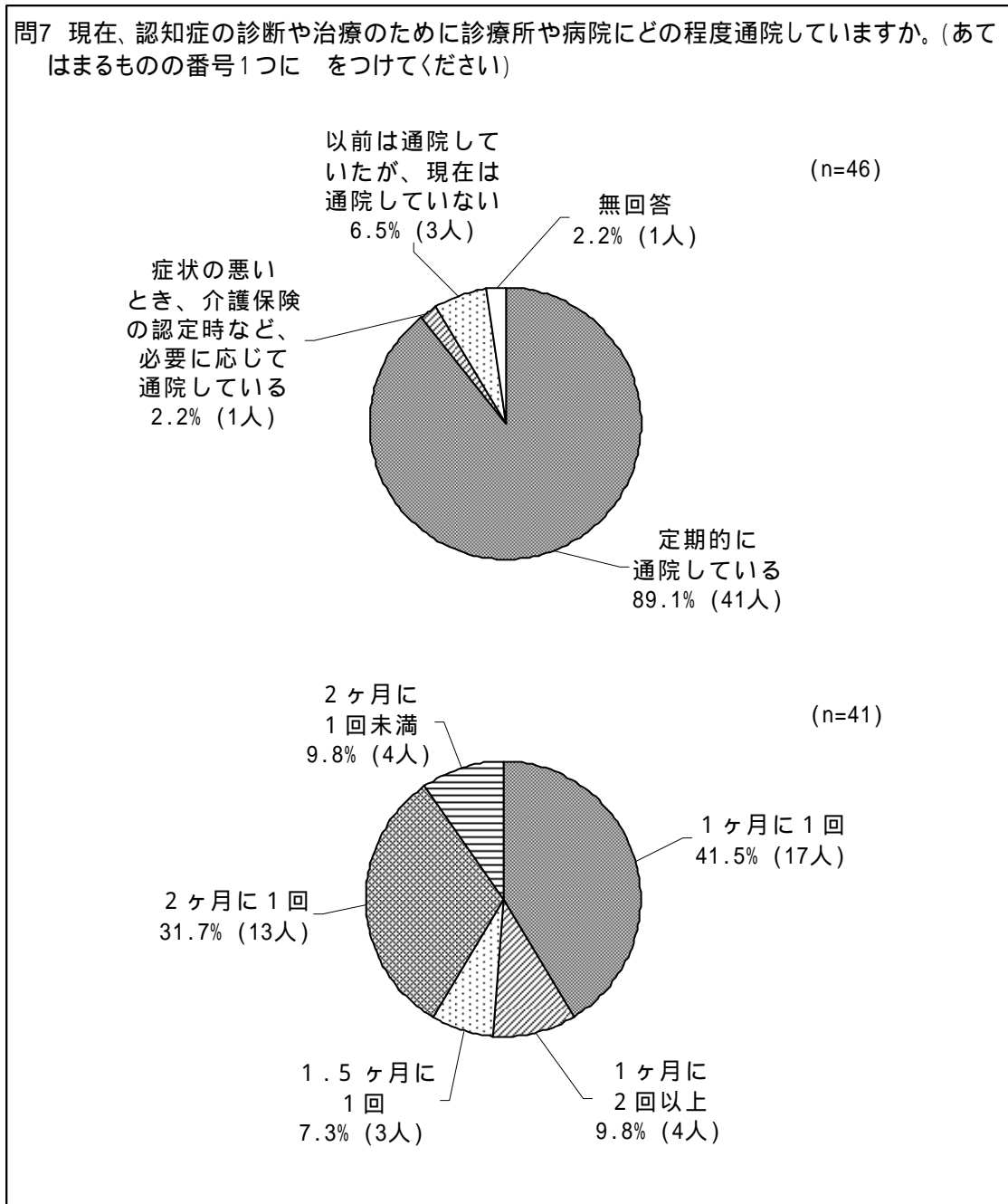
#### 参考

原因疾患別の「認知症の行動・心理症状の特徴的症狀」については、  
・原因疾患×認知症の行動・心理症状の特徴的症狀 (54 ページ) 参照

### (7) 認知症の診断や治療のための診療所や病院への通院頻度

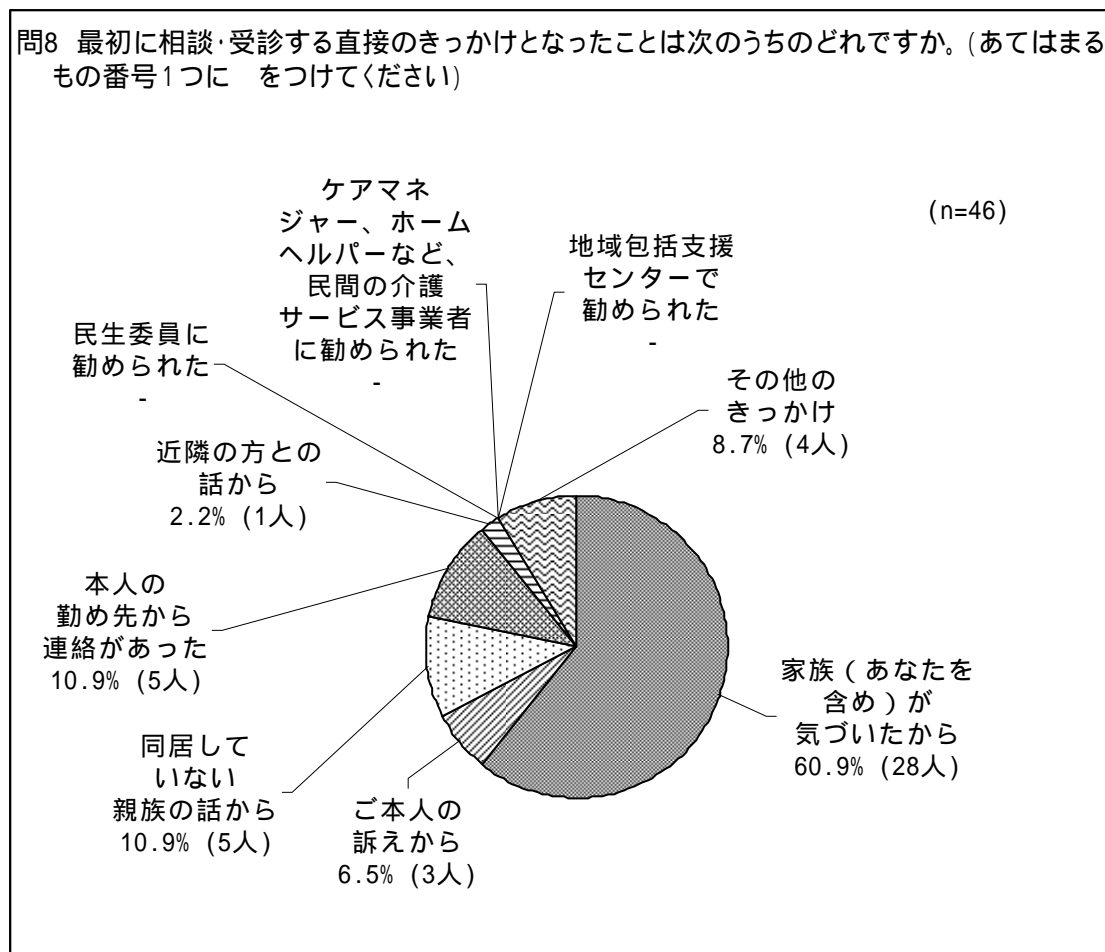
認知症の診断や治療のために医療機関へ通院する頻度を尋ねたところ、「定期的に通院している」が89.1%（41人）で大半を占めました。

定期的に通院している人(41人)を頻度別にみると、「1ヶ月に1回」が41.5%（17人）、「2ヶ月に1回」が31.7%（13人）で、多く見られました。



### (8) 最初に相談・受診する直接のきっかけとなったこと

本人の様子の変化や症状について最初に相談・受診する直接のきっかけになったこととして、「家族（回答者を含め）が気づいたから」が最も多く、60.9%（28人）に達しました。次いで、「同居していない親族の話から」、「本人の勤め先から連絡があった」がそれぞれ10.9%（5人）でした。「ご本人の訴えから」は、6.5%（3人）にとどまりました。



#### 参考

原因疾患別の「最初に相談・受診する直接のきっかけとなったもの」については、  
 ・原因疾患×最初に相談・受診する直接のきっかけとなったもの（50ページ）参照

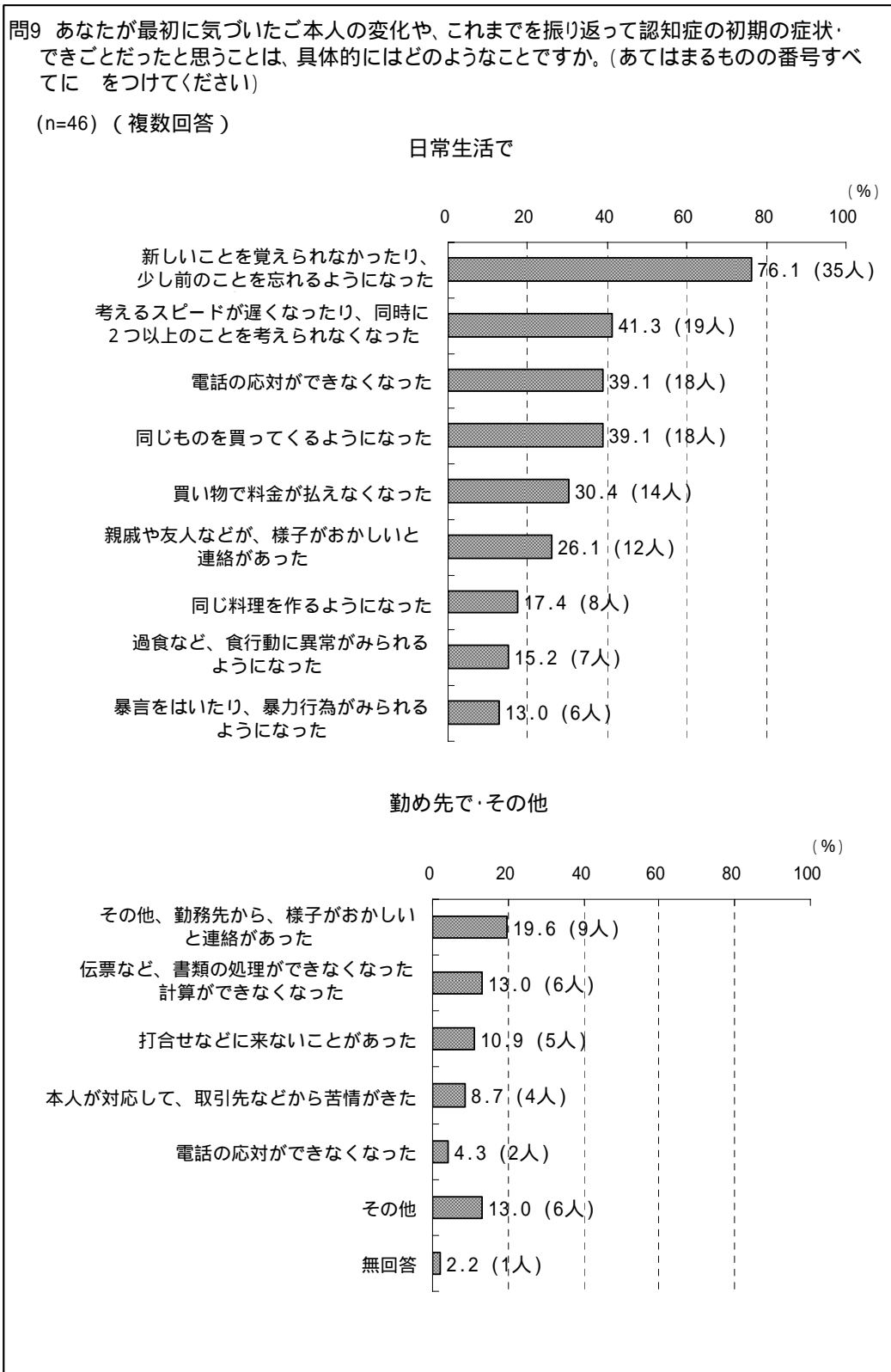
### (9) 最初に気づいた本人の変化や、これまでを振り返って認知症の初期の症状・できごとだったと思うこと

最初に気づいた本人の変化や、これまでを振り返って認知症の初期の症状・できごとだったと思うことは何かを尋ねたところ、日常生活では、「新しいことを覚えられなかったり、少し前のことを忘れるようになった」が76.1%（35人）で最も高く、次いで、「考えるスピードが遅くなったり、同時に2つ以上のことを考えられなくなった」が41.3%（19人）でした。「親戚や友人などが、様子がおかしいと連絡があった」が26.1%（12人）で、その具体的な内容として「お金や薬の管理ができない」、「日時がわからない」、「道に迷う」などが挙げられました。

勤め先では、「その他、勤務先から、様子がおかしいと連絡があった」が19.6%（9人）見られ、

その具体的な内容として、「会議で書記が務まらない」、「取引先から苦情があった」、「解雇された」などが挙げられました。

「その他」では、「考える時にパニックになる」、「会話がきちんとできない」、「炊飯器のスイッチ、電気の消し忘れ」などが挙げられました。

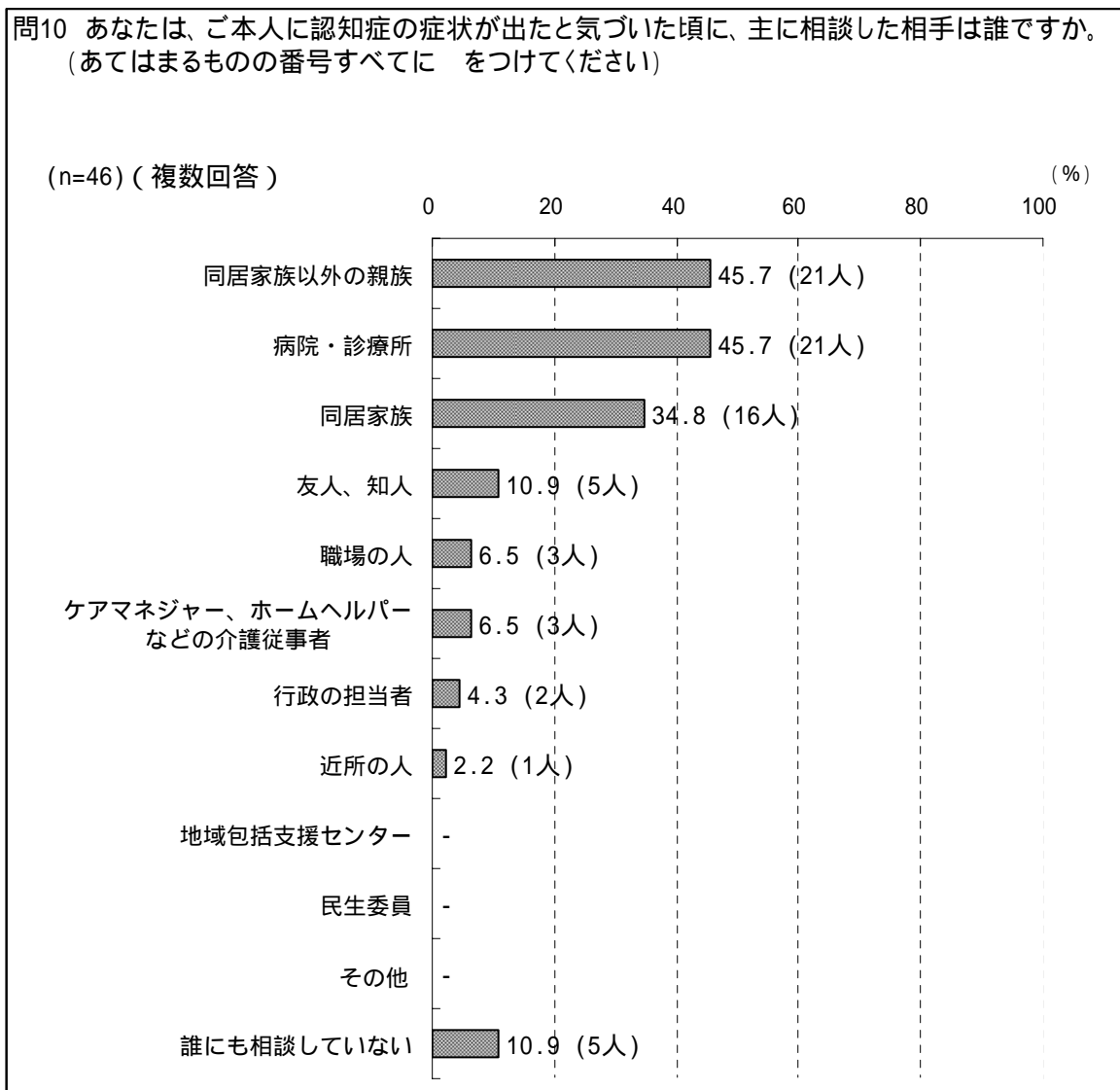


参考

原因疾患別の「最初に気づいた本人の変化、認知症の初期の症状・できごと」については、  
・原因疾患×最初に気づいた本人の変化、認知症の初期の症状・できごと（49ページ）参照

**(10) 本人に認知症の症状が出たと気づいた頃に、主に相談した相手**

本人に認知症の症状が出たと気づいた頃に主に相談した相手は、「同居家族以外の親族」、「病院・診療所」が、それぞれ45.7%（21人）と同じ割合で多く見られました。次いで、「同居家族」が34.8%（16人）でした。

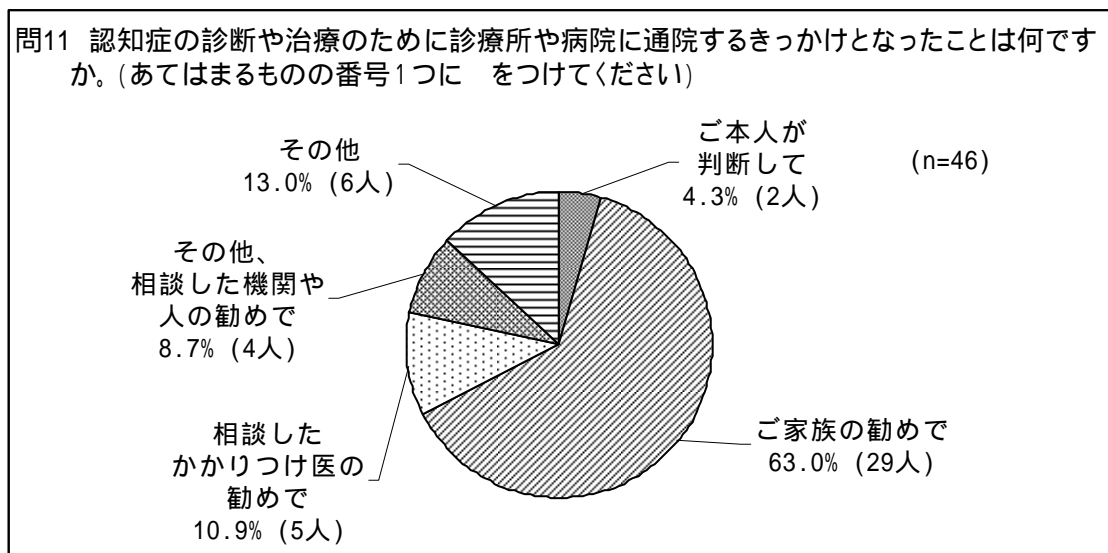


参考

家族が毎日の介護のことで、よく相談している人については、30ページ参照  
家族が、本人が認知症であることを打ち明けている人については、20ページ参照

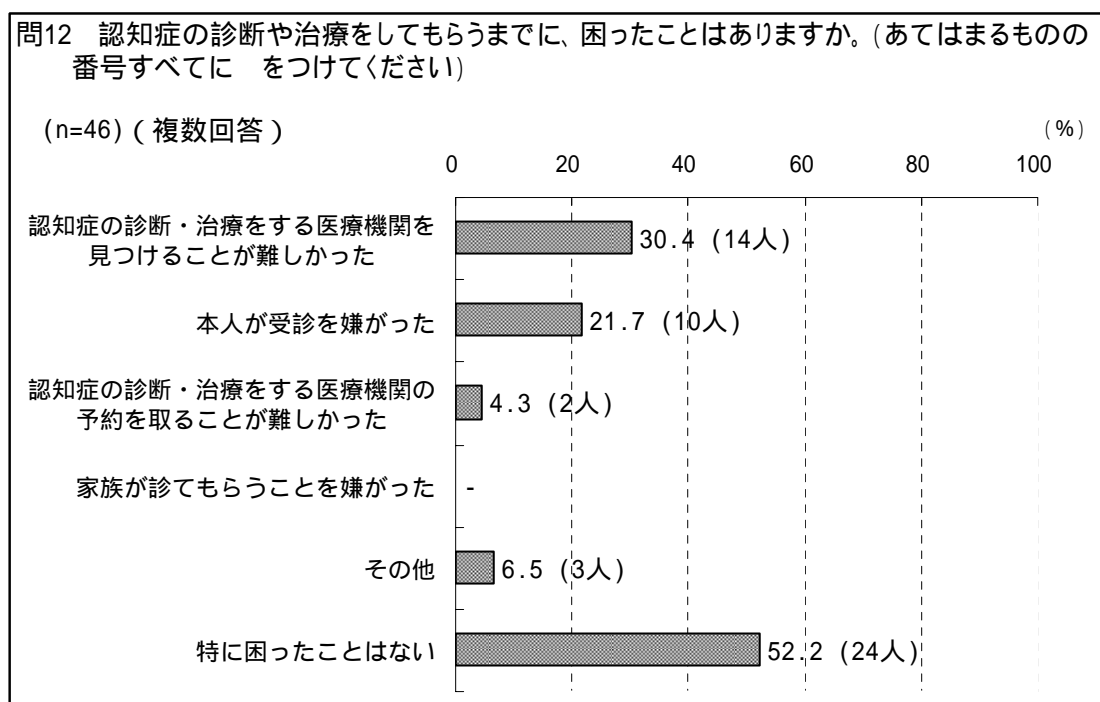
### (11) 認知症の診断や治療のために診療所や病院に通院するきっかけとなったこと

認知症の診断や治療のために医療機関に通院するきっかけとなったことは、「ご家族の勧めで」が63.0%（29人）最も多く、「相談したかかりつけ医の勧めで」が10.9%（5人）、「その他、相談した機関や人の勧めで」が8.7%（4人）でした。また、「その他」では、「会社・職場の勧めや産業医への相談」が多く、「テレビで専門医の話を聞いて」などの回答もありました。



### (12) 認知症の診断や治療をしてもらうまでに、困ったこと

認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったことについて尋ねたところ、「特に困ったことはない」が52.2%（24人）、「認知症の診断・治療をする医療機関を見つけることが難しかった」が30.4%（14人）、「本人が受診を嫌がった」が21.7%（10人）でした。





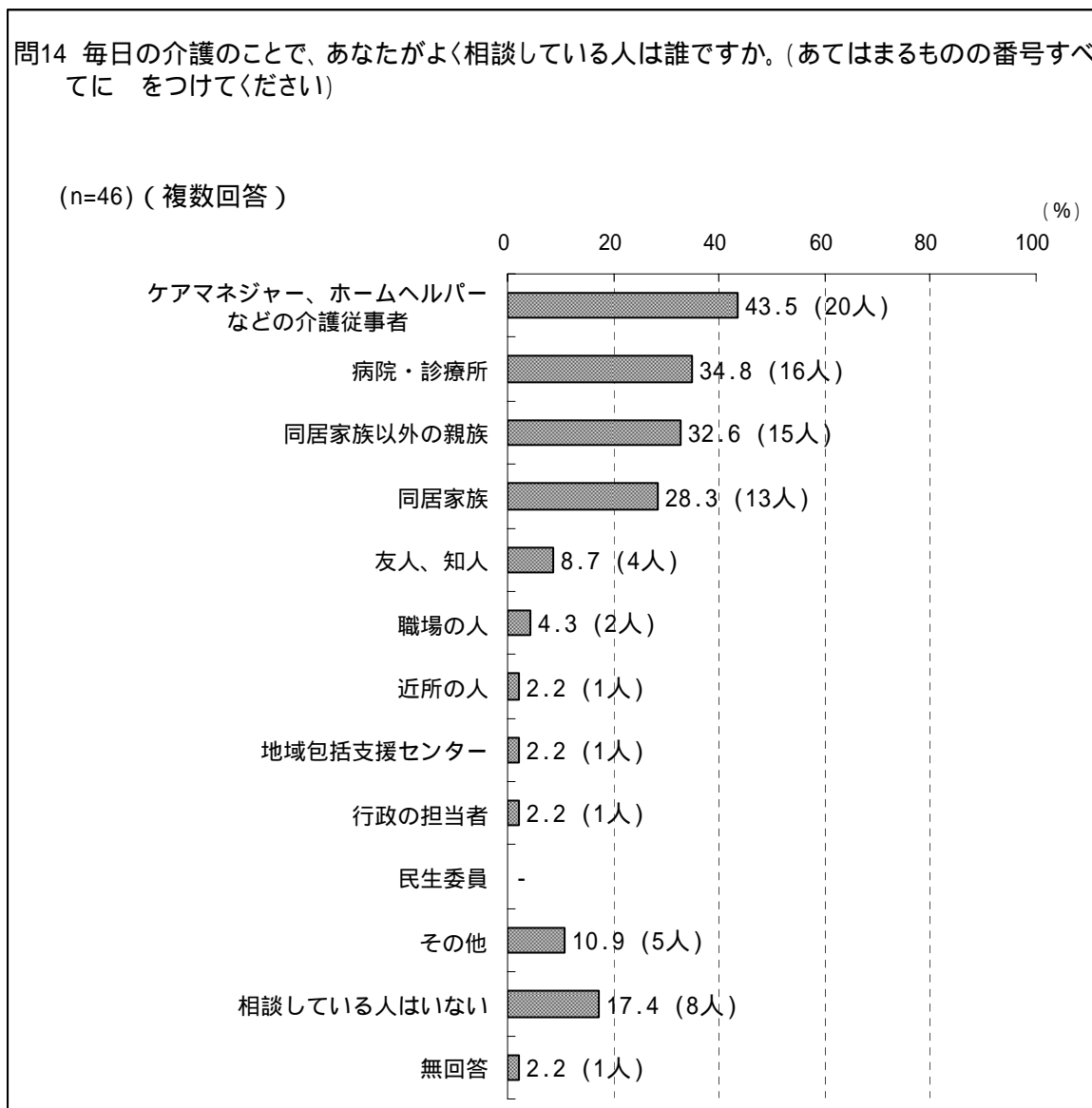
参考

受診までの期間別の「認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったこと」については、  
・受診までの期間×認知症の診断や治療をもらうまでに困ったこと（52ページ）参照

介護する上での不安や課題

(13) 毎日の介護のことで、よく相談している人

家族に対し、毎日の介護のことでよく相談している人について尋ねたところ、「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」が43.5%（20人）と高く、「病院・診療所」が34.8%（16人）、「同居家族以外の親族」が32.6%（15人）、「同居家族」が28.3%（13人）でした。「相談している人はいない」は17.4%（8人）でした。



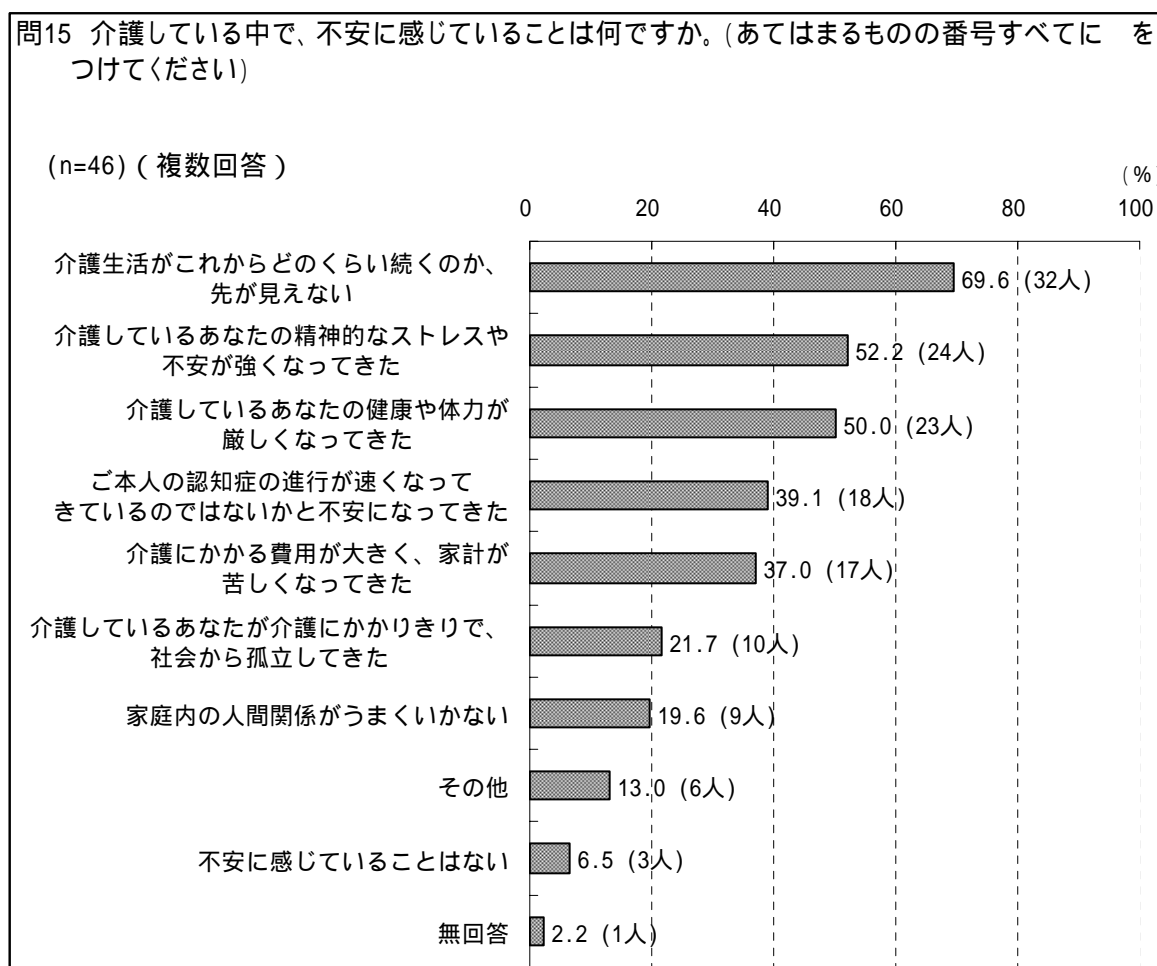
参考

家族が本人に認知症の症状が出たと気づいた頃に、主に相談した相手については、28ページ参照

本人が生活する上で不安に感じたときによく相談する相手については、39ページ参照

#### (14) 介護している中で、不安に感じていること

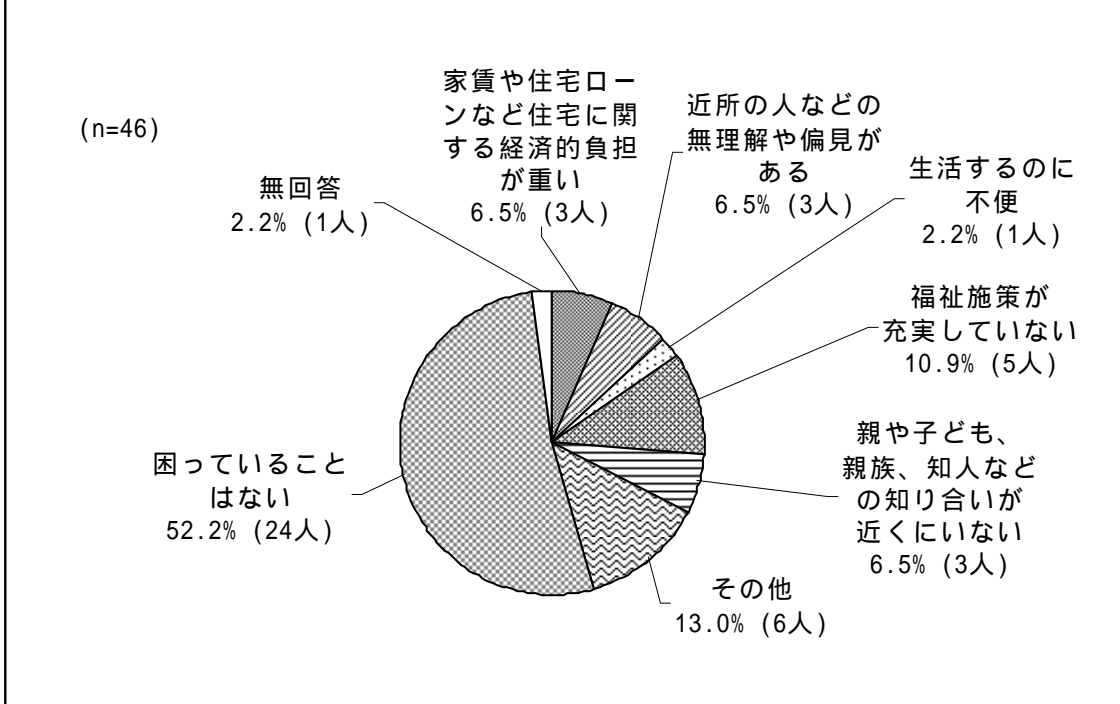
介護している中で、家族が不安に感じていることは、「介護生活がこれからどのくらい続くのか、先が見えない」が最も多く、69.6%（32人）でした。次いで、「介護しているあなたの精神的なストレスや不安が強くなってきた」が52.2%（24人）、「介護しているあなたの健康や体力が厳しくなってきた」が50.0%（23人）という結果になりました。「その他」では、「自分がいない時のことを考える時」、「自分の結婚などへの不安」などが挙げられました。



#### (15) 本人が今の地域で住み続けていく上で、困っていること

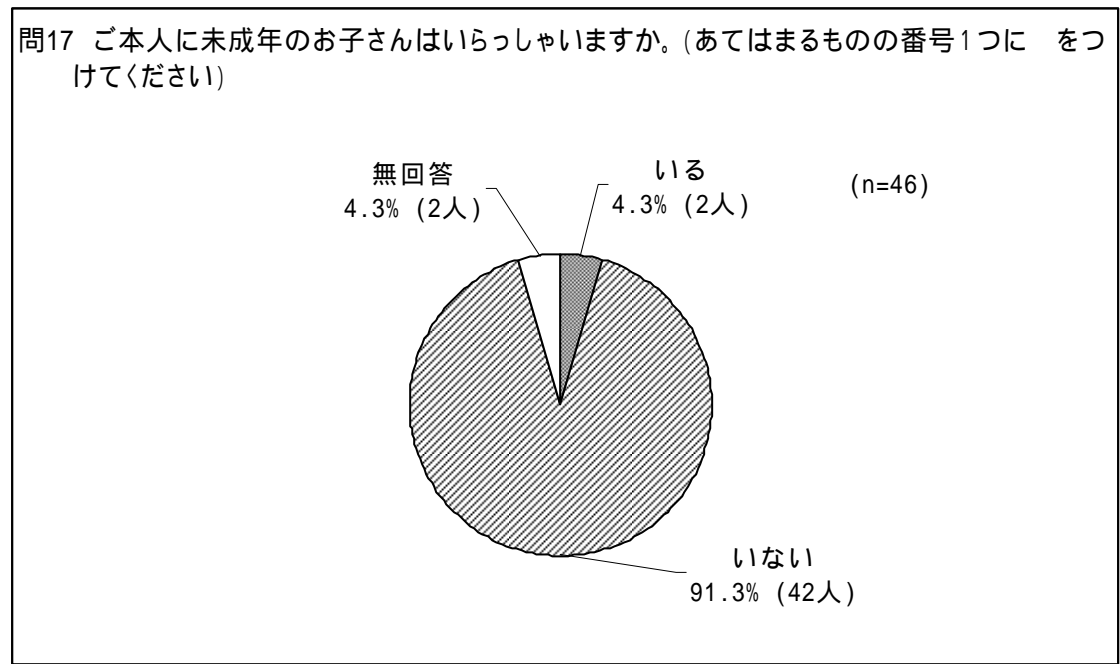
本人が現在の地域に住み続ける上で困っていることを見ると、52.2%（24人）が「困っていることはない」と回答しました。困っていることがある場合の理由は、「福祉施設が充実していない」が10.9%（5人）で比較的多く、「家賃や住宅ローンなど住宅に関する経済的負担が重い」、「近所の人などの無理解や偏見がある」、「親や子ども、親族、知人などの知り合いが近くにいない」がそれぞれ6.5%（3人）でした。また、「その他」では、「(エレベーターがないなど)住居について」、「施設について」、「認知症に対応できる歯医者等がない」、「外出時の事故が心配」などが挙げられました。

問16 ご本人が今の地域で住み続けていく上で、困っていることはありますか。(困っていることの主な理由の番号1つに をつけてください)



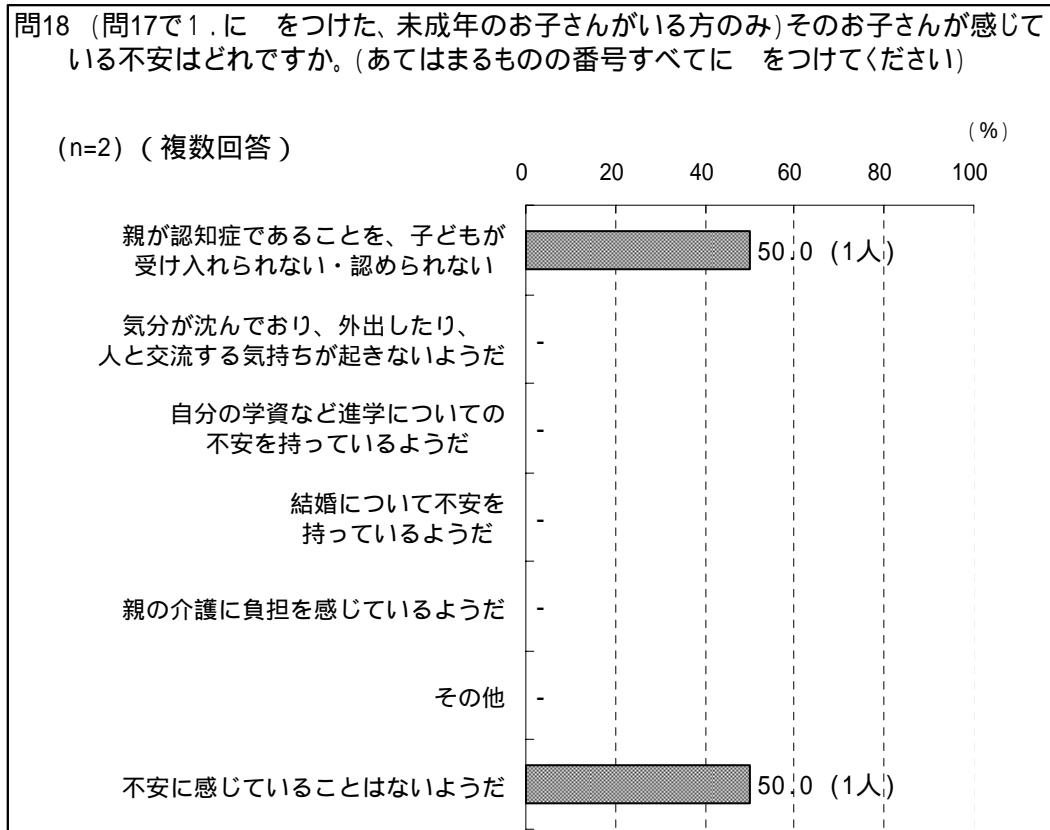
**(16) 本人の未成年の子どもの有無**

本人の未成年の子どもの有無を尋ねたところ、「いない」が 91.3% (42 人)、「いる」が 4.3% (2 人) でした。



### (17) その子どもが感じている不安

本人に未成年の子どもがいる場合、子ども本人が不安に感じていることについて尋ねたところ、「親が認知症であることを、子どもが受け入れられない・認められない」、「不安に感じていることはないようだ」がそれぞれ50.0%（1人）でした。



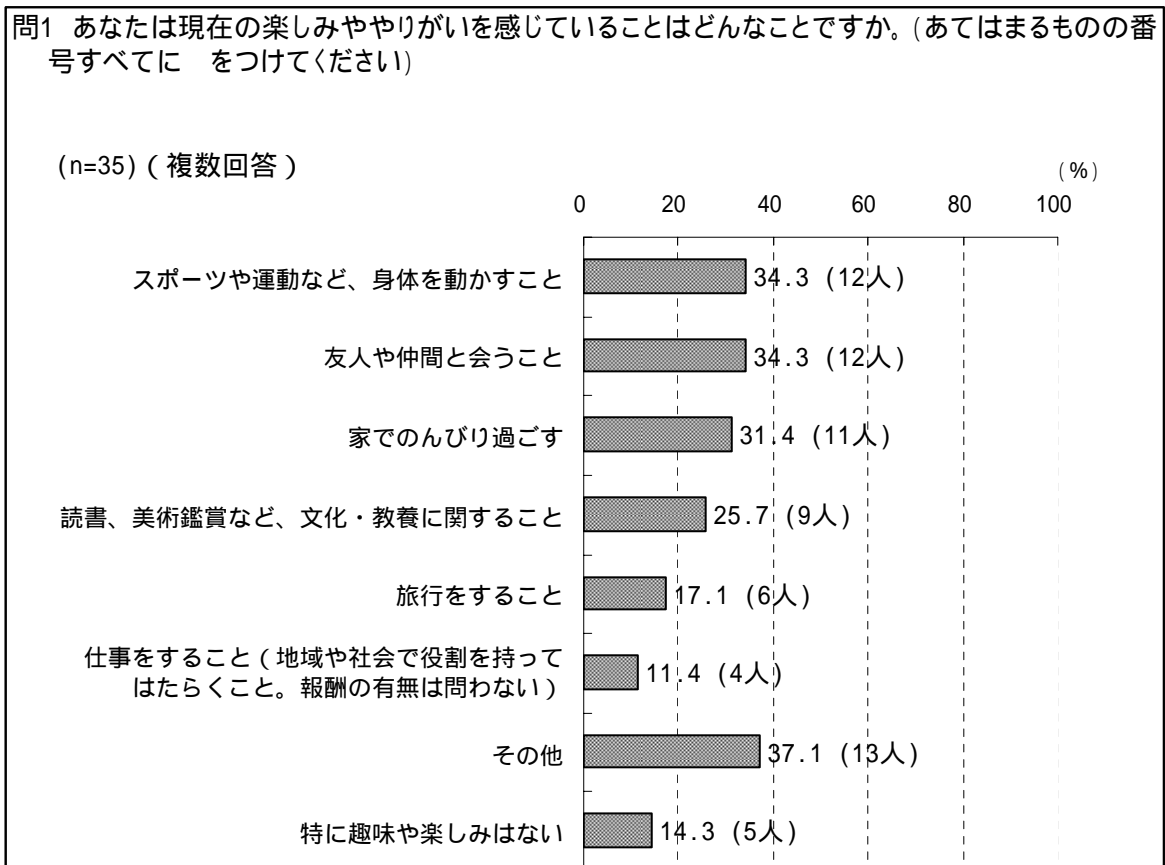
### 3 本人票

本人票は、本人回答が 27 標本、家族代弁（家族が本人の発言などを理解し、代わりに答えること）が 8 標本、合計 35 標本となっています。本人回答と家族代弁を分けて集計した結果は、資料編 107 ページ以降に記載しています。

#### 楽しみや今後やりたいこと

##### (1) 現在の楽しみややりがいを感じていること

本人に対し、現在の楽しみややりがいを感じていることについて尋ねたところ、「スポーツや運動など、身体を動かすこと」、「友人や仲間と会うこと」がそれぞれ 34.3%（12 人）と多く、「家でのんびり過ごす」が 31.4%（11 人）、「読書、美術鑑賞など、文化・教養に関すること」が 25.7%（9 人）でした。「その他」では、「散歩」が多く挙げられ、他に「孫や親戚とのふれあい」、「デイサービスに行くこと」などの回答がありました。

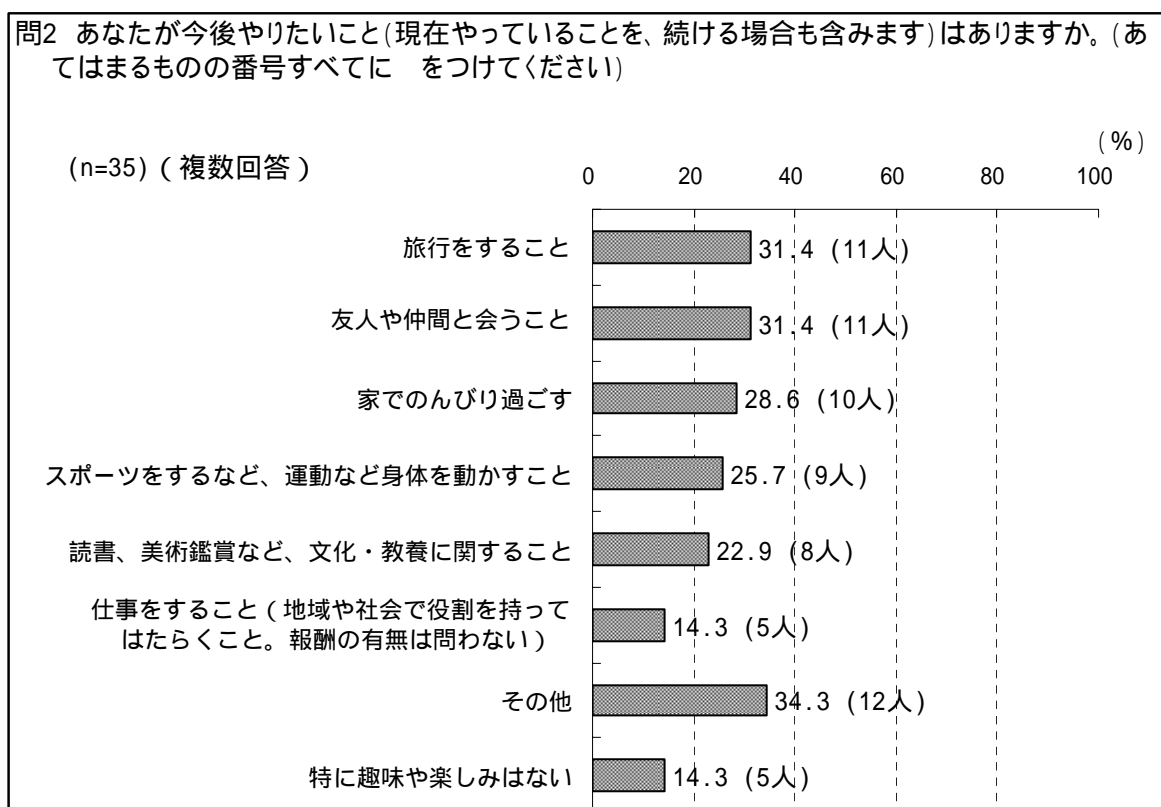


#### 参考

性別の「現在の楽しみややりがい」については、  
・性別×現在の楽しみややりがい（55 ページ）参照

## (2) 今後やりたいこと(現在やっていることを続ける場合も含む)

本人に対し、現在やっていることの継続を含め、今後やりたいことは何かを尋ねたところ、「友人や仲間と会うこと」、「旅行をすること」がそれぞれ31.4%（11人）と多く見られました。次いで、「家でのんびり過ごす」が28.6%（10人）、「スポーツをするなど、運動など身体を動かすこと」が25.7%（9人）でした。「その他」では、「散歩」が多く挙げられ、他に「孫や親戚とのふれあい」、「趣味を楽しむ（木彫りやお茶など）」などの回答がありました。



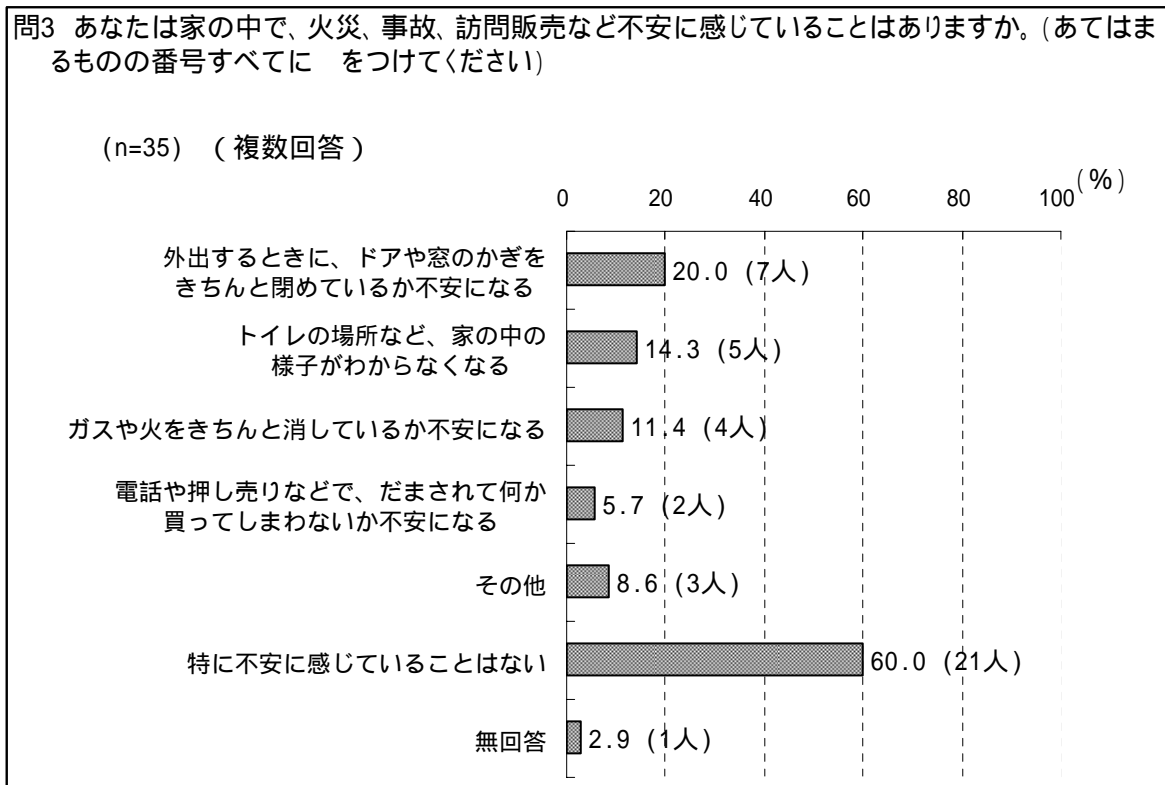
### 参考

性別の「今後やりたいこと」については、  
・性別×今後やりたいこと(56ページ)参照

**本人が不安に感じていること**

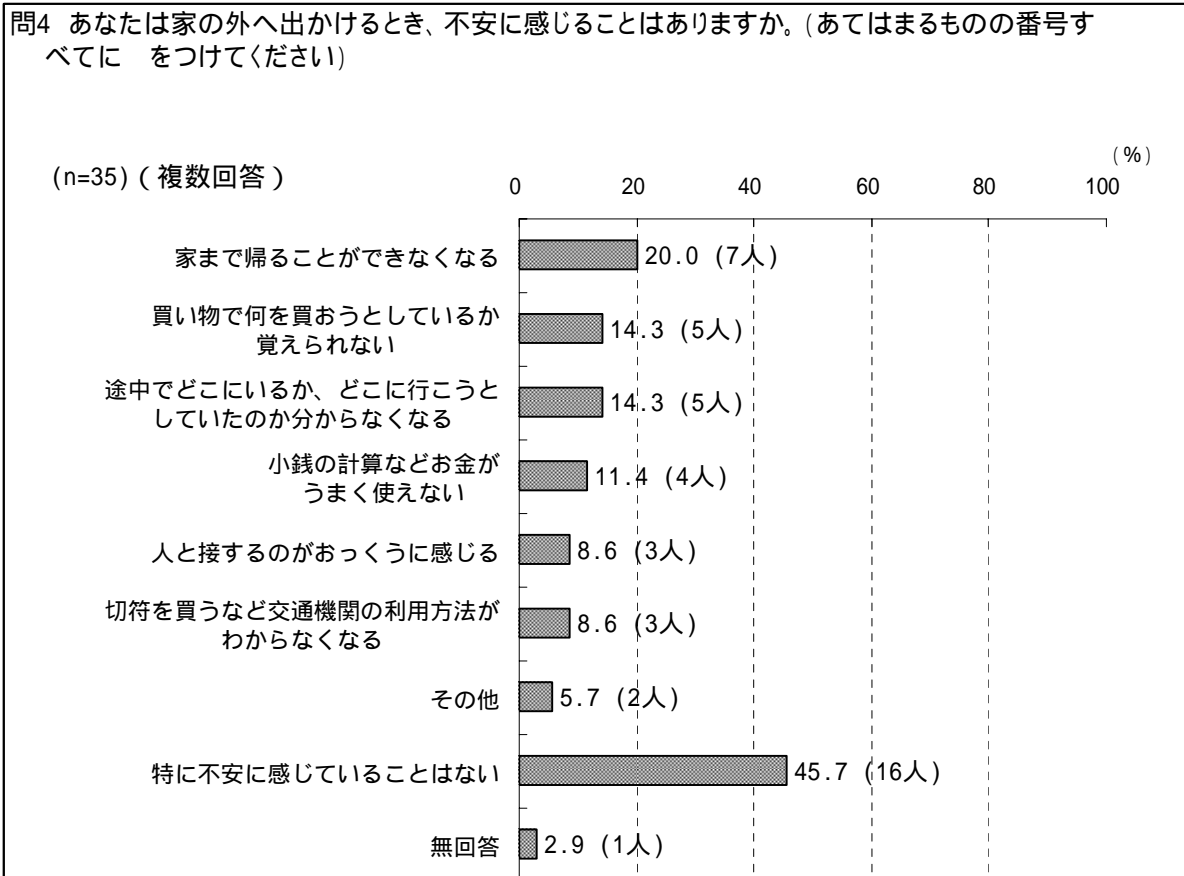
**(3) 家の中で、火災、事故、訪問販売など不安に感じていること**

火災、事故、訪問販売など、家の中で不安に感じていることについては、60.0% (21人)が「特に不安に感じていることはない」と回答しました。「外出するときに、ドアや窓のかぎをきちんと閉めているか不安になる」は20.0% (7人)、「トイレの場所など、家の中の様子がわからなくなる」は14.3% (5人)でした。



#### (4) 家の外へ出かけるとき、不安に感じること

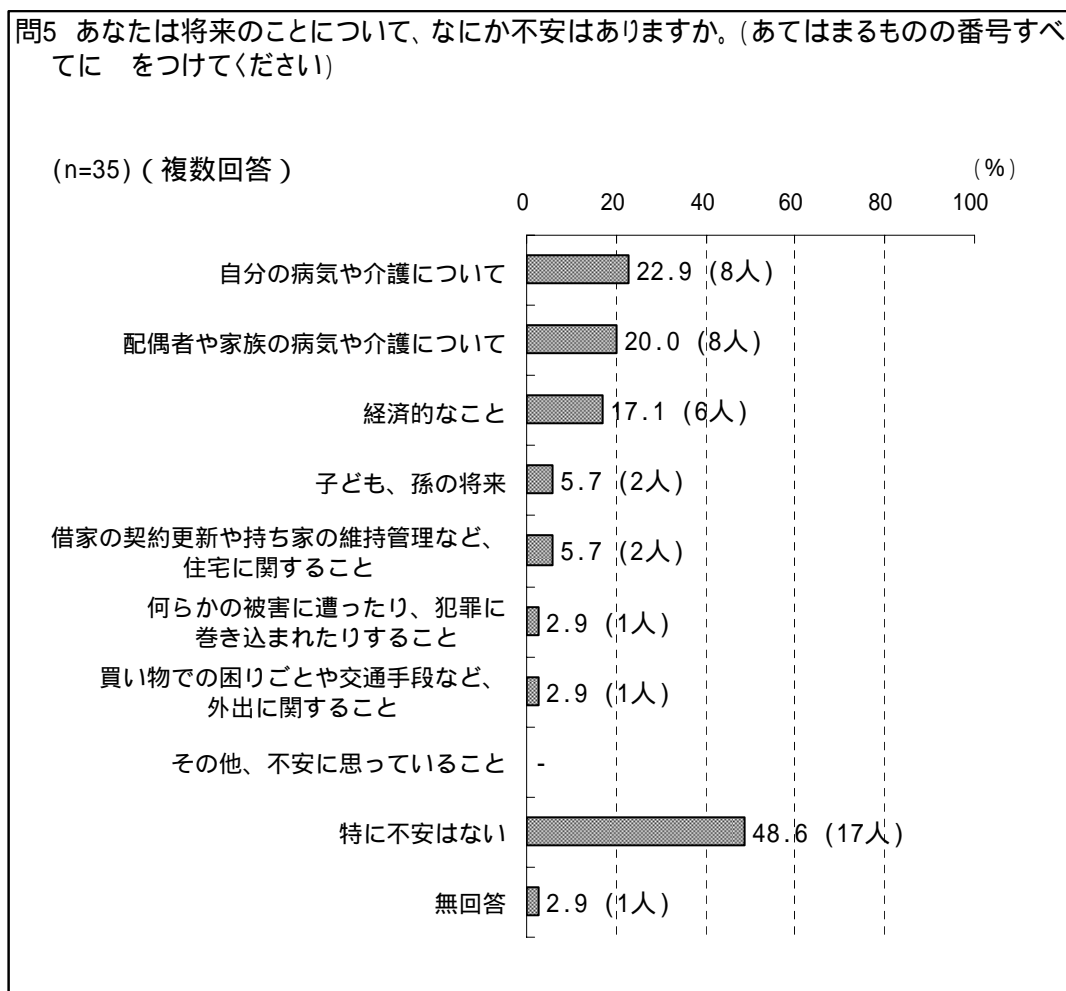
屋外へ出かける時に不安に感じることにについて、45.7% (16人) が「特に不安に感じていることはない」と回答しました。「家まで帰ることができなくなる」は20.0% (7人)、「買い物で何を買おうとしているか覚えられない」、「途中でどこにいるか、どこに行こうとしていたのかわからなくなる」はそれぞれ14.3% (5人) でした。





### (5) 将来のことについての不安

将来のことについての不安をみると、「特に不安はない」が48.6%（17人）でした。不安が「ある」とする内容の回答では、「自分の病気や介護について」が22.9%（8人）、「配偶者や家族の病気や介護について」が20.0%（7人）、「経済的なこと」が17.1%（6人）でした。

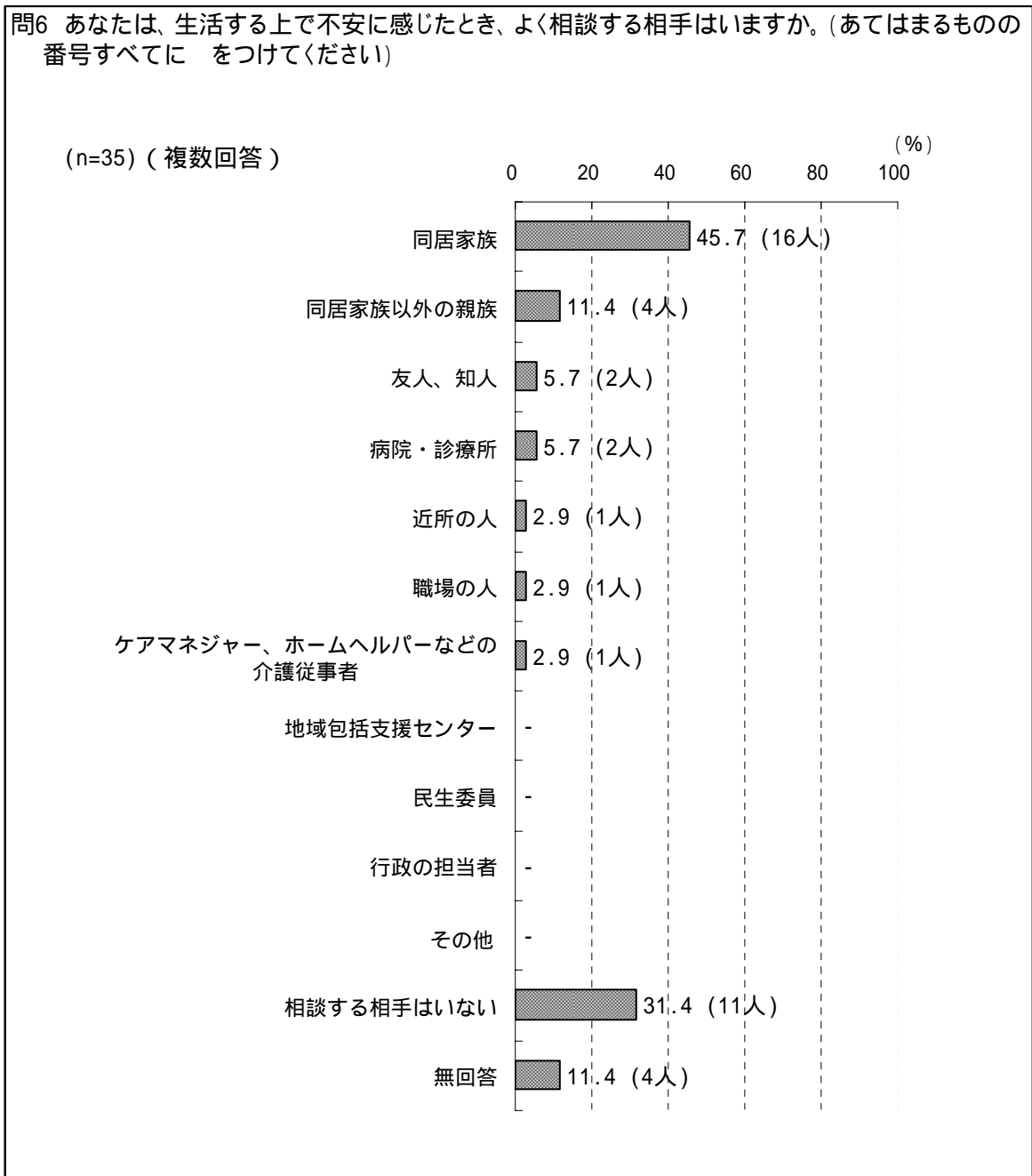


#### 参考

性別の「将来についての不安」については、  
・性別×将来についての不安（57ページ）参照

### (6) 生活する上で不安を感じたときによく相談する相手

本人が不安を感じた時によく相談する相手として、「同居家族」が45.7%（16人）と高い割合で挙げられたのに対し、31.4%（11人）が「相談する相手はいない」と回答しました。



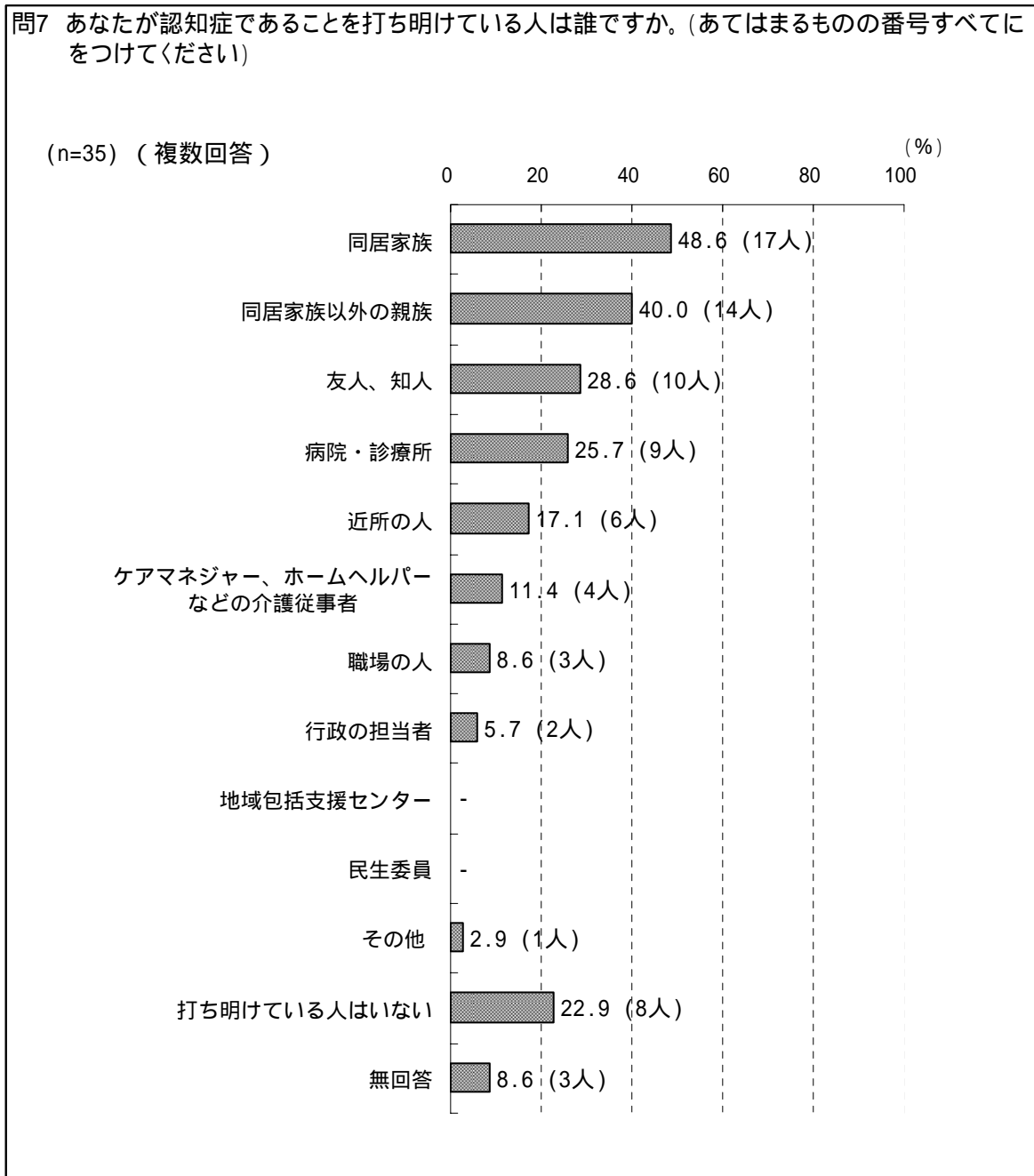
#### 参考

家族が毎日の介護のことで、よく相談している人については、30ページ参照

## 家族や近所の人との関わり

### (7) 認知症であることを打ち明けている人

本人に対して、認知症であることを誰に打ち明けているか尋ねたところ、「同居家族」が48.6%（17人）、「同居家族以外の親族」が40.0%（14人）と多く見られました。「打ち明けている人はいない」が22.9%（8人）でした。

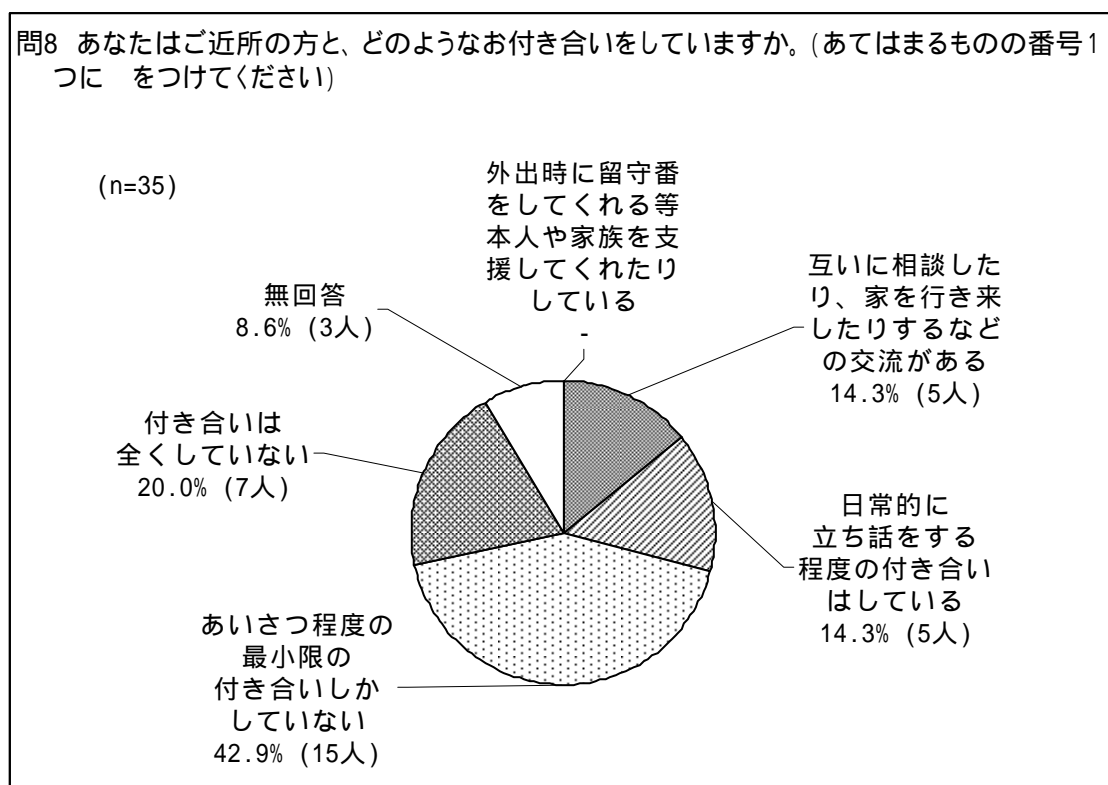


#### 参考

家族が、本人が認知症であることを打ち明けている人については、20ページ参照

## (8) 近所の人との付き合いの程度

本人に対し、近所の人との付き合いについて尋ねたところ、「あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない」が42.9%（15人）、「付き合いは全くしていない」が20.0%（7人）、「日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている」、「互いに相談したり、家を行き来したりするなどの交流がある」がそれぞれ14.3%（5人）でした。



### 参考

性別の「近所の人との付き合いの程度」については、

・性別×近所の人との付き合いの程度（60ページ）参照

家族が回答した、本人の近所の人との付き合いの程度については、21ページ参照

## 利用している公的サービスや支援制度の評価

### (9) 現在利用している公的なサービスや支援制度について

本人に対し、「 . 家族または本人票」問12（問10）で、「利用している」と回答したサービスについて、その評価を尋ねました。

まず、「 . 本人票」問9（1）～（20）を、介護保険制度によるサービス・支援（（1）～（7））、障害者自立支援法によるサービス・支援（（8）～（15））、その他サービス・支援（（16）～（20））に分けて集計結果を出し、その後に内訳を記しました。

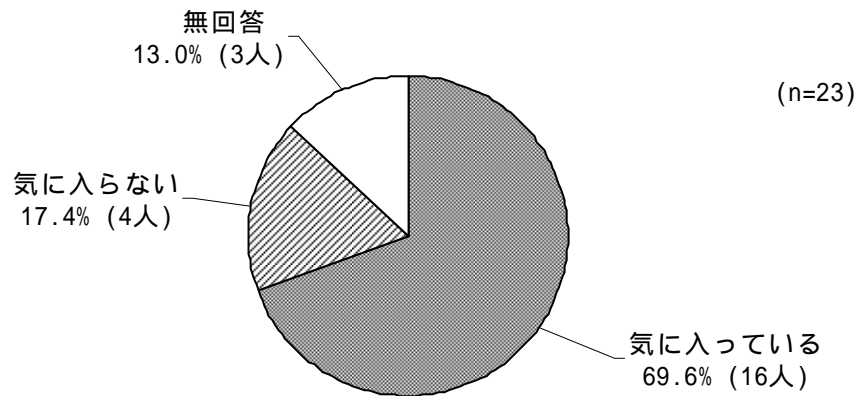
#### 介護保険制度によるサービス・支援（（1）～（7））

介護保険制度によるサービス・支援（（1）～（7））では、「気に入っている」が69.6%（16人）、「気に入らない」が17.4%（4人）、無回答が13.0%（3人）でした。

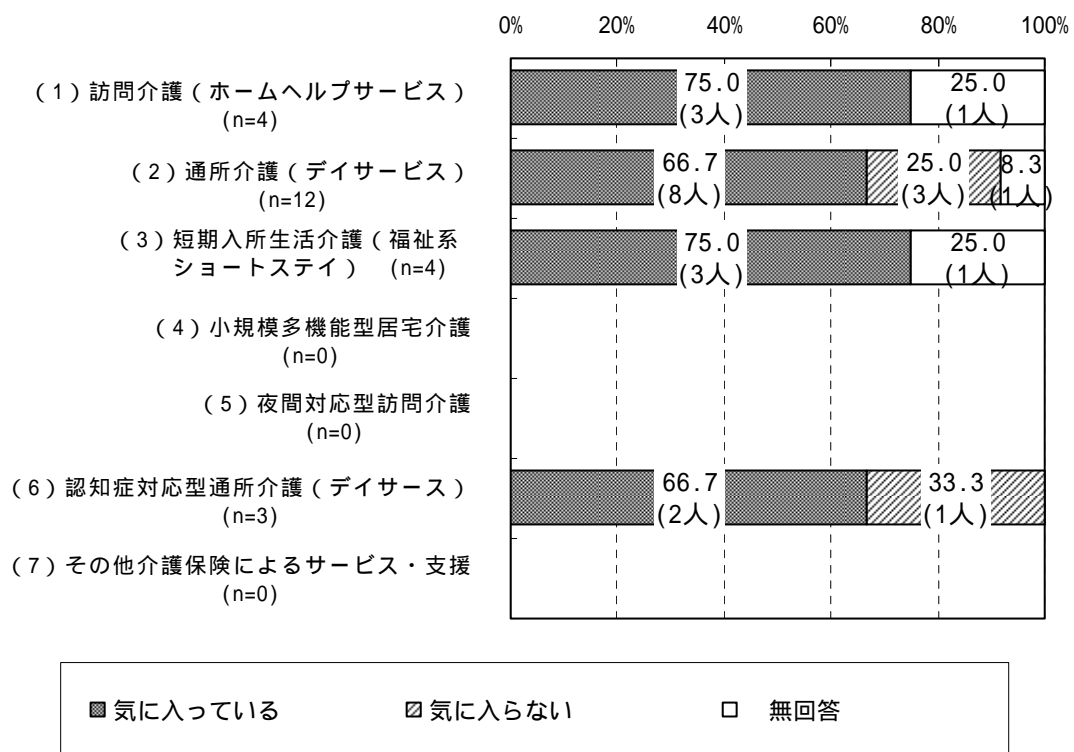
サービスごとの評価については、【図1】のとおりとなっています。

問9 (「 - 1」の問12、「 - 2」の問10で、利用していると回答したサービスのみ)あなたは、現在利用している公的なサービスや支援制度を気に入っていますか。それぞれ、「1.気に入っている」「2.気に入らない」のどちらかの番号に をつけてください。

介護保険制度によるサービス・支援 ((1) ~ (7))



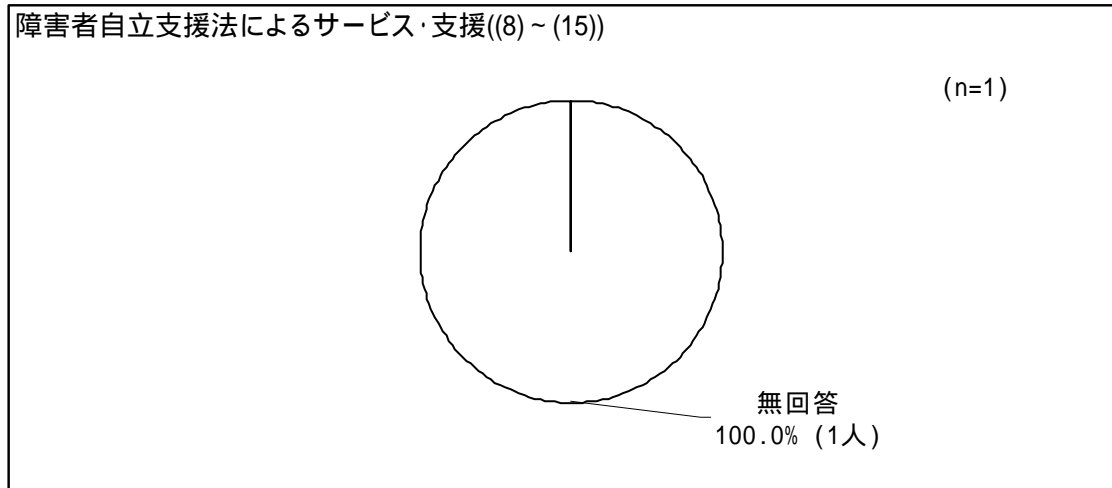
【図1】介護保険制度によるサービス・支援((1)~(7))の内訳



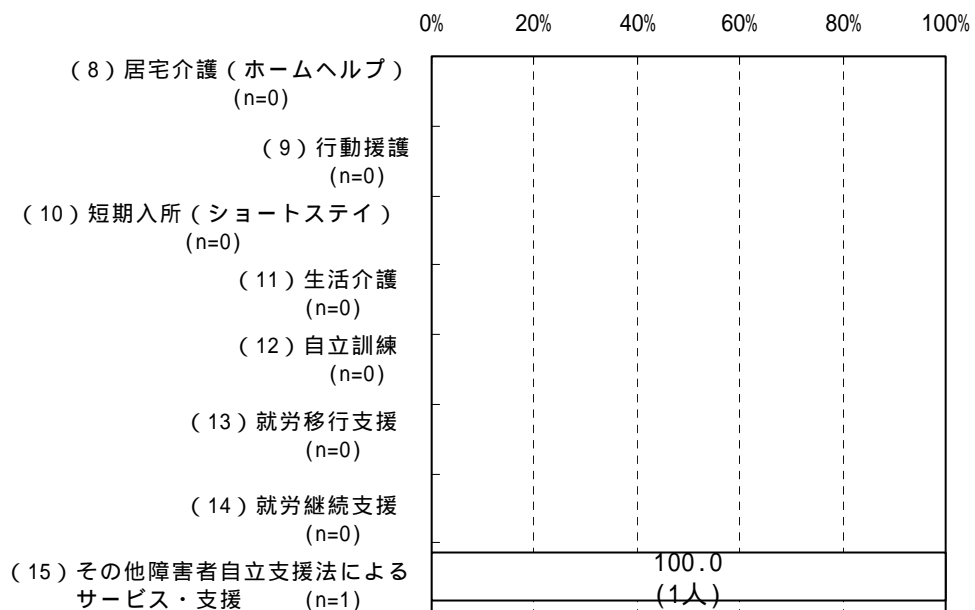
障害者自立支援法によるサービス・支援((8)～(15))

障害者自立支援法によるサービス・支援((8)～(15))では、無回答が100.0%(1人)でした。

サービスごとの評価については【図2】のとおりとなっています。



【図2】障害者自立支援法によるサービス・支援((8)～(15))の内訳

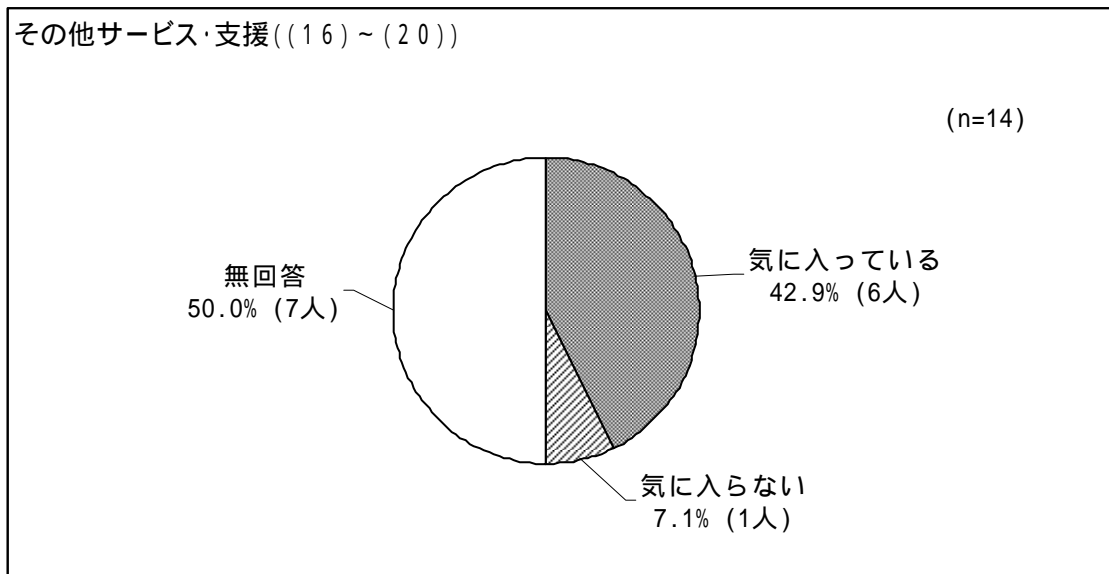


□ 無回答

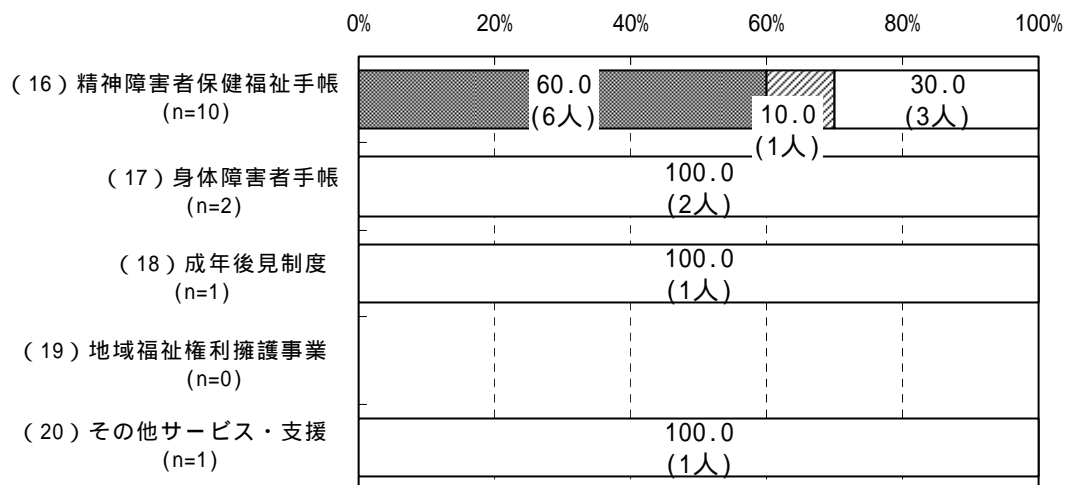
その他サービス・支援 ((16) ~ (20))

その他サービス・支援 ((16) ~ (20)) では、「気に入っている」が 42.9% (6人)、「気に入らない」が 7.1% (1人)、無回答が 50.0% (7人) でした。

サービスごとの評価については【図3】のとおりとなっています。



【図3】その他サービス・支援 ((16) ~ (20)) の内訳



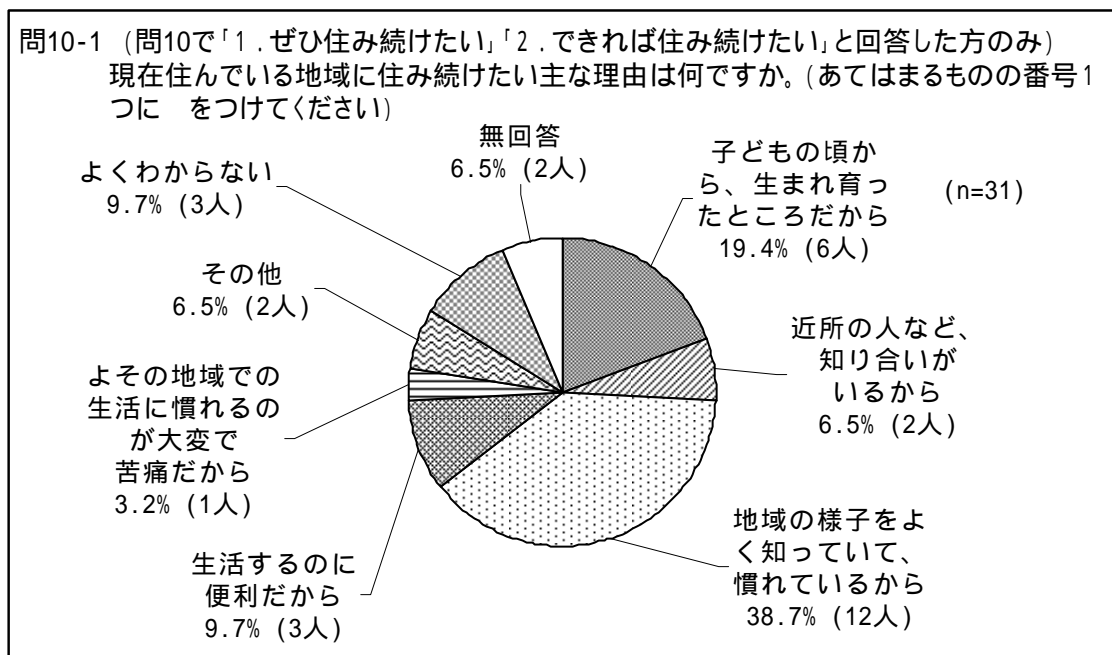
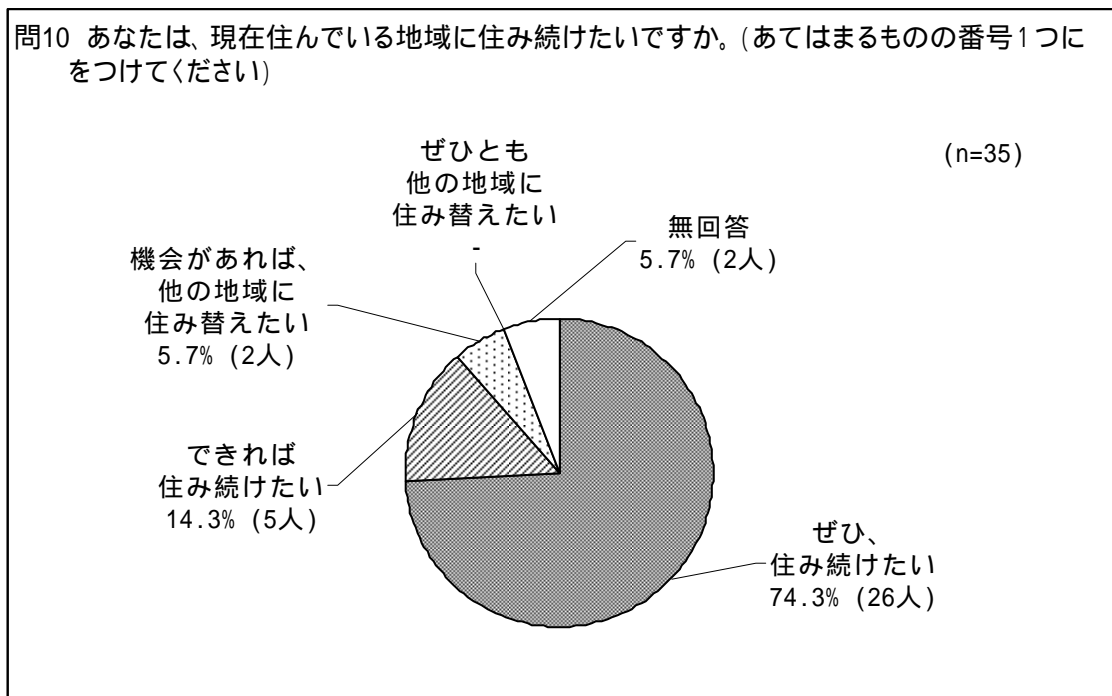
■気に入っている      ▨気に入らない      □ 無回答

現在住んでいる地域について(住み続ける意向の有無、理由)

(10) 現在の居住地への継続意向

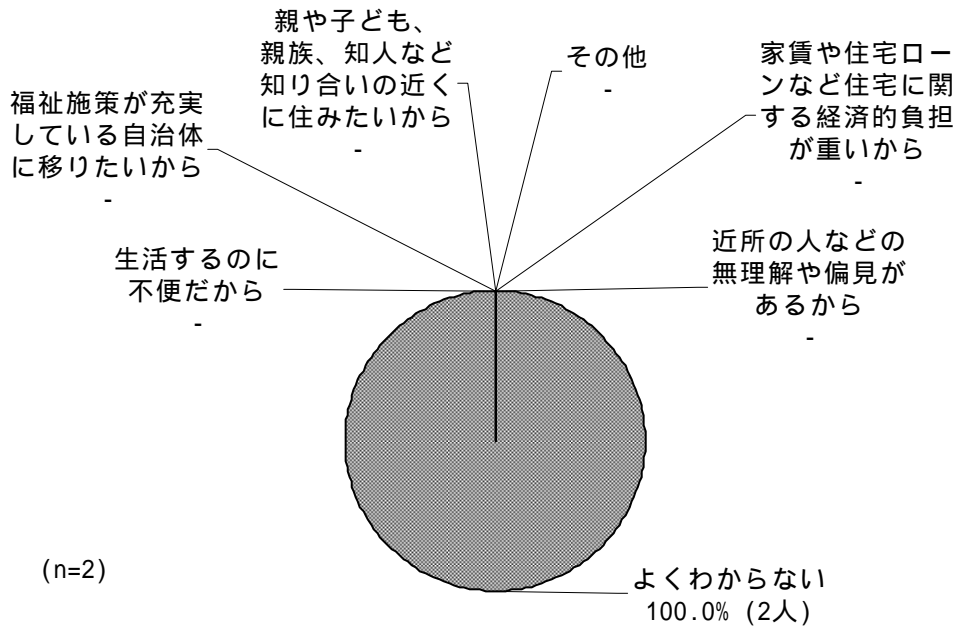
本人に対し、現在の居住地へ住み続けたいかの意向を尋ねたところ、「ぜひ、住み続けたい」が74.3%(26人)と最も多く、次いで「できれば住み続けたい」が14.3%(5人)、「機会があれば、他の地域に住み替えたい」が5.7%(2人)でした。

「ぜひ、住み続けたい」、「できれば住み続けたい」理由として、「地域の様子をよく知っていて、慣れているから」が38.7%(12人)、「子どもの頃から、生まれ育ったところだから」が19.4%(6人)と多く挙げられました。一方、「機会があれば、他の地域に住み替えたい」、「ぜひとも他の地域に住み替えたい」理由は、「よくわからない」が100.0%(2人)でした。





問10-2 (問10で「3.機会があれば、他の地域に住み替えたい」「4.ぜひとも他の地域に住み替えたい」と回答した方のみ)他の地域に住み替えたい主な理由は何ですか。(あてはまるものの番号1つにをつけてください)



#### 4 調査員票

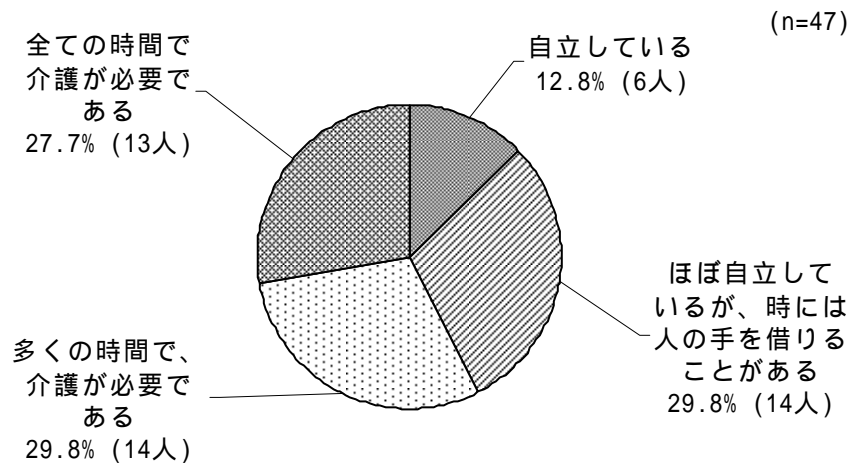
調査員票は、47票となっています。

#### 認知症の程度

##### (1) 本人の認知症の程度で最も近いもの

面接調査を実施した調査員に対し、本人の認知症の程度についての所見を尋ねたところ、「ほぼ自立しているが、時には人の手を借りることがある」、「多くの時間で、介護が必要である」がそれぞれ29.8%（14人）、「全ての時間で介護が必要である」が27.7%（13人）、「自立している」が12.8%（6人）でした。

問1 ご本人の認知症の程度で最も近いものはどれですか。（調査終了後に調査員が判断して、あてはまるものの番号1つに をつけてください）



## クロス集計の結果

発症時・受診時の状況や現在の本人の心身の状態・生活状況等について、下表により、原因疾患別、年齢別等で集計しました。

表 クロス集計一覧表

時期	項目	グラフ 番号	クロス項目
1 発症時 及び受診 時			原因疾患 × . 問 9 (最初に気づいた本人の変化、認知症の初期の 症状・できごと)
			原因疾患 × . 問 8 (最初に相談・受診する直接のきっかけとなっ たもの)
			. 問 8 (通院開始時期) - . 問 7 (気づいた時期) × . 問 12 (認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったこと)
			. 問 3 (性別) × . 問 14 - 1 (認知症になる前の仕事の有無)
2 現在	(1)本人の心身 の状態		原因疾患 × . 問 6 (認知症の行動・心理症状の特徴的症状)
			. 問 3 (性別) × . 問 1 (現在の楽しみややりがい)
			. 問 3 (性別) × . 問 2 (今後やりたいこと)
			. 問 3 (性別) × . 問 5 (将来についての不安)
	(2)本人(世帯) の収入状況		. 問 3 (年齢) × . 問 13 (主な収入源)
			. 問 3 (年齢) × . 問 13 (主な収入源・4分類)
	(3)本人の近所 の人との付き 合いの程度		. 問 3 (性別) × . 問 8 (近所の人との付き合いの程度)
	(4)地域の社会 資源等との 関わり		平成 20 年 1 月 - . 問 7 (気づいた時期) × . 問 11 (地域で 知っているもの 地域包括支援センター)
			平成 20 年 1 月 - . 問 7 (気づいた時期) × . 問 11 (地域で 知っているもの 民生委員)
			平成 20 年 1 月 - . 問 7 (気づいた時期) × . 問 11 (地域で 知っているもの 家族会)
			. 問 3 (性別) × . 問 11 (地域で知っているもの 地域包 括支援センター)
			. 問 3 (性別) × . 問 11 (地域で知っているもの 民生委 員)
			. 問 3 (性別) × . 問 11 (地域で知っているもの 家族会)
	. 問 11 (地域で知っているもの 家族会) × . 問 2 (近所の 人との付き合いの程度)		

# 1 発症時及び受診時

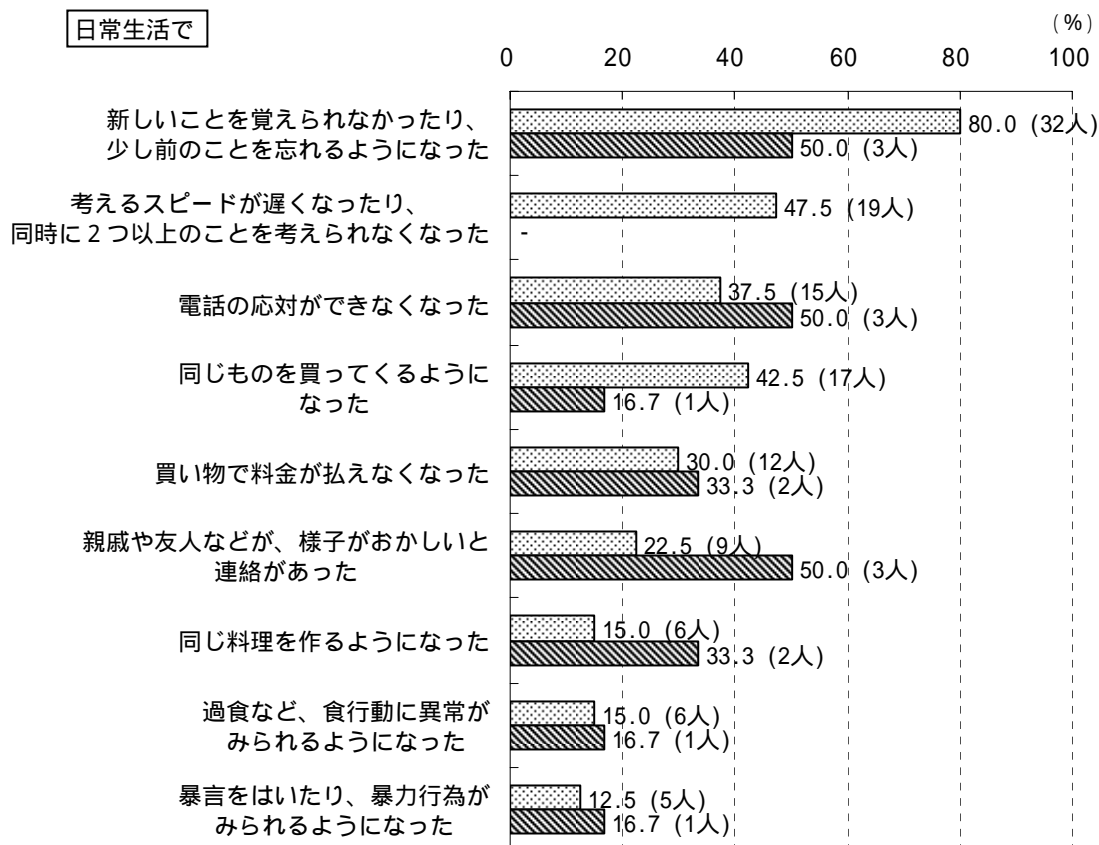
## (1) 最初に気づいた本人の変化、認知症の初期の症状・できごと(原因疾患別)

「最初に気づいた本人の変化、認知症の初期の症状・できごと」を原因疾患別にみると、アルツハイマー病では、「新しいことを覚えられなかったり、少し前のことを忘れるようになった」が80.8% (32人)と最も多く、次いで「考えるスピードが遅くなったり、同時に2つ以上のことを考えられなくなった」が47.5% (19人)、「同じものを買ってくるようになった」が42.5% (17人)と、記憶障害関連の症状が多くみられました。

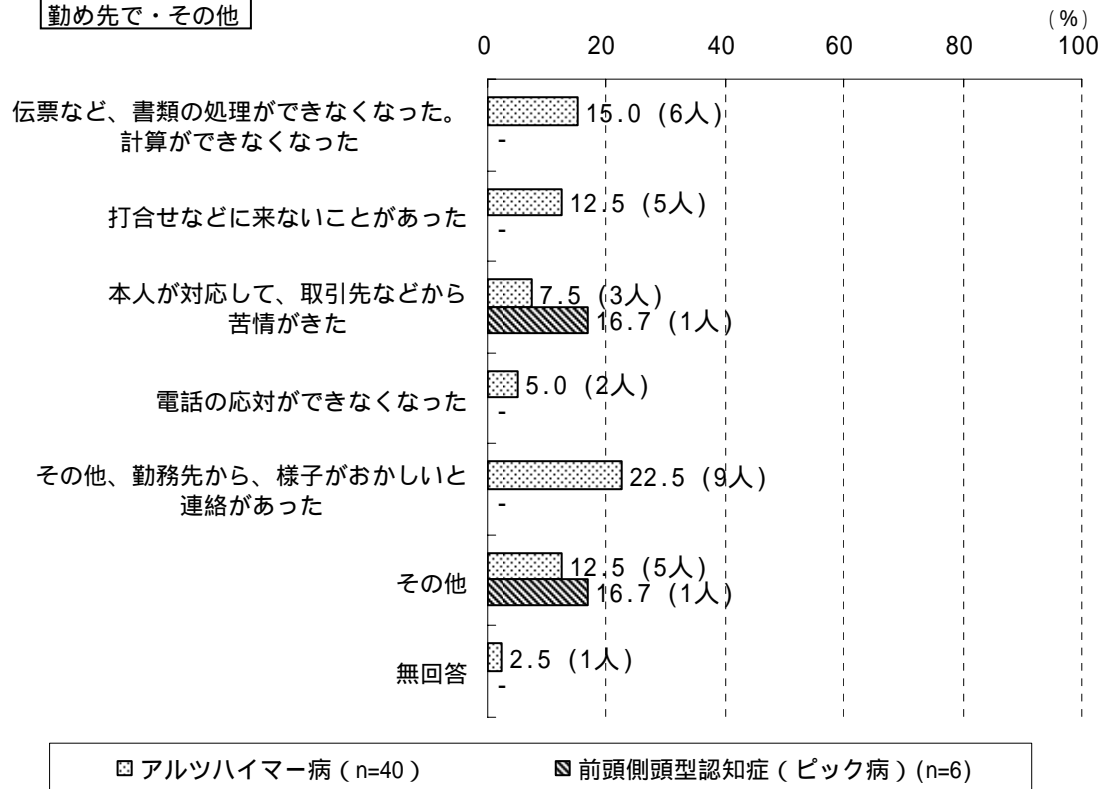
前頭側頭型認知症(ピック病)では、アルツハイマー病と同様の症状が見られるのに加えて、「親戚や友人などが、様子がおかしいと連絡があった」が50.0% (3人)、「同じ料理を作るようになった」が33.3% (2人)、「本人が対応して、取引先などから苦情がきた」が16.7% (1人)と、行動障害も目立っています。

### 【原因疾患× . 問9 (最初に気づいた本人の変化、認知症の初期の症状・できごと)】

(対象数 = 46 MA)



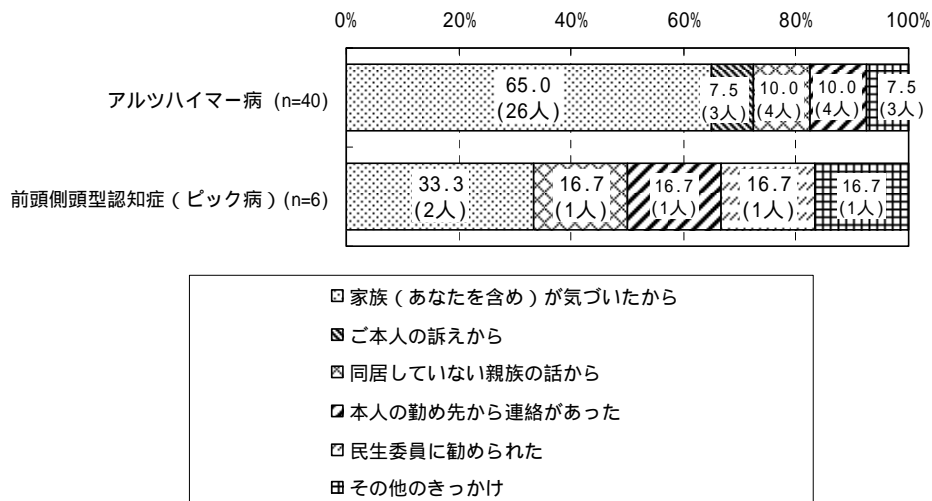
勤め先で・その他



(2) 最初に相談・受診する直接のきっかけとなったもの (原因疾患別)

「最初に相談・受診する直接のきっかけとなったもの」を原因疾患別にみると、アルツハイマー病では「家族(あなたを含め)が気づいたから」が 65.0% (26 人) と多く、前頭側頭型認知症では「家族(あなたを含め)が気づいたから」は 33.3% (2 人) であり、家族以外の人からの話や連絡によるものも見られます。

【 原因疾患 × 問 8 (最初に相談・受診する直接のきっかけとなったもの) (対象数 = 46 SA)】



### (3) 認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったこと(受診までの期間別)

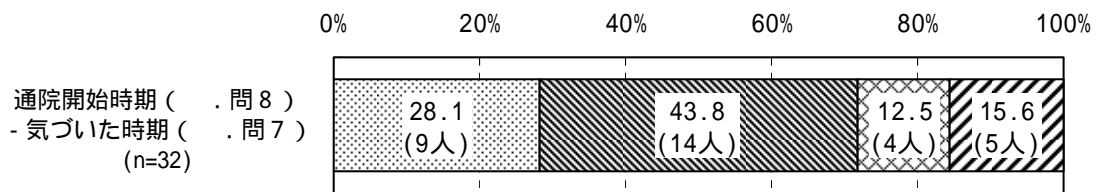
ア 「認知症と周囲が気づいてから通院を開始するまでの期間(受診までの期間)」について

調査票の「通院開始時期」と「認知症と気づいた時期」の両方に年及び月が記載されている 32 人について、「認知症と周囲が気づいてから通院を開始するまでの期間(受診までの期間)」をみると、「1か月未満」が28.1%(9人)、「1か月以上1年未満」が43.8%(14人)、「1年以上2年未満」が12.5%(4人)、「2年以上」が15.6%(5人)でした。

一番長い方は、4年8か月でした。

#### 【 . 問8(通院開始時期) - . 問7(気づいた時期)】

(対象数 = 32)



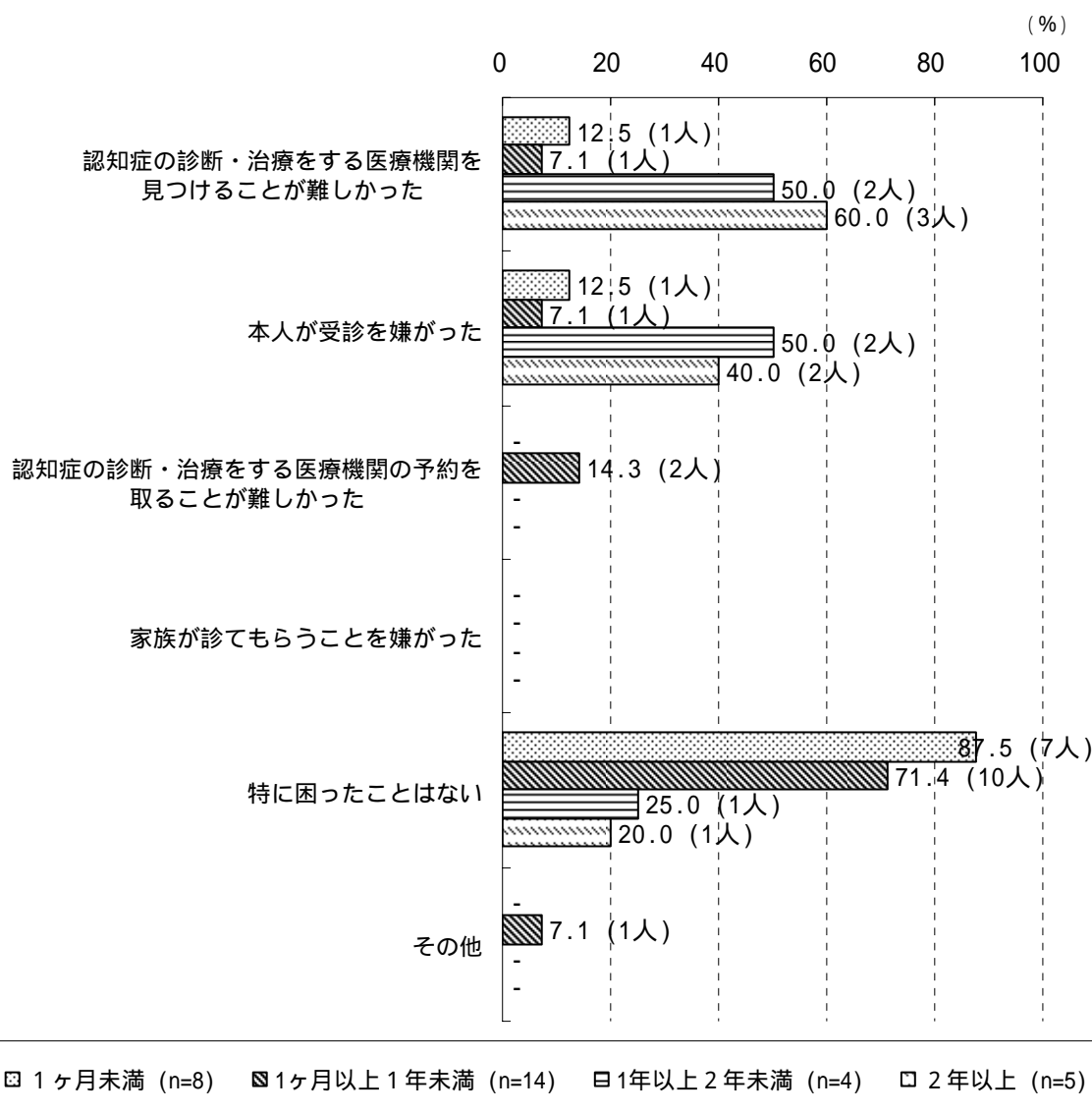
☐ 1ヶ月未満    ☑ 1ヶ月以上1年未満    ☒ 1年以上2年未満    ☓ 2年以上

イ 認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったこと（受診までの期間別）

上記「ア」の32人のうち「 . 家族票」に回答のあった31人について、「認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったこと」を受診までの期間別にみると、「1か月未満」、「1か月以上1年未満」では、「特に困ったことはない」がそれぞれ85.7%（7人）、71.4%（10人）と最も多くなっています。

一方、「1年以上2年未満」、「2年以上」では、「認知症の診断・治療をする医療機関を見つけることが難しかった」がそれぞれ50.0%（2人）、60.0%（3人）、「本人が受診を嫌がった」がそれぞれ50.0%（2人）、40.0%（2人）と高い割合を示しています。

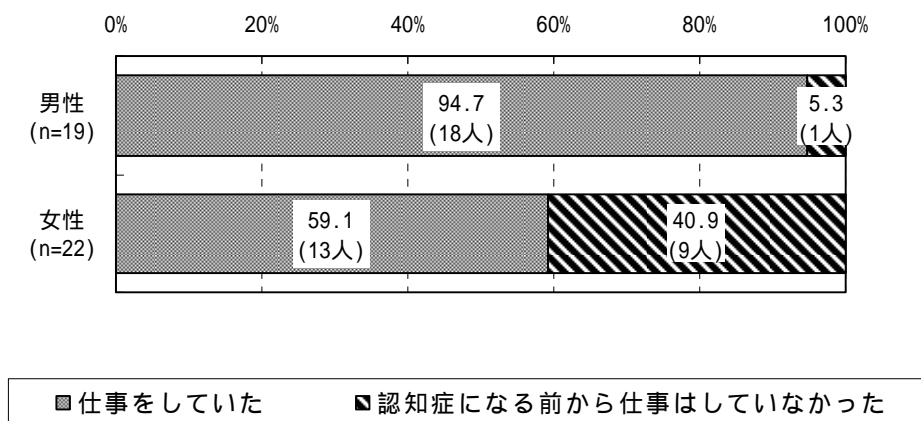
【 . 問8（通院開始時期） - . 問7（気づいた時期）  
 × . 問12（認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったこと）  
 （対象数 = 31 MA）



#### (4) 認知症になる前の仕事の有無(性別)

「認知症になる前の仕事の有無」を性別にみると、男性は「仕事をしていた」が94.7%(18人)、女性は59.1%(13人)でした。

【 . 問3 (性別) × . 問14-1 (認知症になる前の仕事の有無)】  
(対象数 = 41 SA)



## 2 現在

### (1) 本人の心身の状態

#### ア 認知症の行動・心理症状の特徴的症狀(原因疾患別)

「認知症の行動・心理症状の特徴的症狀」を原因疾患別にみると、アルツハイマー病は、「介護への抵抗」、「幻視・幻聴」がそれぞれ32.5%(13人)と最も多く、次いで「妄想」、「暴言」がそれぞれ25.0%(10人)となっており、心理的要因に係る精神症状が多くみられました。

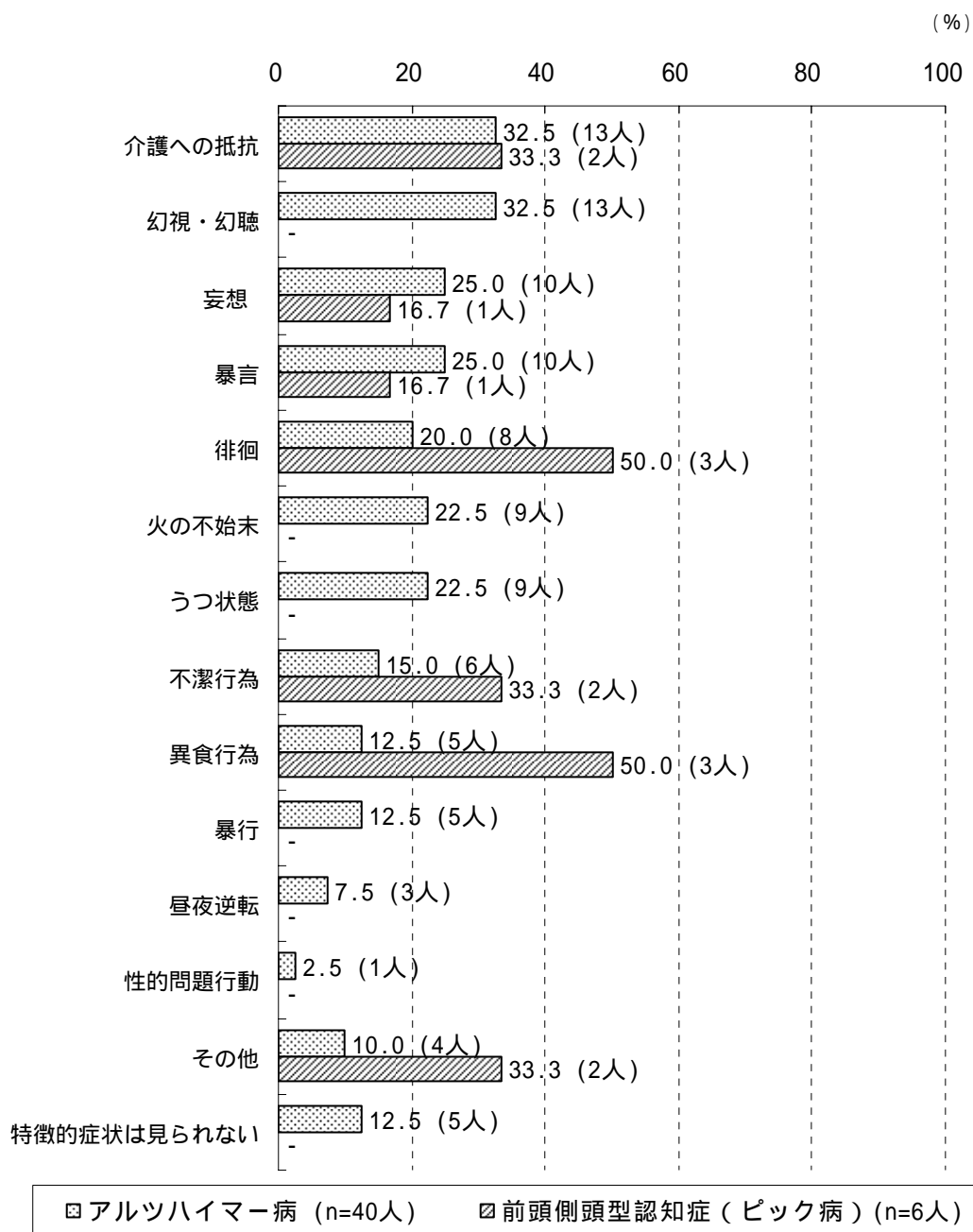
前頭側頭型認知症(ピック病)は、「徘徊」、「異食行為」がそれぞれ50.0%(3人)と最も多く、次いで「介護の抵抗」、「不潔行為」、「その他」がそれぞれ33.3%(2人)となっており、行動面での症状が多いということがわかります。

なお、幻視・幻聴が目立つ場合には、レビー小体病(アルツハイマー病の近縁疾患)の可能性がありますが、医学的には指摘されています。



【 原因疾患 × . 問 6 ( 認知症の行動・心理症状の特徴的症状)】

( 対象数 = 4 6 M A )



イ 現在の楽しみややりがい、今後やりたいこと（性別）

「現在の楽しみややりがい」について性別にみると、男性は「スポーツや運動など、身体を動かすこと」が50.0%（10人）と最も多く、次いで「家でのんびり過ごす」が35.0%（7人）、「読書、美術鑑賞など、文化・教養に関すること」が30.0%（6人）でした。

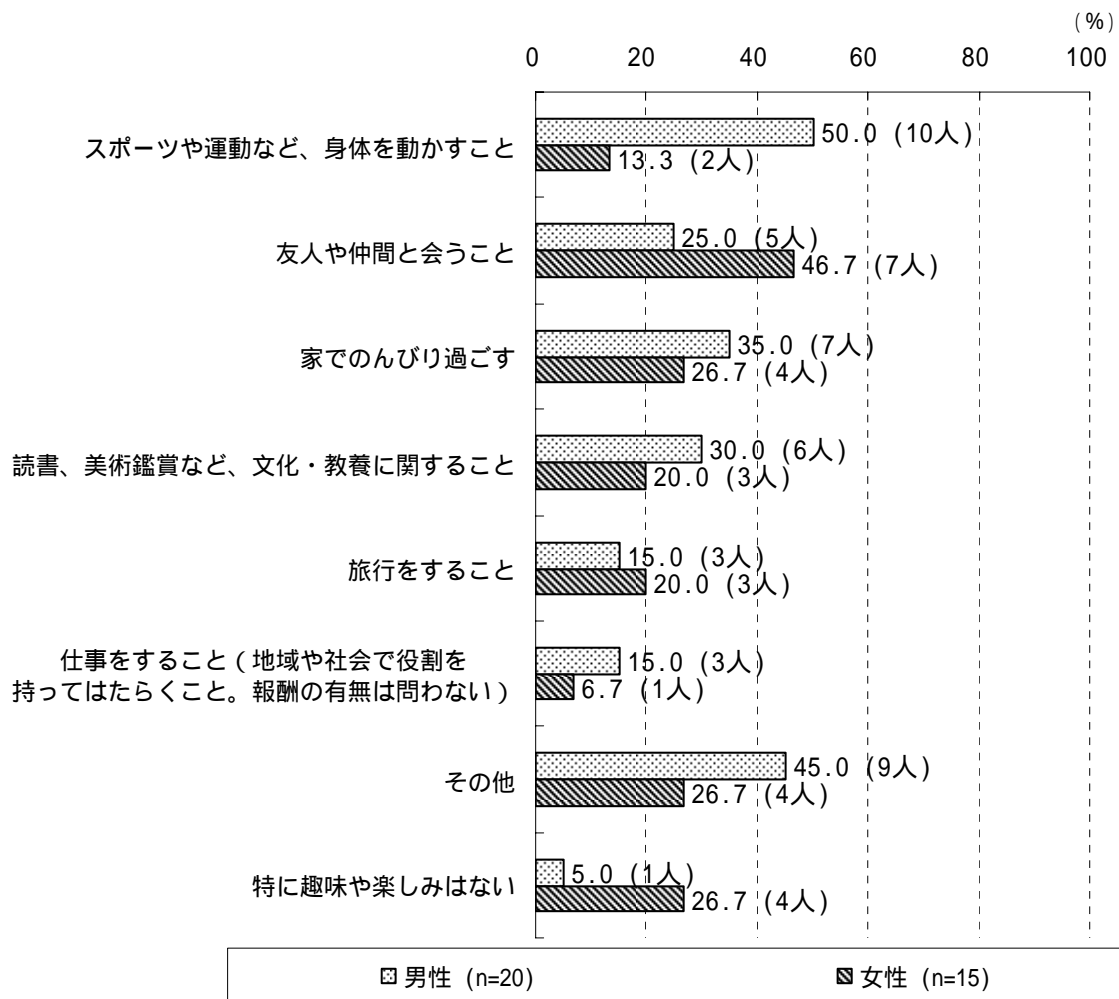
女性は「友人や仲間と会うこと」が46.7%（7人）が最も多く、次いで「家でのんびり過ごす」、  
「特に、趣味や楽しみはない」がそれぞれ26.7%（4人）となっています。

「今後やりたいこと」については、男性は「スポーツや運動など、身体を動かすこと」が40.0%（8人）と最も多く、「家でのんびり過ごす」が30.0%（6人）、  
「旅行をすること」、「友人や仲間と会うこと」がそれぞれ25.0%（5人）でした。

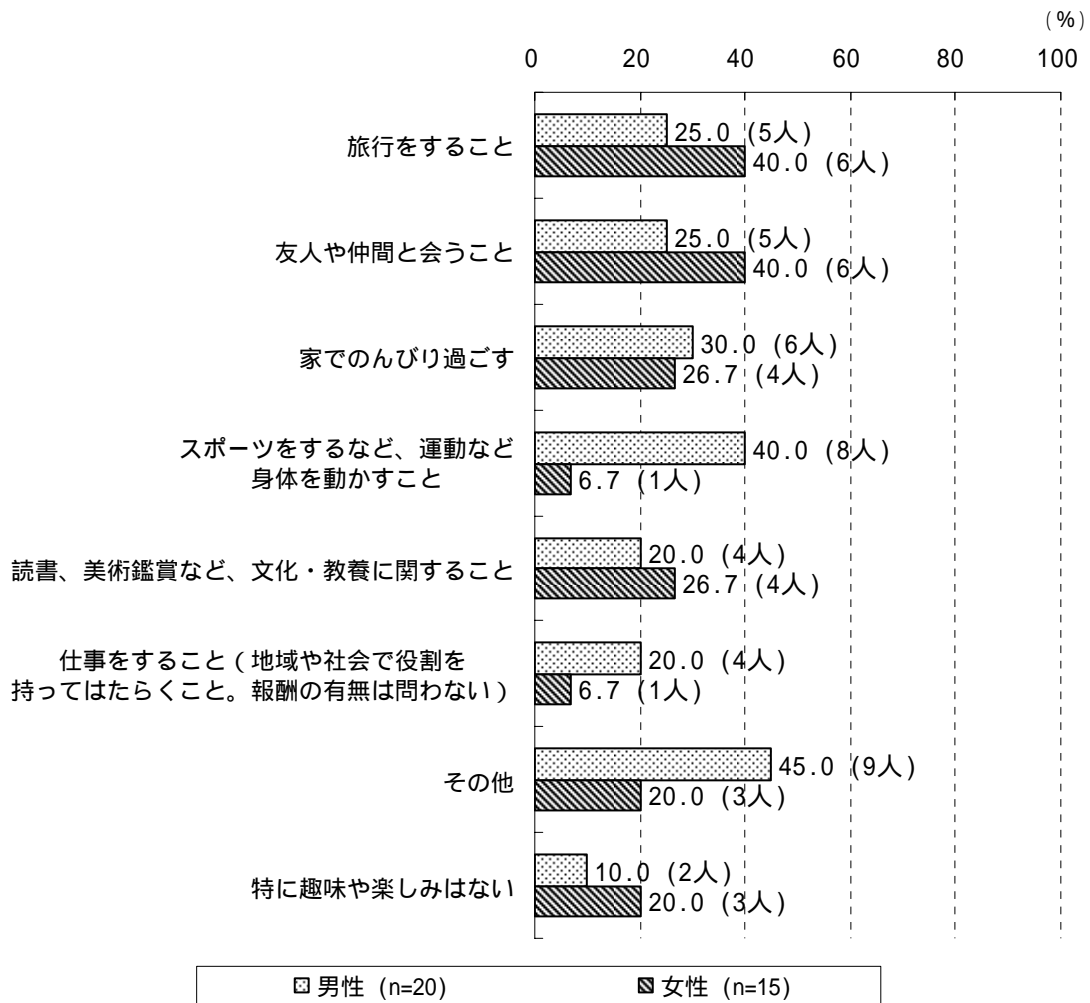
女性は「旅行をすること」、「友人や仲間と会うこと」がそれぞれ40.0%（6人）と最も多く、「読書、美術鑑賞など、文化・教養に関すること」、「家でのんびり過ごす」がそれぞれ26.7%（4人）となっています。

【 . 問3（性別）× . 問1（現在の楽しみややりがい）】

（対象数 = 35 MA）



【 . 問3 (性別) × . 問2 (今後やりたいこと)】  
 (対象数 = 35 MA)



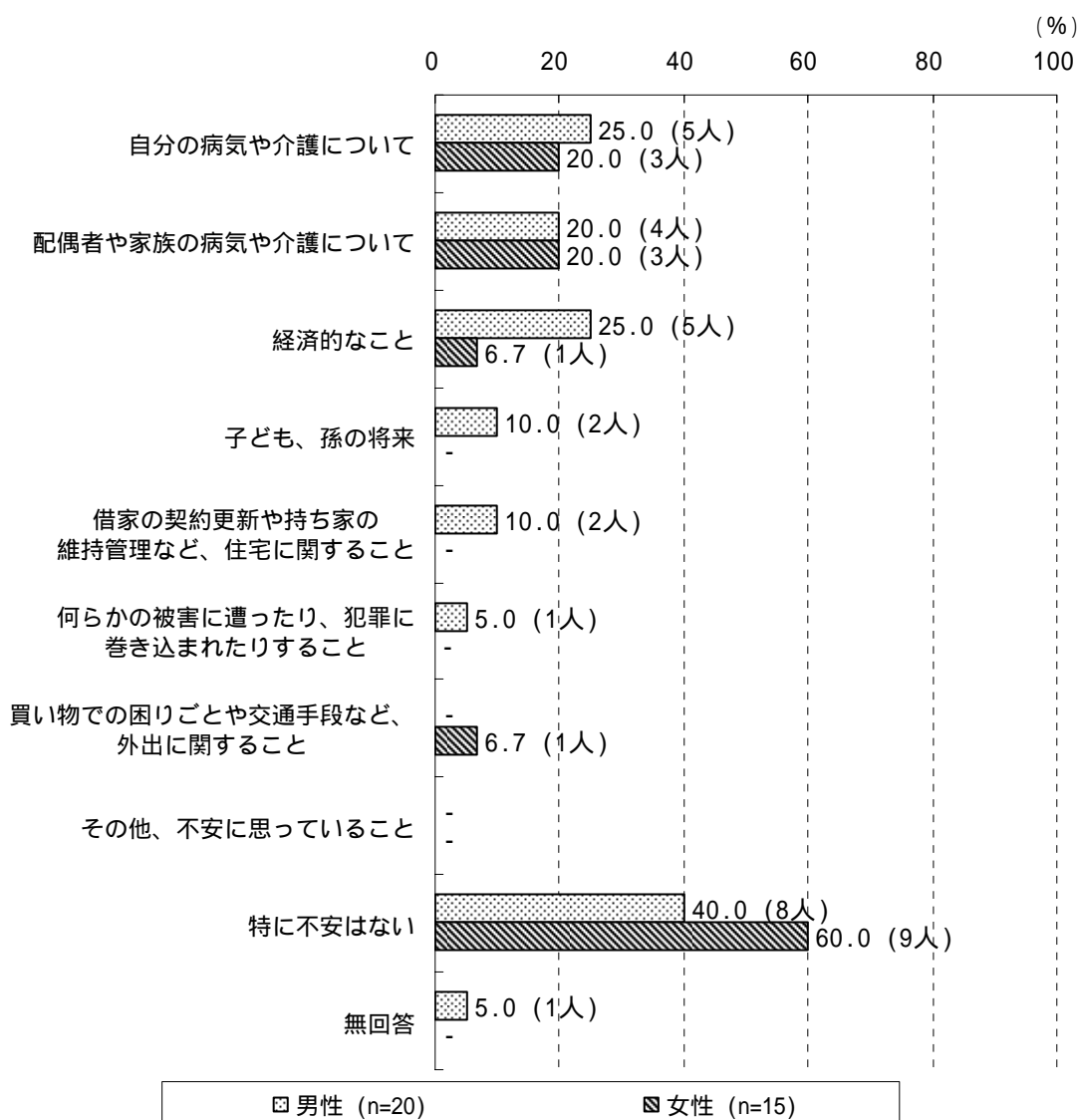
ウ 将来についての不安（性別）

「将来についての不安」について性別にみると、男女とも「特に不安はない」が最も多く、それぞれ40.0%（8人）、60.0%（9人）でした。

次いで、男性では「自分の病気や介護について」、「経済的なこと」がそれぞれ25.0%（5人）、「配偶者や家族の病気や介護について」が20.0%（4人）となっています。

女性では「自分の病気や介護について」、「配偶者や家族の病気や介護について」がそれぞれ20.0%（3人）、「経済的なこと」、「買い物での困りごとや交通手段など、外出に関する事」がそれぞれ6.7%（1人）となっています。

【 . 問3（性別）× . 問5（将来についての不安）】  
（対象数 = 35 MA）



## (2) 本人(世帯)の収入状況(年齢別)

平成16年に改正された高年齢者雇用安定法により、65歳未満の定年の定めをしている事業主は、高年齢者の65歳までの安定した雇用を確保するため、定年の引き上げ、継続雇用制度の導入、定年の定め廃止、のいずれかの措置を講じなければならなくなりました。

平成20年は65歳への引き上げが段階的に行われる経過措置中であるため、今回は60歳を基点として、「60歳未満」と「60歳以上」の人の家計を支えている主な収入源について、クロス集計を行いました。

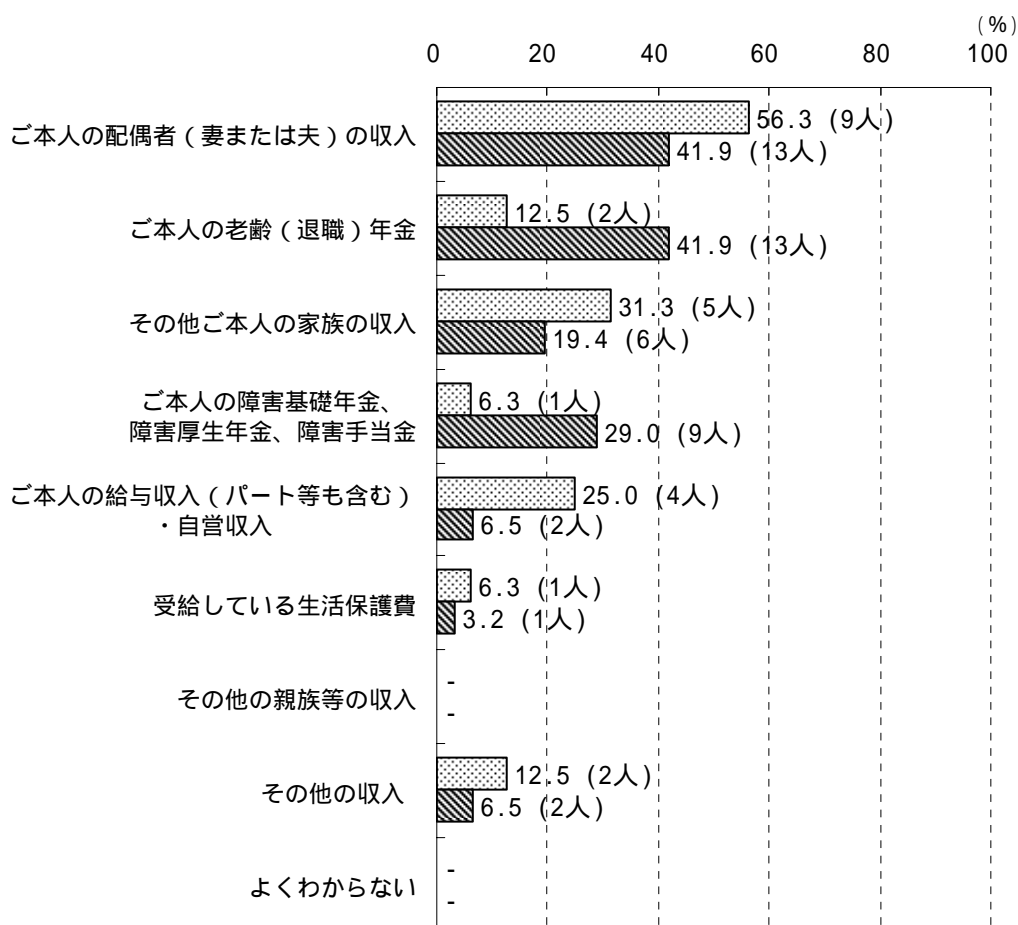
### ア 主な収入源(年齢別)

「主な収入源」について年齢別にみると、「60歳未満」は「ご本人の配偶者(妻または夫)の収入」が56.3%(9人)と最も多く、次いで「その他ご本人の家族の収入」が31.3%(5人)、「ご本人の給与収入(パート等も含む)・自営収入」が25.0%(4人)となりました。

「60歳以上」は「ご本人の老齢(退職)年金」、「ご本人の配偶者(妻または夫)の収入」がそれぞれ41.9%(13人)、次いで「ご本人の障害基礎年金、障害厚生年金、障害手当金」が29.0%(9人)、「その他ご本人の家族の収入」が19.4%(6人)となっています。

### 【 . 問3 (年齢) × . 問13 (主な収入源)】

(対象数 = 47 MA (2つまで))



□ 60歳未満 (n=16)

■ 60歳以上 (n=31)

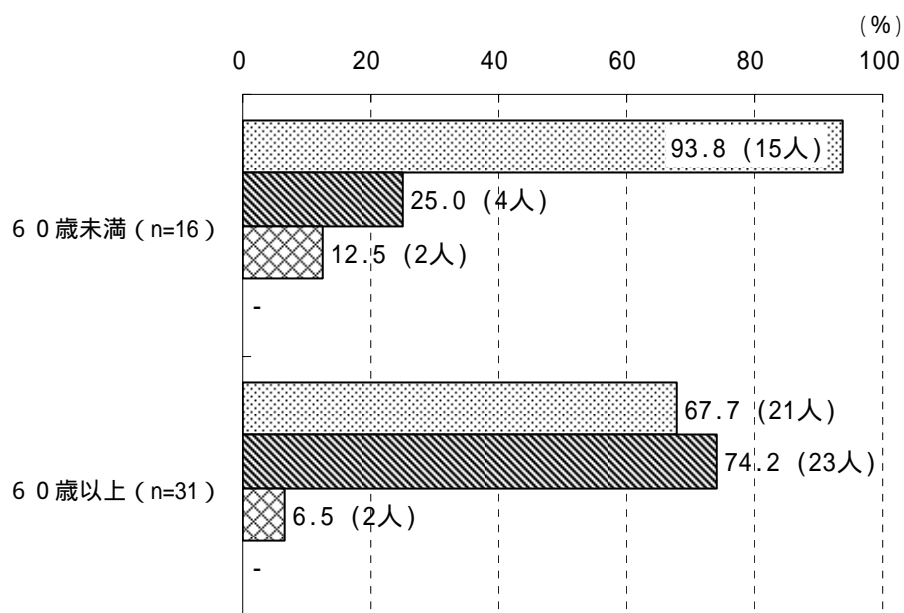
イ 主な収入源・4分類（年齢別）

次に、 . 問 1 3 (家計を支えている主な収入源)の選択肢を「 本人給与・配偶者収入・家族収入・親族等収入」、「 本人の老齢(退職)年金・障害者基礎年金・障害厚生年金・障害手当金・生活保護費」、「 その他の収入」、「 よくわからない」の4つに分類し年齢別に集計しました。

「60歳未満」では、「 本人給与・配偶者収入・家族収入・親族等収入」が93.8% (15人)と最も多く、「 本人の老齢(退職)年金・障害者基礎年金・障害厚生年金・障害手当金・生活保護費」は25.0% (4人)でした。

「60歳以上」では、「 本人の老齢(退職)年金・障害者基礎年金・障害厚生年金・障害手当金・生活保護費」が74.2% (23人)と最も多く、「 本人給与・配偶者収入・家族収入・親族等収入」は67.7% (21人)でした。

【 . 問 3 (年齢) × . 問 1 3 (主な収入源・4分類)】  
(対象数 = 47 MA (2つまで))



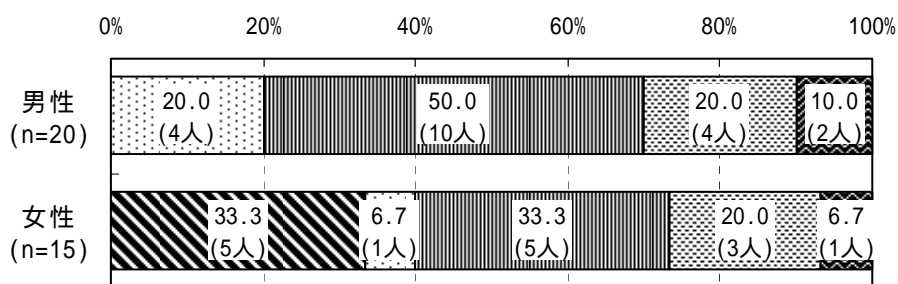
- ☐ 本人給与・配偶者収入・家族収入・親族等収入
- ▨ 本人の老齢(退職)年金・障害者基礎年金・障害厚生年金・障害手当金・生活保護費
- ▩ その他の収入
- よくわからない

### (3) 本人の近所の人との付き合いの程度(性別)

「近所の人との付き合いの程度」について性別にみると、男性は「あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない」が 50.0% (10 人) と最も多く、次いで「日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている」、「付き合いは全くしていない」がそれぞれ 20.0% (4 人) でした。

女性は「互いに相談したり、家を行き来したりするなどの交流がある」、「あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない」がそれぞれ 33.3% (5 人)、次いで「付き合いは全くしていない」が 20.0% (3 人) でした。

【 . 問 3 (性別) × . 問 8 (近所の人との付き合いの程度) 】  
(対象数 = 35 SA)



- 外出時に留守番をしてくれる等本人や家族を支援してくれたりしている
- 互いに相談したり、家を行き来したりするなどの交流がある
- 日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている
- あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない
- 付き合いは全くしていない
- 無回答

### (4) 地域の社会資源等との関わり

#### ア 地域包括支援センター等の認知度(罹病期間別)

ここでいう罹病期間とは、認知症と周囲が気づいてから平成 20 年 1 月までの期間です。罹病期間は「3 年未満」が 11 人、「3 年以上 5 年未満」が 14 人、「5 年以上 9 年未満」が 12 人、「9 年以上」が 10 人となっています。

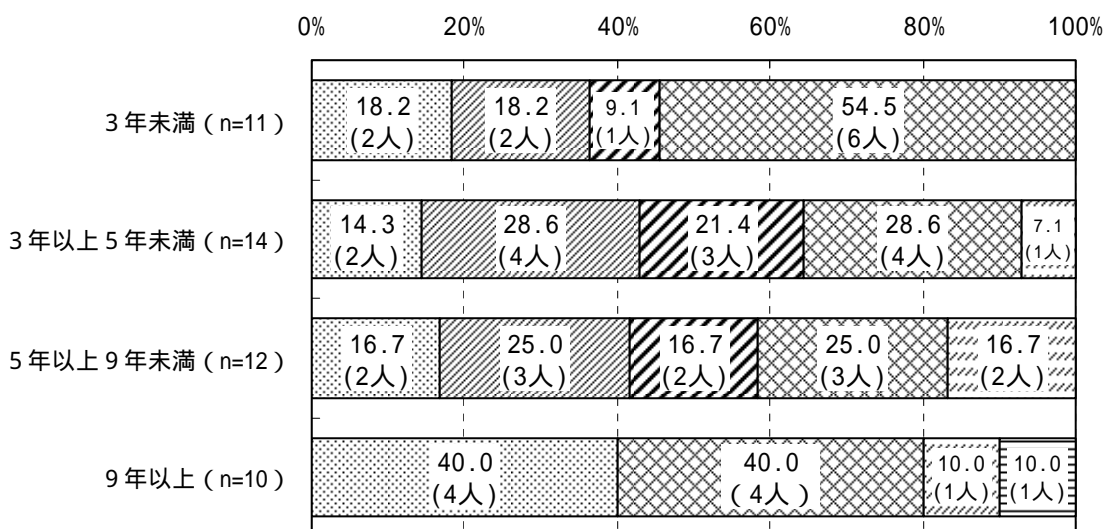
地域包括支援センター等の社会資源に関する本人の認知度を罹病期間別にみたところ、地域包括支援センターについて「既に利用している」と回答した人の割合は、「3 年未満」では 18.2% (2 人)、「3 年以上 5 年未満」が 14.3% (2 人)、「5 年以上 9 年未満」が 16.7% (2 人)、「9 年以上」が 40.0% (4 人) と、それほど差はありませんでした。

一方、民生委員について「既に相談している」と回答した人の割合については、「3 年未満」では 27.3% (3 人) と多く、「3 年未満 5 年以上」では 7.1% (1 人)、「5 年以上 9 年未満」、「9 年以上」では相談しているという回答はなく、差がみられました。

また、家族会について「既に利用している」と回答した人の割合についても、「3 年未満」が 18.2%

(2人)「3年以上5年未満」が50.0%(7人)「5年以上9年未満」が8.3%(1人)「9年以上」が40.0%(4人)と、罹病期間によって差がみられました。

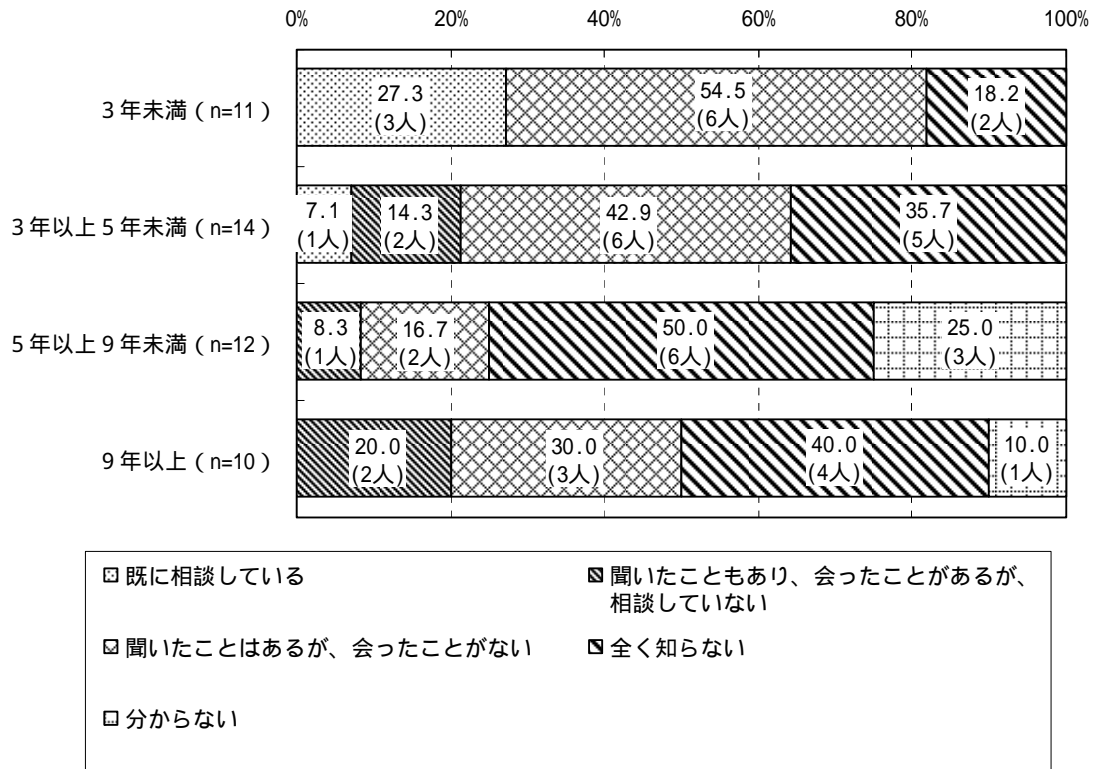
【 <平成20年1月 - .問7(気づいた時期)>  
 × .問11(地域で知っているもの 地域包括支援センター)  
 (対象数 = 47 SA)



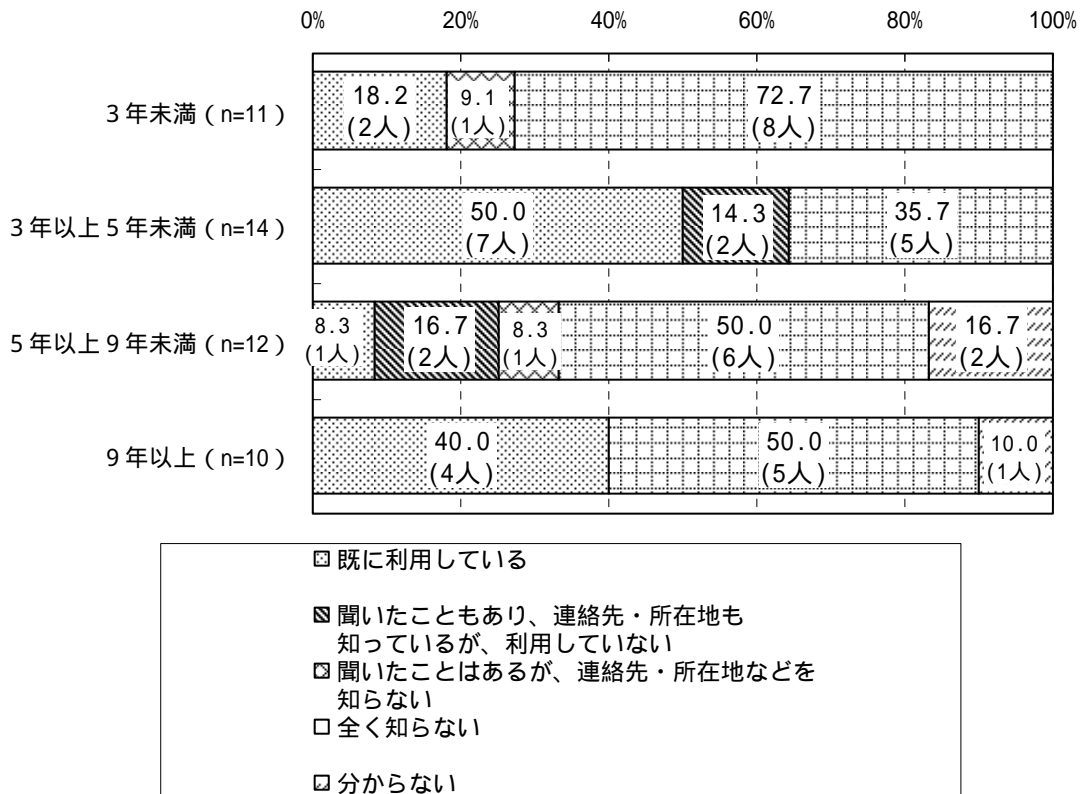
- |   |  |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 既に利用している                 | <input type="checkbox"/> 聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない |
| <input type="checkbox"/> 聞いたことはあるが、連絡先・所在地などを知らない | <input type="checkbox"/> 全く知らない                          |
| <input type="checkbox"/> 分からない                    | <input type="checkbox"/> 無回答                             |



【 <平成 20 年 1 月 - . 問 7 (気づいた時期)> × . 問 1 1 (地域で知っているもの 民生委員)】  
 (対象数 = 47 SA)



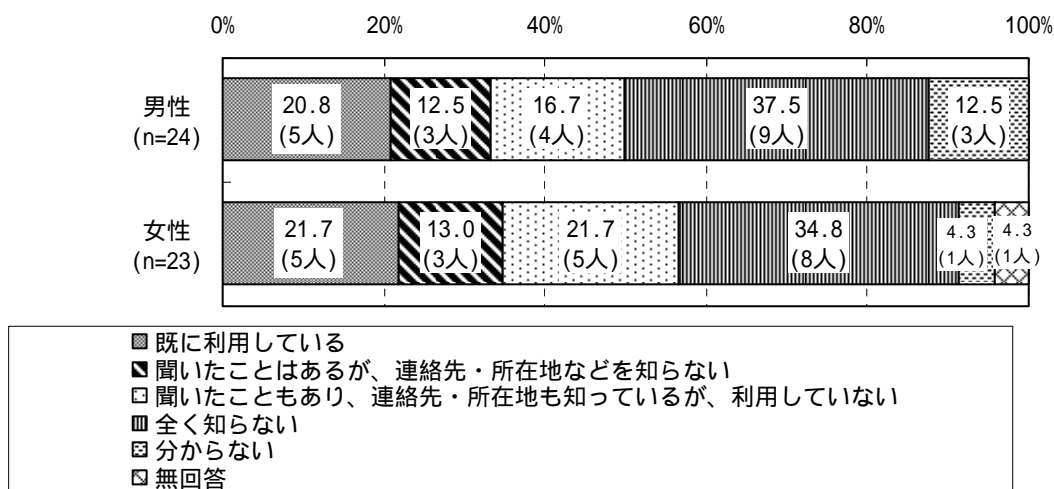
【 <平成 20 年 1 月 - . 問 7 (気づいた時期)> × . 問 1 1 (地域で知っているもの 家族会)】  
 (対象数 = 47 SA)



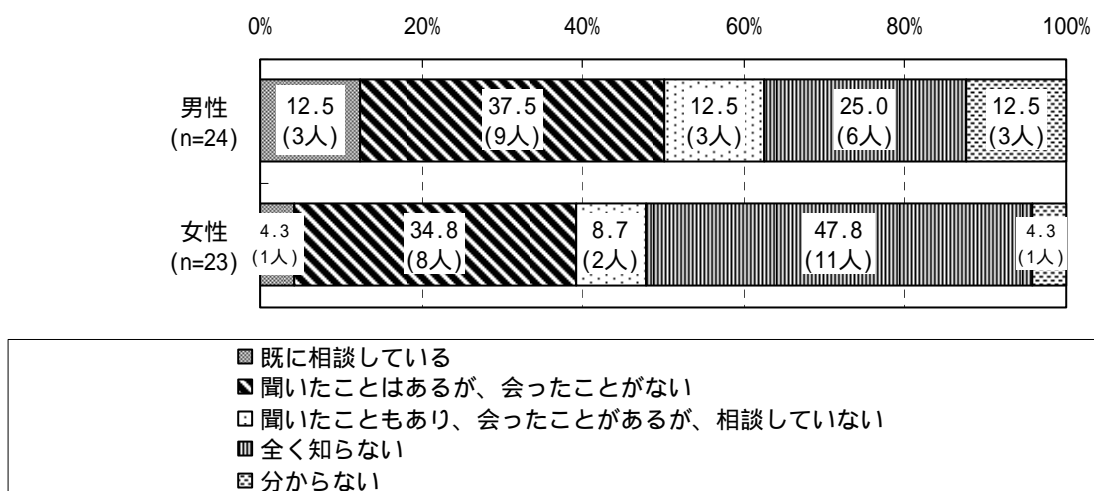
イ 地域包括支援センター等の認知度（性別）

地域の社会資源に関する本人の認知度を性別にみると、地域包括支援センターや民生委員については差がみられませんでした。家族会については、「既に利用している」と回答した人の割合が、男性では41.7%（10人）、女性では17.4%（4人）となっており、「全く知らない」と回答した人の割合が、男性では29.2%（7人）、女性では73.9%（17人）と、大きく差がみられました。

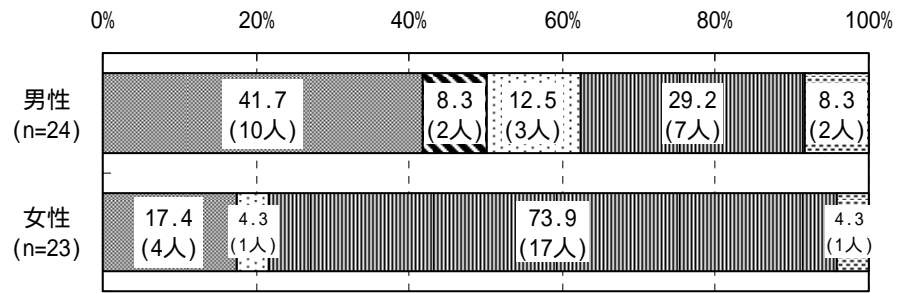
【 . 問3（性別）× . 問11（地域で知っているもの 地域包括支援センター）】  
（対象数 = 47 SA）



【 . 問3（性別）× . 問11（地域で知っているもの 民生委員）】  
（対象数 = 47 SA）



【 . 問 3 (性別) × . 問 1 1 (地域で知っているもの 家族会)】  
 (対象数 = 47 SA)

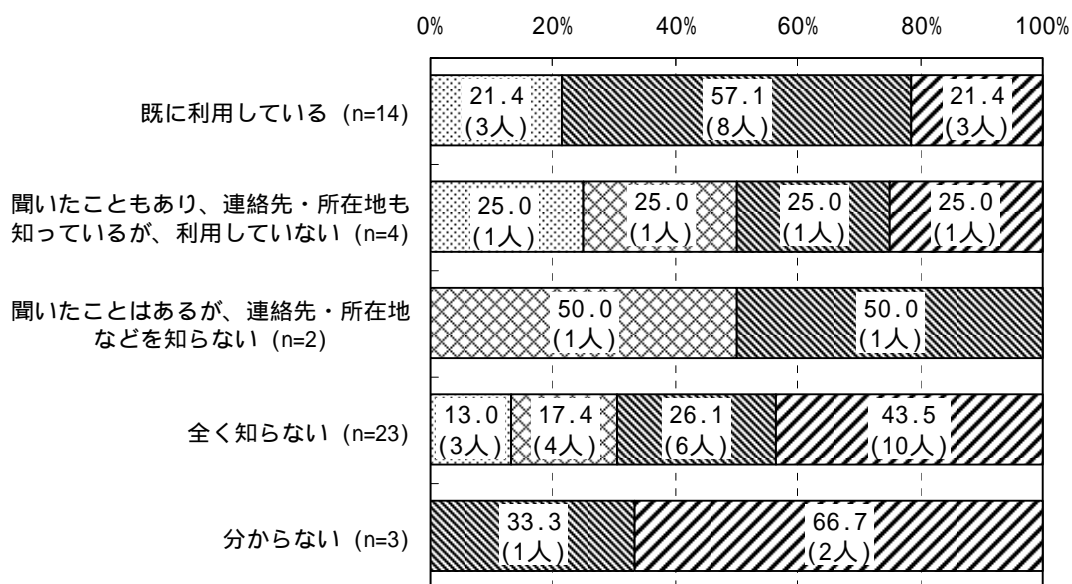


- 既に利用している
- ▨ 聞いたことはあるが、連絡先・所在地などを知らない
- 聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない
- ▤ 全く知らない
- ▩ 分からない

ウ 近所の人との付き合いの程度（家族会の認知度別）

インフォーマルな社会資源である家族会との付き合いに着目し、近所の人との付き合いの程度を家族会の認知度別にみると、家族会を「全く知らない」と回答した23人のうち、「近所付き合いは全くしていない」が43.5%（10名）と高い割合を占めました。

【 . 問 1 1（地域で知っているもの 家族会）× . 問 2（近所の人との付き合いの程度）】  
（対象数 = 46 SA）



- ☐ 互いに相談したり、家を行き来したりするなどの交流がある
- ▨ 日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている
- ▩ あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない
- ▧ 付き合いは全くしていない

## 認知症における病状の各ステージ(3群)の特徴

### 1 認知症の病状の各ステージ(3群)に関する基本的な考え方

認知症の病状の各ステージ(3群)に関する基本的な考え方をまとめたのが、表1-1のとおりです。

表1-1 認知症の病状の各ステージ(3群)

ステージ (3群)	病状 (注1)	自立度 (注1)	性別	罹病期間 (注2)	通院期間 (注3)	要介護状態区分 (注4)
軽度	自立、または ほぼ自立して いるが時には 人の手を借り ることがある	自立 6人 ほぼ自立 14人 計 20人	男性 11人 女性 9人 計 20人	3年未満 8人 3年以上5年未 満 8人 5年以上9年未 満 2人 9年以上 2人 計 20人  平均経過期間 3.5年	2年未満 10人 2年以上4年未 満 5人 4年以上6年未 満 3人 6年以上 2人 計 20人  平均経過期間 2.1年	要介護2 3人 要介護3 1人 計 4人
中等度	多くの時間 で、介護が必 要である	14人	男性 9人 女性 5人 計 14人	3年未満 3人 3年以上5年未 満 6人 5年以上9年未 満 4人 9年以上 1人 計 14人  平均経過期間 4.3年	2年未満 3人 2年以上4年未 満 6人 4年以上6年未 満 4人 6年以上 1人 計 14人  平均経過期間 3.3年	要支援2 1人 要介護2 2人 要介護3 3人 要介護4 4人 要介護5 1人 計 11人
高度	全ての時間で 介護が必要で ある	13人	男性 4人 女性 9人 計 13人	5年以上9年未 満 6人 9年以上 7人 計 13人  平均経過期間 8.9年	2年未満 2人 4年以上6年未 満 4人 6年以上 7人 計 13人  平均経過期間 6.9年	要介護3 3人 要介護4 2人 要介護5 8人 計 13人
計		47人	47人	47人	47人	28人

(注)

- 「病状、自立度」とは、今回の調査の調査員が判断する4つの認知症の程度を3つに区分けしたものである。
- 「罹病期間」とは、今回の調査において「認知症と周囲が気づいてから平成20年1月までの期間」である。
- 「通院期間」とは、今回の調査において「初めて認知症の診断や治療のために通院し始めてから調査日までの期間」である。
- 「要介護状態区分」とは、全対象者である47人中、要介護認定を受けている方(28人)である。
- 今回の調査対象者は、47人である。

## 2 認知症の病状の各ステージ(3群)の特徴

若年性認知症の進行状況に応じた生活実態を把握するため、先述した各ステージ(3群)に分け、表1-2のとおり特徴をまとめました。

表1-2 各ステージ(3群)の特徴について

	軽度	中等度	高度
病状	自立、またはほぼ自立しているが時には人の手をかりることがある	多くの時間で、介護が必要である	全ての時間で介護が必要である
対象者(47人)	20人	14人	13人
性別 ( . 問 3 SA)	男性 11 人 女性 9 人	男性 9 人 女性 5 人	男性 4 人 女性 9 人
罹病期間 (H20.1- . 問 7)	平均 3.5 年	平均 4.3 年	平均 8.9 年
通院期間 ( . 問 8 SA)	平均 2.1 年	平均 3.3 年	平均 6.9 年
家族の同居の有無 ( . 問 2 SA)	「一緒に住んでいる」が 90.0% (18 人)、「一緒に住んでいない」が 5.0% (1 人)	「一緒に住んでいる」が 78.6% (11 人)、「一緒に住んでいない」が 21.4% (3 人)	13 人全員が「一緒に住んでいる」
認知症と周囲が気づいた頃の年齢 ( . 問 7 SA)	「50歳代」が 55.0% (11 人)、「60歳代」が 35.0% (7 人)、「30歳代」、「40歳代」がそれぞれ 5.0% (1 人)	「50歳代」が 78.6% (11 人)、「60歳代」が 21.4% (3 人)	「50歳代」が 76.9% (10 人)、「60歳代」が 15.4% (2 人)、「40歳代」が 7.7% (1 人)
通院し始めてからの年数 ( . 問 8 SA)	「2年未満」が 50.0% (10 人)、「2年以上4年未満」が 25.0% (5 人)、「4年以上6年未満」が 15.0% (3 人)	「2年以上4年未満」が 42.9% (6 人)、「4年以上6年未満」が 28.6% (4 人)、「2年未満」が 21.4% (3 人)	「6年以上」が 53.8% (7 人)、「4年以上6年未満」が 30.8% (4 人)、「2年未満」が 15.4% (2 人)
利用している介護保険サービス ( . 問 12 MA)	「利用していない」が 75.0% (15 人)、「通所介護(デイサービス)」が 20.0% (4 人)、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」が 5.0% (1 人)	「通所介護(デイサービス)」が 50.0% (7 人)、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」が 28.6% (4 人)、「利用していない」、「短期入所生活介護(福祉系ショートステイ)」がそれぞれ 21.4% (3 人)	「通所介護(デイサービス)」、「短期入所生活介護(福祉系ショートステイ)」がそれぞれ 53.8% (7 人)、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」が 46.2% (6 人)、「認知症対応型通所介護(デイサービス)」が 23.1% (3 人)
要介護状態区分 ( . 問 12 -1 SA)	「要介護2」が 75.0% (3 人)、「要介護3」が 25.0% (1 人)	「要介護4」が 36.4% (4 人)、「要介護3」が 27.3% (3 人)、「要介護2」が 18.2% (2 人)、「要介護5」、「要支援2」がそれぞれ 9.1% (1 人)	「要介護5」が 61.5% (8 人)と多く、次が「要介護3」の 23.1% (3 人)、「要介護4」が 15.4% (2 人)

	軽 度	中等度	高 度
家族（回答者）が、本人が認知症であることを打ち明けている人（ . 問 1 MA）	「同居家族以外の親族」が78.9%（15人）、「友人・知人」、「同居家族」がそれぞれ57.9%（11人）、「病院・診療所」が42.1%（8人）、「職場の人」が26.3%（5人）、「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」、「近所の人」がそれぞれ21.1%（4人）、「地域包括支援センター」が10.5%（2人）	「同居家族以外の親族」が92.9%（13人）、「病院・診療所」、「友人・知人」がそれぞれ78.6%（11人）、「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」が71.4%（10人）、「同居家族」が64.3%（9人）、「近所の人」が57.1%（8人）、「地域包括支援センター」が28.6%（4人）	「病院・診療所」、「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」がそれぞれ100.0%（13人）で、「同居家族以外の親族」が92.3%（12人）、「同居家族」、「友人・知人」がそれぞれ84.6%（11人）、「近所の人」が69.2%（9人）、「地域包括支援センター」が46.2%（6人）
外出の頻度（ . 問 3 SA）	「ほとんど毎日外出する」が73.7%（14人）、「ときどき外出する」が15.8%（3人）、「ほとんど外出しない」が10.5%（2人）	「ほとんど毎日外出する」が57.1%（8人）、「ときどき外出する」が28.6%（4人）、「ほとんど外出しない」が7.1%（1人）	「ほとんど毎日外出する」が46.2%（6人）、「ほとんど外出しない」が30.8%（4人）、「ときどき外出する」が15.4%（2人）
外出の目的（徒歩圏）（ . 問 4 MA）	「買い物」が78.9%（15人）、「散歩」が73.7%（14人）、「通院」が47.4%（9人）、「知人・親戚などを訪問」が26.3%（5人）、「郵便局・銀行や役所など」15.8%（3人）	「散歩」が78.6%（11人）、「買い物」が57.1%（8人）、「通院」が42.9%（6人）、「郵便局・銀行や役所など」が14.3%（2人）	「散歩」が23.1%（3人）、「買い物」が15.4%（2人）、「通院」、「介護施設などへの通所」がそれぞれ7.7%（1人）
外出の目的（車や公共交通機関等）（ . 問 4 MA）	「通院」が57.9%（11人）、「買い物」が42.1%（8人）、「知人・親戚などを訪問」が31.6%（6人）、「文化・学習活動や運動」が21.1%（4人）	「通院」が50.0%（7人）、「介護施設などへの通所」が42.9%（6人）、「買い物」、「知人・親戚などを訪問」がそれぞれ28.6%（4人）、「文化・学習活動や運動」が7.1%（1人）	「通院」が92.3%（12人）、「介護施設などへの通所」が84.6%（11人）、「知人・親戚などを訪問」が15.4%（2人）、「買い物」、「郵便局・銀行や役所など」がそれぞれ7.7%（1人）
外出する際の付き添いの程度（ . 問 5 SA）	「ほとんど一人で外出」が47.4%（9人）、「本人の体調や外出先によっては付き添い付で外出」、「ほとんど付き添いが必要」がそれぞれ26.3%（5人）	「ほとんど付き添いが必要」が78.6%（11人）、「ほとんど一人で外出」、「本人の体調や外出先によっては付き添い付で外出」がそれぞれ7.1%（1人）	13人すべてが「ほとんど付き添いが必要」
認知症の行動・心理症状の特徴的症状（ . 問 6 MA）	「火の不始末」、「うつ状態」がそれぞれ31.6%（6人）、「介護への抵抗」、「妄想」がそれぞれ26.3%（5人）、「幻聴・幻聴」が21.1%（4人）	「暴言」が42.9%（6人）、「徘徊」、「介護への抵抗」がそれぞれ35.7%（5人）、「幻聴・幻聴」が28.6%（4人）	「幻聴・幻聴」、「徘徊」、「介護への抵抗」がそれぞれ38.5%（5人）、「不潔行為」が30.8%（4人）、「妄想」が23.1%（3人）

	軽 度	中等度	高 度
介護のことでよく相談している相手 ( . 問 14 MA)	「同居家族以外の親族」が 36.8% (7人)、「病院・診療所」、「相談している人はいない」がそれぞれ 31.6% (6人)、「同居家族」が 21.1% (4人)	「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」が 50.0% (7人)、「同居家族以外の親族」、「同居家族」がそれぞれ 35.7% (5人)、「病院・診療所」が 28.6% (4人)、「友人、知人」が 21.4% (3人)	「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」が 84.6% (11人)、「病院・診療所」が 46.2% (6人)、「同居家族」が 30.8% (4人)、「同居家族以外の親族」が 23.1% (3人)
介護している中で不安 ( . 問 15 MA)	「介護生活がこれからどのくらい続くのか、先が見えない」が 73.7% (14人)、「介護しているあなたの精神的なストレスや不安が強くなってきた」が 42.1% (8人)、「介護しているあなたの健康や体力が厳しくなってきた」が 36.8% (7人)	「介護生活がこれからどのくらい続くのか、先が見えない」、「介護しているあなたの精神的なストレスや不安が強くなってきた」がそれぞれ 78.6% (11人)、「介護しているあなたの健康や体力が厳しくなってきた」、「ご本人の認知症の進行が速くなってきているのではないかと不安になってきた」がそれぞれ 57.1% (8人)、「介護しているあなたが介護にかかりきりで、社会から孤立してきた」が 28.6% (4人)	「介護しているあなたの健康や体力が厳しくなってきた」が 61.5% (8人)、「介護にかかる費用が大きく、家計が苦しくなってきた」が 53.8% (7人)、「介護しているあなたの精神的なストレスや不安が強くなってきた」、「ご本人の認知症の進行が速くなってきているのではないかと不安になってきた」がそれぞれ 38.5% (5人)
本人の将来についての不安 ( . 問 5 MA)	「自分の病気や介護について」が 35.0% (7人)、「配偶者や家族の病気や介護について」が 25.0% (5人)、「経済的なこと」が 15.0% (3人)	「経済的なこと」が 30.0% (3人)、「配偶者や家族の病気や介護について」が 20.0% (2人)、「自分の病気や介護について」が 10.0% (1人)	回答した 5 人全員が「特に不安はない」
(本人に聞いた)近所の人との付き合いの程度 ( . 問 8 SA)	「あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない」が 35.0% (7人)、「互いに相談したり、家を行き来したりするなどの交流がある」、「日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている」がそれぞれ 25.0% (5人)	「あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない」が 60.0% (6人)、「付き合いは全くしていない」が 30.0% (3人)	「あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない」、「付き合いは全くしていない」がそれぞれ 40.0% (2人)

### 3 認知症の病状の各ステージ(3群)のまとめ

#### (1) 外出の主な目的( . 問 4)

クロス集計「3群× . 問 4 (外出の主な目的)」の結果から、「買い物」、「散歩」、「知人・親戚などを訪問」が目的で外出する人の割合は、高度より軽度のほうが多いという傾向が現われました。また、「介護施設などへの通所」、「通院」が目的で外出する人の割合は、軽度より高度のほうが多いという傾向が現われました。



## (2) 外出する際の付き添いの程度( .問 5)

クロス集計「3群× .問 5 (外出する際の付き添いの程度)」において、「ほとんど1人で外出」する人は、軽度が47.4% (9人)、中等度が7.1% (1人)、高度が0.0% (0人)となっており、軽度ほど1人で外出するという傾向が出ています。

## (3) 認知症の行動・心理症状( .問 6)

クロス集計「3群× .問 6 (認知症の行動・心理症状)」の結果から、「うつ状態」は軽度が31.6% (6人)と多く、中等度は7.1% (1人)、高度は15.4% (2人)でした。「介護への抵抗」は、軽度が26.3% (5人)、中等度が35.7% (5人)、高度が38.5% (5人)と、すべてのステージにおいても現われました。「徘徊」は、軽度が5.3% (1人)、中等度が35.7% (5人)、高度が38.5% (5人)となっており、中等度、高度に比べて軽度の割合が低い傾向が現われました。

## (4) 家族と本人の不安について( .問 15、 .問 5)

クロス集計「3群× .問 15 (家族が感じている不安)」の結果で、「介護しているあなたの精神的なストレスや不安が強くなってきた」は、中等度が78.6% (11人)で最も割合が高く、軽度は42.1% (8人)、高度は38.5% (5人)であり、中等度の割合が高いという傾向が出ました。

また、 .問 5 (本人の将来の不安)の単純集計の結果において、選択肢のなかで最も多かった回答は「特に不安はない」で48.6% (17人)でした。また、クロス集計「3群× .問 5 (本人の将来の不安)」で「特に不安はない」と答えた人は、軽度40.0% (8人)、中等度が40.0% (4人)、高度で100.0% (5人)となっており、高度になるほど将来の不安がなくなる傾向が出ました。

## (5) 家族が打ち明けている人( .問 1)と、家族の相談相手( .問 14)

クロス集計「3群× .問 1 (家族が打ち明けている人)」において、高度になるほど、より多くの家族が様々な人に打ち明けているという結果が出ました。特に、「近所の人」、「行政の担当者」、「病院・診療所」、「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」の場合、高度になるほどより多くの家族が打ち明けているという傾向が現われました。

また、クロス集計「3群× .問 14 (家族がよく相談している相手)」において、「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」の場合、高度になるほどより多くの家族が相談しているという傾向が現われました。

## (6) 各ステージ(3群)のまとめ

上記の結果から若年性認知症の各ステージ(3群)の特徴をまとめると、軽度では1人で外出することが多く、家族は不安が強いのに関わらずケアマネジャー等へ相談する人が少ない状況が見られます。中等度では、徘徊が目立ってきて、家族はストレスが最も大きい時期であり不安も多く、ケアマネジャー等への相談が始まっています。高度では、外出は主に通院や通所のみであり、徘徊も問題になりますが、近所の人、病院、行政、ケアマネジャー等多方面に家族が認知症を打ち明けており、家族が感じるストレスや不安は少なくなっています。

## 自由回答から

調査票の「 、家族票」及び「 、本人票」には、自由回答の設問があり、そこに記載された回答を認知症の病状の各ステージ（3群）に分けてまとめました。なお、掲載にあたり一部を編集しています。

（凡例）

- 1 「(家族)」は、「  家族票、問13」の回答である。
- 2 「(家族)」は、「  家族票、問19」の回答である。
- 3 「(本人)」は、「  本人票、問11」の回答である。
- 4 「本人・代弁」は、「  本人票、問11」の回答で、家族が本人の発言などを理解し、代わりに回答したものである。

### 1 軽度

区 分	回 答
1 本人の心身の 状態	<p>(病気にして)自分の病気はわかっているけど、認めてはいない。(本人) 収入面が心配。火に気をつけていく。あとは分からない。(本人) 不安はないと言いつつも、仲間との外出等、初めての場所には行きたくない。方向感覚、今いる自分の場所の不安感があるようだ。(家族) 少し落ち着いたら、地域のサービスや支援なども考える。先日、家族の留守中にフライパンに火をつけたまま消し忘れてらしく、近所の方に大変迷惑をかけた。住めなくなると大変だと、本人もそのことを言っていた。(家族) 現在は、1人で銀行やスポーツ施設など行くことは大丈夫である。ただ、同居の私の母に対しての暴言はひどい。一緒に置くのも悩んでいる。母は認知症ではないが腰や足が悪いので、この先を考えると、先が見えないので不安である。(家族)</p>
2 医療関係	
(1) 早期発見・ 診断	<p>初期の段階で、何か少しでもおかしいと感じたら、すぐに医者に行くことだと思う。(家族) 現在はテレビや映画、パソコンで色々見たり、聞いたり、調べることができるので、早期発見につながる。最初はMRIをとったり3～4軒の医者を廻ったが、子どもがパソコンで今の主治医を知り、以来そこに通っている。新聞やテレビでもっと報道していただければ、進行を止めることは出来ると思う。我が家のように、気付いて2ヶ月くらいで診断が出るのは、良い方だと思う。(家族) アルツハイマーと診断されるまでに時間がかかる。(家族) 最初の診断が大事だし、適切なアドバイスが必要。(家族) 診断を受けさせるにあたって、家族だけだと、本人への対応が甘くなっ</p>

区 分	回 答
	<p>たり、本人にもわがままが出たりする。本人が診断に行くために、客観的に判断し、助言し、即対応してくれる第三者がほしい。本人が受診しようと思わなければ、治療が遅れ、病気が進行する。(家族)</p> <p>病院の検査が幼稚で、馬鹿にされているようだ。もう少し心理療法的であればと思う。(家族)</p> <p>約 10 年間、うつ病だと言われ通院して、薬を飲ませていたが、テレビや人の話から、もしかして認知症ではと思い、病院を探して、会社の人などから今の病院を紹介され、診て頂いたところ、若年性認知症と診断された。(家族)</p>
(2) 治療	<p>薬代が高額。(外 2 件)(家族)</p> <p>早く治る薬や治療法があるといい。(家族)</p> <p>全ての検査、薬に保険の適用を望む。シンチグラム(脳血流の検査)に保険がきかない。今の薬は進行を遅らせるだけである。治せる治療法が出ると良い。根本的な治療法、治療薬の開発を望む。(家族)</p> <p>アリセプトという治療薬を飲んでいる。受診して、進行を予防しているが、早く新薬が出てほしい。(家族)</p> <p>認知症が根治する治療薬がほしい。(家族)</p> <p>医師がとにかく介護している家族の目線に立って、どんな小さな悩みも聞いてくれる。今の主治医には、その点でとても満足しているので、まず医師選びは必要である。(家族)</p> <p>検査・治療費全てに、保険がきくと良い。(家族)</p> <p>とにかく今は初期の初期で、主治医から、共通の楽しみを持つなどできるだけ 2 人の時間を持つよう言われているので、そうしたい。自分の性格を先生がよく分かっている何でも聞いてくれることに満足している。やはり初期の時に、本人、家族にこのような精神的ケアが大事だと思う。(家族)</p>
(3) 医療機関等 に対して	<p>受け入れてくれる病院、施設がほしい。「対処法がない。薬がない。」と言われてしまったので、医師がもっと親身になり、相談にのってほしい。(家族)</p> <p>病院での待ち時間が長すぎるので、待ち時間中のかかわり方にも工夫が必要。(家族)</p>
(4) その他	<p>本人が歩行が困難になったり、寝込まないように、歩くことを中心にケアをしていきたい。(家族)</p>
3 公的サービス や支援制度	
(1) 介護保険サービス	<p>現状では、自分の健康・体力や介護に係る経済的な負担、社会からの孤立、介護に先が見えない等の多くの不安を感じている。特に本人の認知症</p>

区 分	回 答
	<p>の進行が早まっているのではないかという不安や介護している自分の精神的ストレス・不安に対しては、デイサービスを受けさせたいが、本人が行きたがらないと思う。症状や趣味に応じたデイサービスがあると良い。高齢者ばかりの中に入っていくのは本人に抵抗がある。健常者の集まりなら、又違うかもしれない。デイサービスに参加してほしいと思うが、高齢者ばかりで行くのを嫌がる。<u>(家族)</u></p> <p>若年性認知症向けのサービスがない。若年性認知症患者の場合、身体が動けるので、主に高齢者が利用する施設サービスでは合わないことがある。そのため、本人も拒否するし、施設の方でも敬遠するところがある。<u>(家族)</u></p> <p>施設では現状では待機者が多いようで、一人での生活が出来なくなった場合、施設に入れなかったらどうしたらいいのか心配で、不安である。受入先を東京都の方で確保してほしい。<u>(家族)</u></p> <p>サービスが高齢者と一緒なので、若年性認知症の本人が拒否することになってしまう。<u>(家族)</u></p> <p>介護保険を申請し、介護保険サービスを上手に受ける。<u>(家族)</u></p> <p>早急に若年性認知症のサービスの充実を願う。高齢者と同じ場所で、同じ事をしなければいけないという思いがあり、デイサービスを嫌がる。<u>(家族)</u></p> <p>認知症専用の施設(デイ・ホーム)がほしい。認知症以外の人と一緒にいるところが多い。あっても受入人数が少ない。介護保険の認定の時に、「立てる?」、「食べれる?」、「トイレに行けますか?」等、とても不躰で失礼な態度を取られたので、本人がパニックになってしまった。認知症のことを理解している人が少ない。施設にかかっているお金をまわすなどして、24時間在宅のままケアしているようなシステムにしてほしい。これから先、家を出て、知らない人と生活することは出来ないし、したくない。デイサービスの施設によって、設備、対応にバラツキがある。<u>(家族)</u></p> <p>次のステップとして、デイサービスの利用は考えている。今のところ、近所の人たちとコンサートなどにも行っている。毎日行くところがあれば、こちらも安心だし、本人も出かけた時はとても調子が良い。運動や歌うことが大好きなので、デイサービス等で月～土曜日まで預かってくれると助かる。あと1年は仕事もあるので、リタイアすればもう少し力になってやれると思う。ただ、年金生活になるとどうなるのか不安である。<u>(家族)</u></p> <p>デイサービスは年配の人が多いので、今のところあまり行きたいと思わない。若年性認知症の人達を対象とした、ケアセンターなどのサービスが</p>

区 分	回 答
(2) 障害者自立支援法やその他サービス・支援	<p>あるといいと思う。(家族)</p> <p>精神障害者の申請等の手続きが簡単であると良い。(家族)</p> <p>手続きの期限切れのお知らせがほしい。都バス、都営地下鉄だけでなく、本人、介護者への通所の交通費補助もほしい。特に介護者は、時によっては施設を2往復しなければいけない時があり、負担感が強い。(家族)</p> <p>いきいき福祉ネットワークセンターのような若年層を対象とした、自立した、目的のあるケアセンターが必要。(家族)</p> <p>区市町村単位でサービスに差が生じているため、都が取り組みを統一してほしい。例えば、自立支援医療受給者証で今通院している病院で診察を受けている。ある区市町村では薬を近所の医療機関でもらえるが、ある区市町村では近所の専門の医療機関に医師変えをしないと薬を処方してもらえない。</p> <p>(家族)</p> <p>自立支援と精神障害者保健福祉手帳が、同時期に期限が切れたのだが、申請の手続きに行ったとき、2つとも同時期に申請できるという助言をもらえなかったため、二度手間となった。介護者が全ての手続きをしないでほしいのに、親切心がない。もっとプロ意識を持って仕事、アドバイスがほしい。現在住んでいる区市町村は不親切に思う。申請の期限が切れる前に必要なお知らせサービスが有料でも良いからほしい。(家族)</p>
(3) 相談窓口、情報収集、家族会	<p>この認知症のことについて、どういうところに行って相談すれば良いのか分からない。(家族)</p> <p>家族が認知症になった時、情報を得るために、他の家族がアンテナをめぐらせ、自分達で探さなくてはいけない。認知症の情報が身近に感じられるようにしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報、コミュニティー（「家族会」等）の公開。</li> <li>・本人より、家族のためのコミュニティー。</li> <li>・介護者である年配者が手軽に得られる情報。(家族)</li> </ul> <p>本人の症状に応じた、同じレベルのコミュニティーがあると良い。</p> <p>(家族)</p> <p>病院では病気に関して相談ができる。その他生活面に関しては相談窓口や係が必要。(家族)</p> <p>介護する者の精神的なケアをしてくれるところ、相談ができる場所が必要。介護する者も認知症を受け入れるのに時間がかかる。子供が思春期であると、特にカウンセリングをしてくれる場所が必要。(家族)</p> <p>病気が進行した場合に、最終的にどこの医療機関、介護施設に行けばよいのか？入所は出来るのか？どのように手続きがあるのか？が心配。(家族)</p>

区 分	回 答
	<p>認知症について、自分で調べることには限界があるので、情報の入手が簡単に出来ると良い。その情報には専門家のアドバイスが入っていると良い。<u>(家族)</u></p> <p>都のホームページで都として、若年性認知症の情報コーナーを集約してほしい。家族会や認知症の人にはいけないこと等、情報発信の場を作ってほしい。<u>(家族)</u></p>
(4) その他	<p>精神障害者という言葉に抵抗感がある。旅行にも出たいが、トイレやお風呂等、性の違う場所に性の違う者が入っていけないことが多い。<u>(家族)</u></p> <p>旅先において、家族風呂がなかなか無く、出かける範囲が狭まる。家族風呂のある公共の宿泊施設がほしい。映画館等に障害者用トイレがない。障害者用トイレに車椅子のマークだけでなく、「認知症の人も使います」と言うようなわかりやすいマークがほしい。何故なら、本人と介護者は、夫と妻、妻と夫など異性の場合が多いので、介護者と共に使用するという事を一般の人に分かってほしい。又、トイレの中も、本人のプライドに傷がつかないように工夫があるとよい。<u>(家族)</u></p> <p>病院や施設等、受け入れてくれるところがないことが困る。<u>(家族)</u></p> <p>若年性認知症の受け入れ先の増設。<u>(家族)</u></p> <p>若年性認知症向けのサービスが全然ないので大変。<u>(家族)</u></p> <p>外出時や買物等に一緒に行ってくれる人がいればと思う。<u>(家族)</u></p> <p>症状、年齢に応じたケアがされる場所が是非必要。<u>(家族)</u></p> <p>若年性の方々が症状に応じたケアの出来る場所がほしい。<u>(家族)</u></p> <p>年齢層、症状に応じたデイケア施設が近場にほしい。<u>(家族)</u></p>
4 本人の地域生活の継続	<p>本人の症状、介護者の健康によるが、現状を維持したい。できる限り、生まれ育ったこの地で、過ごさせたい。<u>(家族)</u></p>
5 本人の経済状況や就労	<p>仕事をしたい。(本人)</p> <p>働けるまでは仕事を続けていきたい。今は、全く病気に対する認識はないので普通に会社に勤務しており、病気に対する不安等はない。 (本人・代弁)</p> <p>通院の日は会社を休んでいるが、この先どのようになっていくのか、とても不安である。(家族)</p> <p>病気になったため、借金がなくなる。<u>(家族)</u></p> <p>認知症と判明すると会社から退職を迫られる。若ければ若いほど、家族の経済的負担が大きい。この面でも、社会的、行政的なケアがほしい。<u>(家族)</u></p> <p>子供もいないので、この先、進行して行けば、仕事もできなくなり、生活が苦しくなるのは目に見えている。認知症になってしまったものは仕方</p>

区 分	回 答
	<p>がないので、本やテレビ等の情報を頼って、今のところ、やさしく接するようにしているが、不安でいっぱいである。(家族)</p>
<p>6 生活や介護の環境</p>	<p>診断されてから、まだ3ヶ月くらいなので、不安のみ。(家族)</p> <p>通院はどうしても付き添う必要があるので仕事を休まなければならない。介護休暇が取得できればよいと思う。(家族)</p> <p>今後、どのように本人の症状が変化していくのか介護者の健康状態もどのように変わっていくのかわからない。わからないので対応も出来ない。今は病院の先生が信頼出来、安心して過ごせている。(家族)</p> <p>介護者の健康状況によって、本人のこれからの生活に変化が生じる。介護者の健康状態が悪ければ、施設への入所も考えざるを得ない。その場合、施設はすぐに入れるのか、費用はどのようになるのか？その点が不安。情報もどのように得ればよいのか？ (家族)</p> <p>今までは、母のことも、家のことも全て妻に任せていた訳だが、これから先は、私が全てやらなければならない。母の面倒を何とかしなければ。我々の生活もこの先そうなるのか？進行状態でどう変化するのか、不安でいっぱい。(家族)</p> <p>現在は、1人で銀行やスポーツ施設など行くことは大丈夫である。ただ、同居の私の母に対しての暴言はひどい。一緒に置くのも悩んでいる。母は認知症ではないが腰や足が悪いので、この先を考えると、先が見えないので不安である。(再掲)(家族)</p> <p>少し落ち着いたら、地域のサービスや支援なども考える。先日、家族の留守中にフライパンに火をつけたまま消し忘れてらしく、近所の方に大変迷惑をかけた。住めなくなると大変だと、本人もそのことを言っていた。(再掲)(家族)</p>
<p>7 本人の希望</p>	<p>健康のことを考えて好きな絵を書いたり楽しいことをして過ごしていきたい。(本人)</p> <p>自宅で生涯を過ごしたいと願っているが、症状が進み自宅で生活が出来なくなった時のことを思うと、不安ではあるが、どうすれば良いかということは考えていない。(本人)</p> <p>1人でいることは良くないと思うので、もっと周りの人達と関わりを持って生活していきたいと思う。(本人)</p> <p>快適なので今のままで良い。(本人)</p> <p>今のまま、のんびり生活できればいい。(本人)</p> <p>家族に迷惑をかけたくないと思う...と共に、主人がいなくなったら、どうしたら良いのか不安。(本人)</p> <p>一人で頑張れるだけ頑張って生活して行きたい。(本人)</p> <p>仕事をしたい。(本人)</p>

区 分	回 答
	<p>自宅に興味のことをして過ごす。家事への参加...運動とリハビリを兼ねて掃除をする。生涯自宅で過ごしたい。できれば施設への入所はしたくない。(本人)</p> <p>人との関わりを持ちながら、この生まれ育った地で過ごしていきたい。(本人)</p> <p>仕事ばかりだったが、家族と過ごす時を大切にしたい。休息を充分にとり、人生を大切にしたい。(本人)</p> <p>このまま、同じような生活をしていきたいと思う反面、言葉にはでないが、又、今とは全然違う生活をしたいという願望がある。どういうことかは、具体的には全く分からない。ただ、そう思うだけ。(本人)</p> <p>今のまま、この地域、この家で過ごしたいと思う。(本人)</p> <p>今のままで充分。今から考える必要もないし、特に不安に思うことがない。デイサービスもお昼までのところを紹介してもらったので、疲れることもない。ヘルパーも、自分にあった人だから、このままの生活でいい。(本人)</p> <p>家で過ごしたいと思っているようだ。(本人・代弁)</p> <p>読書、ゴルフ等の趣味を続けていく。(本人・代弁)</p> <p>まだ、本人が若いので将来的なことは考えられない。日々、淡々と楽しく過ごせるように、なるべく笑って過ごせるようにしたいと思っている。(家族)</p>



## 2 中等度

区 分	回 答
1 本人の心身の 状態	<p>本人は、認知症ということ、絶対に認めたくない状態。(家族)</p> <p>時々、大声を出したりすることがあり、近所に迷惑をかけたたりするので、今の住まい(団地)を追い出されないか心配である。(家族)</p>
2 医療関係	
(1) 早期発見・ 診断	<p>会社の人、産業医と連絡を取ってくれたため、自分で迷わなくて済み、よかった。(助かった。)認知症の初期の段階で、家族が見て、認知症の症状ではと思いあたるのが生じた場合、会社の人に連絡しておく。(家族)</p> <p>早期発見が大切。(家族)</p> <p>診断の見識や見立てが医師によって違う。最初は、こちらもわからないため、内科や精神科を受診した。(家族)</p> <p>薬の副作用が心配でサプリメントを飲んで、自然治癒を望んでいたが、改善が見られず、病院を受診することになった。(家族)</p> <p>病気の進行度合いを言葉だけでなく具体的な数値、画像で説明してほしい。(家族)</p>
(2) 治療	<p>日本にはアルツハイマーの薬が1種類しかないため、薬に選択の余地がない。新しい薬の認可を希望する。(家族)</p> <p>最初の病院で、前例がないし治療法もないと言われ、ショックだったが、今はとにかくこれ以上悪くならないように良い薬があればと思う。(家族)</p> <p>良い薬が出来たら、認可に時間をかけず、早く使えるようにしてほしい。薬代の負担が結構あるので、少なくしてほしい。(家族)</p>
(3) 医療機関等 に対して	<p>患者への気配り・専門知識が欠けており、医師の対応に不満がある。対応の仕方がわかっていないので本人や家族が傷つく。(家族)</p> <p>精神科の医師に「お手伝いすることがない」と言われてしまった。対応の仕方を考えてほしい。(家族)</p> <p>リハビリ等、どのようにしたらよいか等のアドバイスがほしい。(家族)</p> <p>診断が出てからの対処をどうしたらいいのか分からないし、精神的な部分も含めた対応方法もないので不安だ。(家族)</p> <p>リハビリを受けたいので施設を紹介してほしい。(家族)</p> <p>この病気が治らないのは充分分かっているのだが、せめて通院の時に医者から、やさしい言葉で迎えられたり、「お大事に」と言われるとホッとして、又、頑張るって介護しようと思える気持ちになれる。(家族)</p> <p>若年性認知症患者が急患の場合、どの病院に行けばいいのかなど、こちらが対処を悩まなくて良いよう、事前にわかるようにしてほしい。(家族)</p> <p>内科等の病気になった時、精神科の先生と連携して、治療してもらいたい。家族だけで判断して話したりする必要のないよう、病院内で連絡を密</p>

区 分	回 答
	<p>に取ってほしい。(家族)</p>
(4) その他	<p>認知症専門医療機関が地域にない。(家族)          認知症の治療をする医療機関の数が少ない。(家族)。          認知症の治療をする医療機関を増やしてほしい。(家族)          若年性認知症のケアをしてくれる施設や診療所がない。(家族)</p>
3 公的サービス や支援制度	
(1) 介護保険サ ービス	<p>デイサービスに毎日行ければいいと思う。(本人)          デイサービスに続けて行く。(本人)          本人は紙を折る等、単純な作業をすると落ち着くので、そのような、若          年性認知症向けのサービスがあれば、本人も精神的にプラスになれるので          はないか。(家族)          ショートステイの受け入れは、日程をこちらが指定すると、なかなか受          け入れてくれない。ショートステイをさせたくても、受け入れ日が決定す          るまで時間がかかる。(家族)          長期滞在の受け入れを増やしてほしい。(家族)          特養を増設してほしい。(家族)          施設の増設、入所のしやすさを希望する。(家族)          認知症に対応した専門的な介護保険サービスがあるとよい。(家族)          有料老人ホームの介護に関して介護保険内で出来ないだろうか。有料老          人ホームは金銭的余裕のある人しか入所できない。誰でも入れるような施          設がほしい。(家族)          要介護3からいきなり要介護5になりショックを受けている。もっと大          変な方が要介護3なのに、認定のされ方がよく解らない。介護しながら進          行しないようにと頑張っていた。要介護5だと、寝たきりとなり、寝返り          が出来ない、全く歩けないものだと思うのだが。(家族)          介護保険でやってくれるサービスには限界がある。(家族)          ある程度、年齢別、症状別に認知症だけの方のデイサービスがあるとよ          い。(家族)</p>
(2) 障害者自立 支援法やその 他サービス・支 援	<p>要介護5に認定されてから役所に行き、特別障害者手当を申請するた          め、診断書をもらいに行ったところ、頂けなかった。状況を聞いて渡して          いるそうだが(役所ではなるべく渡さないようにと言われているとのこ          と)、どうなっているのか?用紙すらもらえない。(家族)          若年性認知症患者を対象にした専門の作業所みたいな場所があるとよ          い。普通の作業所はやはり障害者対象なので、専門のものがほしい。          (家族)          単純な仕事なら出来るし、本人の気晴らしにもなるので、若年性認知症</p>

区 分	回 答
	専用の作業所のような場所がほしい。(家族)
(3) 相談窓口、 情報収集、家族 会	<p>同じ病気になった方を知らなかったため、不安ばかりで病気のことをなかなか理解できなかった。行政に聞いても絶対に教えてくれない。(家族)</p> <p>若年性の認知症について、どこに相談したらいいのか...区市町村のお知らせ等にも、知る手掛かりというものは見当らない。(家族)</p> <p>区市町村や地域単位の家族会があるとより出席しやすいと思う。(進行してくると家族会が遠いと出席できなくなる。)(家族)</p> <p>同じ病気の人達の情報がほしい。(家族)</p> <p>ひどくなって入所しなくてはいけないような場合、どのようなところに相談して良いのか分からない。(今のところケアマネジャーしかいない。)(家族)</p>
(4) その他	<p>ケアマネジャーのケアプランに基づいたサービスしか受けられない。今は介護者が健康だが、今後、全ての生活面での支援が必要になってくる。細かい家事、急に生活に必要なものに対応してくれるサービスがほしい。(美容師の派遣はできるのか。)(家族)</p> <p>本人が生きがいを感じられるようなシステム作りに行政が取り組んでほしい。(家族)</p> <p>若年性認知症のケアをしてくれる施設や診療所がない。(再掲)(家族)</p> <p>地域に若年性認知症のケアセンターがほしい。(家族)</p> <p>受け入れ態勢を充実させてほしい。(家族)</p>
4 本人の地域生活の継続	<p>職場、近所の人々の理解が必要。(家族)</p> <p>周囲はまだ理解が足りない、病気に対して偏見がある。偏見を持っていることが充分こちらに伝わるので本人や家族が傷つく。(家族)</p> <p>家族は、最初は隠していたが、逆に近所や地域への方に知って頂いた方が、安心して介護できる。家の近くに同じ病気の方とのふれ合いがあると良い。近くに知り合いがいないので、ボランティア(留守番に来ていただける方)で助けてくださると非常に助かる。1時間~2時間位見て頂けると良い。自分が歯医者や美容院に行ける。ただ、本人は、しょっちゅう人が変わるとダメなようだ。(家族)</p>
5 本人の経済状況や就労	<p>病気が進行していくと経済的負担が重くなる。家族が元気なうちは良いが、経済面で将来不安である。(家族)</p> <p>本人が独身の場合、年金の受給年齢に達していないので、経済的に困ることがあるのではないかと思う。(家族)</p>
6 生活や介護の環境	<p>嫌いな言葉「大変ですね」、「頑張ってるね」、好きな言葉「何かお手伝いできることはありませんか?」、「何でも言ってください」。(家族)</p>

区 分	回 答
	<p>周囲はまだ理解が足りない、病気に対して偏見がある。偏見を持っていることが充分こちらに伝わるので本人や家族が傷つく。(再掲)(家族)</p> <p>一人で置いて出かけられない。自分も通院や諸々の雑務がある。家事もしなければいけない。まだ体が動くうちは良いが、今後が不安だ。どうにかしてほしい。この先、自分の健康状況、本人の症状によって、施設に入れざるを得ない。(家族)</p> <p>時々、大声を出したりすることがあり、近所に迷惑をかけたたりするので、今の住まい(団地)を追い出されないか心配である。(再掲)(家族)</p> <p>家族として、今、何をしたいか分からない。子供に面倒をかけたくない。息子が結婚や転職が出来なくなる。(家族)</p> <p>最初は、何でこの人が・・・と思ったけど、今はいいと思うことをひとつずつクリアしていきただけ。今まで、一生懸命やってきたのを知っているから、私もやってあげたい。(家族)</p> <p>身体の障害はないので、要介護度が低いけど、介護する家族は本人の行動などに振り回されている。診察を受けるのを嫌がり、以前は、区市町村の職員が本人の様子を見に来たりすることもストレスになっていた。介護する家族は少しずつだが、疲れを感じてきている。(家族)</p>
7 本人の希望	<p>今のままで過ごしたい。(本人)</p> <p>今のまま暮らせればと思う。(本人)</p> <p>今のまま、家族と一緒に暮らせれば。(本人)</p> <p>なるようになる。旅行や散歩したり、のんびりしたい。(本人)</p> <p>考えたことはない。(本人)</p> <p>デイサービスに毎日行ければいいと思う。(本人)</p> <p>やれる時は自分でやっていきたい。夫婦二人で仲良く生活していきたい。(本人)</p> <p>二人(夫婦)ですずっと一緒にいること。(本人・代弁)</p> <p>1階にいる母を最後まで看取りたい。旅行等も行ってみた。(本人・代弁)</p>

### 3 高度

区 分	回 答
1 本人の心身の状態	<p>家族が外出中で、ヘルパーが入れ替わる際に本人一人になる時間ができるので、本人の不安をコントロールするのが大変なようである。(家族)</p> <p>徘徊がある。感情を抑える薬を飲んでいるため、立てず、言葉が話せず、食事も少なくなっている。(家族)</p> <p>本人は、現在在宅介護中で次のような状況になっているので、入所できる施設がほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行は少しできるが危ない。</li> <li>・食事は少量になってきている。</li> <li>・話す、読む、書くことができない。</li> <li>・パンツ式オムツをしている。</li> <li>・家族(妻子)が誰だかわからない。(家族)</li> </ul> <p>最初の頃は、医師にかかりたがらないので困り、そうこうしているうちに行方不明となる。治療のための医療機関を選ぶのがなかなか難しく、認知症と分かるまで3つ位の病院に通院したが、症状が進むばかりで、10年経った今は、しゃべることや歩くことができず、反応することもほとんどなくなってしまった。(家族)</p> <p>現在、本人が不安という感情を持つことはない。持てないと思う。(家族)</p> <p>歩くのには困らないが、転んだりすると、自分で起き上がることが出来ないし、目を離すと何でも口に入れてしまうため、目が離せない。どうすればいいのか、結論が出ない。(家族)</p> <p>言い出したらきりがない。今は自分がやれることをやる。最近は、服を着ること、考えたりすることが出来ない。(家族)</p> <p>進行があまりに早く、どう対処していいのか分からなかった。様子が変だと気付いた頃は、家から歩いてある市まで行ったらしく、2～3日行方不明になったりして、大変だった。(本人はもうすでに単語しか話せなくなっていた。親が亡くなりボーっとする日が多く、その2～3ヶ月後くらいから様子に変化が出てきた。)(家族)</p>
2 医療関係	
(1) 早期発見・診断	<p>治療のための医療機関を選ぶのがなかなか難しく、認知症と分かるまで3つ位の病院に通院した。このため、認知症と診断されるまで時間がかかり、その間に病気が進行してしまったことが悔まれる。(家族)</p> <p>入院し、検査できる病院が必要なのに、軽度の為、拒否された。(家族)</p> <p>受診を嫌がるので、家の近くの内科の医師でも診て頂けるところがあるといい。(見慣れた人だと顔を歪めない。)(家族)</p> <p>要介護2～3の時に、専門に診てもらえる所があったら良かったのにと</p>

区 分	回 答
	<p>思う... (その頃が一番大変だったと思うから。) (家族)</p>
(2) 治療	<p>薬(アリセプト)の効き目が悪く、飲んでも病状はどんどん進行するので、投薬治療をやめてしまった。根治する薬が早く出来てほしい。(家族)</p> <p>認知症は早期に発見したとしても、治るわけではないので、特效薬が出てほしいものだ。(家族)</p> <p>先生に細かいところまでアドバイスを受けた方がいい。(家族)</p> <p>本人が自分の状況、周りの環境を受け入れたりするためのカウンセリングがあればいいと思う。(家族)</p> <p>本人は病院に行き、治療を受けるということに物凄く抵抗するので、病院以外のところ(自宅など)で、治療、カウンセリングが受けられたら良いと思う。(家族)。</p>
(3) 医療機関等 に対して	<p>まだ認知症と診断される前に、1ヶ月程検査入院したが、その時に看護師が全て日常的なことをやってくれたので、退院後、日常生活(入浴等)のほとんどができなくなってしまった。時間の制約等があるのはわかるが、退院後、非常に困った。(家族)</p> <p>病院、医師が介護保険制度を知らなすぎる。相談できる体制が必要。(家族)</p>
(4) その他	-
3 公的サービス や支援制度	
(1) 介護保険サービス	<p>施設に入れたらとの勧めがあっても、施設に先生がいないのでそれが難しい。(家族)</p> <p>ピック病対応の施設(認知症とは言われていない。)がない。(家族)</p> <p>現在、要介護3と認定されているが、実際、一人では何もできない。本人の実際の状態と介護度のギャップがかなりあり、介護度3で利用できるサービス量では全く間に合わず、実費を払ってヘルパーに来てもらっている。予算の関係で要介護3になっているような気がしてならないので、なんとかしてほしい。(家族)</p> <p>老健でリハビリして過ごしたいと入所を希望し探したが、薬の管理がむずかしいと受け入れてくれなかった。軽度の認知症患者(歩行OKだった。)のための病棟がない。住んでいる区は受入れのできる病棟や入所できる施設がないので、他県で探している。若い方、特に60代が入所できる長期受け入れ(入院とか3か月)が可能な施設、病院、老健がほしい。(家族)</p> <p>デイサービスへ行っているのですが、その他のサービスを介護保険で受けられない。デイサービスが休みの時は、ホームヘルパーなどのサービスを受けられると良い。(家族)</p>

区 分	回 答
	<p>年齢が若いということと身体が丈夫で障害がないということで、要介護度が低く認定されてしまっている。しかし、実際は、衣服の着脱も一人でできず、急用で、家族がほんの数分家を空けるのも不安な状態だ。要介護度がもう少し高くなれば、受けられるサービス等も増えると思う。(家族)</p> <p>本人はほとんど歩けないため、自分一人では外出時の介助ができないときもある。最近では預けたいと思うときもあるがかわいそうでできない。家族でいるとホッとしているようだし、経済的にとても無理。高齢の親もいるため、先のことを考えると自信がない。食事はデイサービスを利用しているので大変感謝している。デイサービスを週7日利用できるともっと助かるが、今のところ無理のようだ。介護している自分が倒れたらどうなるのか、先の事が心配。何か特效薬でもできないものだろうか？反応がなくても、嫌な時は、顔を歪めることくらいはする。ニコニコ笑顔が少しでもあれば、介護していても助かるし、頑張る力が出てくるのだが……。 (家族)</p> <p>地域にデイサービスがあることがあまり知られていない。費用のことをきちんと表示して、そんなに負担しなくても利用できるということを広報等でアピールしていくことが必要。(家族)</p> <p>今後、寝たきりになった場合、すぐに入所できる場所があるのか、その辺りのことが分からない。デイサービスを6時間から8時間位にしてほしい。(介護者が仕事できない。)ボラバイト等をうまく活用して人を増やして可能にしてほしい。(家族)</p> <p>介護サービスにしても、他のサービスにしても、費用がかかるので、そのところを考えてほしい。(家族)</p> <p>ケアマネジャーのケアプラン等も、家庭全体のことを広く考えて、1つの部分だけ良くなるのではなく、全体のバランスを考えて立ててほしい。(家族)</p>
(2) 障害者自立支援法やその他サービス・支援	<p>多くの人から、年金を行政に申請するのに、煩雑な手続きがとても多いと聞く。ただでさえ忙しいのだから、もっと手続きしやすい環境にしてほしい。(家族)</p>
(3) 相談窓口、情報収集、家族会	<p>在宅介護に限界を感じる。紹介先相談窓口のケアマネだけでは不服。(家族)</p> <p>公的な支援とはいっても、どんな方法があるのかわからない。(家族)</p> <p>若年性認知症という病気を、もっとメディアに取り上げてほしい。(自分もずっと更年期障害だと思っていた。)(家族)</p> <p>地域にデイサービスがあることがあまり知られていない。費用のことをきちんと表示して、そんなに負担しなくても利用できるということを広報</p>

区 分	回 答
	<p>等でアピールしていくことが必要。(再掲)(家族)</p> <p>家族が閉鎖的にならず、もっと本人の病気の事をオープンにして、助けてもらえる人には助けてもらおう。家族会等に出て、相談することが必要だと思う。(家族)</p>
(4) その他	-
4 本人の地域生活の継続	<p>本人の症状、介護者の健康によるが、現状を維持したい。できる限り、生まれ育ったこの地で、過ごさせたい。(家族)</p> <p>本人の病気の事を恥ずかしい等と思わずに、周囲に伝えていく。徘徊等の場合は、すぐに連絡がもらえるようになる。本人が嫌がらないようにして、本人の住所、氏名を書いたものを身に付けさせておく。(家族)</p>
5 本人の経済状況や就労	<p>将来が不安。20年先まで考えると、経済的に不安がある。保障があるといい。若いので先が見えない。(家族)</p> <p>病気により、収入が減るのに、治療費がかかる。50歳位の働き盛りで、子供の教育費にお金のかかる時の発症は家計の負担が非常に大きい。公的に利用できる制度を、家族がもっと知る努力をし、利用できるものは全て利用していくべきだと思う。(家族)</p>
6 生活や介護の環境	<p>認知症と診断されてからは、覚悟を決めているので、これからの不安を考えたりはしない。今を生活するのが精一杯。(家族)</p> <p>初めは何故...?と思ったけど、今はおとなしいのでやれることはやっている。(家族)</p> <p>本人の行動、言動等を否定せず、うまく接していくこと。同居家族があたたかく見守っていくこと。(家族)</p> <p>介護している側へ「一言」声をかけてくれると、介護している側がどれだけ精神的に楽になるかということまわりの人に知ってほしい。(家族)</p> <p>本人と同居の親の両方の介護をしている。団地の2Fに住んでおり、本人がほとんど歩けないので、1Fに下りる際、二人がかりでないと無理になってきた。他県に住む子どもに手伝ってもらわざるを得ないときもあるが、何とか迷惑はかけたくない。せめて、1Fに住宅を、と思っている。(家族)</p>
7 本人の希望	<p>本人は、過去や未来について考えることはできない。(家族)</p>



## VI 資料編

--	--	--	--	--

秘 密

## 東京都若年性認知症生活実態調査

# I. 家族または本人票

①調査員が訪問した際、ご家族の方が在宅で、回答協力をいただける場合は、ご家族にうかがいます。⇒「I-1」を使用ください。

②ご家族がいらっしゃらない場合、ないし回答協力が得られない場合は、ご本人におうかがいます⇒「I-2」を使用ください。

本調査は、以下の4つのパーツから構成されています。

### I. 家族または本人票

- 家族に回答いただきた場合は「I-1」
  - 本人に回答いただきた場合は「I-2」
- を用いてヒアリングを実施してください。  
(うかがう内容は全く同じものです)

### II. 家族票

### III. 本人票

### IV. 調査員票

# 1-1. 家族が回答者の場合

まず、あなたご自身について、おうかがいします。

問1 あなたは、ご本人とどんなご関係ですか。ご本人からみた続柄でお答えください。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 配偶者(妻・夫)	4. あなたや配偶者の親
2. 子ども	5. 兄弟・姉妹
3. 孫	6. その他( )

問2 あなたは、現在、ご本人と一緒に住んでいますか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 一緒に住んでいる	2. 一緒に住んでいない
-------------	--------------

ここからは、ご本人の属性について、おうかがいします。

問3 ご本人の性別、現在の年齢についてお答えください。

①性別(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

②年齢(平成20年1月1日現在)

( ) 歳	生年月日(明・大・昭 年 月 日)
-------	-------------------

問4 ご本人の自宅はどのようなお住まいですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 持ち家(戸建て)	5. 有料老人ホーム、ケアハウス、啓蒙老人ホーム
2. 持ち家(マンションなどの集合住宅)	6. 自宅はない
3. 賃貸住宅(戸建て)	7. その他( )
4. 賃貸住宅(マンションなどの集合住宅)	

ここからは、同居されている方や主な介護者について、おうかがいします。

問5 ご本人は、現在どなたと一緒に住んでいますか。ご本人からみた続柄でお答えください。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 配偶者(妻・夫)	5. 兄弟・姉妹
2. 子ども	6. その他の家族( )
3. 孫	7. 一緒に住んでいる家族はいない
4. あなたや配偶者の親	

問6 主に介護している方は、ご本人からみて、どのような関係の方ですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 配偶者(夫、妻)	7. 近所の人
2. 子どもやその配偶者	8. 友人・知人
3. 孫やその配偶者	9. ホームヘルパー
4. 兄弟・姉妹	10. その他( )
5. あなたや配偶者の親	11. 介護している人はいない
6. その他の親族	

ここからは、認知症に気づいた時期や通院状況について、おうかがいします。

問7 認知症ではないかと周囲が気づいた頃のご本人の年齢についてお答えください。

( ) 歳	気づいた時期(平成 年 月 ごろ)
-------	-------------------

問8 始めて認知症の診断や治療のために通院はじめてから、何年経ちましたか。

( ) 年経った	通院開始時期(平成 年 月 ごろから)
----------	---------------------

問9 その医療機関で「認知症」との診断結果が出てから何年経ちましたか。(1、2いずれか1つに○をつけてください。1に回答した場合は( )内に年数を記載してください)

1. ( ) 年経った	診断を受けた日(平成 年 月 ごろ)
2. 認知症の診断結果は出ていない(「診断結果が出る前に通院をやめた」も含む)	

問10 ご本人は、現在、認知症以外の疾患の治療のために通院していますか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 通院している	3. 分からない
2. 通院していない	

ここからは、地域のサービスや支援制度などについて、おうかがいします。

問11 お住まいの地域で、ご本人が知っているものがありますか。(①～③それぞれについて、あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

①地域包括支援センター

1. 既に利用している
2. 聞いたことはあるが、連絡先・所在地などを知らない
3. 聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない
4. 全く知らない
5. 分からない

②民生委員

1. 既に相談している
2. 聞いたことはあるが、会ったことがない
3. 聞いたこともあり、会ったことがあるが、相談していない
4. 全く知らない
5. 分からない

③家族会

1. 既に利用している
2. 聞いたことはあるが、連絡先・所在地などを知らない
3. 聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない
4. 全く知らない
5. 分からない

問12 ご本人が現在利用している公的なサービスや支援制度はありますか。(①～③それぞれについて、あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

①介護保険制度によるサービス・支援

1. 訪問介護（ホームヘルプサービス）	6. 認知症対応型通所介護（デイサービス）
2. 通所介護（デイサービス）	7. その他介護保険によるサービス・支援（ ）
3. 短期入所生活介護（福祉系ショートステイ）	8. 介護保険制度によるサービス・支援を利用していない
4. 小規模多機能型居宅介護	
5. 夜間対応型訪問介護	

①-1 ①で「1. ～7. を選択した」介護保険を利用している方のみ

要介護状態区分等をお答えください。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 要支援1	5. 要介護3
2. 要支援2	6. 要介護4
3. 要介護1	7. 要介護5
4. 要介護2	

①-2 ①で「8. 介護保険制度によるサービス・支援を利用していない」と回答した方のみ

利用していない理由は何ですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 知らなかった	4. 申請したが、認定されなかった
2. 使い方が分からない	5. その他（ ）
3. 気に入らない	

②障害者自立支援法によるサービス・支援

1. 居宅介護（ホームヘルプ）	7. 就労継続支援
2. 行動援護	8. その他障害者自立支援法によるサービス・支援（ ）
3. 短期入所（ショートステイ）	9. 障害者自立支援法によるサービス・支援を利用していない
4. 生活介護	
5. 自立訓練	
6. 就労移行支援	

②-1 ②で「9. 障害者自立支援法によるサービス・支援を利用していない」と回答した方のみ

利用していない理由は何ですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 知らなかった	4. 申請したが、認定されなかった
2. 使い方が分からない	5. その他（ ）
3. 気に入らない	

③その他サービス・支援

1. 精神障害者保健福祉手帳	5. その他サービス・支援（ ）
2. 身体障害者手帳	6. その他サービス・支援を利用していない
3. 成年後見制度	
4. 地域福祉権利擁護事業	

③-1 (3)で「6. その他サービス・支援を利用していない」と回答した方のみ」  
 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 知らなかった	4. 申請したが、認定されなかった
2. 使い方が分からない	5. その他 ( )
3. 気に入らない	

## 2. ご本人の生活を支える収入や仕事について

ここからは、ご本人の生活を支える収入や仕事について、おうかがいします。

問13 ご本人の家(世帯)の生計を最も支えている主な収入源は何ですか。(あてはまるものの番号2つまで○をつけてください)

1. ご本人の給与収入(パート等も含む)・自営収入	5. ご本人の配偶者(妻または夫)の収入
2. ご本人の老齢(退職)年金	6. その他ご本人の家族の収入
3. ご本人の障害基礎年金、障害厚生年金、障害手当金	7. その他の親族等の収入
4. 受給している生活保護費	8. その他の収入( )
	9. よくわからない

問14 ご本人は、現在、働いていますか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 勤め人として働いている⇒問14-2、問14-3へ
2. 自営業である(自由業も含む)⇒問14-2、問14-3へ
3. 休職中⇒問14-2、問14-3へ
4. 働いていない⇒問14-1へ

問14-1 (問14で「4. 働いていない」と回答した方のみ)

ご本人は、認知症になる前は仕事をしていましたか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 仕事をしていた
2. 認知症になる前から仕事はしていません

問14-2 (問14で「1. 勤め人として働いている」「2. 自営業である(自由業も含む)」「3. 休職中」と回答した方のみ)

ご本人の収入は、認知症になってから、変わりましたか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 特に変わりはない	3. 収入が増えた
2. 収入は減った	4. 分からない

問14-3 (問14で「1. 勤め人として働いている」「2. 自営業である(自由業も含む)」「3. 休職中」と回答した方のみ)

ご本人の仕事は、認知症になってから変わりましたか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 特に何が変わりはない	5. 転職をした
2. 仕事の内容は変わらないが、ポスト(役職)は変わった	6. 分からない
3. 仕事の内容が変わった	

ここからは、ご本人の家の支出の状況について、おうかがいします。

問15 ご本人の家(世帯)の毎月の支出額(生活費・治療費・その他)は、認知症になってから変わりましたか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 特に変わりはない	3. 支出は減った
2. 支出が増えた	4. 分からない

問16 ご本人は現在、車や住宅などのローンがありますか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 車のローン	5. ローンはない
2. 住宅のローン	6. 分からない
3. 教育ローン	
4. その他のローン( )	

# 1-2. ご本人が回答者の場合

1-1を回答済みの場合は、「II 家族票」へお進みください。

まず あなたの属性について、おうかがいします。

問1 あなたの性別、現在の年齢についてお答えください。

①性別 (あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

②年齢 (平成20年1月1日現在)

( ) 歳	生年月日 (明・大・昭 年 月 日)
-------	--------------------

問2 あなたの自宅はどのようなお住まいですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 持ち家 (戸建て)	5. 有料老人ホーム、ケアハウス、仮費老人ホーム
2. 持ち家 (マンションなどの集合住宅)	6. 自宅はない
3. 賃貸住宅 (戸建て)	7. その他 ( )
4. 賃貸住宅 (マンションなどの集合住宅)	

ここからは、同居者やあなたの生活を支えている方について、おうかがいします。

問3 あなたは、現在どなたと一緒に住んでいますか。あなたからみた続柄でお答えください。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 配偶者 (妻・夫)	5. 兄弟・姉妹
2. 子ども	6. その他の家族 ( )
3. 孫	7. 一緒に住んでいる家族はいない
4. あなたや配偶者の親	

問4 主にあなたの日常生活を支えている方は、どなたですか。あなたからみた続柄でお答えください。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 配偶者 (夫、妻)	7. 近所の人
2. 子どもやその配偶者	8. 友人・知人
3. 孫やその配偶者	9. ホームヘルパー
4. 兄弟・姉妹	10. その他 ( )
5. あなたや配偶者の親	11. 介護している人はいない
6. その他の親族	

ここからは、認知症に気づいた時期や通院状況について、おうかがいします。

問5 認知症ではないかと気づいた頃のあなたの年齢についてお答えください。

( ) 歳	気づいた時期 (平成 年 月 ごろ)
-------	--------------------

問6 はじめて認知症の診断や治療のために通院はじめてから、何年経ちましたか。

1. ( ) 年経った	通院開始時期 (平成 年 月 ごろから)
-------------	----------------------

問7 その医療機関で「認知症」との診断結果が出てから何年経ちましたか。(1、2いずれか1つに○をつけてください。1に回答した場合は( )内に年数を記載してください)

1. ( ) 年経った	診断を受けた日 (平成 年 月 ごろ)
2. 認知症の診断結果は出ていない (「診断結果が出る前に通院をやめた」も含む)	

問8 あなたは、現在、認知症以外の疾患の治療のために通院していますか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 通院している	3. 分からない
2. 通院していない	

ここからは、地域のサービスや支援制度などについて、おろかがいします。

問9 あなたの住まいの地域で、知っているものがありますか。(①～③それぞれについて、あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

①地域包括支援センター

1. 既に利用している
2. 聞いたことはあるが、連絡先・所在地などを知らない
3. 聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない
4. 全く知らない

②民生委員

1. 既に相談している
2. 聞いたことはあるが、会ったことがない
3. 聞いたこともあり、会ったことがあるが、相談していない
4. 全く知らない

③家族会

1. 既に利用している
2. 聞いたことはあるが、連絡先・所在地などを知らない
3. 聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない
4. 全く知らない

問10 あなたが現在利用している公的なサービスや支援制度はありますか。(①～③それぞれについて、あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

①介護保険制度によるサービス・支援

1. 訪問介護（ホームヘルプサービス）	6. 認知症対応型通所介護（デイサービス）
2. 通所介護（デイサービス）	7. その他介護保険によるサービス・支援（ ）
3. 短期入所生活介護（福祉系ショートステイ）	8. 介護保険制度によるサービス・支援を利用していない
4. 小規模多機能型居宅介護	
5. 夜間対応型訪問介護	

①-1 (①で「1. ～7. を選択した」介護保険を利用している方のみ)

要介護状態区分等をお答えください。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 要支援1	5. 要介護3
2. 要支援2	6. 要介護4
3. 要介護1	7. 要介護5
4. 要介護2	

①-2 (①で「8. 介護保険制度によるサービス・支援を利用していない」と回答した方のみ)

利用していない理由は何ですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 知らなかった	4. 申請したが、認定されなかった
2. 使い方が分からない	5. その他（ ）
3. 気に入らない	

②障害者自立支援法によるサービス・支援

1. 居宅介護（ホームヘルプ）	7. 就労継続支援
2. 行動援護	8. その他障害者自立支援法によるサービス・支援（ ）
3. 短期入所（ショートステイ）	9. 障害者自立支援法によるサービス・支援を利用していない
4. 生活介護	
5. 自立訓練	
6. 就労移行支援	

②-1 (②で「9. 障害者自立支援法によるサービス・支援を利用していない」と回答した方のみ)

利用していない理由は何ですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 知らなかった	4. 申請したが、認定されなかった
2. 使い方が分からない	5. その他（ ）
3. 気に入らない	

③その他サービス・支援

1. 精神障害者保健福祉手帳	5. その他サービス・支援（ ）
2. 身体障害者手帳	6. その他サービス・支援を利用していない
3. 成年後見制度	
4. 地域福祉権利擁護事業	

③-1 (③)で「6. その他サービス・支援を利用していない」と回答した方のみ」  
 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 知らなかった	4. 申請したが、認定されなかった
2. 使い方が分からない	5. その他 ( )
3. 気に入らない	

## 2. あなたの生活を支える収入や仕事について

ここからは、あなたの生活を支える収入や仕事について、おうかがいします。

問11 あなたの家(世帯)の生計を最も支えている主な収入源は何ですか。(あてはまるものの番号2つまで○をつけてください)

1. あなたの給与収入(パート等も含む)・営業収入	5. あなたの配偶者(妻または夫)の収入
2. あなたの老齢(退職)年金	6. その他あなたの家族の収入
3. あなたの障害基礎年金、障害厚生年金、障害手当金	7. その他の親族等の収入
4. 受給している生活保護費	8. その他の収入 ( )
	9. よくわからない

問12 あなたは、現在、働いていますか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 勤め人として働いている⇒問12-2、問12-3へ
2. 自営業である(自由業も含む)⇒問12-2、問12-3へ
3. 休職中⇒問12-2、問12-3へ
4. 働いていない⇒問12-1へ

問12-1 (問12で「4. 働いていない」と回答した方のみ)

あなたは認知症になる前は仕事をしていたらっしゃいましたか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 仕事をしていた
2. 認知症になる前から仕事はしていません

問12-2 (問12で「1. 勤め人として働いている」「2. 自営業である(自由業も含む)」「3. 休職中」と回答した方のみ)

あなたの収入は、認知症になってから、変わりましたか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 特に変更はない	3. 収入が増えた
2. 収入は減った	4. 分からない

問12-3 (問12で「1. 勤め人として働いている」「2. 自営業である(自由業も含む)」「3. 休職中」と回答した方のみ)

あなたの仕事は、認知症になってから変わりましたか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 特に何が変わりはない	5. 転職をした
2. 仕事の内容は変わらないが、ポスト(役職)は変わった	6. 分からない
3. 仕事の内容が変わった	

ここからは、あなたの家の支出状況について、おうかがいします。

問13 あなたの家(世帯)の毎月の支出額(生活費・治療費・その他)は、認知症になってから変わりましたか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 特に変更はない	3. 支出は減った
2. 支出が増えた	4. 分からない

問14 あなたは現在、車や住宅などのローンがありますか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 車のローン	5. ローンはない
2. 住宅のローン	6. 分からない
3. 教育ローン	
4. その他のローン ( )	



# II 家族票

家族票はご家族の方におうかがいします。いらっしやらなければ「本人票」へお進みください。

## 1. ご本人の生活環境について

まず、ご家族や地域の方との関わりについて、おうかがいします。

問1 あなたは、ご本人が認知症であることを、どなたに打ち明けていますか。ご本人からみただ観柄でお答えください。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 同居家族	8. 行政の担当者
2. 同居家族以外の親族	9. 病院・診療所
3. 友人、知人	10. ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者
4. 近所の人	11. その他(家族会など)
5. 職場の人	12. 打ち明けている人はいない
6. 地域包括支援センター	
7. 民生委員	

問2 ご本人はご近所の方と、どのようなお付き合いをしていますか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

- 外出時に留守番してくれる等本人や家族を支援してくれたりしている
- 互いに相談したり、家を行き来したりするなどの交流がある
- 日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている
- あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない
- 付き合いは全くしていない

ここからは、ご本人の外出の状況について、おうかがいします。

問3 ご本人は、ふだん、どのくらいの頻度で外出していますか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

- ほとんど毎日外出する
- ときどき外出する
- ほとんど外出しない

問4

ご本人の外出の主な目的はどれですか。徒歩で行くところ、車や公共交通機関等を利用していくところ別にお答えください。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

＜徒歩圏＞	＜車や公共交通機関等を利用＞
1. 通院	11. 通院
2. 介護施設などへの通所	12. 介護施設などへの通所
3. 買い物	13. 買い物
4. 知人・親戚などを訪問	14. 知人・親戚などを訪問
5. 散歩	15. 文化・学習活動や運動
6. 文化・学習活動や運動	16. 自治会・ボランティア活動等の社会活動
7. 自治会・ボランティア活動等の社会活動	17. 仕事
8. 仕事	18. 郵便局・銀行や役所など
9. 郵便局・銀行や役所など	19. その他( )
10. その他( )	

問5 ご本人が外出する際の付き添いの程度はどれですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

- ほとんど1人で外出
- 本人の体調や外出先によっては付き添い付で外出
- ほとんど付き添いが必要

## 2. 認知症の早期発見・早期診断の状況について

ここからは、ご本人の認知症の症状や通院の状況について、おうかがいします。

問6 現在、ご本人の認知症の行動・心理症状の特徴的症狀のうち、見られるのは次のどれですか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 幻視・幻聴	8. 火の不始末
2. 妄想	9. 不潔行為
3. 昼夜逆転	10. 異食行為
4. 暴言	11. 性的問題行動
5. 暴行	12. うつ状態
6. 介護への抵抗	13. その他( )
7. 徘徊	14. 特徴的症狀は見られない

問7 現在、認知症の診断や治療のために診療所や病院にどの程度通院していますか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 定期的に通院している (→通院頻度： \_\_\_\_ヶ月に \_\_\_\_回)

2. 症状の悪いとき、介護保険の認定時など、必要に応じて通院している

3. 以前は通院していたが、現在は通院していない

ここからは、認知症に気づいたきっかけについて、おうかがいします。

問8 最初に相談・受診する直接のきっかけとなったことは次のうちのどれですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 家族(あなたを含め)が気づいたから

2. ご本人の訴えから

3. 同居していない親族の話から

4. 本人の勤め先から連絡があった

5. 近隣の方との話から

6. 民生委員に勧められた

7. ケアマネジャー、ホームヘルパーなど、民間の介護サービス業者に勧められた

8. 地域包括支援センターで勧められた

9. その他( )

問9 あなたが最初に気づいたご本人の変化や、これまでを振り返り返って認知症の初期の症状・できごとだったと思うことは、具体的にどのようなことですか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

<日常生活で>

1. 新しいことを覚えられなかったり、少し前のことを忘れるようになった

2. 電話の応対ができなくなった

3. 同じ料理を作るようになった

4. 同じものを買ってくるようになった

5. 買い物で料金が払えなくなった

6. 考えるスピードが遅くなったり、同時に2つ以上のことを考えられなくなった

7. 過食など、食行動に異常がみられるようになった

8. 暴言をはいたり、暴力行為がみられるようになった

9. 親戚や友人などが、様子がおかしいと連絡があった  
(具体的な内容： )

<勤め先で>

10. 電話の応対ができなくなった

11. 伝票など、書類の処理ができなくなった。計算ができなくなった

12. 打合せなどに来ないことがあった

13. 本人が対応して、取引先などから苦情がきた

14. その他、勤務先から、様子がおかしいと連絡があった  
(具体的な内容： )

<その他>

15. その他 ( )

問10 あなたは、ご本人に認知症の症状が出たと気づいた頃に、主に相談した相手は誰ですか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 同居家族

2. 同居家族以外の親族

3. 友人、知人

4. 近所の人

5. 職場の人

6. 地域包括支援センター

7. 民生委員

8. 行政の担当者

9. 病院・診療所

10. ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者

11. その他(家族会など)

12. 誰にも相談していない

問11 認知症の診断や治療のために診療所や病院に通院するきっかけとなったことは何ですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. ご本人が判断して

2. ご家族の勧めで

3. 相談したかかりつけ医の勧めで

4. その他、相談した機関や人の勧めで(具体的に： )

5. その他 ( )

ここからは、認知症の診断や治療で困ったことや要望について、おうかがいします。

問12 認知症の診断や治療をしてもらうまでに、困ったことはありますか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 認知症の診断・治療をする医療機関を見つけることが難しかった

2. 認知症の診断・治療をする医療機関の予約を取るものが難しかった

3. 本人が受診を嫌がった

4. 家族が診てもらおうことを嫌がった

5. その他 ( )

6. 特に困ったことはない

問13 認知症の診断・治療にあたって必要だと思うことや要望はありますか。(自由にご回答ください)

(自由にご回答ください)

### 3. 家族で介護する上での不安や課題について

ここからは、あなたが介護する上での相談相手や不安について、おうかがいします。

問14 毎日の介護のことで、あなたがよく相談している人は誰ですか。(あてはまるもの番号すべてに○をつけてください)

1. 同居家族	8. 行政の担当者
2. 同居家族以外の親族	9. 病院・診療所
3. 友人、知人	10. ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者
4. 近所の人	11. その他(家族会など)
5. 職場の人	12. 相談している人はいない
6. 地域包括支援センター	
7. 民生委員	

問15 介護している中で、不安に感じていることは何ですか。(あてはまるもの番号すべてに○をつけてください)

1. 介護しているあなたの健康や体力が厳しくなってきた
2. 介護にかかる費用が大きくなり、家計が苦しくなってきた
3. 介護しているあなたが介護にかかりきりで、社会から孤立してきた
4. 介護生活がこれからのくらくらい続くのか、先が見えない
5. ご本人の認知症の進行が速くなってきているのではないかと不安になってきた
6. 介護しているあなたの精神的なストレスや不安が強くなってきた
7. 家庭内の人間関係がうまくいかない
8. その他 ( )
9. 不安に感じていることはない

ここからは、ご本人が困っていることについて、おうかがいします。

問16 ご本人が今の地域で住み続けていく上で、困っていることはありますか。(困っていること  
の主な理由の番号1つに○をつけてください)

1. 家賃や住宅ローンなど住宅に関する経済的負担が重い
2. 近所の人などの無理解や偏見がある
3. 生活するのに不便(具体的に )
4. 福祉施策が充実していない
5. 親や子ども、親族、知人などの知り合いが近くにいない
6. その他 ( )
7. 困っていることはない

ここからは、ご本人のお子さんを感じている不安について、おうかがいします。

問17 ご本人に未成年のお子さんはいらっしゃいますか。(あてはまるもの番号1つに○をつけてください)

1. いる	2. いない
-------	--------

問18 (問17で1に○をつけた、未成年のお子さんがある方のみ)

そのお子さんが感じている不安はどれですか。(あてはまるもの番号すべてに○をつけてください)

1. 親が認知症であることを、子どもが受け入れられない・認められない
2. 気分が沈んでおり、外出したり、人と交流する気持ちが出ないようだ
3. 自分の学費など進学についての不安を持っているようだ
4. 結婚について不安を持っているようだ
5. 親の介護に負担を感じているようだ
6. その他 ( )
7. 不安に感じていることはないようだ

その他、ご意見やご希望について、おうかがいします。

問19 その他、ご意見やご希望をお聞かせください。(自由にご回答ください)

--

# 本人票

まず、あなたが楽しみに感じていること、今後やりたいことについて、おうかがいします。

問1 あなたは現在の楽しみややりがいを感じていることはどんなことですか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. スポーツや運動など、身体を動かすこと
2. 読書、美術鑑賞など、文化・教養に関すること
3. 旅行をすること
4. 友人や仲間と会うこと
5. 仕事をすること(地域や社会で役割を持つてはたらくこと。報酬の有無は問わない)
6. 家でのんびり過ごす
7. その他( )
8. 特に趣味や楽しみはない

問2 あなたが今後やりたいこと(現在やっていることを、続ける場合も含みます)はありますか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. スポーツをするなど、運動など身体を動かすこと
2. 読書、美術鑑賞など、文化・教養に関すること
3. 旅行をすること
4. 友人や仲間と会うこと
5. 仕事をすること(地域や社会で役割を持つてはたらくこと。報酬の有無は問わない)
6. 家でのんびり過ごす
7. その他( )
8. 特に趣味や楽しみはない

ここからは、あなたが不安に感じていることについて、おうかがいします。

問3 あなたは家の中で、火災、事故、訪問販売など不安に感じていることはありますか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. ガスや火をきちんと消しているか不安になる
2. 外出するときに、ドアや窓のかぎをきちんと閉めているか不安になる
3. 電話や押し売りなどで、だまされて何か買ってしまわないか不安になる
4. トイレの場所など、家の中の様子かわからなくなる
5. その他( )
6. 特に不安に感じていることはない

問4 あなたは家の外へ出かけるとき、不安に感じることはありませんか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 人と接するのがおっくうに感じる
2. 小銭の計算などお金がうまく使えない
3. 買い物で何をしようとしているか覚えられない
4. 途中でどこにいるか、どこに行こうとしていたのか分からなくなる
5. 切符を買うなど交通機関の利用方法がわからなくなる
6. 家まで帰ることができなくなる
7. その他( )
8. 特に不安に感じていることはない

問5 あなたは将来のことについて、なにか不安はありますか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 自分の病気や介護について
2. 配偶者や家族の病気や介護について
3. 経済的なこと
4. 子ども、孫の将来
5. 何らかの被害に遭ったり、犯罪に巻き込まれたりすること
6. 借家の契約更新や持ち家の維持管理など、住宅に関すること
7. 買い物での困りごとや交通手段など、外出に関すること
8. その他、不安に思っていること( )
9. 特に不安はない

問6 あなたは、生活する上で不安に感じたとき、よく相談する相手はいますか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

- |               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| 1. 同居家族       | 8. 行政の担当者                   |
| 2. 同居家族以外の親族  | 9. 病院・診療所                   |
| 3. 友人、知人      | 10. ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者 |
| 4. 近所の人       | 11. その他(家族会など)              |
| 5. 職場の人       | 12. 相談する相手はいない              |
| 6. 地域包括支援センター |                             |
| 7. 民生委員       |                             |

ここからは、ご家族や近所の方との関わりについて、おうかがいします。

問7 あなたが認知症であることを打ち明けている人は誰ですか。(あてはまるものの番号すべてに○をつけてください)

1. 同居家族	8. 行政の担当者
2. 同居家族以外の親族	9. 病院・診療所
3. 友人、知人	10. ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者
4. 近所の人	11. その他(家族会など)
5. 職場の人	12. 打ち明けている人はいない
6. 地域包括支援センター	
7. 民生委員	

問8 あなたはご近所の方と、どのようなお付き合いをしていますか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 外出時に留守番をしてくれる等本人や家族を支援してくれたりしている
2. 互いに相談したり、家を行き来したりするなどの交流がある
3. 日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている
4. あいさつ程度の最小限の付き合いしかない
5. 付き合いは全くしていない

ここからは、利用しているサービスや支援制度について、おうかがいします。

問9 (「I-1」の間12、「I-2」の間10で、利用していると回答したサービスのみ)

あなたは、現在利用している公的なサービスや支援制度を気に入っていますか。それぞれ、「1. 気に入っている」「2. 気に入らない」のどちらかの番号に○をつけてください。

<介護保険制度によるサービス・支援>	回答欄	
	気に入っている	気に入らない
(1) 訪問介護(ホームヘルプサービス)	1	2
(2) 通所介護(デイサービス)	1	2
(3) 短期入所生活介護(福祉系ショートケア)	1	2
(4) 小規模多機能型居宅介護	1	2
(5) 夜間対応型訪問介護	1	2
(6) 認知症対応型通所介護(デイサービス)	1	2
(7) その他介護保険によるサービス・支援 ( )	1	2

<障害者自立支援法によるサービス・支援>	回答欄	
	気に入っている	気に入らない
(8) 居宅介護(ホームヘルプ)	1	2
(9) 行動援護	1	2
(10) 短期入所(ショートステイ)	1	2
(11) 生活介護	1	2
(12) 自立訓練	1	2
(13) 就労移行支援	1	2
(14) 就労継続支援	1	2
(15) その他障害者自立支援法によるサービス・支援 ( )	1	2

<その他サービス・支援>	回答欄	
	気に入っている	気に入らない
(16) 精神障害者保健福祉手帳	1	2
(17) 身体障害者手帳	1	2
(18) 成年後見制度	1	2
(19) 地域福祉権利擁護事業	1	2
(20) その他サービス・支援 ( )	1	2

ここからは、現在住んでいる地域に住み続けたいかについて、おうかがいします。

問10 あなたは、現在住んでいる地域に住み続けたいですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. ぜひ、住み続けたい ⇒問10-1へ	3. 機会があれば、他の地域に住み替えたい ⇒問10-2へ
2. できれば住み続けたい ⇒問10-1へ	4. ぜひとも他の地域に住み替えたい ⇒問10-2へ

問10-1 (問10で「1. ぜひ住み続けたい」「2. できれば住み続けたい」と回答した方のみ)

現在住んでいる地域に住み続けたい主な理由は何ですか。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 子どもの頃から、生まれ育ったところだから	( )
2. 近所の人など、知り合いがいるから	( )
3. 地域の様子をよく知っていて、慣れているから	( )
4. 生活するのに便利だから (→具体的に: )	( )
5. よその地域での生活に慣れるのが大変で苦痛だから	( )
6. その他 ( )	( )
7. よくわからない	( )

問10-2 (問10で「3. 機会があれば、他の地域に住み替えたい」「4. ぜひとも他の地域に住み替えたい」と回答した方のみ)  
他の地域に住み替えたい主な理由は何か。(あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 家賃や住宅ローンなど住宅に関する経済的負担が重いから
2. 近所の人などの無理解や偏見があるから
3. 生活するのに不便だから (具体的に )
4. 福祉施策が充実している自治体に移りたいから
5. 親や子ども、親族、知人など知り合いの近くに住みたいから
6. その他 ( )
7. よくわからない

ここからは、今後どのように生活していきたいかについて、おうかがいします。

問11 あなたは今後、どのように生活していきたいと思いますか。(自由に回答ください)

ご協力ありがとうございました

## IV 調査員票

(注意) この「IV 調査員票」は、調査員の立場からみた判断に使用するものですので、対象者宅を退出後、ご自宅でご記入ください。

問1 ご本人の認知症の程度で最も近いものはどれですか。(調査終了後に調査員が判断して、あてはまるものの番号1つに○をつけてください)

1. 自立している
2. ほぼ自立しているが、時には人の手を借りることがある
3. 多くの時間で、介護が必要である
4. 全ての時間で介護が必要である

## 2 単純集計表

数値上段 = 回答者数、数値下段 = %

回答者の属性

調査数	家族回答	本人回答
47	46	1
100.0	97.9	2.1

原因疾患

調査数	アルツハイマー病	脳血管性認知症	レビー小体型認知症	前頭側頭型認知症 (ピック病)	その他
47	41	-	-	6	-
100.0	87.2	-	-	12.8	-

・家族または本人票（かっこ内の問は本人回答の「 - 2票」の場合）

問1 本人からみた回答者の続柄(SA)

調査数	配偶者(妻・夫)	子ども	孫	あなたや配偶者の親	兄弟・姉妹	その他	無回答
47	39	5	-	-	1	1	1
100.0	83.0	10.6	-	-	2.1	2.1	2.1

問2 回答者の、本人との同居の有無(SA)

調査数	一緒に住んでいる	一緒に住んでいない	無回答
47	42	4	1
100.0	89.4	8.5	2.1

問3(問1) 本人の性別(SA)

調査数	男性	女性
47	24	23
100.0	51.1	48.9

問3(問1) 本人の年齢(平成20年1月1日現在)(SA)

調査数	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	平均年齢
47	1	15	29	2	61.6
100.0	2.1	31.9	61.7	4.3	

問4(問2) 居住形態(SA)

調査数	持ち家(一戸建て)	持ち家(マンションなどの集合住宅)	賃貸住宅(一戸建て)	賃貸住宅(マンションなどの集合住宅)	軽費老人ホーム	有料老人ホーム、ケアハウス	自宅はない	その他
47	29	8	1	8	-	-	-	1
100.0	61.7	17.0	2.1	17.0	-	-	-	2.1

問5(問3) 同居者(MA)

調査数	配偶者(妻・夫)	子ども	孫	あなたや配偶者の親	兄弟・姉妹	その他の家族	一緒に住んでいない家族
47	40	25	1	10	-	1	3
100.0	85.1	53.2	2.1	21.3	-	2.1	6.4

問6（問4） 主に介護している人（SA）

調査数	配偶者（夫、妻）	子どもやその配偶者	孫やその配偶者	兄弟・姉妹	あなたや配偶者の親	その他の親族	近所の人	友人・知人	ホームヘルパー	その他	介護している人はいない	無回答
47	36	3	-	-	1	-	-	-	-	3	2	2
100.0	76.6	6.4	-	-	2.1	-	-	-	-	6.4	4.3	4.3

問7（問5） 認知症ではないかと  
周囲が気づいた頃の本人の年齢（SA）

調査数	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	調査数	平均年齢
47	1	2	32	12	47	56.3
100.0	2.1	4.3	68.1	25.5	100.0	

問8（問6） はじめて認知症の診断や治療のため通院し始めてからの年数（SA）

調査数	2年未満	2年以上、4年未満	4年以上、6年未満	6年以上	調査数	平均経過年数
47	15	11	11	10	47	3.8
100.0	31.9	23.4	23.4	21.3	100.0	

問9（問7） その医療機関で「認知症」との診断結果が出てからの年数（SA）

調査数	2年未満	2年以上、4年未満	4年以上、6年未満	6年以上	認知症の結果は出ていない	調査数	平均経過年数
47	15	11	9	8	4	43	3.4
100.0	31.9	23.4	19.1	17.0	8.5	100.0	

問10（問8） 現在、認知症以外の疾患の治療のための通院の有無（SA）

調査数	通院している	通院していない	分からない
47	20	27	-
100.0	42.6	57.4	-

問11（問9） 居住地域で本人が知っているもの 地域包括支援センター（SA）

調査数	既に利用している	聞いたことあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない	聞いたことあり、連絡先・所在地も知らない	全く知らない	分からない	無回答
47	10	6	9	17	4	1
100.0	21.3	12.8	19.1	36.2	8.5	2.1

問11（問9） 居住地域で本人が知っているもの 民生委員（SA）

調査数	既に相談している	聞いたことあり、相談していない	聞いたことあり、聞いたことあるが、聞いたことがない	全く知らない	分からない
47	4	17	5	17	4
100.0	8.5	36.2	10.6	36.2	8.5



問11(問9) 居住地域で本人が知っているもの 家族会(SA)

問12(問10) 現在利用している公的なサービスや支援制度の利用状況

介護保険制度によるサービス・支援(MA)

調査数	既に利用している	知らない	聞いたことあり、連絡先・所在地も知らないが、利用してない	聞いたことあり、連絡先・所在地も知らない	全く知らない	分からない
47	14	2	4	24	3	
100.0	29.8	4.3	8.5	51.1	6.4	

調査数	訪問介護(ホームヘルプサービス)	通所介護(デイサービス)	短期入所生活介護(福祉系ショートステイ)	小規模多機能型居宅介護	夜間対応型訪問介護	認知症対応型通所介護(デイサービス)	その他介護保険によるサービス・支援	介護保険制度によるサービス・支援を利用していない	無回答
47	11	18	10	-	-	4	2	18	1
100.0	23.4	38.3	21.3	-	-	8.5	4.3	38.3	2.1

問12(問10) - 1 要介護状態区分 (SA)

問12(問10) - 2 利用していない理由(SA)

調査数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
28	-	1	-	5	7	6	9
100.0	-	3.6	-	17.9	25.0	21.4	32.1

調査数	知らなかった	使い方が分からない	気に入らない	認定されなかった	申請したが、	その他	無回答
18	2	1	2	1	11	1	
100.0	11.1	5.6	11.1	5.6	61.1	5.6	

問12(問10) 現在利用している公的なサービスや支援制度の利用状況

障害者自立支援法によるサービス・支援(MA)

調査数	居宅介護(ホームヘルプ)	行動介護	短期入所(ショートステイ)	生活介護	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援	その他の障害者自立支援法によるサービス・支援	障害者自立支援法によるサービス・支援を利用していない
47	1	-	1	-	-	-	-	2	43
100.0	2.1	-	2.1	-	-	-	-	4.3	91.5

問12(問10) - 1 利用していない理由(SA)

調査数	知らなかった	使い方が分からない	気に入らない	認定されなかった	申請したが、	その他
43	24	4	1	1	13	
100.0	55.8	9.3	2.3	2.3	30.2	

問12(問10) 現在利用している公的なサービスや支援制度の利用状況  
 その他サービス・支援(MA)

調査数	精神障害者保健福祉手帳	身体障害者手帳	成年後見制度	地域福祉権利擁護事業	その他サービス・支援	利用していない	無回答
47	17	5	2	-	2	23	3
100.0	36.2	10.6	4.3	-	4.3	48.9	6.4

問12(問10) - 1 利用していない理由(SA)

調査数	知らなかった	使い方が分からない	気に入らない	申請したが、認定されなかった	その他
23	14	3	-	-	6
100.0	60.9	13.0	-	-	26.1

問13(問11) 本人の家(世帯)の生計を最も支えている主な収入源(MA(2つまで))

調査数	ご本人の給与収入(パート等も含む)・ 自営収入	ご本人の老齢(退職)年金	ご本人の障害基礎年金、 障害厚生年金	受給している生活保護費	ご本人の配偶者(妻または夫)の収入	その他ご本人の家族の収入	その他の親族等の収入	その他の収入	よくわからない
47	6	15	10	2	22	11	-	4	-
100.0	12.8	31.9	21.3	4.3	46.8	23.4	-	8.5	-

問14(問12) 本人の仕事の有無(SA)

調査数	働いている	勤め人として(自営業も含む)	休職中	働いていない
47	3	1	2	41
100.0	6.4	2.1	4.3	87.2

問14-1(問12-1) 認知症になる前の仕事の有無(SA)

調査数	仕事をしていた	認知症になる前から仕事はしていなかった
41	31	10
100.0	75.6	24.4

問14-2(問12-2)

認知症になってからの本人の収入の変化(SA)

調査数	特に変わりはない	収入は減った	収入が増えた	分からない
6	4	2	-	-
100.0	66.7	33.3	-	-

問14-3(問12-3)

認知症になってからの本人の仕事の変化(SA)

調査数	特に何も変わりはない	仕事の内容は変わらないが、ポスト(役職)は変わった	仕事の内容が変わった	転職をした	分からない	無回答
6	5	-	-	-	-	1
100.0	83.3	-	-	-	-	16.7

問15 (問13) 認知症になってからの本人の家(世帯)の毎月の支出額(生活費・治療費・その他)の変化(SA)

調査数	特に変わりはない	支出が増えた	支出は減った	分らない
47	12	32	1	2
100.0	25.5	68.1	2.1	4.3

問16 (問14) 現在、本人の車や住宅などのローンの有無(MA)

調査数	車のローン	住宅のローン	教育ローン	その他のローン	ローンはない	分らない	無回答
47	1	4	-	1	40	-	1
100.0	2.1	8.5	-	2.1	85.1	-	2.1

・家族票

問1 家族が、本人が認知症であることを打ち明けている人(MA)

調査数	同居家族	同居家族以外の親族	友人、知人	近所の人	職場の人	地域包括支援センター	民生委員	行政の担当者	病院・診療所	ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者	その他(家族会など)	打ち明けている人はいない	無回答
46	31	40	33	21	12	12	3	8	32	27	6	-	1
100.0	67.4	87.0	71.7	45.7	26.1	26.1	6.5	17.4	69.6	58.7	13.0	-	2.2

問2 本人の近所の人との付き合いの程度(SA)

調査数	しく外出てくれる等本人や家族を支援	交流がある	行き来したりするなどの	互いに相談したり、家の	の付き合ひはしている程度	日常的に立ち話をする程度	付き合ひはしている	あいさつ程度の最小限の	付き合ひはしない
46	-	7	6	17	16				
100.0	-	15.2	13.0	37.0	34.8				

問3 本人の外出頻度(SA)

調査数	ほとんど毎日外出する	ときどき外出する	ほとんど外出しない	無回答
46	28	9	7	2
100.0	60.9	19.6	15.2	4.3

問4 本人の外出の主な目的 (MA)

調査数	徒歩圏									
	通院	介護施設などへの通所	買い物	知人・親戚などを訪問	散歩	文化・学習活動や運動	自治会・ボランティア活動等の社会活動	仕事	郵便局・銀行や役所など	その他
46	16	3	25	5	28	2	1	1	5	2
100.0	34.8	6.5	54.3	10.9	60.9	4.3	2.2	2.2	10.9	4.3

車や公共交通機関等										無回答
通院	介護施設などへの通所	買い物	知人・親戚などを訪問	文化・学習活動や運動	自治会・ボランティア活動等の社会活動	仕事	郵便局・銀行や役所など	その他		
30	20	13	12	5	1	1	2	6	2	
65.2	43.5	28.3	26.1	10.9	2.2	2.2	4.3	13.0	4.3	

問5 本人が外出する際の付き添いの程度 (SA)

調査数	ほとんど1人で外出	外出 本人の体調や外出先によつては付き添い付で必要	ほとんど付き添いが	無回答
46	10	6	29	1
100.0	21.7	13.0	63.0	2.2

問6 現在、本人の認知症の行動・心理症状の特徴的症狀で見られること (MA)

調査数	幻視・幻聴	妄想	昼夜逆転	暴言	暴行	介護への抵抗	徘徊	火の不始末	不潔行為	異食行為	性的問題行動	うつ状態	その他	特徴的症狀は見られない
46	13	11	3	11	5	15	11	9	8	8	1	9	6	5
100.0	28.3	23.9	6.5	23.9	10.9	32.6	23.9	19.6	17.4	17.4	2.2	19.6	13.0	10.9

問7 認知症の診断や治療のために診療所や病院への通院頻度 (SA)

調査数	定期的に通院している	症状の悪いとき、介護保険の認定時など、必要に応じて通院している	以前は通院していたが、現在は通院していない	無回答	調査数	1ヶ月に2回以上	1ヶ月に1回	1・5ヶ月に1回	2ヶ月に1回	2ヶ月に1回未満
						41	17	3	13	4
46	41	1	3	1	41	4	17	3	13	4
100.0	89.1	2.2	6.5	2.2	100.0	9.8	41.5	7.3	31.7	9.8

問8 最初に相談・受診する直接のきっかけとなったこと (SA)

調査数	家族(あなたを含め)が気づいたから	ご本人の訴えから	同居していない親族の話から	本人の勤め先から連絡があった	近隣の方との話から	民生委員に勧められた	ケアマネジャー、ホームヘルパーなど、民間の介護サービス事業者に勧められた	地域包括支援センターで勧められた	その他のきっかけ
46	28	3	5	5	1	-	-	-	4
100.0	60.9	6.5	10.9	10.9	2.2	-	-	-	8.7

問9 最初に気づいた本人の変化や、これまでを振り返って認知症の初期の症状・できごとだったと思うこと (MA)

調査数	日常生活で新しいことを覚えられなかつたり、少し前のことを忘れるようになった	電話の応対ができなくなった	同じ料理を作るようになった	同じものを買ってくるようになった	買い物で料金が払えなくなった	考えるスピードが遅くなった。同時に2つ以上のことを考えられなくなった	過食など、食行動に異常がみられるようになった	暴言をはいたり、暴力行為がみられるようになった	おかしいと連絡があつた	親戚や友人などが、様子があつた
46	35	18	8	18	14	19	7	6	12	
100.0	76.1	39.1	17.4	39.1	30.4	41.3	15.2	13.0	26.1	

勤め先で電話の応対ができなくなった	伝票など、書類の処理ができなくなった	打合せなどに来ないことがあつた	本人が対応して、取引先などから苦情がきた	その他、勤務先から、様子があつた	その他	無回答
2	6	5	4	9	6	1
4.3	13.0	10.9	8.7	19.6	13.0	2.2

問10 本人に認知症の症状が出たと気づいた頃に、主に相談した相手（MA）

調査数	同居家族	同居家族以外の親族	友人、知人	近所の人	職場の人	地域包括支援センター	民生委員	行政の担当者	病院・診療所	ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者	その他（家族会など）	誰にも相談していない
46	16	21	5	1	3	-	-	2	21	3	-	5
100.0	34.8	45.7	10.9	2.2	6.5	-	-	4.3	45.7	6.5	-	10.9

問11 認知症の診断や治療のために診療所や病院に通院するきっかけとなったこと（SA）

調査数	ご本人が判断して	ご家族の勧めで	相談したかかりつけ医の勧めで	その他、相談した機関や人の勧めで	その他
46	2	29	5	4	6
100.0	4.3	63.0	10.9	8.7	13.0

問12 認知症の診断や治療をしてもらうまでに、困ったこと（MA）

調査数	認知症の診断・治療をすることが難しかった	認知症の診断・治療をすることが難しかった	本人が受診を嫌がった	家族が診てもらおうことを嫌がった	その他	特に困ったことはない
46	14	2	10	-	3	24
100.0	30.4	4.3	21.7	-	6.5	52.2

問14 毎日の介護のことで、よく相談している人（MA）

調査数	同居家族	同居家族以外の親族	友人、知人	近所の人	職場の人	地域包括支援センター	民生委員	行政の担当者	病院・診療所	ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者	その他（家族会など）	相談している人はいない	無回答
46	13	15	4	1	2	1	-	1	16	20	5	8	1
100.0	28.3	32.6	8.7	2.2	4.3	2.2	-	2.2	34.8	43.5	10.9	17.4	2.2

問15 介護している中で、不安に感じていること（MA）

調査数	介護しているあなたや体力が厳しくなってきた	介護にかかる費用が大きくなり、家計が苦しくなってきた	介護にかかる費用が社会から孤立してきた	介護しているあなたや先が見えない	介護生活がこれからの生活に不安を感じている	ご本人の認知症の進行が速くなってきた	精神的なストレスや不安が強くなった	介護しているあなたやご本人の認知症の進行が速くなってきた	家庭内の人間関係がうまくいかない	その他	不安に感じていることはない	無回答
46	23	17	10	32	18	24	9	6	3	1		
100.0	50.0	37.0	21.7	69.6	39.1	52.2	19.6	13.0	6.5	2.2		

問16 本人が今の地域で住み続けていく上で、困っていること(SA)

調査数	重い住宅に関する経済的負担が大きい	家賃や住宅ローンなど住居費が高い	近所の人などの無理解や偏見がある	生活するのに不便	福祉施策が充実していない	親や子ども、親族、知人などの知り合いが近くにいない	その他	困っていることはない	無回答
46	3	3	1	5	3	6	24	1	
100.0	6.5	6.5	2.2	10.9	6.5	13.0	52.2	2.2	

問17 本人の未成年の子どもの有無(SA)

調査数	いる	いない	無回答
46	2	42	2
100.0	4.3	91.3	4.3

問18 その子どもが感じている不安(MA)

調査数	子どもが認められない	親が認知症であること、子どもが受け入れられない	気が沈んでおり、外出しづらく、人と交流する機会が少ない	自分の学資など進学に関する不安	結婚について不安	親の介護に負担を感じている	その他	不安に感じていることはない
2	1	-	-	-	-	-	-	1
100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0

. 本人票

本人の性別

	調査数	本人回答	家族代弁
全体	35	27	8
	100.0	77.1	22.9
男性	20	18	2
	100.0	90.0	10.0
女性	15	9	6
	100.0	60.0	40.0

問1 現在の楽しみややりがいを感じていること(MA)

	調査数	スポーツや運動など、身体を動かすこと	読書・美術鑑賞など、文化・教養に関すること	旅行をすること	友人や仲間と会うこと	仕事をすること(地域や社会で役割を持つはたらくこと、報酬の有無は問わない)	家でのんびり過ごす	その他	特に趣味や楽しみはない
全体	35	12	9	6	12	4	11	13	5
	100.0	34.3	25.7	17.1	34.3	11.4	31.4	37.1	14.3
本人回答	27	11	7	5	11	4	10	11	2
	100.0	40.7	25.9	18.5	40.7	14.8	37.0	40.7	7.4
家族代弁	8	1	2	1	1	-	1	2	3
	100.0	12.5	25.0	12.5	12.5	-	12.5	25.0	37.5

問2 今後やりたいこと(現在やっていることを続ける場合も含む)(MA)

	調査数	スポーツや運動など、身体を動かすこと	読書・美術鑑賞など、文化・教養に関すること	旅行をすること	友人や仲間と会うこと	仕事(地域や社会)で役割を持つこと(報酬の有無は問わない)	家でのんびり過ごす	その他	特に趣味や楽しみはない
全体	35	9	8	11	11	5	10	12	5
	100.0	25.7	22.9	31.4	31.4	14.3	28.6	34.3	14.3
本人回答	27	8	6	9	10	5	9	9	3
	100.0	29.6	22.2	33.3	37.0	18.5	33.3	33.3	11.1
家族代弁	8	1	2	2	1	-	1	3	2
	100.0	12.5	25.0	25.0	12.5	-	12.5	37.5	25.0

問3 家の中で、火災、事故、訪問販売など不安に感じていること(MA)

	調査数	消ガスや火をかき不安になる	閉めかぎをかき不安になる	外出するときに、ドアや窓の鍵が不安になる	しまわれないか不安になる	だまされたり何か買つて、電話や押し売りなどで、なる	トイレの場所など、家の様子がわからなく	その他	特に不安に感じていることはない	無回答
全体	35	4	7	2	5	3	21	1		
	100.0	11.4	20.0	5.7	14.3	8.6	60.0	2.9		
本人回答	27	3	6	1	2	2	17	1		
	100.0	11.1	22.2	3.7	7.4	7.4	63.0	3.7		
家族代弁	8	1	1	1	3	1	4	-		
	100.0	12.5	12.5	12.5	37.5	12.5	50.0	-		

問4 家の外へ出かけるとき、不安に感じること(MA)

	調査数	おとくづくうに感じる	小銭の計算などお金がうまく使えない	買い物で何を買おうとしない	どこに行こうとしない	途中でどこにいるか、なる	切符の買方法がわからなく	家で帰ることができなくなる	その他	特に不安に感じていることはない	無回答
全体	35	3	4	5	5	3	7	2	16	1	
	100.0	8.6	11.4	14.3	14.3	8.6	20.0	5.7	45.7	2.9	
本人回答	27	2	4	5	4	3	4	2	11	1	
	100.0	7.4	14.8	18.5	14.8	11.1	14.8	7.4	40.7	3.7	
家族代弁	8	1	-	-	1	-	3	-	5	-	
	100.0	12.5	-	-	12.5	-	37.5	-	62.5	-	



問5 将来のことについての不安 (MA)

	調査数	ついで	自分の病気や介護について	配偶者や家族の病気や介護について	経済的なこと	子ども、孫の将来	たり、犯罪に巻き込まれたり、犯すこと	何らかの被害に遭ったこと	ど、住宅に関すること	持ち家の維持管理など	借家の契約更新や借り換え	交通手段など、外出に	買物での困りごとや	いること	その他、不安に思っていること	特に不安はない	無回答							
		全体	35	8	7	6	2	1	2	1	2	1	-	17	1	100.0	22.9	20.0	17.1	5.7	2.9	5.7	2.9	-
本人回答	27	8	6	6	2	1	2	1	2	1	-	10	1	100.0	29.6	22.2	22.2	7.4	3.7	7.4	3.7	-	37.0	3.7
家族代弁	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	100.0	-	12.5	-	-	-	-	-	-	87.5	-

問6 生活する上で不安に感じたときによく相談する相手 (MA)

	調査数	同居家族	同居家族以外の親族	友人、知人	近所の人	職場の人	地域包括支援センター	民生委員	行政の担当者	病院・診療所	ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者	その他(家族会など)	相談する相手はいない	無回答
		全体	35	16	4	2	1	1	-	-	-	2	1	-
	100.0	45.7	11.4	5.7	2.9	2.9	-	-	-	5.7	2.9	-	31.4	11.4
本人回答	27	12	3	2	1	1	-	-	-	1	1	-	10	2
	100.0	44.4	11.1	7.4	3.7	3.7	-	-	-	3.7	3.7	-	37.0	7.4
家族代弁	8	4	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2
	100.0	50.0	12.5	-	-	-	-	-	-	12.5	-	-	12.5	25.0

問7 認知症であることを打ち明けている人 (MA)

	調査数	同居家族	同居家族以外の親族	友人、知人	近所の人	職場の人	地域包括支援センター	民生委員	行政の担当者	病院・診療所	ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者	その他(家族会など)	打ち明けている人は	無回答
		全体	35	17	14	10	6	3	-	-	2	9	4	1
	100.0	48.6	40.0	28.6	17.1	8.6	-	-	5.7	25.7	11.4	2.9	22.9	8.6
本人回答	27	13	11	9	5	3	-	-	2	7	3	1	6	2
	100.0	48.1	40.7	33.3	18.5	11.1	-	-	7.4	25.9	11.1	3.7	22.2	7.4
家族代弁	8	4	3	1	1	-	-	-	-	2	1	-	2	1
	100.0	50.0	37.5	12.5	12.5	-	-	-	-	25.0	12.5	-	25.0	12.5

問8 近所の人との付き合いの程度 (SA)

	調査数	してくれ た等本人 や家族を 支援	外出時に 留守番を して	交流がある したりする などの	互いに相 談したり、 家を	の日常的 に立ち話 をする程 度	付き合 いしはし ていない の最小限 の	無回答
全体	35	-	5	5	15	7	3	
	100.0	-	14.3	14.3	42.9	20.0	8.6	
本人回答	27	-	5	5	11	4	2	
	100.0	-	18.5	18.5	40.7	14.8	7.4	
家族代弁	8	-	-	-	4	3	1	
	100.0	-	-	-	50.0	37.5	12.5	

問9 現在利用している公的なサービスや支援制度について (SA)

(1) 訪問介護 (ホームヘルプサービス) (2) 通所介護 (デイサービス)

	調査数	気に入 っている	気に入 らない	無回 答
全体	4	3	-	1
	100.0	75.0	-	25.0
本人回答	3	2	-	1
	100.0	66.7	-	33.3
家族代弁	1	1	-	-
	100.0	100.0	-	-

	調査数	気に入 っている	気に入 らない	無回 答
全体	12	8	3	1
	100.0	66.7	25.0	8.3
本人回答	8	5	2	1
	100.0	62.5	25.0	12.5
家族代弁	4	3	1	-
	100.0	75.0	25.0	-

(3) 短期入所生活介護  
(福祉系ショートステイ)

	調査数	気に入 っている	気に入 らない	無回 答
全体	4	3	-	1
	100.0	75.0	-	25.0
本人回答	1	1	-	-
	100.0	100.0	-	-
家族代弁	3	2	-	1
	100.0	66.7	-	33.3

( 4 ) 小規模多機能型居宅介護

回答者なし

( 5 ) 夜間対応型訪問介護

回答者なし

( 6 ) 認知症対応型通所介護 ( デイサービス )

	調査数	気に入っている	気に入らない
全 体	3	2	1
	100.0	66.7	33.3
本人回答	1	1	-
	100.0	100.0	-
家族代弁	2	1	1
	100.0	50.0	50.0

( 7 ) その他介護保険によるサービス・支援

回答者なし

( 8 ) 居宅介護 ( ホームヘルプ )

回答者なし

( 9 ) 行動援護

回答者なし

( 10 ) 短期入所 ( ショートステイ )

回答者なし

( 11 ) 生活介護

回答者なし

( 12 ) 自立訓練

回答者なし

( 1 3 ) 就労移行支援

回答者なし

( 1 4 ) 就労継続支援

回答者なし

( 1 5 ) その他障害者自立支援法によるサービス・支援

	調査数	気に入っている	気に入らない	無回答
全 体	1	-	-	1
	100.0	-	-	100.0
本人回答	1	-	-	1
	100.0	-	-	100.0
家族代弁	-	-	-	-
	-	-	-	-

( 1 6 ) 精神障害者保健福祉手帳

	調査数	気に入っている	気に入らない	無回答
全 体	10	6	1	3
	100.0	60.0	10.0	30.0
本人回答	6	5	-	1
	100.0	83.3	-	16.7
家族代弁	4	1	1	2
	100.0	25.0	25.0	50.0

( 1 7 ) 身体障害者手帳

	調査数	気に入っている	気に入らない	無回答
全 体	2	-	-	2
	100.0	-	-	100.0
本人回答	2	-	-	2
	100.0	-	-	100.0
家族代弁	-	-	-	-
	-	-	-	-

( 1 8 ) 成年後見制度

	調査数	気に入っている	気に入らない	無回答
全 体	1	-	-	1
	100.0	-	-	100.0
本人回答	1	-	-	1
	100.0	-	-	100.0
家族代弁	-	-	-	-
	-	-	-	-

( 1 9 ) 地域福祉権利擁護事業

回答者なし

(20) その他サービス・支援

	調査数	気に入っている	気に入らない	無回答
全体	1	-	-	1
	100.0	-	-	100.0
本人回答	1	-	-	1
	100.0	-	-	100.0
家族代弁	-	-	-	-
	-	-	-	-

問10 現在の居住地への継続意向 (SA)

	調査数	ぜひ、住み続けたい	できれば住み続けたい	機会があれば、他の地域に住み替えたい	ぜひとも他の地域に住み替えたい	無回答
全体	35	26	5	2	-	2
	100.0	74.3	14.3	5.7	-	5.7
本人回答	27	21	4	2	-	-
	100.0	77.8	14.8	7.4	-	-
家族代弁	8	5	1	-	-	2
	100.0	62.5	12.5	-	-	25.0

問10-1 現在住んでいる地域に住み続けたい主な理由 (SA)

	調査数	育つたところだから、生まれ	近所の人など、知り合い	地域の様子をよく知って	生活するのに便利だから	慣れるのが大変で苦痛	その他	よくわからない	無回答
全体	31	6	2	12	3	1	2	3	2
	100.0	19.4	6.5	38.7	9.7	3.2	6.5	9.7	6.5
本人回答	25	5	1	10	3	1	2	1	2
	100.0	20.0	4.0	40.0	12.0	4.0	8.0	4.0	8.0
家族代弁	6	1	1	2	-	-	-	2	-
	100.0	16.7	16.7	33.3	-	-	-	33.3	-

問10-2 他の地域に住み替えたい主な理由 (SA)

	調査数	が重いから	家賃や住宅ローンなど	偏見があるから	近所の人などの無理解や	生活するのに不便だから	福祉施設が充実している	自治体に移りたいから	住みたいから	親や子ども、親族、知人など知り合いの近くに	その他	よくわからない
全体	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
本人回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
家族代弁	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

. 調査員票

問1 本人の認知症の程度で最も近いもの(SA)

調査数	自立している	ほぼ自立しているが、 時には人の手を借りる ことがある	多くの時間で、 介護 が必要である	全ての時間で 介護が 必要である
47	6	14	14	13
100.0	12.8	29.8	29.8	27.7

### 3 クロス集計表

数値上段 = 回答者数、数値下段 = %

原因疾患 × . 問9 (最初に気づいた本人の変化、認知症の初期の症状・できごと)

(対象数 = 46 MA)

調査数	日常生活で										勤め先で				その他		無回答
	新しいことを覚えられなかったり、少し前のことを忘れるようになった	電話の対応ができなくなった	同じ料理を作るようになった	同じものを買ってくるようになった	買った物で料金が払えなくなった	2つ以上のことを考えられなくなった	考えるスピードが遅くなったり、同時に	過食など、食行動に異常がみられるようになった	暴言をはいたり、暴力行為がみられるようになった	親戚や友人などが、様子がおかしいと連絡があった	電話の対応ができなくなった	伝票など、書類の処理ができなくなった	打合せなどに来ないことがあった	本人が対応して、取引先などから苦情がきた	その他、勤務先から、様子がおかしいと連絡があった	その他	
全体	46 100.0	35 76.1	18 39.1	8 17.4	18 39.1	14 30.4	19 41.3	7 15.2	6 13.0	12 26.1	2 4.3	6 13.0	5 10.9	4 8.7	9 19.6	6 13.0	1 2.2
アルツハイマー病	40 100.0	32 80.0	15 37.5	6 15.0	17 42.5	12 30.0	19 47.5	6 15.0	5 12.5	9 22.5	2 5.0	6 15.0	5 12.5	3 7.5	9 22.5	5 12.5	1 2.5
前頭側頭型認知症 (ピック病)	6 100.0	3 50.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3	-	1 16.7	1 16.7	3 50.0	-	-	-	1 16.7	-	1 16.7	-

原因疾患 × . 問8 (最初に相談・受診する直接のきっかけとなったもの)

(対象数 = 46 SA)

調査数	家族(あなたを含め)が気づいた	ご本人の訴えから	同居していない親族の話から	本人の勤め先から連絡があった	民生委員に勧められた	近隣の方との話から	ケアマネジャー、ホームヘルパーなど、民間の介護サービス業者に勧められた	地域包括支援センターで勧められた	その他のきっかけ
全体	46 100.0	28 60.9	3 6.5	5 10.9	5 10.9	1 2.2	-	-	4 8.7
アルツハイマー病	40 100.0	26 65.0	3 7.5	4 10.0	4 10.0	-	-	-	3 7.5
前頭側頭型認知症 (ピック病)	6 100.0	2 33.3	-	1 16.7	1 16.7	1 16.7	-	-	1 16.7

【 . 問 8 ( 通院開始時期 ) - . 問 7 ( 気づいた時期 )】 × . 問 1 2 ( 認知症の診断や治療を  
 してもらうまでに困ったこと ) ( 対象数 = 3 1 MA )

	調査数	とる 認知 症の 診断 ・ 治療 を す こ と が 難 し か つ た	認 知 症 の 診 断 ・ 治 療 を す こ る こ と が 難 し か つ た	本 人 が 受 診 を 嫌 が つ た	家 族 が 診 て ら う こ と を 嫌 が つ た	そ の 他	特 に 困 つ た こ と は な い
全 体	31	14	2	10	-	3	24
	100.0	30.4	4.3	21.7	-	6.5	52.2
1ヶ月未満	8	1	-	1	-	-	7
	100.0	12.5	-	12.5	-	-	87.5
1ヶ月以上1年未満	14	1	2	1	-	1	10
	100.0	7.1	14.3	7.1	-	7.1	71.4
1年以上2年未満	4	2	-	2	-	-	1
	100.0	50.0	-	50.0	-	-	25.0
2年以上	5	3	-	2	-	-	1
	100.0	60.0	-	40.0	-	-	20.0

. 問 3 ( 性別 ) × . 問 1 4 - 1 ( 認知症になる前の仕事の有無 )  
 ( 対象数 = 4 1 SA )

	調査数	仕 事 を し て い た	は 認 知 症 に な る 前 か ら 仕 事
全 体	41	31	10
	100.0	75.6	24.4
男性	19	18	1
	100.0	94.7	5.3
女性	22	13	9
	100.0	59.1	40.9

原因疾患 × . 問 6 ( 認知症の行動・心理症状の特徴的症狀 )  
 ( 対象数 = 4 6 MA )

	調査数	幻 視 ・ 幻 聴	妄 想	昼 夜 逆 転	暴 言	暴 行	介 護 へ の 抵 抗	徘徊	火 の 不 始 末	不 潔 行 為	異 食 行 為	性 的 問 題 行 動	う つ 状 態	そ の 他	特 徴 的 症 状 は 見 ら れ な い
全 体	46	13	11	3	11	5	15	11	9	8	8	1	9	6	5
	100.0	28.3	23.9	6.5	23.9	10.9	32.6	23.9	19.6	17.4	17.4	2.2	19.6	13.0	10.9
アルツハイマー病	40	13	10	3	10	5	13	8	9	6	5	1	9	4	5
	100.0	32.5	25.0	7.5	25.0	12.5	32.5	20.0	22.5	15.0	12.5	2.5	22.5	10.0	12.5
前頭側頭型認知症 (ピック病)	6	-	1	-	1	-	2	3	-	2	3	-	-	2	-
	100.0	-	16.7	-	16.7	-	33.3	50.0	-	33.3	50.0	-	-	33.3	-



. 問3 (性別) × . 問1 (現在の楽しみややりがい) (対象数 = 35 MA)

	調査数	スポーツや運動など、身体を動かすこと	読書、美術鑑賞など、文化・教養に関すること	旅行をすること	友人や仲間と会うこと	報酬の有無は問わない) 仕事をすること(地域や社会で役割を持つはたらくこと)	家でのんびり過ごす	その他	特に趣味や楽しみはない
全体	35	12	9	6	12	4	11	13	5
	100.0	34.3	25.7	17.1	34.3	11.4	31.4	37.1	14.3
男性	20	10	6	3	5	3	7	9	1
	100.0	50.0	30.0	15.0	25.0	15.0	35.0	45.0	5.0
女性	15	2	3	3	7	1	4	4	4
	100.0	13.3	20.0	20.0	46.7	6.7	26.7	26.7	26.7

. 問3 (性別) × . 問2 (今後やりたいこと) (対象数 = 35 MA)

	調査数	スポーツを動かすなど、運動	読書、美術鑑賞など、文化・教養に関すること	旅行をすること	友人や仲間と会うこと	報酬の有無は問わない) 仕事をすること(地域や社会で役割を持つはたらくこと)	家でのんびり過ごす	その他	特に趣味や楽しみはない
全体	35	9	8	11	11	5	10	12	5
	100.0	25.7	22.9	31.4	31.4	14.3	28.6	34.3	14.3
男性	20	8	4	5	5	4	6	9	2
	100.0	40.0	20.0	25.0	25.0	20.0	30.0	45.0	10.0
女性	15	1	4	6	6	1	4	3	3
	100.0	6.7	26.7	40.0	40.0	6.7	26.7	20.0	20.0

. 問3 (性別) × . 問5 (将来についての不安)

(対象数 = 35 MA)

	調査数	て自分の病気や介護について	配偶者や家族の病気や介護について	経済的なこと	子ども、孫の将来	り、犯罪に巻き込まれた	り、かかると	の維持管理など、住宅に	借家の契約更新や持ち家	る通手物などの困りごとや	る買い物など、外出に	その他、不安に思っていること	特に不安はない	無回答
全体	35	8	7	6	2	1	2	2	1	1	-	17	1	
	100.0	22.9	20.0	17.1	5.7	2.9	5.7	5.7	2.9	2.9	-	48.6	2.9	
男性	20	5	4	5	2	1	2	2	-	-	-	8	1	
	100.0	25.0	20.0	25.0	10.0	5.0	10.0	10.0	-	-	-	40.0	5.0	
女性	15	3	3	1	-	-	-	-	1	-	-	9	-	
	100.0	20.0	20.0	6.7	-	-	-	-	6.7	-	-	60.0	-	

. 問3 (年齢) × . 問13 (主な収入源) (対象数 = 47 MA (2つまで))

	調査数	ご本人の給与収入(パート等も含む)・自営収入	ご本人の老齢(退職)年金	ご本人の障害基礎年金、障害厚生年金、障害手当金	受給している生活保護費	ご本人の配偶者(妻または夫)の収入	その他ご本人の家族の収入	その他の親族等の収入	その他の収入	よくわからない
全体	47	6	15	10	2	22	11	-	4	-
	100.0	12.8	31.9	21.3	4.3	46.8	23.4	-	8.5	-
60歳未満	16	4	2	1	1	9	5	-	2	-
	100.0	25.0	12.5	6.3	6.3	56.3	31.3	-	12.5	-
60歳以上	31	2	13	9	1	13	6	-	2	-
	100.0	6.5	41.9	29.0	3.2	41.9	19.4	-	6.5	-

. 問3 (年齢) × . 問13 (主な収入源・4分類)  
(対象数 = 47 MA (2つまで))

	調査数	本人給与・親族等収入	本人の老齢(退職)年金・障害者基礎年金・障害厚生年金・障害手当金	その他の収入	よくわからない
全体	47	36	27	4	-
	100.0	76.6	57.4	8.5	-
60歳未満	16	15	4	2	-
	100.0	93.8	25.0	12.5	-
60歳以上	31	21	23	2	-
	100.0	67.7	74.2	6.5	-

. 問3 (性別) × . 問8 (近所の人との付き合いの程度)  
(対象数 = 35 SA)

	調査数	外出時に留守番をしてくれる等本人や家族を支援している	互いに相談したり、家を行き来したりするなどの交流がある	日常的に立ち話をしている程度	あいさつ程度の最小限の付き合いしかしていない	付き合いは全くしてない	無回答
全体	35	-	5	5	15	7	3
	100.0	-	14.3	14.3	42.9	20.0	8.6
男性	20	-	-	4	10	4	2
	100.0	-	-	20.0	50.0	20.0	10.0
女性	15	-	5	1	5	3	1
	100.0	-	33.3	6.7	33.3	20.0	6.7

<平成20年1月 - .問7(気づいた時期)> × .問11(地域で知っているもの 地域包括支援センター) (対象数 = 47 SA)

	調査数	既に利用している	聞いたことはあるが、連絡先・所在地などを知らない	聞いたこともあるが、利用していない	全く知らない	分からない	無回答
全体	47	10	6	9	17	4	1
	100.0	21.3	12.8	19.1	36.2	8.5	2.1
3年未満	11	2	1	2	6	-	-
	100.0	18.2	9.1	18.2	54.5	-	-
3年以上5年未満	14	2	3	4	4	1	-
	100.0	14.3	21.4	28.6	28.6	7.1	-
5年以上9年未満	12	2	2	3	3	2	-
	100.0	16.7	16.7	25.0	25.0	16.7	-
9年以上	10	4	-	-	4	1	1
	100.0	40.0	-	-	40.0	10.0	10.0

<平成20年1月 - .問7(気づいた時期)> × .問11(地域で知っているもの 民生委員) (対象数 = 47 SA)

	調査数	既に相談している	聞いたことはあるが、聞いたことがない	聞いたこともあるが、相談していない	全く知らない	分からない
全体	47	4	17	5	17	4
	100.0	8.5	36.2	10.6	36.2	8.5
3年未満	11	3	6	-	2	-
	100.0	27.3	54.5	-	18.2	-
3年以上5年未満	14	1	6	2	5	-
	100.0	7.1	42.9	14.3	35.7	-
5年以上9年未満	12	-	2	1	6	3
	100.0	-	16.7	8.3	50.0	25.0
9年以上	10	-	3	2	4	1
	100.0	-	30.0	20.0	40.0	10.0

<平成20年1月 - . 問7 (気づいた時期)> × . 問11 (地域で知っているもの 家族会)  
(対象数 = 47 SA)

	調査数	既に利用している	聞いたことはあるが、連絡先・所在地など知らない	聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない	全く知らない	分からない
全体	47	14	2	4	24	3
	100.0	29.8	4.3	8.5	51.1	6.4
3年未満	11	2	1	-	8	-
	100.0	18.2	9.1	-	72.7	-
3年以上5年未満	14	7	-	2	5	-
	100.0	50.0	-	14.3	35.7	-
5年以上9年未満	12	1	1	2	6	2
	100.0	8.3	8.3	16.7	50.0	16.7
9年以上	10	4	-	-	5	1
	100.0	40.0	-	-	50.0	10.0

. 問3 (性別) × . 問11 (地域で知っているもの 地域包括支援センター)  
(対象数 = 47 SA)

	調査数	既に利用している	先聞いたことはあるが、連絡先・所在地など知らない	利用していることも知らない	聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない	全く知らない	分からない	無回答
全体	47	10	6	9	17	4	1	
	100.0	21.3	12.8	19.1	36.2	8.5	2.1	
男性	24	5	3	4	9	3	-	
	100.0	20.8	12.5	16.7	37.5	12.5	-	
女性	23	5	3	5	8	1	1	
	100.0	21.7	13.0	21.7	34.8	4.3	4.3	

. 問3 (性別) × . 問11 (地域で知っているもの 民生委員)  
(対象数 = 47 SA)

	調査数	既に相談している	聞いたことはあるが、聞いたことがない	聞いたことがあるが、相談していない	聞いたこともあり、相談したことがあるが、相談していない	全く知らない	分からない
全体	47	4	17	5	17	4	
	100.0	8.5	36.2	10.6	36.2	8.5	
男性	24	3	9	3	6	3	
	100.0	12.5	37.5	12.5	25.0	12.5	
女性	23	1	8	2	11	1	
	100.0	4.3	34.8	8.7	47.8	4.3	

. 問3 (性別) × . 問11 (地域で知っているもの 家族会)

(対象数 = 47 SA)

	調査数	既に利用している	聞いたことなどはあるが、所在地などを知らない	聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない	全く知らない	分からない
全体	47	14	2	4	24	3
	100.0	29.8	4.3	8.5	51.1	6.4
男性	24	10	2	3	7	2
	100.0	41.7	8.3	12.5	29.2	8.3
女性	23	4	-	1	17	1
	100.0	17.4	-	4.3	73.9	4.3

. 問11 (地域で知っているもの (家族会)) × . 問2 (近所の人との付き合いの程度)

(対象数 = 46 SA)

	調査数	本人や家族を支援してくれたり等	外出時に留守番をしてもらえる等	互いに相談したり、家を行き来するなどの交流がある	日常的に立ち話をする程度の付き合いはしている	あいさつ程度の最小限の付き合い	付き合いは全くしていない
全体	46	-	7	6	17	16	
	100.0	-	15.2	13.0	37.0	34.8	
既に利用している	14	-	3	-	8	3	
	100.0	-	21.4	-	57.1	21.4	
聞いたこともあり、連絡先・所在地も知っているが、利用していない	4	-	1	1	1	1	
	100.0	-	25.0	25.0	25.0	25.0	
聞いたことなどはあるが、連絡先・所在地などを知らない	2	-	-	1	1	-	
	100.0	-	-	50.0	50.0	-	
全く知らない	23	-	3	4	6	10	
	100.0	-	13.0	17.4	26.1	43.5	
分からない	3	-	-	-	1	2	
	100.0	-	-	-	33.3	66.7	

#### 4 クロス集計表（3群）

数値上段 = 回答者数、数値下段 = %

. 家族または本人票（カッコ内の問は本人回答の「 - 2 票」の場合）

##### 問1 本人からみた回答者の続柄（SA）

	調査数	配偶者（妻・夫）	子ども	孫	あなたや配偶者の親	兄弟・姉妹	その他	無回答
全体	47	39	5	-	-	1	1	1
	100.0	83.0	10.6	-	-	2.1	2.1	2.1
1. 自立している + 2. ほぼ自立している	20	16	2	-	-	-	1	1
	100.0	80.0	10.0	-	-	-	5.0	5.0
3. 多くの時間で、介護が必要である	14	12	1	-	-	1	-	-
	100.0	85.7	7.1	-	-	7.1	-	-
4. 全ての時間で介護が必要である	13	11	2	-	-	-	-	-
	100.0	84.6	15.4	-	-	-	-	-

##### 問2 回答者の、本人との同居の有無（SA）

	調査数	一緒に住んでいる	一緒に住んでいない	無回答
全体	47	42	4	1
	100.0	89.4	8.5	2.1
1. 自立している + 2. ほぼ自立している	20	18	1	1
	100.0	90.0	5.0	5.0
3. 多くの時間で、介護が必要である	14	11	3	-
	100.0	78.6	21.4	-
4. 全ての時間で介護が必要である	13	13	-	-
	100.0	100.0	-	-

##### 問3（問1） 本人の性別（SA）

	調査数	男性	女性
全体	47	24	23
	100.0	51.1	48.9
1. 自立している + 2. ほぼ自立している	20	11	9
	100.0	55.0	45.0
3. 多くの時間で、介護が必要である	14	9	5
	100.0	64.3	35.7
4. 全ての時間で介護が必要である	13	4	9
	100.0	30.8	69.2

問3 (問1) 本人の年齢(平成20年1月1日現在)(SA)

	調査数	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	調査数	平均年齢
全体	47	1	15	29	2	47	61.6
	100.0	2.1	31.9	61.7	4.3	100.0	
1. 自立している+	20	1	7	11	1	20	59.7
2. ほぼ自立している	100.0	5.0	35.0	55.0	5.0	42.6	
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	-	5	9	-	14	62.1
	100.0	-	35.7	64.3	-	29.8	
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	-	3	9	1	13	63.8
	100.0	-	23.1	69.2	7.7	27.7	

問4 (問2) 居住形態(SA)

	調査数	持ち家(一戸建て)	持ち家(マンション)	賃貸住宅(一戸建て)	賃貸住宅(マンション)	有料老人ホーム、ケアハウス、軽費老人ホーム	自宅はない	その他
全体	47	29	8	1	8	-	-	1
	100.0	61.7	17.0	2.1	17.0	-	-	2.1
1. 自立している+	20	13	4	1	2	-	-	-
2. ほぼ自立している	100.0	65.0	20.0	5.0	10.0	-	-	-
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	7	3	-	3	-	-	1
	100.0	50.0	21.4	-	21.4	-	-	7.1
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	9	1	-	3	-	-	-
	100.0	69.2	7.7	-	23.1	-	-	-

問5 (問3) 同居者(MA)

	調査数	配偶者(妻・夫)	子ども	孫	あなたや配偶者の親	兄弟・姉妹	その他の家族	は一緒に住んでいる家族
全体	47	40	25	1	10	-	1	3
	100.0	85.1	53.2	2.1	21.3	-	2.1	6.4
1. 自立している+	20	17	12	-	5	-	1	1
2. ほぼ自立している	100.0	85.0	60.0	-	25.0	-	5.0	5.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	12	6	-	2	-	-	2
	100.0	85.7	42.9	-	14.3	-	-	14.3
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	11	7	1	3	-	-	-
	100.0	84.6	53.8	7.7	23.1	-	-	-

問6 (問4) 主に介護している人 (SA)

	調査数	配偶者 (夫、妻)	子どもやその配偶者	孫やその配偶者	兄弟・姉妹	あなたや配偶者の親	その他の親族	近所の人	友人・知人	ホームヘルパー	その他	介護している人はいない	無回答
全体	47	36	3	-	-	1	-	-	-	-	3	2	2
	100.0	76.6	6.4	-	-	2.1	-	-	-	-	6.4	4.3	4.3
1. 自立している+	20	14	2	-	-	-	-	-	-	-	1	2	1
2. ほぼ自立している	100.0	70.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	5.0	10.0	5.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	12	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
	100.0	85.7	-	-	-	-	-	-	-	-	14.3	-	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	10	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
	100.0	76.9	7.7	-	-	7.7	-	-	-	-	-	-	7.7

問7 (問5) 認知症ではないかと周囲が気づいた頃の本人の年齢 (SA)

	調査数	年齢				調査数	平均年齢
		30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上		
全体	47	1	2	32	12	47	56.3
	100.0	2.1	4.3	68.1	25.5	100.0	
1. 自立している+	20	1	1	11	7	20	56.3
2. ほぼ自立している	100.0	5.0	5.0	55.0	35.0	42.6	
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	-	-	11	3	14	57.9
	100.0	-	-	78.6	21.4	29.8	
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	-	1	10	2	13	54.8
	100.0	-	7.7	76.9	15.4	27.7	

問8 (問6) はじめて認知症の診断や治療のために通院し始めてからの年数 (SA)

	調査数	年数				調査数	平均経過年数
		2年未満	2年以上 4年未満	4年以上 6年未満	6年以上		
全体	47	15	11	11	10	47	3.8
	100.0	31.9	23.4	23.4	21.3	100.0	
1. 自立している+	20	10	5	3	2	20	2.1
2. ほぼ自立している	100.0	50.0	25.0	15.0	10.0	42.6	
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	3	6	4	1	14	3.3
	100.0	21.4	42.9	28.6	7.1	29.8	
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	2	-	4	7	13	6.9
	100.0	15.4	-	30.8	53.8	27.7	



問9（問7） その医療機関で「認知症」との診断結果が出てからの年数（SA）

	調査数	2年未満	2年以上4年未満	4年以上6年未満	6年以上	い ない 認知症の結果は出て		調査数	平均経過年数
	100.0	31.9	23.4	19.1	17.0	8.5	100.0		
1. 自立している+	20	10	4	2	2	2	18	2.0	
2. ほぼ自立している	100.0	50.0	20.0	10.0	10.0	10.0	41.9		
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	3	6	4	1	-	14	3.3	
	100.0	21.4	42.9	28.6	7.1	-	32.6		
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	2	1	3	5	2	11	6.0	
	100.0	15.4	7.7	23.1	38.5	15.4	25.6		

問10（問8） 現在、認知症以外の疾患の治療のための通院の有無（SA）

	調査数	通院している	通院していない	分 から ない
	100.0	42.6	57.4	-
1. 自立している+	20	7	13	-
2. ほぼ自立している	100.0	35.0	65.0	-
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	7	7	-
	100.0	50.0	50.0	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	6	7	-
	100.0	46.2	53.8	-

問11（問9） 居住地域で本人が知っているもの 地域包括支援センター（SA）

	調査数	既 に 利 用 し て い る	連 絡 し た こ と は あ る が、 利 用 し て い な い	聞 いた こ と も あ り、 連 絡 し て い な い	全 く 知 ら な い	分 か ら な い	無 回 答
	100.0	21.3	12.8	19.1	36.2	8.5	2.1
1. 自立している+	20	3	2	6	9	-	-
2. ほぼ自立している	100.0	15.0	10.0	30.0	45.0	-	-
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	3	3	2	4	2	-
	100.0	21.4	21.4	14.3	28.6	14.3	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	4	1	1	4	2	1
	100.0	30.8	7.7	7.7	30.8	15.4	7.7

問 1 1 (問 9) 居住地域で本人が知っているもの 民生委員 (SA)

	調査数	既に相談している	聞いたことがあるが、会ったことはない	聞いたことがあるが、相談していない	全く知らない	分からない
全 体	47	4	17	5	17	4
	100.0	8.5	36.2	10.6	36.2	8.5
1. 自立している +	20	3	7	2	7	1
2. ほぼ自立している	100.0	15.0	35.0	10.0	35.0	5.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	1	7	1	4	1
	100.0	7.1	50.0	7.1	28.6	7.1
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	-	3	2	6	2
	100.0	-	23.1	15.4	46.2	15.4

問 1 1 (問 9) 居住地域で本人が知っているもの 家族会 (SA)

	調査数	既に利用している	聞いたことがあるが、連絡先を知らない	利用しているが、連絡先を知らない	全く知らない	分からない
全 体	47	14	2	4	24	3
	100.0	29.8	4.3	8.5	51.1	6.4
1. 自立している +	20	6	1	4	9	-
2. ほぼ自立している	100.0	30.0	5.0	20.0	45.0	-
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	5	1	-	7	1
	100.0	35.7	7.1	-	50.0	7.1
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	3	-	-	8	2
	100.0	23.1	-	-	61.5	15.4

問 1 2 (問 10) 現在利用している公的なサービスや支援制度の利用状況

介護保険制度によるサービス・支援 (MA)

	調査数	訪問介護 (ホームヘルプサービス)	通所介護 (デイサービス)	短期入所生活介護 (福祉系シヨートステイ)	小規模多機能型居宅介護	夜間対応型訪問介護	認知症対応型通所介護 (デイサービス)	その他介護保険によるサービス・支援	介護保険制度を利用していないサービス	無回答
全 体	47	11	18	10	-	-	4	2	18	1
	100.0	23.4	38.3	21.3	-	-	8.5	4.3	38.3	2.1
1. 自立している +	20	1	4	-	-	-	-	-	15	1
2. ほぼ自立している	100.0	5.0	20.0	-	-	-	-	-	75.0	5.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	4	7	3	-	-	1	2	3	-
	100.0	28.6	50.0	21.4	-	-	7.1	14.3	21.4	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	6	7	7	-	-	3	-	-	-
	100.0	46.2	53.8	53.8	-	-	23.1	-	-	-

問12(問10) - 1 要介護状態区分(SA)

	調査数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
全体	28	-	1	-	5	7	6	9
	100.0	-	3.6	-	17.9	25.0	21.4	32.1
1.自立している+	4	-	-	-	3	1	-	-
2.ほぼ自立している	100.0	-	-	-	75.0	25.0	-	-
3.多くの時間で、 介護が必要である	11	-	1	-	2	3	4	1
	100.0	-	9.1	-	18.2	27.3	36.4	9.1
4.全ての時間で 介護が必要である	13	-	-	-	-	3	2	8
	100.0	-	-	-	-	23.1	15.4	61.5

問12(問10) - 2 利用していない理由(SA)

	調査数	知らなかった	使い方が分からない	気に入らない	申請したが、認定されなかった	その他	無回答
全体	18	2	1	2	1	11	1
	100.0	11.1	5.6	11.1	5.6	61.1	5.6
1.自立している+	15	2	1	1	1	10	-
2.ほぼ自立している	100.0	13.3	6.7	6.7	6.7	66.7	-
3.多くの時間で、 介護が必要である	3	-	-	1	-	1	1
	100.0	-	-	33.3	-	33.3	33.3
4.全ての時間で 介護が必要である	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-

問12(問10) 現在利用している公的なサービスや支援制度の利用状況  
障害者自立支援法によるサービス・支援(MA)

	調査数	居宅介護(ホームヘルプ)	行動支援	短期入所(ショートステイ)	生活介護	自立訓練	就労移行支援	就労継続支援	その他障害者自立支援法によるサービス・支援	障害者自立支援法によるサービス
全体	47	1	-	1	-	-	-	-	2	43
	100.0	2.1	-	2.1	-	-	-	-	4.3	91.5
1.自立している+	20	-	-	-	-	-	-	-	1	19
2.ほぼ自立している	100.0	-	-	-	-	-	-	-	5.0	95.0
3.多くの時間で、 介護が必要である	14	1	-	-	-	-	-	-	-	13
	100.0	7.1	-	-	-	-	-	-	-	92.9
4.全ての時間で 介護が必要である	13	-	-	1	-	-	-	-	1	11
	100.0	-	-	7.7	-	-	-	-	7.7	84.6

問12(問10) - 1利用していない理由(SA)

	調査数	知らなかった	使い方が分からない	気に入らない	申請したが、認定されなかった	その他
全体	43	24	4	1	1	13
	100.0	55.8	9.3	2.3	2.3	30.2
1.自立している+	19	9	2	-	-	8
2.ほぼ自立している	100.0	47.4	10.5	-	-	42.1
3.多くの時間で、介護が必要である	13	8	1	1	-	3
	100.0	61.5	7.7	7.7	-	23.1
4.全ての時間で介護が必要である	11	7	1	-	1	2
	100.0	63.6	9.1	-	9.1	18.2

問12(問10) 現在利用している公的なサービスや支援制度の利用状況  
その他サービス・支援(MA)

	調査数	精神障害者保健福祉手帳	身体障害者手帳	成年後見制度	地域福祉権利擁護事業	その他サービス・支援	利用していないサービス・支援	無回答
全体	47	17	5	2	-	2	23	3
	100.0	36.2	10.6	4.3	-	4.3	48.9	6.4
1.自立している+	20	5	1	1	-	1	12	2
2.ほぼ自立している	100.0	25.0	5.0	5.0	-	5.0	60.0	10.0
3.多くの時間で、介護が必要である	14	6	1	-	-	-	6	1
	100.0	42.9	7.1	-	-	-	42.9	7.1
4.全ての時間で介護が必要である	13	6	3	1	-	1	5	-
	100.0	46.2	23.1	7.7	-	7.7	38.5	-

問12(問10) - 1利用していない理由(SA)

	調査数	知らなかった	使い方が分からない	気に入らない	申請したが、認定されなかった	その他
全体	23	14	3	-	-	6
	100.0	60.9	13.0	-	-	26.1
1.自立している+	12	7	2	-	-	3
2.ほぼ自立している	100.0	58.3	16.7	-	-	25.0
3.多くの時間で、介護が必要である	6	3	1	-	-	2
	100.0	50.0	16.7	-	-	33.3
4.全ての時間で介護が必要である	5	4	-	-	-	1
	100.0	80.0	-	-	-	20.0

問13(問11) 本人の家(世帯)の生計を最も支えている主な収入源(MA(2つまで))

	調査数	ご本人の給与収入(パート等も含む)・自営収入	ご本人の老齢(退職)年金	ご本人の障害基礎年金、障害厚生年金、障害手当金	受給している生活保護費	ご本人の配偶者(妻または夫)の収入	その他ご本人の家族の収入	その他の親族等の収入	その他の収入	よくわからない
全体	47	6	15	10	2	22	11	-	4	-
	100.0	12.8	31.9	21.3	4.3	46.8	23.4	-	8.5	-
1.自立している+	20	3	7	2	1	9	4	-	2	-
2.ほぼ自立している	100.0	15.0	35.0	10.0	5.0	45.0	20.0	-	10.0	-
3.多くの時間で、 介護が必要である	14	3	3	3	1	6	3	-	2	-
	100.0	21.4	21.4	21.4	7.1	42.9	21.4	-	14.3	-
4.全ての時間で 介護が必要である	13	-	5	5	-	7	4	-	-	-
	100.0	-	38.5	38.5	-	53.8	30.8	-	-	-

問14(問12) 本人の仕事の有無(SA)

	調査数	勤め人として働いている	自営業である(自由業も含む)	休職中	働いていない
全体	47	3	1	2	41
	100.0	6.4	2.1	4.3	87.2
1.自立している+	20	3	-	1	16
2.ほぼ自立している	100.0	15.0	-	5.0	80.0
3.多くの時間で、 介護が必要である	14	-	1	1	12
	100.0	-	7.1	7.1	85.7
4.全ての時間で 介護が必要である	13	-	-	-	13
	100.0	-	-	-	100.0

問14-1(問12-1) 認知症になる前の仕事の有無(SA)

	調査数	仕事をしていた	仕事は認知症になる前にかつた
全体	41	31	10
	100.0	75.6	24.4
1.自立している+	16	10	6
2.ほぼ自立している	100.0	62.5	37.5
3.多くの時間で、 介護が必要である	12	12	-
	100.0	100.0	-
4.全ての時間で 介護が必要である	13	9	4
	100.0	69.2	30.8

問14-2 (問12-2) 認知症になってからの本人の収入の変化 (SA)

	調査数	特に 変わりは ない	収入 は減つ た	収入 が増え た	分 から ない
全 体	6	4	2	-	-
	100.0	66.7	33.3	-	-
1. 自立している +	4	3	1	-	-
2. ほぼ自立している	100.0	75.0	25.0	-	-
3. 多くの時間で、 介護が必要である	2	1	1	-	-
	100.0	50.0	50.0	-	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-

問14-3 (問12-3) 認知症になってからの本人の仕事の変化 (SA)

	調査数	特に 何も 変わりは ない	わが 仕事 の 内容 は 変 わ ら な い	仕事 の 内容 が 変 わ っ た	転 職 を し た	分 から ない	無 回 答
全 体	6	5	-	-	-	-	1
	100.0	83.3	-	-	-	-	16.7
1. 自立している +	4	3	-	-	-	-	1
2. ほぼ自立している	100.0	75.0	-	-	-	-	25.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	2	2	-	-	-	-	-
	100.0	100.0	-	-	-	-	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-

問15 (問13) 認知症になってからの本人の家(世帯)の毎月の支出額(生活費・治療費・その他)の変化 (SA)

	調査数	特に 変わりは ない	支 出 が 増 え た	支 出 は 減 っ た	分 から ない
全 体	47	12	32	1	2
	100.0	25.5	68.1	2.1	4.3
1. 自立している +	20	6	12	1	1
2. ほぼ自立している	100.0	30.0	60.0	5.0	5.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	2	11	-	1
	100.0	14.3	78.6	-	7.1
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	4	9	-	-
	100.0	30.8	69.2	-	-

問16 (問14) 現在、本人の車や住宅などのローンの有無 (MA)

	調査数	車のローン	住宅のローン	教育ローン	その他のローン	ローンはない	分からない	無回答
全体	47	1	4	-	1	40	-	1
	100.0	2.1	8.5	-	2.1	85.1	-	2.1
1. 自立している +	20	-	2	-	1	17	-	-
2. ほぼ自立している	100.0	-	10.0	-	5.0	85.0	-	-
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	1	1	-	-	12	-	-
	100.0	7.1	7.1	-	-	85.7	-	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	-	1	-	-	11	-	1
	100.0	-	7.7	-	-	84.6	-	7.7

. 家族票

問1 家族が、本人が認知症であることを打ち明けている人 (MA)

	調査数	同居家族	同居家族以外の親族	友人、知人	近所の人	職場の人	地域包括支援センター	民生委員	行政の担当者	病院・診療所	ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者	その他(家族会など)	打ち明けている人はいない	無回答
全体	46	31	40	33	21	12	12	3	8	32	27	6	-	1
	100.0	67.4	87.0	71.7	45.7	26.1	26.1	6.5	17.4	69.6	58.7	13.0	-	2.2
1. 自立している +	19	11	15	11	4	5	2	1	1	8	4	1	-	1
2. ほぼ自立している	100.0	57.9	78.9	57.9	21.1	26.3	10.5	5.3	5.3	42.1	21.1	5.3	-	5.3
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	9	13	11	8	3	4	1	2	11	10	1	-	-
	100.0	64.3	92.9	78.6	57.1	21.4	28.6	7.1	14.3	78.6	71.4	7.1	-	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	11	12	11	9	4	6	1	5	13	13	4	-	-
	100.0	84.6	92.3	84.6	69.2	30.8	46.2	7.7	38.5	100.0	100.0	30.8	-	-

問2 本人の近所の人との付き合いの程度 (SA)

	調査数	くると外出等 れた本人や りしや家族を して家族を るを支援し てくれ	外に出る時 に留守番を し家族を支 援してくれ	交流が来たり ある	互いに相談 したりする など、家を の日常に立 ち話をする 程度	の日常的に 立ち話をする 程度	付きあひさ つ程度の最 小限の	付き合いは 全くしてい ない
全体	46	-	-	7	6	17	16	
	100.0	-	-	15.2	13.0	37.0	34.8	
1. 自立している +	19	-	-	6	3	7	3	
2. ほぼ自立している	100.0	-	-	31.6	15.8	36.8	15.8	
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	-	-	1	1	7	5	
	100.0	-	-	7.1	7.1	50.0	35.7	
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	-	-	-	2	3	8	
	100.0	-	-	-	15.4	23.1	61.5	

問3 本人の外出頻度 (SA)

	調査数	ほとんど毎日外出する	ときどき外出する	ほとんど外出しない	無回答
全体	46	28	9	7	2
	100.0	60.9	19.6	15.2	4.3
1. 自立している+	19	14	3	2	-
2. ほぼ自立している	100.0	73.7	15.8	10.5	-
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	8	4	1	1
	100.0	57.1	28.6	7.1	7.1
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	6	2	4	1
	100.0	46.2	15.4	30.8	7.7

問4 本人の外出の主な目的 (MA)

	調査数	徒歩圏 通院	介護施設などへの通所	買い物	知人・親戚などを訪問	散歩	文化・学習活動や運動	自治会・ボランティア活動等の社会活動	仕事	郵便局・銀行や役所など	その他
全体	46	16	3	25	5	28	2	1	1	5	2
	100.0	34.8	6.5	54.3	10.9	60.9	4.3	2.2	2.2	10.9	4.3
1. 自立している+	19	9	1	15	5	14	1	1	1	3	2
2. ほぼ自立している	100.0	47.4	5.3	78.9	26.3	73.7	5.3	5.3	5.3	15.8	10.5
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	6	1	8	-	11	1	-	-	2	-
	100.0	42.9	7.1	57.1	-	78.6	7.1	-	-	14.3	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	1	1	2	-	3	-	-	-	-	-
	100.0	7.7	7.7	15.4	-	23.1	-	-	-	-	-

	車や公共交通機関等 通院	介護施設などへの通所	買い物	知人・親戚などを訪問	文化・学習活動や運動	自治会・ボランティア活動等の社会活動	仕事	郵便局・銀行や役所など	その他	無回答
	30	20	13	12	5	1	1	2	6	2
	65.2	43.5	28.3	26.1	10.9	2.2	2.2	4.3	13.0	4.3
	11	3	8	6	4	1	1	1	3	1
	57.9	15.8	42.1	31.6	21.1	5.3	5.3	5.3	15.8	5.3
	7	6	4	4	1	-	-	-	2	1
	50.0	42.9	28.6	28.6	7.1	-	-	-	14.3	7.1
	12	11	1	2	-	-	-	1	1	-
	92.3	84.6	7.7	15.4	-	-	-	7.7	7.7	-



問5 本人が外出する際の付き添いの程度 (SA)

	調査数	ほとんど1人で外出	出よ本人の体調や外出先に付で外	必要ほとんど付き添いが	無回答
全体	46	10	6	29	1
	100.0	21.7	13.0	63.0	2.2
1. 自立している +	19	9	5	5	-
2. ほぼ自立している	100.0	47.4	26.3	26.3	-
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	1	1	11	1
	100.0	7.1	7.1	78.6	7.1
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	-	-	13	-
	100.0	-	-	100.0	-

問6 現在、本人の認知症の行動・心理症状の特徴的症狀で見られること (MA)

	調査数	幻視・幻聴	妄想	昼夜逆転	暴言	暴行	介護への抵抗	徘徊	火の不始末	不潔行為	異食行為	性的問題行動	うつ状態	その他	特徴的症狀は見られない
全体	46	13	11	3	11	5	15	11	9	8	8	1	9	6	5
	100.0	28.3	23.9	6.5	23.9	10.9	32.6	23.9	19.6	17.4	17.4	2.2	19.6	13.0	10.9
1. 自立している +	19	4	5	1	3	2	5	1	6	3	2	-	6	2	2
2. ほぼ自立している	100.0	21.1	26.3	5.3	15.8	10.5	26.3	5.3	31.6	15.8	10.5	-	31.6	10.5	10.5
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	4	3	1	6	2	5	5	2	1	2	1	1	2	1
	100.0	28.6	21.4	7.1	42.9	14.3	35.7	35.7	14.3	7.1	14.3	7.1	7.1	14.3	7.1
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	5	3	1	2	1	5	5	1	4	4	-	2	2	2
	100.0	38.5	23.1	7.7	15.4	7.7	38.5	38.5	7.7	30.8	30.8	-	15.4	15.4	15.4

問7 認知症の診断や治療のために診療所や病院への通院頻度 (SA)

	調査数	定期的に通院している	に保険の悪いとき、 症状の悪いとき、 応じて認定時など、 必要	在以前は通院して いないが、 現	無回答	調査数	1ヶ月に1回	1. 5ヶ月に1回	1ヶ月に2回以上	2ヶ月に1回	2ヶ月に1回未満
全体	46	41	1	3	1	41	17	4	3	13	4
	100.0	89.1	2.2	6.5	2.2	100.0	41.5	9.8	7.3	31.7	9.8
1. 自立している +	19	17	1	-	1	17	9	-	1	4	3
2. ほぼ自立している	100.0	89.5	5.3	-	5.3	100.0	52.9	-	5.9	23.5	17.6
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	12	-	2	-	12	2	3	2	4	1
	100.0	85.7	-	14.3	-	100.0	16.7	25.0	16.7	33.3	8.3
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	12	-	1	-	12	6	1	-	5	-
	100.0	92.3	-	7.7	-	100.0	50.0	8.3	-	41.7	-

問8 最初に相談・受診する直接のきっかけとなったこと(SA)

	調査数	家族(あなたを含め)が気づいたから	ご本人の訴えから	同居していない親族の話から	本人の勤め先から連絡があった	民生委員に勧められた	近隣の方との話から	ケアマネジャー、ホームヘルパーなど、民間の介護サービス業者に勧められた	地域包括支援センターで勧められた	その他のきっかけ
全体	46	28	3	5	5	1	-	-	-	4
	100.0	60.9	6.5	10.9	10.9	2.2	-	-	-	8.7
1.自立している+	19	14	2	1	2	-	-	-	-	-
2.ほぼ自立している	100.0	73.7	10.5	5.3	10.5	-	-	-	-	-
3.多くの時間で、介護が必要である	14	6	-	2	3	1	-	-	-	2
	100.0	42.9	-	14.3	21.4	7.1	-	-	-	14.3
4.全ての時間で介護が必要である	13	8	1	2	-	-	-	-	-	2
	100.0	61.5	7.7	15.4	-	-	-	-	-	15.4

問9 最初に気づいた本人の変化や、これまでを振り返って認知症の初期の症状・できごとだったと思うこと(MA)

	調査数	日常生活で										勤め先で				その他		無回答
		前新しいことを覚えるようになったり、少し	電話の対応ができなくなった	同じ料理を作るようになった	同じものを買ってくるようになった	買い物で料金が払えなくなった	2つ以上のスピードが遅くなったり、同時に考えられなくなった	過食など、食行動に異常がみられるようになった	暴言をはいたり、暴力行為がみられるようになった	親戚や友人などが、様子がおかしいと連絡があった	電話の対応ができなくなった	伝票など、書類の処理ができなくなった	打合せなどに来ないことがあった	本人が対応して、取引先などから苦情がきた	連絡がなかった	その他	その他	
全体	46	35	18	8	18	14	19	7	6	12	2	6	5	4	9	6	1	
	100.0	76.1	39.1	17.4	39.1	30.4	41.3	15.2	13.0	26.1	4.3	13.0	10.9	8.7	19.6	13.0	2.2	
1.自立している+	19	16	7	1	9	4	10	4	2	3	1	2	3	2	5	3	1	
2.ほぼ自立している	100.0	84.2	36.8	5.3	47.4	21.1	52.6	21.1	10.5	15.8	5.3	10.5	15.8	10.5	26.3	15.8	5.3	
3.多くの時間で、介護が必要である	14	10	7	2	5	5	6	2	1	5	1	2	2	2	4	2	-	
	100.0	71.4	50.0	14.3	35.7	35.7	42.9	14.3	7.1	35.7	7.1	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	-	
4.全ての時間で介護が必要である	13	9	4	5	4	5	3	1	3	4	-	2	-	-	-	1	-	
	100.0	69.2	30.8	38.5	30.8	38.5	23.1	7.7	23.1	30.8	-	15.4	-	-	7.7	-	-	

問 10 本人に認知症の症状が出たと気づいた頃に、主に相談した相手 (MA)

	調査数	同居家族	同居家族以外の親族	友人、知人	近所の人	職場の人	地域包括支援センター	民生委員	行政の担当者	病院・診療所	ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者	その他(家族会など)	誰にも相談していない
全体	46	16	21	5	1	3	-	-	2	21	3	-	5
	100.0	34.8	45.7	10.9	2.2	6.5	-	-	4.3	45.7	6.5	-	10.9
1. 自立している+	19	6	8	1	-	3	-	-	1	7	-	-	2
2. ほぼ自立している	100.0	31.6	42.1	5.3	-	15.8	-	-	5.3	36.8	-	-	10.5
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	5	6	1	-	-	-	-	1	7	1	-	3
100.0	35.7	42.9	7.1	-	-	-	-	7.1	50.0	7.1	-	-	21.4
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	5	7	3	1	-	-	-	-	7	2	-	-
100.0	38.5	53.8	23.1	7.7	-	-	-	-	-	53.8	15.4	-	-

問 11 認知症の診断や治療のために診療所や病院に通院するきっかけとなったこと (SA)

	調査数	ご本人が判断して	ご家族の勧めで	相談したかかりつけ医の勧め	その他、相談した機関や	その他
全体	46	2	29	5	4	6
	100.0	4.3	63.0	10.9	8.7	13.0
1. 自立している+	19	2	11	2	1	3
2. ほぼ自立している	100.0	10.5	57.9	10.5	5.3	15.8
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	-	9	1	1	3
100.0	-	64.3	7.1	7.1	21.4	
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	-	9	2	2	-
100.0	-	69.2	15.4	15.4	-	

問 12 認知症の診断や治療をしてもらうまでに、困ったこと (MA)

	調査数	認知症の診断・治療をすることが難しいと感じた	認知症の予断・治療をするのが難しいと感じた	本人が受診を嫌がった	家族が診てもらったことを嫌がった	その他	特に困ったことはない
全体	46	14	2	10	-	3	24
	100.0	30.4	4.3	21.7	-	6.5	52.2
1. 自立している+	19	5	-	3	-	2	11
2. ほぼ自立している	100.0	26.3	-	15.8	-	10.5	57.9
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	4	1	2	-	-	9
100.0	28.6	7.1	14.3	-	-	-	64.3
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	5	1	5	-	1	4
100.0	38.5	7.7	38.5	-	7.7	30.8	

問14 毎日の介護のことで、よく相談している人 (MA)

	調査数	同居家族	同居家族以外の親族	友人、知人	近所の人	職場の人	地域包括支援センター	民生委員	行政の担当者	病院・診療所	ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者	その他(家族会など)	相談している人はいない	無回答
全体	46	13	15	4	1	2	1	-	1	16	20	5	8	1
	100.0	28.3	32.6	8.7	2.2	4.3	2.2	-	2.2	34.8	43.5	10.9	17.4	2.2
1. 自立している+	19	4	7	1	-	1	-	-	-	6	2	2	6	1
2. ほぼ自立している	100.0	21.1	36.8	5.3	-	5.3	-	-	-	31.6	10.5	10.5	31.6	5.3
3. 多くの時間で、介護が必要である	14	5	5	3	1	1	1	-	-	4	7	2	1	-
4. 全ての時間で介護が必要である	100.0	35.7	35.7	21.4	7.1	7.1	7.1	-	-	28.6	50.0	14.3	7.1	-
	13	4	3	-	-	-	-	-	1	6	11	1	1	-
	100.0	30.8	23.1	-	-	-	-	-	7.7	46.2	84.6	7.7	7.7	-

問15 介護している中で、不安に感じていること (MA)

	調査数	介護しているあなた の健康や体力が 厳しくなってきた	介護にかかる費用が 大きく、家計が 苦しくなってきた	介護しているあなた が孤立してきた	介護しているあなた が孤立してきた	先が見えない 介護生活がこれからの くらい続くのか、	ご本人の認知症の 進行が速くなってきた か不安になってきた	介護しているあなた の精神的な ストレスや不安が強 くなってきた	家庭内の人間関係が うまくいかない	その他	不安に感じている ことはない	無回答
全体	46	23	17	10	32	18	24	9	6	3	1	
	100.0	50.0	37.0	21.7	69.6	39.1	52.2	19.6	13.0	6.5	2.2	
1. 自立している+	19	7	6	3	14	5	8	4	2	1	1	
2. ほぼ自立している	100.0	36.8	31.6	15.8	73.7	26.3	42.1	21.1	10.5	5.3	5.3	
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	8	4	4	11	8	11	3	2	-	-	
4. 全ての時間で 介護が必要である	100.0	57.1	28.6	28.6	78.6	57.1	78.6	21.4	14.3	-	-	
	13	8	7	3	7	5	5	2	2	2	-	
	100.0	61.5	53.8	23.1	53.8	38.5	38.5	15.4	15.4	15.4	-	

問16 本人が今の地域で住み続けていく上で、困っていること (SA)

	調査数	住宅に関する経済的 負担が重い	家賃や住宅ローンなど	近所の人などの無理解や 偏見がある	生活するのに不便	福祉施策が充実して いない	親や子ども、親族、知人 などの知り合いが近くに いない	その他	困っていることはない	無回答
全体	46	3	3	1	5	3	6	24	1	
	100.0	6.5	6.5	2.2	10.9	6.5	13.0	52.2	2.2	
1. 自立している+	19	-	1	-	3	2	1	11	1	
2. ほぼ自立している	100.0	-	5.3	-	15.8	10.5	5.3	57.9	5.3	
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	1	2	-	1	1	2	7	-	
4. 全ての時間で 介護が必要である	100.0	7.1	14.3	-	7.1	7.1	14.3	50.0	-	
	13	2	-	1	1	-	3	6	-	
	100.0	15.4	-	7.7	7.7	-	23.1	46.2	-	

問17 本人の未成年の子どもの有無 (SA)

	調査数	いる	いない	無回答
全体	46	2	42	2
	100.0	4.3	91.3	4.3
1. 自立している+	19	2	16	1
2. ほぼ自立している	100.0	10.5	84.2	5.3
3. 多くの時間で、 介護が必要である	14	-	14	-
	100.0	-	100.0	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	-	12	1
	100.0	-	92.3	7.7

問18 その子どもが感じている不安 (MA)

	調査数	親が認知症であること、 子どもが認められない	親が認知症であること、 子どもが認められない	気持ちが起らないようだ	気分が沈んでおり、外出 したり、人と交流する 気がしないようだ	自分の学資など進学に ついての不安を持っている	結婚について不安を持って いるようだ	親の介護に負担を感じて いるようだ	その他	不安に感じていることはな いようだ
全体	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0
1. 自立している+	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1
2. ほぼ自立している	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

. 本人票

問1 現在の楽しみややりがいを感じていること (MA)

	調査数	スポーツや運動など、 身体を動かすこと	読書、美術鑑賞など、 文化・教養に関すること	旅行をすること	友人や仲間と会うこと	報酬の有無は問わない 役割を持つこと(地域や社会で)	仕事をする(地域や社会で)	家でのんびり過ごす	その他	特に趣味や楽しみはない
全体	35	12	9	6	12	4	11	13	5	
	100.0	34.3	25.7	17.1	34.3	11.4	31.4	37.1	14.3	
1. 自立している+	20	7	7	5	7	3	8	8	2	
2. ほぼ自立している	100.0	35.0	35.0	25.0	35.0	15.0	40.0	40.0	10.0	
3. 多くの時間で、 介護が必要である	10	5	2	1	4	1	2	4	-	
	100.0	50.0	20.0	10.0	40.0	10.0	20.0	40.0	-	
4. 全ての時間で 介護が必要である	5	-	-	-	1	-	1	1	3	
	100.0	-	-	-	20.0	-	20.0	20.0	60.0	

問2 今後やりたいこと（現在やっていることを続ける場合も含む）(MA)

	調査数	スポーツを動かすこと、運動など	読書、美術鑑賞など、文化・教養に関すること	旅行をすること	友人や仲間と会うこと	報酬の有無は問わない（仕事をするか（地域や社会で役立つこと））	家でんびり過ごす	その他	特に趣味や楽しみはない
全体	35	9	8	11	11	5	10	12	5
	100.0	25.7	22.9	31.4	31.4	14.3	28.6	34.3	14.3
1. 自立している +	20	5	7	8	6	3	8	7	3
2. ほぼ自立している	100.0	25.0	35.0	40.0	30.0	15.0	40.0	35.0	15.0
3. 多くの時間で、介護が必要である	10	4	1	2	4	2	1	4	-
	100.0	40.0	10.0	20.0	40.0	20.0	10.0	40.0	-
4. 全ての時間で介護が必要である	5	-	-	1	1	-	1	1	2
	100.0	-	-	20.0	20.0	-	20.0	20.0	40.0

問3 家の中で、火災、事故、訪問販売など不安に感じていること (MA)

	調査数	ガスや火をきちんと消しているか不安になる	窓のかぎをきちんと閉めておくか不安になる	外出するときに、ドアやしまわないうちか不安になる	電話や押し売りなどで、だまされたり何か買つてしまわないうちか不安になる	トイレの場所など、家の中の様子がわからなくなる	その他	特に不安に感じていること	無回答
全体	35	4	7	2	5	3	21	1	
	100.0	11.4	20.0	5.7	14.3	8.6	60.0	2.9	
1. 自立している +	20	3	4	1	-	2	14	-	
2. ほぼ自立している	100.0	15.0	20.0	5.0	-	10.0	70.0	-	
3. 多くの時間で、介護が必要である	10	-	2	-	3	-	5	1	
	100.0	-	20.0	-	30.0	-	50.0	10.0	
4. 全ての時間で介護が必要である	5	1	1	1	2	1	2	-	
	100.0	20.0	20.0	20.0	40.0	20.0	40.0	-	

問4 家の外へ出かけるとき、不安に感じること (MA)

	調査数	人と接するのがおっくうに感じる	小銭の計算などお金がうまく使えない	買い物が何を買おうとしてい	行くところからどこにいたのか、どこに	途中どこにいたのか、どこに	切符や方法をわからなく交通機関の利	家で帰ることができなくなる	その他	特に不安に感じていること	無回答
全体	35	3	4	5	5	3	7	2	16	1	
	100.0	8.6	11.4	14.3	14.3	8.6	20.0	5.7	45.7	2.9	
1. 自立している +	20	2	2	5	2	2	3	1	10	-	
2. ほぼ自立している	100.0	10.0	10.0	25.0	10.0	10.0	15.0	5.0	50.0	-	
3. 多くの時間で、介護が必要である	10	1	2	-	3	1	2	1	3	1	
	100.0	10.0	20.0	-	30.0	10.0	20.0	10.0	30.0	10.0	
4. 全ての時間で介護が必要である	5	-	-	-	-	-	2	-	3	-	
	100.0	-	-	-	-	-	40.0	-	60.0	-	

問5 将来のことについての不安 (MA)

	調査数	自分の病気や介護について	配偶者や家族の病気や介護について	経済的なこと	子ども、孫の将来	何らかの被害に遭ったり、犯罪に巻き込まれたりすること	借家の契約更新や持ち家の維持管理など、住宅に関すること	買入物での困りごとや交通手段など、外出に関すること	その他、不安に思っていること	特に不安はない	無回答
全体	35 100.0	8 22.9	7 20.0	6 17.1	2 5.7	1 2.9	2 5.7	1 2.9	- -	17 48.6	1 2.9
1. 自立している + 2. ほぼ自立している	20 100.0	7 35.0	5 25.0	3 15.0	2 10.0	1 5.0	2 10.0	1 5.0	- -	8 40.0	- -
3. 多くの時間で、 介護が必要である	10 100.0	1 10.0	2 20.0	3 30.0	- -	- -	- -	- -	- -	4 40.0	1 10.0
4. 全ての時間で 介護が必要である	5 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	5 100.0	- -

問6 生活する上で不安に感じたときによく相談する相手 (MA)

	調査数	同居家族	同居家族以外の親族	友人、知人	近所の人	職場の人	地域包括支援センター	民生委員	行政の担当者	病院・診療所	ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者	その他(家族会など)	相談する相手はいない	無回答
全体	35 100.0	16 45.7	4 11.4	2 5.7	1 2.9	1 2.9	- -	- -	- -	2 5.7	1 2.9	- -	11 31.4	4 11.4
1. 自立している + 2. ほぼ自立している	20 100.0	11 55.0	4 20.0	2 10.0	1 5.0	1 5.0	- -	- -	- -	2 10.0	1 5.0	- -	5 25.0	- -
3. 多くの時間で、 介護が必要である	10 100.0	3 30.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	5 50.0	2 20.0
4. 全ての時間で 介護が必要である	5 100.0	2 40.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	1 20.0	2 40.0

問7 認知症であることを打ち明けている人 (MA)

	調査数	同居家族	同居家族以外の親族	友人、知人	近所の人	職場の人	地域包括支援センター	民生委員	行政の担当者	病院・診療所	介護従事者	ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者	その他(家族会など)	打ち明けている人は いない	無回答
全体	35 100.0	17 48.6	14 40.0	10 28.6	6 17.1	3 8.6	- -	- -	2 5.7	9 25.7	4 11.4	1 2.9	8 22.9	3 8.6	
1. 自立している + 2. ほぼ自立している	20 100.0	11 55.0	10 50.0	7 35.0	4 20.0	1 5.0	- -	- -	2 10.0	7 35.0	2 10.0	1 5.0	3 15.0	1 5.0	
3. 多くの時間で、 介護が必要である	10 100.0	5 50.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0	- -	- -	- -	1 10.0	1 10.0	- -	3 30.0	1 10.0	
4. 全ての時間で 介護が必要である	5 100.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	- -	- -	- -	- -	1 20.0	1 20.0	- -	2 40.0	1 20.0	

問8 近所の人との付き合いの程度 (SA)

	調査数	た等外 り本人 しやに て家族 いるを 支援し てくれ る	る来互 したに たり相 す談し るな ど、家 の交流 が行 あき	付日 き常 合的 は立 してち い話を する 程度 の	合あ いさ しかつ 程度 の最 小限 の付 き	付 き合 いは 全 くし てい ない	無 回 答
全 体	35	-	5	5	15	7	3
	100.0	-	14.3	14.3	42.9	20.0	8.6
1. 自立している+	20	-	5	5	7	2	1
2. ほぼ自立している	100.0	-	25.0	25.0	35.0	10.0	5.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	10	-	-	-	6	3	1
	100.0	-	-	-	60.0	30.0	10.0
4. 全ての時間で 介護が必要である	5	-	-	-	2	2	1
	100.0	-	-	-	40.0	40.0	20.0

問9 現在利用している公的なサービスや支援制度について (SA)

(1) ~ (7) 介護保険制度によるサービス・支援

	調査数	気 に入 っ て い る	気 に 入 ら な い	無 回 答
全 体	28	16	4	14
	100.0	57.1	14.3	50.0
1. 自立している+	4	3	2	-
2. ほぼ自立している	100.0	75.0	50.0	-
3. 多くの時間で、 介護が必要である	11	8	1	6
	100.0	72.7	9.1	54.5
4. 全ての時間で 介護が必要である	13	5	1	8
	100.0	38.5	7.7	61.5

問9 (8) ~ (15) 障害者自立支援法によるサービス・支援

	調査数	気 に入 っ て い る	気 に 入 ら な い	無 回 答
全 体	4	-	-	4
	100.0	-	-	100.0
1. 自立している+	1	-	-	1
2. ほぼ自立している	100.0	-	-	100.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	1	-	-	1
	100.0	-	-	100.0
4. 全ての時間で 介護が必要である	2	-	-	2
	100.0	-	-	100.0



問9(16)～(20) その他サービス・支援

	調査数	気に入っている	気に入らない	無回答
全体	21	6	1	14
	100.0	28.6	4.8	66.7
1. 自立している+	6	4	-	2
2. ほぼ自立している	100.0	66.7	-	33.3
3. 多くの時間で、 介護が必要である	7	2	-	5
	100.0	28.6	-	71.4
4. 全ての時間で 介護が必要である	8	-	1	7
	100.0	-	12.5	87.5

問10 現在の居住地への継続意向(SA)

	調査数	ぜひ、 住み続けたい	できれば 住み続けたい	機会があれば、 他の地域	ぜひとも 他の地域に 住み	無回答
全体	35	26	5	2	-	2
	100.0	74.3	14.3	5.7	-	5.7
1. 自立している+	20	15	2	2	-	1
2. ほぼ自立している	100.0	75.0	10.0	10.0	-	5.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	10	8	2	-	-	-
	100.0	80.0	20.0	-	-	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	5	3	1	-	-	1
	100.0	60.0	20.0	-	-	20.0

問10-1 現在住んでいる地域に住み続けたい主な理由(SA)

	調査数	子どもの頃から、 生まれ育った	近所の人など、 知り合いがいる	地域の様子をよく 知っていて、 慣れているから	生活するのに便利だから	よその地域での生活に 慣れるのが大変で 苦痛だから	その他	よくわからない	無回答
全体	31	6	2	12	3	1	2	3	2
	100.0	19.4	6.5	38.7	9.7	3.2	6.5	9.7	6.5
1. 自立している+	17	3	1	8	3	1	-	-	1
2. ほぼ自立している	100.0	17.6	5.9	47.1	17.6	5.9	-	-	5.9
3. 多くの時間で、 介護が必要である	10	2	-	3	-	-	2	2	1
	100.0	20.0	-	30.0	-	-	20.0	20.0	10.0
4. 全ての時間で 介護が必要である	4	1	1	1	-	-	-	1	-
	100.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	25.0	-

問10-2 他の地域に住み替えたい主な理由(SA)

	調査数	家賃や住宅ローンなど住宅に関する経済的負担が重いから	近所の人などの無理解や偏見があるから	生活するのに不便だから	福祉施策が充実している自治体に移りたいから	親や子ども、親族、知人など知り合いの近くに住みたいから	その他	よくわからない
全体	2 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	2 100.0
1. 自立している+	2	-	-	-	-	-	-	2
2. ほぼ自立している	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0
3. 多くの時間で、 介護が必要である	-	-	-	-	-	-	-	-
4. 全ての時間で 介護が必要である	-	-	-	-	-	-	-	-

東京都若年性認知症生活実態調査報告書

平成 20 年 8 月発行

編集・発行 東京都福祉保健局高齢社会対策部在宅支援課  
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話 03(5320)4277  
03(5321)1111(内線 33-566)